

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2014 年 2 月

作成日: 2014 年 3 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 土	コロ県ドゥンガコミュン連合フォーラムモニタリング 質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	ハムザ、調整部 影山、カメラ、マト
2 日	JICA 研究所インパクト評価調査団	
3 月	スタッフミーティング JICA 研究所との打ち合わせ 補助金管理状況モニタリング・証憑書類回収ミッション(NGO 委託)	全員 影山
4 火	インパクト調査中間結果共有会合 インパクト現地調査委託 NGO との会合	調査団(小塚)、調整部、EPT 影山、調査団(小塚)
5 水	質のミニマムドリル活動ブリーフィング(視学官対象) 質のミニマム活動モニタリング 質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	アリ アリ 影山
6 木		
7 金	各種経験共有セミナー準備会合	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ
8 土		
9 日		
10 月	コロ県カルマ連合総会モニタリング・質のミニマム中間学カテスト配布 みんなの学校群経験共有セミナー準備にかかる CGDES 訪問	アリ ヤワレ
11 火	セネガル開催みんなの学校群経験共有セミナー準備会合	全員、セミナー参加者
12 水	各種経験共有セミナー準備会合	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ
13 木	各種経験共有セミナー準備会合・シミュレーション 質のミニマム中間学カテスト回収	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ
14 金	各種経験共有セミナー準備会合・シミュレーション	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ
15 土	セネガル開催みんなの学校群経験共有セミナー準備会合・シミュレーション	全員、セミナー参加者
16 日	セネガル開催域内経験共有セミナー参加	
17 月	セネガル開催みんなの学校群経験共有セミナー準備会合 経験共有セミナー準備会合	日本人専門家、NS(アリ、ハムザ、ヤワレ)
18 火	セネガル開催みんなの学校群経験共有セミナー(1日目)	セミナー参加者
19 水	セネガル開催みんなの学校群経験共有セミナー(2日目)	セミナー参加者
20 木	セネガル開催みんなの学校群経験共有セミナー(3日目)	セミナー参加者
21 金		
22 土	原チーフアドバイザー運営指導調査	
23 日	経験共有セミナー準備会合・シミュレーション	全員、調整部
24 月	CGDES・CGDES 連合経験共有セミナー	全員
25 火	合同調整員会 タウア州教育フォーラム準備会合	全員
26 水	森下ブルキナ JICA 事務所所長との面会	岩田、羽田野、影山
27 木	CGDES 調整部との月例会同会議	全員
28 金	スタッフミーティング GPE 評価ミッション学校運営分野会合	全員 影山、アリ

## 2. 今月の総括

補助金モデル開発パイロット活動関連では、今月初めに JICA 研究所の補助金介入インパクト評価関連調査団が訪二し、現在までの分析途中経過の報告を教育省に対し実施した。この報告では、補助金の使い方にかかる「計画策定能力強化研修」が児童の学力向上にプラスの効果をもたらしていること、補習・夜間学習などの実施 CGDES 数（割合）においても、学習時間数においても、コントロールグループ、補助金+補助金管理研修のみグループと比べて、多い傾向が見出されたとのことなどが説明された。これらは、EPT の補助金モデルの有効性を示す結果と言える。この報告により、教育省関係者の EPT 補助金モデルの有効性への理解と意識のさらなる強化に繋がった。また、今月中旬～下旬に行われた、セネガルでのみんなの学校群経験共有セミナー、プロジェクトの活動評価を行う合同調整委員会、そして上記の GPE・コモンファンドミッションに対する EPT モデルの説明においても非常に有効な情報となり、EPT 補助金モデル発信の強い後押しとなった。

質のミニマムパッケージパイロット活動では、ドリル活動開始後約 1 カ月の状況見分として、中間学力テストを実施した。結果、短期間の活動実施でありながら、全学年での平均点上昇がみられた。

CGDES/CGDES 連合モニタリングでは、全国 CGDES の 93.7%にあたる 15,371 校分の 2013/2014 年度学校活動計画策定状況が回収・分析された。結果、各校平均 5.4 活動が計画され、一校当たりの計画額は 184,510Fcf となり、全国 CGDES の計画総額は 28 億 Fcf 以上に上ることが確認された。CGDES 連合においても全国 266 連合中 263 連合が第 1 回連合総会を開催し、8 割を超える CGDES 参加率を保っている。

また、今月より、地域教育開発のための持続発展性の高い活動モデルを開発する『州教育フォーラムモデル開発パイロット活動』を始動した。スタートを切る活動として今月は、当該活動への関係者の理解と合意を得ることを目的に、タウア州知事出席の下、教育フォーラム準備会合を実施した。当該活動への州知事の理解と意識は非常に高く、今後の絶対的な協力と関与が約束された。

今月は 3 年ぶりに、みんなの学校群であるセネガル、ブルキナ、ニジェール、そしてマリの関係者が会する『仏語圏西アフリカ学校運営改善プロジェクト（みんなの学校群）経験共有セミナー』がダカールにて開催された。今回の主なテーマは、住民参加を通じた教育の質の改善のための『州フォーラム』、『質の改善活動』、『リソース管理（補助金）』であった。各国の活動経験をもとに、テーマごとの改善戦略や相互的発展の可能性が協議された。

その後、ニジェール国内では CGDES/CGDES 連合経験共有セミナーを開催し、CGDES 連合と地方自治体（コミューン／市）との連携改善にかかる現状分析、対策としての戦略・活動の検討・討議に取り組んだ。また、半年に一度のプロジェクト合同調整委員会を開催し、6 ヶ月の活動評価および今後 6 ヶ月の活動計画承認を行った。その中で、省庁改編により中断していた、『機能する中学校 CGDES モデル開発パイロット活動』を中等教育省

との協議の下に再開することが承認された。

その他、今月末から **GPE・基礎教育コモンファンド（AFD 資金）プロジェクトの合同ミッションが訪二し**、GPE プロジェクト実施へ向けた手続きならびに関係者との協議を進めた。GPE プロジェクトサブコンポーネントの一つである学校分権化運営にかかる会合にて、**EPT プロジェクトの補助金モデルの説明を行った結果、教育省、GPE ミッション（世銀、AFD）ともに効果的な補助金モデルとしての EPT モデルの認識を得た。**しかしながら、具体的な計画の検討には全く至っていないことから、実質的な EPT モデルの導入への働きかけが今後も必要である。

### 3. 今月の主な活動

#### (1) 質のミニマムパッケージ開発パイロット活動

12月の各種研修および1月上旬のドリル配布を受けて、1月中旬には各対象校での活動が開始されたが、今月2週目となる11～12日にかけて、カルマコミュニティ90校に対する中間学力テストを実施した。結果、71校分の結果（対象児童数合計7,628名）を回収し、下表のように、**3週間～1カ月という短期間の実施でありながら、全ての学年にて点数上昇がみられた。**例外的な数校を除き、全ての学校で全般的な点数上昇がみられ、今後の発展に期待できる結果となった。

表1：中間テスト結果

学年別平均点					
	1年 (12点満点)	2年 (24点満点)	3年 (44点満点)	4年 (56点満点)	5年 (61点満点)
プレテスト	1.63	7.81	16.49	21.5	28.38
中間テスト	2.85	12.98	21.62	25.47	30.85
上昇点	1.22	5.17	5.13	3.98	2.46

また、先月中旬に対象地域であるニアメコミュニティ5およびカルマの視学官が共に異動となったことから、新視学官2名に対する当該活動のブリーフィングを行った。視学官と共に行った活動視察や、通常のモニタリングを通して、特にファシリテーション（児童の進捗管理、活動の回し方（個別採点の仕方）、児童へのアドバイス内容など）の問題は見受けられたものの、関係者の高い関心の下、全般的には計画に従った活動が各地で進められていることが確認された。特に、**当該活動開始後、通常授業の出席率が改善しているとの報告も挙がっており、児童の関心の高さ、コミュニティによる出席モニタリングの効果が伺える。**

現時点で開発済みの改訂版ドリルはNo.2 までであるが、いくつかの学校では、多くの児童が既にドリルNo.1 を終え、No.2 に入っているケースも見られることから、学年末を待たずに、次段階のドリルへの必要性が出てくると予想される。活動のリズムを滞らせないためにも、なるべく早い次段階ドリルの開発が必要であろう。

## (2) 補助金モデル開発パイロット活動

今月は、JICA 研究所調査団による「補助金介入インパクト調査」の中間評価結果報告会を実施した。参加者は、就学総局長、CGDES 調整部、プロジェクト。現在のところ分析中のため、最終的な結果とはいえないものの、JICA 研究所からは仮結果として以下のような報告を得た。

- ・ (分析中ではあるものの) 補助金の使い方にかかる計画策定研修は、児童の学力結果に正のインパクトをもたらす傾向が伺える。
- ・ 上記の背景として、補助金供与に加えて、補助金管理と計画策定の二つの研修を受講したグループは、他のグループ (コントロールグループおよび補助金+補助金管理研修のみのグループ) に比べて、補習ならびに夜間学習を実施している率が高く、かつ実施日数も多い。
- ・ 補助金の受領により教科書・教員ガイド購入が増加する傾向がみられるが、補助金+補助金管理研修のみのグループでは、児童の学力への効果あまり見られない。

今回の報告に際しては、教育省側から、この調査分析の有益性が強く評価され、国の教育政策の方針を立てる上で非常に有効である旨の発言を得た。(まだ分析中とはいえ) 今回の結果が当該モデルの有効性を関係者間にて改めて確認することに繋がったといえる。なお、教員の欠勤状況のグループ間の違いや、教科ごともしくは学年ごとの上昇具合の違い、さらに、グループ 1 (補助金+補助金管理研修のみ) が時にコントロールグループよりも結果が芳しくない状況に対して、どのように分析・解釈するかといった質問が挙げられた。

その他、今月上旬に対象 120 校に対し、補助金管理状況モニタリングならびに証憑回収のミッションが行われた。全般的には現場の書類管理状況はかなり改善されており、7~8 割の CGDES が既に補助金支出の大半を終えている状況が確認された。しかしながら、少額の未執行や依然として一部証憑書類の不備も見受けられるため、今後、証憑書類の確認をすすめるとともに、3 月中旬までに全額執行へ向けた働きかけを行っていく。

また、今年度初めて実施に取り組んだ銀行口座の利用にかかり、コミュニティ側の反応は概ね肯定的であるが、その一方で、物理的な距離の問題から実際の利便性に対しては消極的な意見も比較的多い状況が見受けられた。現状のままではその持続的・実践的な活用へと繋がりにくいことから、モデルの要素としての有効性を見極めた上で、適用可能な改善策を検討する必要がある。そのような状況を踏まえ、今後は今年度の CGDES による銀行口座管理について経験抽出に取り組む予定である。

### (3) CGDES/CGDES 連合モニタリング

今月は、全国の今年度 CGDES 学校活動計画ならびに CGDES 連合活動状況の情報収集・取りまとめを行った。全般的には、全国 16,387 の CGDES 中 93.7%にあたる 15,371 が回収・分析され、中央へと上がってきた。各校平均 5.4 活動が計画され、一校当たりの計画額は 184,510Fcfa。全国 CGDES の計画総額は 28 億 Fcfa 以上に上る

(2,826,091,100Fcfa : 1 円=約 5Fcfa)。州ごとの違いはあるものの、全国の 9 割以上の CGDES がその機能性の一端を示す学校活動計画策定し、その回収・分析が可能となっていることから、現在の全国的な CGDES の機能状況を示すとともに、CGDES 連合を含む CGDES モニタリングシステムの機能性も示すものと言える。また、昨年度形骸化が懸念された CGDES 連合の活動状況においても、全国 266 連合中、アクセスの問題で CGDES 間の集合が現実的に困難な連合、および年度初めの事務局改選により活動開始が遅れた連合を除く 263 連合が第 1 回連合総会を開催し、平均 8 割以上の CGDES 参加率を得ていることが確認された。

なお、現在は各地にて CGDES 連合の第二回連合総会が開催されるとともに、CGDES 連合のテーマ別活動として「コミュニケーション教育フォーラム」や CGDES の能力強化研修等が実施されている。

### (4) CGDES/CGDES 連合経験共有セミナー

今月 24 日に、教育省中央関係者、全国の州教育事務所長、州 CGDES 監督官が一同に会しての CGDES/CGDES 連合経験共有セミナーを開催した。このセミナーは、半年に一度、中央・地方の関係者間での CGDES 関連活動結果に対する評価、およびそれを踏まえた今後の活動戦略を検討する場である。今回のセミナーでは、現場のニーズに応えるかたちで「CGDES 連合とコミュニティ（市）の連携改善」をテーマとしたことから、通常の参加者に加え、各州より連携にかかる優良事例を有する CGDES 連合・コミュニティを選出し、該当コミュニティの CGDES 連合代表者（2 名）、市長、管轄県 CGDES 監督官が参加した。主な議事次第は以下の通り。①2013/2014 年度 CGDES・CGDES 連合活動計画策定状況、②CGDES 連合とコミュニティとの連携関係にかかるモニタリング結果発表、③CGDES 連合とコミュニティの連携にかかる各州優良事例発表、④グループ討議『CGDES 連合とコミュニティの連携を促進するための戦略、具体的な活動、アクター、および教育行政の役割』・結果共有、⑤セミナー決議・提言策定・承認。内容詳細は別添参照のこと。

CGDES 連合とコミュニティの連携に関しては、コミュニケーション面、資金面、活動面での改善が望まれることから、定期的な会合の実施やコミュニティ教育関連担当官の任命と協働、CGDES 連合活動計画の時機を得た共有によるコミュニティ予算の確保、ならびに両者ニーズの摺合せに拠る協働活動の必要性が協議された。

結果、以下がセミナー決議として合意された。

- 1 関連アクターに経験共有セミナーの内容を報告・共有する

- 2 CGDES 連合と CGDES の機能を規定する文書を広める
- 3 CGDES 連合の活動計画を予算会議開催前に市長に提出する
- 4 定期的な会合を通して CGDES 連合とコミュニンとの対話を助長する。

なお、プロジェクトへの提言としては、特に以下の点が表明された。

- ・ 中学校にて着手した機能する CGDES のパイロット活動を続行する。
- ・ CGDES 連合とコミュニンの連携モデルのパイロット活動を対象地域にて行う
- ・ より良い連携の発展のために、CGDES 連合および市長の能力強化を図る

今後プロジェクトとしては、具体的な結果を生み出す「CGDES 連合とコミュニンの連携のかたち」を検討し、州教育フォーラムモデル開発パイロット活動との実践的な融合も視野に入れたモデル開発への取り組みを進めていく。

#### **(5) 西アフリカ仏語圏学校運営改善プロジェクト(みんなの学校群) 経験共有セミナー(ダカール開催)**

今月 18 日～20 日にかけて、ダカールにてみんなの学校群関係者が会する『西アフリカ仏語圏学校運営改善プロジェクト経験共有セミナー』が開催された。今回第 5 回目となる今回のセミナーにおいては、セネガル、ブルキナ、ニジェールのプロジェクト日本人専門家、スタッフ、教育省関係者に加え、プロジェクト自体は中断中であるものの、マリからの参加も得た。今回の主なテーマは、住民参加を通じた教育の質の改善にかかる『州フォーラム』、『質の改善活動』、『リソース管理(補助金)』であり、基調となる各国発表後、実務者を中心としたテーマ別グループ討議と政策決定者を中心とした現地視察の二組による活動構成としており、短期間でありながら密度の濃い内容となったと言える。なお、内容詳細は別添参照のこと。

この 3 年間に各国ともにプロジェクトを取り巻く状況や活動進捗に大きく変化があったことはもちろん、以前は各国の一方的な活動や主張の発表に終始しがちであったのに対し、今回は相互理解と相互発展の意識をベースとした比較的建設的な討議が繰り広げられた。このような変化は、各国関係者の理解向上という点のみならず、本邦研修や二国間での交流等、現在までの各国および域内交流の取り組みの積み重ねが実を結んできた結果ともいえる。

今後、ニジェール教育省およびプロジェクトとしては、今回セミナーにて協議された内容や提言から自らの課題を抽出し、具体的な対策へと落とし込み、実質的な結果へと繋げることを検討する必要がある。そして、学校運営改善プロジェクトの先陣として、提言のその先、「住民参加を通じた教育の質の改善」へと確実に至る道筋を描き、常に結果を築いていくことも常に念頭に入れ、さらに活動を進めていくことが必須であろう。

来年度はニジェールでのセミナー開催が提案されたが、このような多国間での経験共有セミナーは単発では実質的な成果を生み出すことは難しい。当該セミナーをより実践的に有効なものとするため、今回の提言の実現状況、各活動の進捗状況を評価する場とする 것도視野に入

れ、検討を進めていく予定である。

#### **(6) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動：フォーラム準備会合**

今月 25 日に、タウア州知事を迎えての「州教育フォーラム準備会合」を開催した。この会合は、地域教育開発のためにより持続発展性の高い活動モデルを開発する「州教育フォーラムモデル開発パイロット活動」を始動するにあたり、関係者理解と合意を得ることを目的として開催したものである。今会合の参加者は、タウア州知事、大統領技術顧問、タウア州教育事務所長、同州 CGDES 監督官、CGDES 調整部長・課長、EPT。主な討議内容は、①プロジェクト「州教育フォーラム」の経験：EPT 概要、フォーラム結果等、②州教育フォーラムアプローチ説明：戦略、利点、問題点、③フォーラムモデル開発パイロット活動概要、④タウア州での実施可能性、⑤今後の予定等の協議を行った。内容詳細は別添参照。

このモデル開発パイロット活動は、プロジェクトが第 1・第 2 フェーズと取り組んできた「フォーラムアプローチ」の成果と問題点を踏まえ、自立発展的な地域開発活動モデルを作り上げることを目的としたものである。特に、自立発展性のために州知事をはじめとした当該活動への地方自治体の積極的参加を担保とすることを条件化するものであるが、それに対し、元教育省事務次官であるタウア州知事の当該活動への理解と意識は高く、全面的な協力と関与が約束された。また、当該活動実施にかかる州知事が担い得る役割や、プロジェクト後の持続性にかかる視点も持ち合わせており、当該モデル開発におけるタウア州選択の有効性を裏付けたと言える。

今後は、今回の参加者により州関係者への報告および執行委員会のメンバーの検討を行った上で、4～5 月にかけて第 2 回の準備会合を開催、1 回目のフォーラム開催へと繋げていく。今回の討議にて承認を得たことから、初回フォーラムテーマは女子の教育（就学促進、男女格差是正）をテーマとして 6 月に実施予定である。

### **4. 教育省・ドナー関係**

#### **(1) GPE・コモンファンド合同ミッション：学校運営関連会合参加**

今月 24 日～翌 3 月 6 日にかけて、GPE・基礎教育コモンファンドプロジェクトの実施プロセス支援のため、合同ミッション（世銀、AFD）が訪二した。今回のミッションの主要な目的は、当該プロジェクトの最優先活動である教室建設にかかる計画および手続きとともに、プロジェクト開始にあたる各種法的手続きを進めることであった。またそれに加え、教員研修、教育の質（現地語教育）、学校分権化運営といった特定分野にかかる関連 PTF（財政・技術支援パートナー）・教育省関連局との GPE プロジェクト内関連活動にかかる協議が行われた。

そこで 28 日に、GPE 資金プロジェクトのサブコンポーネントの一つである学校運営関係の会議が開催され、合同ミッションチーム、教育省（計画局、CGDES 調整部）、JICA、

EPT プロジェクト、スイス協力庁が参加した。当該サブコンポーネントは学校補助金にかかるものであることから、今回の会議では、参加者に対する EPT の補助金モデルの紹介が中心的議題となった。合同ミッション側からは、どのような形での支援か（現金か他形態か）、配布の手段・ルート、モニタリングシステム、補助金の住民動員への影響、学校給食へ CGDES 関与を念頭にいった質問等が挙げられた。今回の会議を通して、小学校を管轄するコミューンへの権限移譲に取り組むスイス協力庁も活動説明を行ったが、当該サブコンポーネントの活動想定から外れるとともに、具体性に欠けるため、「有効なモデルは EPT の補助金モデル」という認識が教育省・合同ミッション側にも定まったといえる。特に、今月上旬に JICA 研究所調査団により報告された分析内容は、EPT 能力強化モデルが児童学力向上へ向けた住民支援による学校活動や学力成果へ肯定的な効果を示すものであり、その点で合同ミッションメンバー（世銀、AFD）の強い関心を得たことは間違いない。

しかしながら、GPE プロジェクト資金による補助金活動の介入領域・対象、供与金額（積算規定）、活動の具体的な内容、予算振り分けに関しては、教育省側・GPE 側ともに具体的な内容・計画を練る段階に至っておらず、今後のプロセスとされている。AFD からは、他のコンポーネントの活動（女子教育、衛生教育）と関連させた計画策定や、マニュアル作成等のための外部コンサルタントの雇用、技術支援技術チームの設置などが提案され、教育省側では関係者間での戦略検討に取り組むとの対応が示された。

当該活動成功のためには、EPT プロジェクトの技術的関与が不可欠であり、通常であれば当該活動の関係局として CGDES 調整部が具体的な計画策定に関与し、それを通じた EPT のインプットが可能と考えられるが、その一方で、この GPE/コモンファンド (AFD) プロジェクトのように、多様な関係者が関与し、大きな資金が動くプロジェクトでは、単純に進まないケースも十分想定される。今後は、EPT 補助金モデルの採用を具体化し、技術的な支援介入が確実にできるよう、教育省側、GPE ミッション側の動向に注視し、引き続き情報交換と働きかけに努める必要がある。特に、GPE プロジェクトの全体的な計画策定支援を担うコンサルタントとの情報交換や、EPT が支援可能な内容（講師研修など）の打診を行うなど、EPT プロジェクトの当該活動にかかる関与を明確化していくことが望ましいと思われる。

計画局長からは、2014 年度国家予算に 200,000,000Fcf かの「CGDES 関連」予算枠を挿入したとの報告があり、その中には学校補助金活動も含まれるとのことである。ミッション側からはコモンファンド支援による補助金から徐々に国家予算支出の補助金へと移行出来る体制も検討することが提案された。

なお、当該会合とは別途、今回の合同ミッションメンバーであり、世銀の GPE プロジェクト担当者と協議をする機会を得た。担当者側も当該補助金活動にかかる EPT のモデル・経験の適用、および EPT の技術支援を期待している感があり、今後の関与にかかるアドバイスを得た。協議内容詳細は別添参照のこと。



## (2) 第4回教育省プロジェクト合同調整委員会

CGDES/CGDES 連合経験共有セミナーの翌日 25 日、半期に一度実施するプロジェクトの合同調整委員会を開催した。尚、今回はブルキナ JICA 事務所長の出席を得た。主な議題は、①前日の経験共有セミナーの報告、②セネガルでの広域経験共有セミナーの報告、③プロジェクト活動半期報告（活動全般、補助金パイロット活動、質のミニマムパッケージ開発パイロット活動）、④今後 6 ヶ月の活動計画発表・承認、⑤機能する中学校 CGDES モデル開発パイロット活動の今後にかかる協議。

参加者からは、プロジェクトが現在取り組む二つのパイロット活動の結果にかかる強い関心が示され、全国的な導入を求める声が上がった。その一方、質の改善活動に関しては、コミュニティ参加アプローチや、児童の学力向上に焦点を当てた活動結果をある程度評価しつつも、州教育事務所長の多くは、「教育の質の改善のためには教員に対する介入がまずは基本」という従来の意識が依然として強いことが伺われた。このような反応に対しては、具体的な「結果」こそが、当該アプローチの有効性に対する理解を促すことから、具体的かつ確実な成果を今後も示し続けることが必要と言える。

また、省庁改編に伴い中断していた機能する中学校 CGDES モデル開発パイロット活動に関しては、前日の経験共有セミナーの提言も受け、委員会参加者によりプロジェクトによるパイロット活動再開が承認された。今後は、プロジェクトと中等教育省にて協議を進めていくこととなる。

## 5. 調査・ミッション関係

### (1) JICA 研究所補助金介入インパクト評価調査団

今月 3～5 日にかけて、JICA 研究所の補助金介入インパクト評価にかかる調査団が訪二した。今回の目的は、現在分析が進められているベースラインおよび中間評価の途中経過を関係者（EPT、教育省）に共有することであった。共有された結果は、EPT 補助金モデルの有効性を示唆するものであり、翌週にセネガルでのみんなの学校群経験共有セミナーを控えていたことから、ニジェール教育省関係者が自国の経験を強い確信のもと対外に発信できるという意味でも非常に良い機会となった。また、当該報告内容は、月末に訪二した GPE 合同ミッションに対しても、EPT 補助金モデルをアピールする上で強い印象を与えるものとして有効に働いたと言える。なお、結果概要は、上記「補助金モデルパイロット活動」参照のこと。

その他、今学年度末（2014 年 5～6 月）に実施予定である当該インパクト評価のエンドライン調査実施へ向けた打ち合わせを行うと共に、特にベースライン調査結果に関してデータ内容の疑問点が研究所側から提示されたことから、現場調査の問題点（学力試験の実施、採点、データ入力）について、委託先 NGO からの状況聞き取りを行い、来年度へ向けた調査実施にかかる改善点を明らかにした。

## **(2) 原チーフアドバイザー運営指導調査**

セネガルでの仏語圏西アフリカ学校運営改善プロジェクト経験共有セミナー後、22日～25日にかけて、上記のCGDES・CGDES 連合経験共有セミナー、ならびに合同調整委員会、タウア州教育フォーラム準備会合開催に合わせて、原チーフアドバイザーが訪二した。今回の運営指導調査の目的は、主に上記の各種会合の最終準備および出席であるが、その他、今後の活動等にかかる協議を適宜行った。

## **6.プロジェクト運営管理**

### **(1) 2013年度第4四半期会計報告**

第4四半期会計報告1月分を完了。JICA事務所との間で最終四半期は各月ごとに報告を完了させていくことになった。

### **(2) プロジェクト事務所移転**

現在賃貸契約中のプロジェクト事務所に関して、大家側から契約更新を見合わせる意向の通知を受領したため、年度末移転の可能性も考慮し、3月末までの移転を目指して物件を探し中である。なお、現時点では移転有無を含めて最終決定はしていない。

## **6. 所感**

### **成果：プロジェクト中盤へ向けた活動展開への見通し**

質のミニマムパッケージ開発に関しては、普及モデル確立へ向けた今年度の大幅な対象校拡大の中で、ある程度自立的な活動が可能であり、かつ結果を出し得ることが確認された。補助金モデル開発パイロット活動に関しては、最終評価まであと3カ月という終盤にかかり、モデルの有効性を説得材料としてGPEプロジェクトによる今後の展開の可能性が出てきた。また、第1フェーズから取り組んできた州教育フォーラムに関しても、CGDES連合とコミューンとの連携や地方自治体を巻き込んだ持続性の高いモデル開発へ向けて、スタートを切った。これにより、プロジェクト中盤にあたって、現在までの下地固めが次の展開へ発展する可能性が見えてきたと言える。また、全国的なCGDES/CGDES連合の機能性をベースに、個別の活動の複合的取り組みが可能となる土壌がより一層強化されることが期待できる。

### **課題：教育の質の改善にかかる具体的結果へ向けた道筋・ヴィジョンの明確化**

政治的に不安定な中や、政策的なコミットメントが十分得られない中でも、ニジェール全土のコミュニティはCGDESの枠組みを通し、児童の就学を促進し、支え、毎年20億Fcfraを超える資源を教育に投資してきた。現在ではCGDES、住民参加なしには学校は立ちいかないとされる程、ミニマムパッケージの導入により「機能する学校委員会」は学校環境、学校運営を変えた。それに対し、教育の質の改善という課題に関しては、まだそのような揺るぎない道筋が見えていない。住民参加による教育の質の改善という目標に対

して、現在のような個別的な成果の発現のみでは、具体的な結果を残すには十分ではない。教育省中央・地方幹部や現場人材の頻繁な人事異動等、不確定要素が多い中ではあるものの、プロジェクトの折り返し地点が近づく現在、プロジェクト残り2年2カ月という限定された期間で、各モデルを実践的なものに発展させ、政策への働きかけをふくめたあらゆる要素を収斂させ、「教育の質の改善」の具体的な結果へ繋げる道筋・ビジョンを描くとともに、そのためのさらなる仕掛けを検討する必要がある。

### 7. 3月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
マイクロファイナンス ASUSU との CGDES 銀行口座管理にかかる協議	上旬
ドッソ州教育事務所パートナー協議会参加	上旬
補助金対象校補助金管理状況モニタリング・証憑書類回収ミッション	11～15日
CGDES の銀行口座管理にかかる経験共有	20～21日
CGDES 調整部との月例合同会議	27日
2013 年度会計報告	月末

以上

別添 1： 経験共有セミナー開催報告

別添 2： タウア州教育フォーラム準備会合開催報告

別添 3： セネガル開催仏語圏西アフリカ学校運営改善プロジェクト経験共有セミナー報告（抜粋）

別添 4： 世銀 GPE 担当者との協議記録（2014 年 3 月 1 日）

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」

## プロジェクト活動月報 2014年3月

作成日: 2014年4月1日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 土	質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ、マト
2 日		
3 月	JICA 事務所との週会合	影山
4 火		
5 水	質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ、マト
6 木	来年度委託業務 NGO・コンサルタント募集 証憑回収委託 NGO とのミッションにかかる打ち合わせ	影山、岩田、羽田野、ヤワレ、ハムザ、ザカリ
7 金	スタッフミーティング(電話会議により原出席)	全員(電話会議により原出席)
8 土	質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ、マト
9 日		
10 月	JICA 事務所との週会合 マイクロファイナンス ASUSU との会合	岩田 影山、アリ、ヤワレ、ハムザ、調整部
11 火	補助金対象校証憑書類回収ミッション	
12 水	州教育フォーラムモデル内部検討会 質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所) 質のミニマム活動モニタリング(ニアメ)	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ カマラ 影山、アリ、マト
13 木	スタッフミーティング PTF 会合	全員(電話会議により原出席) 影山、アリ
14 金		
15 土	質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ、マト
16 日		
17 月	JICA 事務所との週会合 補助金パイロット活動モニタリング(トロディ県)	岩田 ヤワレ
18 火	補助金パイロット活動モニタリング(サイ県)	ヤワレ
19 水	新任ティラベリ州教育事務所長との情報共有アトリエ開催 質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ、調整部 影山、マト
20 木	スタッフミーティング(調整部参加) 業務委託 NGO・コンサルタント選考委員会 NECS/PLAN NIGER との会合	全員、調整部(電話会議により原出席) 影山、岩田、アリ、調整部、JICA 支所 影山、アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ
21 金		
22 土	質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ、マト
23 日		
24 月	JICA 事務所との週会合 スクールガバメント活動にかかるパートナー協議会(25日まで)	岩田 ハムザ
25 火	UNDP ミッション CGDES 訪問(ニアメ市内)	EPT、JICA 支所
26 水	州教育フォーラムモデル内部検討会 質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所) 中等教育省大臣との面会	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ 影山、カマラ、マト 影山、アリ
27 木	CGDES 調整部との共同月例会議  2013 年度第 4 四半期会計報告 補助金介入インパクト評価現地調査委託 NGO との会合 中等教育省大臣との面会	全員、調整部、JICA(電話会議により原出席) 岩田 影山、ハムザ、ヤワレ 影山、アリ
28 金	スタッフミーティング	全員(電話会議により原出席)
29 土	質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ、マト
30 日		
31 月	JICA 事務所との週会合 初等教育省事務次官・計画局長との会合 中等教育省事務次官との会合	岩田 影山、アリ 影山、アリ

## 2. 今月の総括

質のミニマムパッケージ開発においては、モニタリングを通して全般的には順調な活動実施が見られたものの、ファシリテーターへの能力強化面に関して検討する必要性が確認された。

補助金モデル開発パイロット活動においては、現在までに対象校全てが補助金の全額執行を終え、ほぼすべての証憑の回収に至った。なお、今年度実施した CGDES による銀行口座管理に関しては、住民による肯定的な反応の一方で、実践的な問題があることから、今年度の経験を踏まえた改善戦略の検討に取り組んだ。

先月実施した州教育フォーラムモデル開発へ向けた準備会合を受け、タウア州では関係者への報告が進められた。その一方、プロジェクトにおいてもモデル開発へ向けた検討に取り組んだ。

また、昨年度 8 月の省庁改編により中断していた機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動に関して、中等教育省大臣・事務次官との協議を通し、再開へ向けて準備を進めることとなった。

その他、GPE・コモンファンド基礎教育支援プロジェクトにおける CGDES 補助金供与活動に関して、進捗状況の情報収集に取り組み、有効な補助金モデルの適用へ向けて、プロジェクトとしてどのように技術支援介入が可能となるか、教育省関係者と協議を行った。結果、今後は CGDES 調整部との連絡を強化し、調整部への能力強化を通じた技術的な介入を図る必要性が明らかとなった。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 質のミニマムパッケージ開発パイロット活動

今月、活動開始から 2 カ月後となる現場の状況を見極めるため、活動モニタリングを実施した。教員ならびにコミュニティファシリテーターのもと、各校共に活動計画に従って定期的な活動が繰り広げられており、良好な出席状況を通して児童の関心の高さも伺われた。また、CGDES 連合総会を通して聞き取りを行ったところ、活動開始後の児童の学習状況に関しては、いずれの校長ともに肯定的な意見を述べており、この活動の効果に関しては強く確信している様子であった。その一方、多くのファシリテーターが活動の回し方、個々の児童へのドリル配布、問題の説明・指導、採点といった一連の活動サイクルを実践するのに困難を感じている様子が見受けられた。進捗が異なる多数の児童を同時にかつ個別に対応するやり方は、個々の児童の進捗に細かく目を配ることなく授業を進めることに慣れている教員にとっては非常に難しい。また、時にカスケード式的能力強化では十分な情報が研修参加者から共有されておらず、その点も多くのファシリテーターが不安を感じている点と思われる。

これらの点から、ファシリテーターへの能力強化研修の改善が今後求められる。活動を潤滑に回す手法と共に、カスケード式という点を考慮し、研修内容伝達にかかる実践的な

内容も盛り込む必要がある。さらに、今後モニタリングに関しても現実的かつ継続性のある方式を検討する必要がある。

表 1：質のミニмумパッケージ活動対象校状況

対象校数	対象児童数 (1～5年生)	ファシリテーター数		
		教員	住民	合計
107	13 000	445	160	605

## (2) 補助金モデル開発パイロット活動

プロジェクト会計年度末にあたる今月、補助金にかかる証憑書類回収の最終ミッションを実施した。昨年度に比べ、銀行口座利用の関係で資金管理が複雑となり、CGDES 側の補助金執行ならびに証憑管理に混乱が生じた面もあったが、最終的に対象校全ての CGDES において補助金全額が執行され、月末までにほぼすべての証憑書類が回収された。

また、今月は、CGDES の銀行口座開設にかかり教育省と協定覚書を結んだ ASUSU のジェネラルマネージャーと会合を持ち、CGDES による銀行口座管理現状にかかる情報交換、問題点の共有、戦略検討を行った。結果、今年度取り組んだ銀行口座活用の経験を対象 CGDES と協議し、より実践的かつ適切な銀行活用が可能となるよう検討する会合を開催することとなった。なお、会合開催は来月の予定。今回の協議に至った背景には、今年度初めて実施した CGDES による銀行口座利用に関して、銀行口座維持管理費不足の問題や活用状況に不十分な点が見られたためである。

全般的には、安全性と透明性の面から銀行口座利用に関しては、コミュニティからも肯定的な意見が多い。しかしその一方で、特に農村部の学校においては、銀行への移動コストなど、アクセス難による利便性の悪さが現実的な実践の妨げとなっている点は否めず、また、管理費や管理・活用法にかかる情報の浸透・理解が CGDES ならびに住民間において不十分であり、銀行口座管理手数料の未納状況も見受けられた。その結果、大半の CGDES が補助金の入金以外に十分に口座を活用しきれておらず、口座維持管理費の滞りにより、今後休眠口座となる可能性も出てきている。年度ごとに策定される学校活動計画に合わせて資源動員を行い、多くの活動（出費）は学年度初めとなる CGDES の資金サイクルにおいて、年間を通して定期的な費用が掛かる銀行管理は不都合な面があることは否めない。しかしその一方で、今後の CGDES への補助金政策推進において、CGDES が銀行管理能力を備えていることは大きな強みとなり得る。その点を踏まえ、現在の CGDES 銀行口座を維持し、かつ、今後補助金等が見込まれる CGDES への口座開設を促進するため、ASUSU との協議を通して、今年度の銀行口座維持管理手数料の不足分は来年度動員が図られる時期での後払いとし、来年度以降は CGDES の動員サイクルに合わせて、年度初めに手数料の年間一括払いとするなどの可能性が探られた。これらが可能となれば

CGDES は学校活動計画にあらかじめ銀行関連の費用（管理費、出し入れにかかる移動費）を盛り込むなどの対応も可能となる。今後は、今年度の実践を CGDES と協議することで、利点の理解強化と問題点への戦略促進を進めていく。また、今回は銀行管理にかかる基本情報の理解浸透、実践にかかる戦略協議が不十分であったことも問題が生じた一因であることから、CGDES 能力強化研修内容の改善へと繋げていく。

上記に加え、先月に引き続き対象 CGDES の活動モニタリングを実施した。全般的には、補習や夜間学習など児童の学力強化にかかる活動が、完全に計画通りとはいかないまでも各コミュニティや教員のキャパシティに合わせて実施されていることが確認された。ただ、問題点として、いくつかの CGDES にて児童の出席率の悪さが活動の実施を妨げているケースが報告された。その一つの要因としては学校とコミュニティ間でのコミュニケーションが図られておらず、また、住民間に過去の教員との軋轢が学校への不信感として根強く残っていると思われるケースも見られた。その一方で、情報共有の改善が劇的に住民参加・動員状況を変化させる状況も確認された。昨年度に比べ格段に住民の参加や教員の活動への関与が改善した CGDES においては、今年度の能力強化研修を受け、徹底的な情報共有が行われた結果、住民からの動員や活動への理解と参加、教員との関係性の改善に繋がり、非常に活発な CGDES 活動が行われることとなった。これは、「情報共有」が状況を改善するひとつの鍵となる可能性を示唆するものと思われる。

### **(3) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動**

州教育フォーラムモデル開発パイロット活動の準備として、タウア州フォーラム準備会合を州知事と共に実施したが、今後 6 月開催予定の州フォーラムへ向け、さらにモデル開発にかかる内部検討会を適宜行った。今後も CGDES 調整部も含めて協議を進めていき、6 月の開催へ向けて固めていく予定である。

タウア州でのフォーラム準備会合にかかる関係者報告会の状況としては、現時点で州 CGDES 監督官による県 CGDES 監督官への報告は終了しており、県 CGDES 監督官から CGDES 連合への報告を行っている状況である。また、タウア州知事の招集により、州内の県知事と視学官を集めたフォーラムにかかる説明報告会が来月初めに開催される予定となっている。具体的にはまだ開始していないとはいえ、タウア州知事は多忙な中でも、当該活動に非常に強い関心と責任感、知事としてのリーダーシップをもって対応しており、タウア州選択の適切さを再認識する状況と言える。

なお、前回の州フォーラム準備会合開催直後に実施された州教育事務所長の人事異動により、タウア州の州教育事務所長も変更となった。新任の州教育事務所長は視学官としてプロジェクトとの活動経験もあり、CGDES 関連活動に対する理解も高いようであるが、今後、来月実施される CGDES 監督官会議の機会等を使い、州教育事務所長への状況説明、意見交換に努めていく。

#### 4. 教育省・ドナー関係

##### (1) 技術・財政支援ドナー（PTF）会合

今月開催された月例のドナー会合においては、先月末から今月初めに行われた GPE・AFD の共同ミッション報告、PDDE（教育 10 ヶ年計画）／PSEF（教育・研修セクタープログラム）レビュー会合開催へ向けた状況報告、そして、首相府主催による「教育フォーラム」提言モニタリングへの関与にかかる協議が行われた。

GPE・AFD 共同ミッション報告は、今回、当該 GPE 資金の管理主体である世銀代表出席の下で実施された。現状としては、ミッション結果の要約文書作成中であり、また、4 月～5 月を目途に GPE およびコモンファンド資金にかかる協定書署名へと進める予定とのことであった。なお、技術支援パートナーとして EPT プロジェクトがどのように関与し得るか、世銀としての考えを伺ったところ、今後実施プロセスにかかる技術的な面では（パートナーの関与を含め）教育省側が対応すべき事項であるとの回答であった。

昨年度より実施が引き伸ばされている PDDE／PSEF レビュー会合開催へ向けた状況としては、現状においては教育省側に積極的な動きはなく、今年度 6 月開催を予定しているものの、その目途は全く立っていないに等しい。PTF 側としては教育省のイニシアティブを尊重しつつも、レビュー会合の TOR 作成を促すなど働きかけを続ける必要性が協議された。

昨年度、首相府主催により「教育フォーラム」が開催され、その提言モニタリングにかかる PTF からのモニタリング委員会への参加・関与が政府より打診された。この点に関し、ニジェール国教育開発戦略として策定された「教育セクタープログラム（PSEF）」と当該フォーラム活動の関係性や、PSEF とは別途、投入・労力を分散させる活動の実施に対する疑問が挙げられたことから、全体的なモニタリング会合にのみ、ドナー代表（スイス開発庁）から適宜参加することに留めることで合意した。

##### (2) 新任ティラベリ州教育事務所長への情報共有会合

先月下旬のニジェール全 8 州中 6 州の教育事務所長が交代した人事異動によって、ティラベリ州でも新教育事務所長が着任した。そこでプロジェクトでは、同州にて、補助金モデル開発、質のミニマムパッケージ開発という重要なパイロット活動を実施していることに鑑み、新任の同州教育事務所に対して、みんなの学校プロジェクト概要および二つのパイロット活動の説明、ならびに現地視察を実施した。

当該州教育局長は、視学官として過去にプロジェクトが支援した視学官会議等にも参加しており、CGDES やプロジェクト活動に関してもある程度理解している。また、特に「住民参加による教育の質の改善」活動に関しては、非常に強い関心と期待を示しており、今後、二つのパイロット活動にかかる積極的な関与が期待できる。

しかし、前任地であったアガデス州では、治安やアクセスの問題で CGDES 機能化に困難を抱えているケースが見られ、CGDES・住民活動の成功例が身近にはあまりなく、プ



プロジェクトが説明するコミュニティ、教員、教育行政の機能的な協働のイメージが具体化できない様子であったことから、今回の現地視察に加え、今後も様々な機会を通し、CDGES・住民の教育開発への貢献可能性と教育行政の関わり方について意見交換を図っていく予定である。

### **(3) NECS (USAID 出資プロジェクト) /PLAN Niger との会合**

20日にUSAID出資でコミュニティベースの活動を実施しているNECS/PLAN Nigerのプロジェクト訪問を受けた。NECS/PLAN Nigerでは、「現地語およびフランス語の読み」に焦点を当てたチュートリアル活動を実施しており、その関係で現在プロジェクトが実施している質のミニмумパッケージ開発活動について情報を得たいとして、今回の会合が打診された。今回は時間的制約により、プロジェクト側からの活動説明に終始したものの、NECSが取り組む「現地語・フランス語読解」能力改善活動は、当プロジェクトにとっても質のミニмумパッケージの要素として示唆を得る可能性があることから、今後も情報交換を図ることで合意した。

### **(4) GPE・コモンファンド基礎教育支援プロジェクト**

先月末から今月頭にGPE/AFD合同ミッションが実施されたが、活動計画策定支援ため、AFDコンサルタントが在留し、教育省内関連局との間で協議が継続して実施された。結果、CGDESへの補助金供与活動においては、アガデス州、ディッファ州、ザンデール州、タウア州、ティラベリ州の5州内、合計2800校（内、プロジェクトの補助金パイロット活動およびインパクト評価対象180校を含む）を補助金対象とすることが決定されたとのことである。

先月行われた教育省・ミッション団との会合においては、EPTの補助金モデルを基本モデルとして適用する面では、ほぼ関係者合意に至ったことから、プロジェクトからは当該活動計画・実施にかかる技術的な支援の提供を申し出ている。しかしながら、コンサルタントの依頼により補助金関係マニュアルを共有したのみで、プロジェクトが関与するような技術面での協議は行っていないとの理由により、現在まで当該活動にかかる協議は、コンサルタントとCGDES調整部、財務局を含む教育省関係者間に留まっている。プロジェクトの補助金モデル適用およびその成功にあたっては、プロジェクトの技術支援は必須と考えることから、今月末に実施したCGDES調整部・計画局との月例会議にて、この点にかかる情報収集・協議を行った（詳細は、別添参照）。

この会議で、CGDES調整部としては、あくまでEPT開発の補助金モデルを適用する意向であり、CGDESの能力強化においては、EPTのモジュールを使用する予定であることが強調された。その一方で、計画局フォーカルポイントからは、GPE基礎教育支援プログラムへの関与・支援条件としては、通常、セクタープログラム（PSEF）の是認、参加意思の表明（なお、JICAはPSEFの是認文書には署名を行っていない）、協定書への署名を

した上で、コモンファンドに資金を入れるという形をとるとのことが説明された。これらの回答から、教育省側としては、当該活動にかかる外部からの支援は直接的な技術支援でなく、財政的支援を希望しているという意向が垣間見えた。

このような状況下では、今後もプロジェクトが直接的に技術的協議に参加することは難しいことが予想されるため、プロジェクトとしては、当該活動の中心を担う事務次官・計画局長との協議を持つとともに、CGDES 調整部への技術支援というかたちで、間接的に技術支援をする方向性を検討していく。

#### **(5) 事務次官ならびに計画局長と面会**

上記の GPE 基礎教育支援プロジェクトの補助金活動に対する EPT プロジェクトの関与に関して、教育省側の認識を確認するため、GPE プロジェクト実施の中心を担う事務次官および計画局長に面会し、協議を行った（詳細別添参照）。

計画局長からは、EPT プロジェクトに期待する支援として、①制度的・技術的支援：EPT 開発のモジュールの教育省への提供、②財政支援：GPE、PSEF のパートナー協力枠組みに従って、コモンファンドへの資金投入や別途 CGDES への補助金直接投入、が挙げられた。また、引き続き CGDES 調整部を補佐していくことを望むとの言及があった。

教育省側（特に計画局長、事務次官）の認識として、ドナーからの支援は基本的に「財政支援」との認識であり、技術支援の重要性への意識はないことが明確である。計画局長としては、モジュールの提供が技術支援であり、直接的にプロジェクトが当該活動に技術的関与を行うという意向は全くない。その一方、CGDES 調整部への技術支援に関しては、今後の継続を望むとの明言があったことから、その点をもって、CGDES 調整部との関係性を強化し、当該活動にかかる情報共有を密にしながら、CGDES 調整部の能力強化を通じた当該活動への間接的な技術介入を進めることが必要と言える。

#### **(6) 中等教育省大臣・事務次官との面会**

先月開催した CGDES/CGDES 連合経験共有セミナーでの提言と、その翌日のプロジェクト合同調整委員会にて、プロジェクトによる「機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動」の継続が承認されたことから、その報告ならびに今後の活動にかかる協議のため、中等教育省大臣ならびに事務次官とそれぞれ面会を行った。

大臣との面会においては、プロジェクトによる機能する中学校 COGES モデル開発のためのパイロット活動再開が、JICA を含む合同調整委員会において承認された旨を報告した上で、以下の点を中学校 COGES にかかるプロジェクト支援の条件および提案として提示した。

- ・ 現在のプロジェクトの範囲内で可能な支援は、機能する中学校 COGES モデル開発にかかるパイロット活動の実施（全国展開に関しては現在のプロジェクト範囲内では出来ない）

- ・ 上記活動促進を含め、COGES 政策にかかる活動を管轄する担当部署の設置
- ・ 当プロジェクトのフォーカルポイントの任命
- ・ モデル開発にあわせた COGES 関連省令等の順次見直し
- ・ 今後、モデル確立後の全国展開支援に関しては、JICA への新規プロジェクト申請は可能（2013 年 8 月に今年度申請受付）。また、申請書作成にかかる技術支援の意向があればプロジェクトにて協力可能

それに対して、大臣側からは、「機能する」COGES モデル確立の重要性を理解した上で、プロジェクト側の意向を尊重し、当該モデル開発へ向けたパイロット活動の実施とそれへの協働、上記提案の受け入れ、ならびに今後の新規プロジェクト申請に対する前向きな意向が示された。また、既に担当部署の設置にかかる準備を進めており、パイロット活動におけるプロジェクトのフォーカルポイントとなるチーム構成を検討中との旨も共有された。今後は、担当チーム確定後、プロジェクト側に連絡を入れるとのことである。

また、上記大臣とは別途、中等教育省事務次官とも協議を行った。協議内容は基本的に上記大臣との協議内容報告である。当次官は、プロジェクト第 2 フェーズ時代に、元国民教育省（現、初等教育・識字・国語推進・市民教育省）の基礎教育総局長であったことから、みんなの学校プロジェクトとも協働経験があり、プロジェクト活動やアプローチへの理解と信頼が高い。そのため、今後プロジェクトが活動を進める上での非常に強い後押しとなることが予想される。今回の会合においても、担当部署の設置にかかる省令案および今年度 COGES 関連活動計画を策定中であるとのことから、それらのドラフトがプロジェクト側に共有され、技術的なアドバイスが求められるなど、プロジェクトにとって協働し易い体制であることが伺える。今後も、事務次官をはじめ関係者と連絡を密にとり、機能する中学校 COGES パイロット活動再開へ向けた準備を進めていく。

## 5. 調査・ミッション関係

### (1) UNDP ミッション訪問受け入れ

今月中旬に UNDP（JICA 職員の出向）のプロジェクトサイト訪問が行われた。訪問先は、ニアメ市内の CGDES とし、CGDES メンバー、教員、住民との CGDES 活動にかかる意見交換がなされた。訪問時は学校が休暇中であったため、児童は不在であったものの、集まった CGDES メンバーおよび住民により、教室建設、電気設置等、今年度実施した CGDES の学校活動の概要や住民動員状況の説明が行われた。

## 6. プロジェクト運営管理

### (1) 2014 年度の人材雇用、各種契約についての準備

特に、来年度から直接雇用の 4 名が人材派遣会社からの派遣となるため、法的にも問題がないかなど、労働監督局に確認した。今後契約作業を行う。

### (2) 2014 年度の業務委託に関して

新聞での公示、審査を経て、受託先が決定された。今後、契約について作業を進める。

## 7. 所感

### 成果：機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動再開

昨年度 8 月に中学校の管轄省が替わったことにより中断していた「機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動」に対し、再開の目途がついた。省庁改編直後より中学校を管轄する中等教育省より強い要望を受け、また、ニジェール国教育開発にとっても望まれる活動でありながら、手続き上の問題や協議の遅延により先延ばしになってきたのが、2 月の合同調整員会、今月の中等教育省大臣・事務次官との協議により、パイロット活動再開が決定した。特に、中等教育省においては、プロジェクト側の意向を尊重した形で対応を進めており、プロジェクトにとっても比較的望ましいかたちでの活動実施が可能となることが期待される。また、中等教育省事務次官のプロジェクト活動への理解と信頼が高い点も今後の強い後押しとなる。今後は、設置予定の中等教育省の担当部署と協議行いつつ、次学年度の本格的なパイロット活動再開へ向けた準備を進めていく。

### 課題：GPE プロジェクトへの「補助金モデル」の効果的な適用

先月実施された GPE/AFD 合同ミッションおよび教育省との会合を通して、GPE/コモンファンド基礎教育支援プロジェクトにおける CGDES 補助金供与活動への EPT モデル採用にかかる関係者合意はほぼ固まった。

しかしその一方で、その後、プロジェクトとの情報共有がないまま、当該活動の協議が AFD コンサルタントと教育省側で進められており、教育省側（当該プロジェクトの中心となる事務次官・計画局長）とプロジェクト側において、EPT 補助金モデル適用に際する意識の差が明らかになった。

プロジェクトとしては、補助金モデルが完全に確立したわけではなく、EPT の補助金モデルを効果的に適用し、成果を上げるには、モジュールの導入に加え、講師研修などでパイロット活動においても協働を続けてきた CGDES 調整部をさらに支援することが必要と考えている。

しかし、教育省側では、EPT 補助金モデルの適用に異論はないものの、技術支援に関しては、モジュールの提供に留め、直接的な技術介入、戦略的協議等への直接的参加は想定外との姿勢であった。

上記の状況により、直接的な技術支援が難しいものの、CGDES 調整部自体もプロジェクトからの支援を期待していることから、今後は、当該活動の中心的な実施部署となる CGDES 調整部を介した間接的な技術支援の戦略を検討する。まずは、適切な介入支援が出来るよう、さらに CGDES 調整部との情報共有を強化していくとともに、CGDES 調整部への当該活動にかかる能力強化に集中的に取り組んでいく。

#### 8. 4月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
マイクロファイナンス ASUSU とのアトリエ準備会合	1 日
CGDES 監督官会議モニタリング (マラディ州、タウア州、ドッソ州)	7～13 日
補助金管理・運営強化会合	16、17 日
補助金対象校 CGDES 活動モニタリング	上旬～下旬
質のミニマムパッケージ活動モニタリング	上旬～下旬
2014 年第 1 四半期予算申請	初旬
羽田野専門家休暇	3 日～24 日
影山専門家出張 (旅券更新手続き)	7～11 日
影山専門家休暇	18～23 日

以上

別添 1： CGDES 調整部・計画局月例会合記録

別添 2：教育省事務次官・計画局長面会記録

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2014 年 4 月

作成日: 2014 年 5 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 火	マイクロファイナンス ASUSU との会合	影山、ヤワレ、ハムザ、アリ、調整部
2 水	マイクロファイナンス ASUSU との会合	影山、ヤワレ、ハムザ、アリ、調整部
3 木	羽田野専門家休暇一時帰国(24 日まで)	
4 金	補助金評価調査業務委託にかかる NGO との協議	影山、ヤワレ、ハムザ、ザカリ
5 土	質のミニマムパッケージ試行	影山、マト、カマラ
6 日	CGDES 監督官月例会議モニタリングミッション(3 州) 影山専門家旅券更新パリ出張(11 日まで)	ハムザ、調整部
7 月	JICA 支所との定期会合	岩田
8 火	マラディ州 CGDES 監督官月例会議モニタリング	ハムザ、調整部
9 水	タウア州教育事務所長との州教育フォーラムにかかる情報共有会合 フランス事務所企画調査員(経理)による経理業務指導	アリ、ハムザ、調整部 岩田、アワ
10 木	タウア州 CGDES 監督官月例会議モニタリング フランス事務所企画調査員(経理)による経理業務指導	ハムザ、調整部 岩田、アワ
11 金		
12 土	ドッソ州 CGDES 監督官月例会議モニタリング 質のミニマムパッケージ試行	ハムザ、調整部 影山、マト、カマラ
13 日		
14 月	補助金管理経験共有会合準備 JICA 支所との定期会合	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ、調整部 岩田
15 火	スタッフミーティング(本部:原チーフアドバイザー) 補助金管理経験共有会合準備・シミュレーション	全員 影山、ヤワレ
16 水	補助金管理経験共有会合開催(サイ県 60 校対象) 調達セミナー(本部調達部)	全員 岩田、影山
17 木	補助金管理経験共有会合開催(トロディ県 60 校対象) 補助金評価調査にかかる NGO との協議	全員 影山、ヤワレ、ハムザ、ザカリ
18 金	影山専門家健康管理休暇(23 日まで)	
19 土		
20 日		
21 月	イースターマンデー(祝日)	
22 火	スタッフミーティング(本部:原チーフアドバイザー) JICA 支所との定期会合	全員 岩田
23 水	質のミニマムパッケージ活動モニタリング(ニアメ)	マト
24 木	補助金評価調査にかかる NGO との協議 コンコルド祭(祝日)	影山、ヤワレ、ハムザ、ザカリ
25 金	質のミニマムパッケージ活動モニタリング(ニアメ)	マト
26 土	補助金評価調査にかかる NGO との協議・調査準備	影山、ヤワレ、ザカリ、ハムザ
27 日	補助金評価調査にかかる NGO との協議・調査準備会合	影山、ヤワレ、ザカリ、ハムザ
28 月	スタッフミーティング(本部:原チーフアドバイザー) JICA 支所との定期会合 補助金評価調査員研修モニタリング 質のミニマムパッケージ活動モニタリング(ニアメ)	全員 岩田 影山、ヤワレ、ザカリ、ハムザ マト
29 火	補助金評価調査員研修モニタリング 質のミニマムパッケージ活動モニタリング(ニアメ)	影山、ヤワレ、ザカリ マト
30 水	補助金評価調査プレテスト実施モニタリング(サイ県、トロディ県) 質のミニマムパッケージ活動モニタリング(カルマ)	ヤワレ、ザカリ アリ、カマラ

## 2. 今月の総括

質のミニマムパッケージ開発パイロット活動においては、活動モニタリングを通してドリル冊子の進捗が確認されたとともに、各コミュニティが、継続的な活動実施のための活動時間の調整や工夫に取り組む状況が見受けられた。また、今後の持続的な活動モニタリングにかかる検討に取り組んだ。

補助金モデル開発パイロット活動に関しては、今年度取り組んだ銀行口座活用によるリソース管理の利点と戦略を協議する会合を開催した。結果、銀行活用にかかる各種費用を学校活動計画に盛り込む、自己資金も含めて銀行管理を活用する等の今後の戦略が協議された。また、来月から開始される補助金介入活動の評価調査実施へ向けた準備支援に取り組んだ。

今月の CGDES/CGDES 連合モニタリングでは、CGDES 監督官会議モニタリングを通して、比較的安定した CGDES 連合活動の状況が確認された。その中でも、タウア州の活動状況は秀でており、CGDES 活動状況にかかる徹底した情報共有の下、多様なアクターの CGDES 活動にかかる関与と支援姿勢の高さが伺われた。

州教育フォーラムモデル開発パイロット活動においては、新任のタウア州教育事務所長に対する当該活動の説明および意見交換に取り組んだ。結果、同州教育事務所長からは強い関心と積極的な関与が約束された。

その他、2014年度教育省予算計画において、CGDES モニタリング関連費および CGDES への補助金供与を含む、213,576 千 Fcfa（約 4300 万円）分の CGDES 関連活動が国家予算により配分されることが教育省にて承認された。この総額は、CGDES モニタリング関連費が初めて国庫より支出された昨年度予算の約 2 倍に及ぶ。また、2012/2013 年度教育統計年鑑では、ニジェール教育開発状況を示す情報の一つとして、初めて CGDES 活動にかかる項目が本文中に盛り込まれた。これらの点は、教育省が、「現在のニジェールの教育分野において、CGDES およびコミュニティが担う役割がいかに重要であるか」という認知を高めつつある状況を示しているともいえる。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 質のミニマムパッケージ開発パイロット活動

今月も引き続き、現場での質のミニマム・ドリル活動モニタリングを実施した。多くの学校では、1月に配布したドリル冊子（プレ算数、ドリル No.1）の演習を終え、次のレベルのドリル冊子（No.2）へと進む状態であった。その中には、学校・視学官事務所・プロジェクト間でのドリルの必要数にかかる情報連絡が滞り、手持無沙汰となった結果、一部児童の活動を中断している学校が見られた。その状況に合わせ、1300冊ほどの配布を行ったが、今後この点に関しては、下記のモニタリングシステムと併せて、改善していく予定である。また、活動実施時間帯や時間数、グループ分け等の当初計画が、各 CGDES にて無理のない形で活動が実施できるよう、実施曜日の変更や実施時間数の増減、グルー

プの細分化（グループあたりの児童数の調整）など適宜調整されている状況が見られた。当該活動が今後も日常的、継続的に実施されるには、各学校現場・村落の状況、アクターのキャパシティに準拠するかたちで、“過剰な”負担を要しない現実的な計画、実施とする必要がある。その意味で、各 CGDES 実施された調整事例は望ましい実践と言える。その一方で、当該活動から望む成果を得るためには、ある程度の学習時間を確保する必要がある。よって、今後年度末に予定している評価テスト結果とも比較しつつ、これらの経験を抽出し、現在の学校現場、ファシリテーターやコミュニティのキャパシティに即した形でのモデルの確立、発信を進めていく。

その他、今後拡大を予定している質のミニマムパッケージ活動において、検討すべき問題の一つが活動の情報収集・モニタリングである。新たなシステムの導入は現実的でないことから、既存のモニタリングシステムの枠組みの中で、モデル確立に必要な情報を収集し、かつ、継続的な当該活動の実施支援となるような仕組みをモデルの要素として組み入れることを念頭に、外部モニタリングシート（プロジェクト、視学官、指導主事用）ならびに、CGDES が自ら活動状況を把握し、改善を進めていくための自主モニタリングツールの開発に取り組んだ。この自主モニタリング結果は、各 CGDES にて住民に定期的に報告することで、各 CGDES での改善指標とするのみならず、年間 3 回実施される CGDES 連合総会にて、コミュニオン内 CGDES 活動の状況把握と CGDES 間での経験共有の材料として使用することを目指していく。

## **(2) 補助金モデル開発パイロット活動**

今月プロジェクトでは、銀行活用の利点と不利点を見極め、CGDES・住民にとって有効な活用のためにはどうすべきか―、コミュニティで実施可能な戦略について、対象 CGDES と協議をするワークショップを開催した。協議を通して、単に銀行システムの理解不足や慣れの問題が活用の妨げになっている面も伺われたが、銀行活用に消極的な意見は、やはり、CGDES が扱う出入金額に対して銀行までの移動費、時間的コストを含む機会費用が大きすぎるという問題であった。現状では、町中にしかない銀行活用は、農村部の CGDES・住民の負担を増やすことになる。それでもなお銀行を利用することへの住民の利点は何であるのか。負担を最大限に減らし、利点を強化するにはどうすべきか、銀行活用を CGDES の資源管理システムの一要素として組み込むにはどうすべきか―。今回、一つ一つの課題を CGDES の代表者と協議し、さらにその情報が住民と共有されることで、CGDES・住民による外部リソース管理能力の強化に繋がったと思われる。

大半の CGDES は、資金管理の安全性と透明性、コミュニティからの信頼強化に繋がったとして銀行口座の利用を肯定的にとらえ、当該補助金パイロット活動後も口座の維持を望む意向を示している。その一方で、いかに移動費や各種手数料を賄うかという現実的な問題が挙げられたことから、口座維持管理費等の必要経費を学校活動計画への盛り込むこと、分担金の回収が行われる年度初めに銀行維持費を一括支払とすること等の戦略が協議さ



れた。また、継続的な銀行口座活用には住民の理解が不可欠であることから、銀行活用にかかる住民への情報共有強化の必要性が認識された。今回の協議内容を共有することで、CGDES の自己資金管理を含めたより積極的な活用へと繋がることが期待される。

その他、『EPT 補助金モデル』プロジェクトによる CGDES への補助金関連能力強化活動の効果を評価するため、JICA 研究所と実施してきた評価調査のエンドライン調査が来月より開始されることから、委託 NGO による適切な調査実施が可能となるよう、その準備支援に取り組んだ。この調査は 2 年間に渡り実施してきた補助金モデル開発パイロット活動を通して、児童の学力、CGDES のパフォーマンス、最終評価となる。エンドライン現場調査は来月 5 日～1 カ月間に渡り、対象 2 県併せて 180 校（コントロールグループ 60 校、補助金・管理研修のみグループ 60 校、補助金・管理研修＋計画策定研修グループ 60 校）にて実施される予定である。

### (3) CGDES・COGES 連合モニタリング

2 月～3 月にかけて各地で第 2 回 CGDES 連合総会が開催されたことを受け、州ごとの CGDES および CGDES 連合活動状況の中間評価・モニタリングのための CGDE 監督官会議が今月末までにはほぼ全州にて開催された。その中でプロジェクトでは、マラディ州、タウア州、ドッソ州の CGDES 監督官会議モニタリングを実施した。また、いずれの州も 2 月に州教育事務所長が交代した州であったことから、通常の CGDES 監督官モニタリングとは別途、CGDES、CGDES 連合活動とそれを支える教育行政の役割の理解を促進するため、新任州事務所長への説明・意見交換会合を実施した。モニタリング実施三州における CGDES 活動状況は以下の通り。

州	第 2 回連合総会実施連合数／全連合数（率）	連合総会 CGDES 参加率	CGDES 拠出金支払率	コミュニケーション支援受領連合数／全連合数
マラディ	47／47（100%）	91.2%	66.5%	15／47
タウア	44／44（100%）	95%	92%	38／44
ドッソ	41／43（95%）	89%	65%	12／43

上記の通り、全般的にはモニタリングを実施したいずれの州に関しても、比較的安定した活動状況が見受けられた。その中でも、タウア州のパフォーマンスの高さは秀でており、CGDES・CGDES 連合自体の機能性の高さが伺える。しかしながら、CGDES 活動支援を中心的に担う CGDES 監督官の状況をみると、9 名の県 CGDES 監督官中 6 名は、ここ一年程の間に新たに任命された人材であり、また監督官のモニタリング移動手段であるバイクは全国 8 州中もっとも古く、故障でほとんど使えない状態のものも多い。そのように他州と比べても特恵恵まれた環境とは言えない状況下、上記のような成果を維持している背景には、地方行政（コミュニケーション）、教育行政（視学官・指導主事等）といった州内の様々

なアクターが、地域の教育開発における CGDES・CGDES 連合活動の重要性を高く認識・評価し、その結果、CGDES モニタリング・支援に積極的に関与している点が指摘できる。また、そのような様々なアクターの関心を高めるための戦略として、CGDES 関連の情報共有を徹底していることも重要な点である。

その一方、全国的な状況として、近年の人事異動による主要関係者の入れ替わりによる問題が見受けられた。先々月末に実施された州教育事務所長の異動では、8 州中 6 州が新しい事務所長となった。州内教育行政官の長である州教育事務所長は、CGDES モニタリング・支援においても、牽引役としての積極的な関与と姿勢が期待されるが、現時点では、大半が CGDES への理解、およびその支援アクターとしての役割認識にまでは至っていないことが予想される。また、州および県の CGDES 監督官もここ 1 年で多く変わっており、CGDES 活動モニタリングにかかる知識や技術・能力にばらつきが生じてきている。これらの点に関しては、今後、CGDES 調整部と共に対策戦略を検討していく。

#### **(4) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動**

今月は、2 月にタウア州知事と協議を行った「州教育フォーラムモデル開発パイロット活動」の内容をタウア州教育事務所長と共有し、意見交換をおこなった。州教育フォーラム実施においては、州教育事務所長が果たすべき役割は非常に大きい。しかしながら、現タウア州教育事務所長は、前回の州教育フォーラム準備会合後に着任し、かつ今までにプロジェクトにより開催したフォーラムの参加経験もないことから、次回の州教育フォーラム準備会合までにある程度の理解を共有するため、フォーラムの概要説明から、今までの経験・成果、目指す方向性等に関して説明を行った。同事務所長からは非常に強い関心が示されるとともに、自身の役割に対する高い理解の下、今後の積極的な関与が約束された。この点は、タウア州 CGDES/CGDES 連合の機能性の高さ、地方行政および教育行政の関与・支援姿勢、州知事の積極性に加わるものとして、当該パイロット活動をする上で、非常に望ましい状況と言える。

その他、先月に引き続きモデルの検討を進めるとともに、来月には第 2 回準備会合、視学官会議を開催予定であることから、その会合内容の検討、および開催地を含める開催準備を進めた。なお、タウア州教育フォーラムならびに関連会合に関しては、JICA の移動制限を考慮し、州都のタウア市ではなく一号線沿いのマダウア市にて開催する予定である。

### **4. 教育省・ドナー関係**

#### **(1) 2014 年度教育省予算計画：CGDES 関連活動**

昨年 2013 年度、CGDES 全国展開後初めて、CGDES モニタリング活動費が国家予算から支出されたが、今年度はその約倍額である 213,576 千 Fcfa (約 4300 万円) の国家予算が CGDES 関連活動に配分されることが教育省にて承認された。この内、昨年度と同様の CGDES モニタリング関係予算 (CGDES 監督官モニタリング費、CGDES 監督官月例

会議開催費、CGDES 調整部モニタリング費) および新設校研修費の他、CGDES 監督官や連合の能力強化、地域経験共有セミナー開催と共に、52,000 千 Fcfa が CGDES への補助金供与として配分されることとなった。国家予算による活動予算内訳は別添の通り。なお、当該補助金供与に関しては、EPT 開発の補助金モデルの採用が前提となっており、今後詳細に関して、CGDES 調整部と協議を進めていくこととなる。

## (2) 2012/2013 年度教育統計年鑑

2012/2013 年度のニジェール国教育開発指標を示す教育統計年鑑が発行された。例年通り、基礎教育・教員養成・識字分野のアクセス・質を主とした教育開発状況を示す教育指標が公開されている。初等教育へのアクセスにおいては、新入学率 99.2%(女子 91.3%)、就学率 82%(女子 74.7%)が達成され、質の面においては、初等修了率 56.4%(女子 49.1%)、6 年生までの残存率(留年含む)は 60.3%(女子 58.5%)となっている。

その中で、例年と大きく異なるのは、教育開発に貢献するものとして「CGDES 学校活動計画実施状況」が一つの項目として挿入されたことである。前年もコミュニティ(CGDES)による教室建設数の情報が盛り込まれたが、CGDES 関連として一つの項目で取り上げられたのは、今回が初めてとなる。コミュニティがニジェール教育開発に対して重要な貢献をしている状況に鑑み、それを数値化、顕在化させる意味で、教育統計年鑑への COGES(CGDES)活動成果の盛り込みは、前 COGES 推進室の頃から長年にわたり望まれてきたことである。今年度、それがようやく実現した背景には、CGDES 調整部の粘り強い働きかけが功を奏したとともに、教育省内部で、CGDES 活動およびコミュニティの教育への貢献にかかる認識が強化されてきた証ともいえる。今年度の統計年鑑では、アクセス改善に貢献する活動として「教室建設状況」、教育の質の改善に貢献する活動として「補習・夜間学習実施状況」、そして住民活動への全体的な資源動員状況が盛り込まれた。

現在は、全国 CGDES の情報収集および取りまとめにかかるプロジェクトの支援を受けた CGDES 調整部が情報源となっているが、今後は、効率性・確実性の面からも、毎年全国の小学校からの情報収集を行っている統計局システムに、CGDES 活動状況の情報収集を組み込むことも検討していくことが望ましい。また、教育省がこの情報をいかに教育開発政策の発展へと活用していくか、という点に関しても、CGDES 調整部と協議を進めていく必要がある。

## 5. プロジェクト運営管理

- (1) 4 月 5 日に 4 名の旧直接雇用のスタッフにかかる派遣会社との契約を行った。
- (2) 4 月 9 日～10 日の 2 日間、フランス事務所から企画調査員〔経理〕の金坂氏が当プロジェクト事務所を訪れ、経理業務指導がなされた。この指導内容を今後の業務に反映させていく。

(3) 4月16日、本部調達部より来訪された児玉氏から岩田専門家（プロジェクト臨時会計役）、および影山専門家が調達にかかるセミナーを受けた。調達については臨時会計役が契約できるのは1契約100万円未満で、それ以上の契約はニジェール支所によって行われるとのこと。これらの内容を今後の業務に反映させていく。

## 6. 所感

### 成果：教育省内での CGDES 関連活動にかかる認識の向上

2013年度に引き続き、今年2014年度もCGDES活動モニタリング関連費が国家予算により確保がされることとなった。ニジェール国の教育開発に大きく貢献する「機能するCGDES」の持続的発展のためには、CGDES活動のモニタリングシステム維持は非常に重要であるのは言うまでもなく、教育省がその意識の下、国の予算による維持に動きだした点は、ニジェールのCGDES政策発展における大きな成果といえる。また、今プロジェクト事前調査時において、プロジェクト実施期間中にCGDES活動モニタリング費を国家負担へと移行していく点がJICAと教育省間にて協議されており、その協議内容を教育省側が順守する結果となっている点でも、評価できると言えよう。さらに、今年度はCGDESへの補助金供与や関係者能力強化活動、地域経験共有セミナー開催費等も含み、昨年度の倍額ものCGDES関連活動予算が承認された。今まで外部ドナー頼みであったCGDES関連活動が、これほど大きな位置づけを得たことは、教育省内でもCGDES活動への認識、その重要性への意識が高まってきたことを示していると思われる。このことは、毎年発行される教育統計年鑑内に、初めてCGDES活動成果が一項目として挿入されたことから伺える点である。国家予算によるCGDES関連活動費の確保や国家教育統計年鑑へのCGDES活動成果の顕在化等、いずれの点においてもCGDES調整部の粘り強い働きかけが功を奏したと言え、そのCGDES調整部の創設および能力強化に努めてきたプロジェクトにとっても、ひとつの大きな成果と言えよう。

### 課題：目的の再認識と成果の顕在化の必要性

上記の通り、CGDES関連活動へ国家予算確保は、ニジェールのCGDES政策にとっても、CGDES調整部にとっても一つの大きな成果であり、CGDESの「自立発展性」を目指すプロジェクトにとっても、望ましい方向へと進んでいると言える。しかしながら、国家予算は「自立発展性」へ向けた一要素に過ぎず、自動的にその確保へと繋がるわけではない。つまり、CGDESモニタリングシステム関連活動が国家予算により確保されたことは、ニジェールCGDESの「自立発展性」に向けた大きな一歩であったとしても、それ自体が本来の目的ではない以上、現活動計画全体がその目的達成に適切なものなのか、見合った成果を出し得るものであるか、ということは常に評価し続ける必要がある。CGDES活動モニタリングの目的は「CGDESの継続的な機能化」を確保するためであり、予算はその目的に資することを前提として支出される。よって、今回の件は一つの成果と

しても、継続的な予算確保のためには、常にそれに見合った成果を出す必要があるとの視点を CGDES 調整部は忘れるべきではない。特に、CGDES 活動モニタリングは、その効果が具体的に「見えにくい」ため、容易に優先順位が下げられるとも言える。その意味で、それぞれの活動の効率性と効果を高めるとともに、それぞれの活動を通して具体的に生み出すべき結果を明確化する必要がある。

この点は、補助金供与活動においても同様である。補助金は配布が目的ではなく、その結果として教育の質の向上へと繋げることが、本来的に目指すところとなる。よって、特に全国の学校を対象としない以上、今回の対象校にて本来の目的に対する成果を出さなければ、その先に展望はない。その認識の下、成果を出す戦略を十分に検討する必要があると言える。

ニジェール CGDES の自立発展性の確立とニジェールの教育開発の発展へのためには、教育省内で CGDES にかかる認識が高まっている現在、この好機を有効に使い、成果を出すことで次へと展開する道筋を作ることが重要である。プロジェクトにおいては、その視点に基づいた活動の展開と CGDES 調整部の能力強化に努めることが求められよう。

## 7. 5月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
CGDES 調整部・計画局との月例合同会議	2 日
補助金介入評価エンドライン現地調査実施 (NGO 委託業務)	5 日～6 月 4 日
エンドライン現地調査実施状況モニタリング	5～6 日
補助金モデル・実施戦略にかかる CGDES 調整部との意見交換会合	初旬～中旬
質のミニマムパッケージドリル活動モニタリング	初旬～下旬
タウア州教育フォーラム執行委員会会合 (コニ/マダウア)	20 日
タウア州視学官会議 (コニ/マダウア)	21 日
州教育フォーラムモデル能力強化講師研修 (ニアメ)	28、29 日
原チーフアドバイザー運営指導調査	14 日～16 日
橋基礎教育第二課課長訪二	15 日

以上

別添 1 : 2014 年度 CGDES 関連活動国家予算

別添 2 : 2012/2013 年度ニジェール国教育年鑑 CGDES 関連箇所抜粋 (日本語訳)

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」

## プロジェクト活動月報 2014年5月

作成日: 2014年6月1日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 木	補助金インパクト評価現地調査スーパーバイザー会合 <span style="color: green;">メーデー</span>	影山、ヤワレ、ハムザ
2 金	CGDES 調整部・DEP との合同月例会議	全員
3 土	コロ県 CGDES 連合経験共有会合 質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	ハムザ 影山、マト
4 日		
5 月	補助金インパクト評価現地調査(6月4日まで) 補助金インパクト評価現地調査モニタリング 補助金インパクト評価現地調査会合	ヤワレ、ハムザ、ザカリ 影山、ヤワレ、ハムザ、ザカリ、ONEN
6 火	JICA との定期会合	岩田
7 水	質のミニマムパッケージ活動モニタリング 質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	アリ、カマラ 影山、マト
8 木	質のミニマムパッケージ活動モニタリング	影山、アリ、マト
9 金	スタッフミーティング	全員
10 土	質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ、マト
11 日		
12 月	タウア州フォーラム準備会合準備会合 中等教育省就学総局長との協議	影山、羽田野、ハムザ、ヤワレ、アリ アリ
13 火	タウア州フォーラム準備会合準備会合	影山、羽田野、ハムザ、ヤワレ、アリ
14 水	タウア州フォーラム準備会合準備にかかる調整部との協議 PTF 会合 質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所) 原チーフアドバイザー運営指導調査(16日まで)	全員、調整部 アリ 影山
15 木	スタッフ会議 人間開発部橋課長プロジェクト訪問 教育省事務次官表敬	全員 全員 原、影山、アリ、支所
16 金	コミュニン連絡協議会研修モジュール開発会合 質のミニマムドリル活動評価学力テスト配布(カルマ)	羽田野、ハムザ、ヤワレ、調整部 ザカリ
17 土	質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	影山
18 日		
19 月	JICA との定期会合 質のミニマムドリル活動評価学力テスト配布(ニアメ)	岩田 影山
20 火	タウア州フォーラム準備会合実施ミッション(～24日) 補助金モデル関連協議(調整部)	影山、ヤワレ
21 水	補助金モデル関連協議(調整部) 質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、ヤワレ 影山、カマラ、マト
22 木	タウア州フォーラム準備アドホック委員会(タウア州マダウア開催) 補助金モデル関連協議(調整部)	アリ、ハムザ、調整部 影山、ヤワレ
23 金	タウア州フォーラム準備視学官会議(タウア州マダウア開催)	アリ、ハムザ、調整部
24 土	質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、マト、カマラ
25 日		
26 月	JICA との定期会合 コロ県カマラ連合総会モニタリング(質のミニマム学力テスト回収)	岩田 アリ、マト、調整部
27 火		
28 水	質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所) ニアメ質のミニマムドリル活動評価学力テスト回収	影山、マト、カマラ
29 木	CGDES 調整部・計画局合同月例会議	全員
30 金		
31 土	質のミニマムドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、マト、カマラ

## 2. 今月の総括

質のミニマムパッケージ開発パイロット活動においては、今学期終了間近となることから、事後学力テスト（四則計算問題）を対象 107 校に対して実施した。5 月末日時点の結果回収では、全般的には大半の学校が対象学年すべてで平均点上昇がみられ、対象校全体では、事前テストより約 4～8 点の平均点上昇がみられた。今後、さらに詳細の分析を進め、成功要因の抽出を行うことで、来年度の対象校拡大へ向けたならびに、支援要件の確立へと進めていく。

補助金モデル開発パイロット活動においては、今月初めから当該介入インパクト評価の現地調査が開始され、対象児童への学力テスト他、関係者（校長、CGDES メンバー、教員、保護者）へのインタビュー調査が実施された。また、当該パイロット活動の終了へ向け、2 年間の経験の蓄積とモデルの確立、および当該モデルの今後の活用にかかる教育省側の能力強化へ向け、CGDES 調整部とのモデル内容にかかる協議を進めた。CGDES 調整部は 2014 年の国家予算計画において、プロジェクト開発の補助金モデルをベースとした CGDES への補助金供与活動を計画していることから、プロジェクトと調整部との経験蓄積、成功要因抽出作業の協働を通して、適切なモデル適用へと繋げる予定である。

CGDES/CGDES 連合活動モニタリングにおいては、今学年度中間総括状況の取りまとめに取り組んだ。全般的な状況としては、全国 266 連合中ほぼすべての連合にて中間評価総会が開催済みであり、8 割を超える CGDES 連合総会参加率、7 割以上の CGDES から連合への拠出金支払い状況と、CGDES 連合の安定的な活動が伺える状況であった。その中でもタウア州のパフォーマンスの高さは突出している（CGDES 連合総会参加率 95%、拠出金回収率 92.2%）。今後は、タウア州の成功要因の見極めと共に、その他州への適用可能性へと分析を進めていく必要がある。

州教育フォーラムモデル開発パイロット活動においては、来月のタウア州フォーラム開催へ向け、「フォーラム執行委員会会合」ならびに「フォーラム準備視学官会合」を開催した。当該会合においては、「男女格差改善」というテーマの確定、運営・実施面での内容承認と共に、コミュニティの役割、地方行政の役割および教員確保の問題等、“如何に具体的な成果を確保するか”という戦略協議を行った。また、フォーラムモデルの重要な要素として、タウア州内の全コミュニティに CGDES 連合とコミュニティの連携を強化し、コミュニティ内での教育改善活動を推進する「コミュニティ連絡協議会」の設置へむけた、能力強化モジュールの開発に取り組んだ。

その他、本部人間開発部基礎教育第二課の橋課長が訪二し、プロジェクト支援により増設した CGDES 調整部事務所訪問・調整部員との面会、教育省事務次官への表敬、質のミニマムパッケージ活動の対象サイト訪問を行った。

### 3. 今月の主な活動

#### (1) 質のミニマムパッケージ開発パイロット活動

学年度末が目前となった今月、今年1月に開始した質のミニマムパッケージ活動の結果を評価するため、対象107校に対する四則計算問題の学力テストを実施した。また、今回の学力テストに合わせて、活動実施状況にかかる情報収集のためのアンケートを実施した。テスト内容は質のミニマムパッケージ活動導入前と同じ四則計算問題である。5月末日時点で、対象107校中101校の結果が回収され、10830名の児童を対象とした。全体的には当該活動の対象である1～5年の全学年において、事前テストより約4～8点の平均点上昇がみられた。

	事前テスト平均点 (2013年12月実施)	事後テスト平均点 (2014年5月実施)	差異(上昇点数)
1年	1.61	6.00	+4.39
2年	8.10	14.92	+6.83
3年	16.78	24.25	+7.47
4年	21.89	29.74	+7.85
5年	29.69	36.99	+7.3

今後、最終的な学力テストの結果およびアンケート結果の分析を通して、児童の学力向上に結び付く活動実施にかかる「必要条件」を見極め、来年度の活動継続および対象校拡大の検討材料としていく予定である。

#### (2) 補助金モデル開発パイロット活動／補助金介入評価調査

今月は、先月に引き続き、補助金介入評価最終調査における現地調査の実施準備支援を行った。今後、学力試験、関係者インタビューからなる現地調査は5日から約1カ月間にわたって実施される。また、現地調査開始後においては、調査員の業務理解および実施状況を確認するためのモニタリングを実施した上で、改善点を委託NGO、および調査員と共有し、適宜適切な調査となるよう改善を図った。

プロジェクト開発の補助金モデルをベースとした「CGDESへの補助金供与」が、2014年の国家予算によるCGDES調整部の活動として承認されたことを踏まえ、CGDES調整部による補助金活動が、2012年度から2年間にわたるパイロット活動の経験を生かしたのものとなるよう、活動内容にかかる意見交換を行った。今後は、さらなる詳細を調整部と協議しつつ、調整部の能力強化を図るとともに、モデル文書の作成等、活動経験の取りまとめを進めていく。特に、現在実施されている学力試験の結果を元に優良事例を抽出し、成功要因を見極めた上で、CGDESのリソース管理・運営能力強化マニュアルの改訂にも併せて取り組む予定である。



### (3) CGDES・CGDES 連合モニタリング

全国 8 州の CGDES 監督官会議が 3 月～4 月に開催され、今学年度の中間報告が行われたことから、州ごとの CGDES および CGDES 連合の活動状況の結果を取りまとめた。まだデータの確認がとれていない州があるものの、確認中のディッファ州を除く全国 15,727 の CGDES 中、84.9%にあたる 13,348 の CGDES が第 2 回連合総会に参加し、73.4%にあたる 11,549 校が拠出金を支出している。また、会議の実施等を除いた活動(テーマ活動)のこれまでの実行数は計画数 646 に対し 434、実施率は 67.2%であったが、活動期間がまだ数か月残っているため、最終的な実施率は上昇するものと思われる。また、CGDES 拠出金と自治体等からの寄付金を加えた動員総額は 103,836,785Fcfa (約 2076 万円 ; 1 円=約 5Fcfa) であった。地域差はあるものの、全体的には CGDES /CGDES 連合は順調に活動していると言えるだろう。特に 6 月にフォーラムが開催されるタウア州の連合総会への参加数や拠出金支払い数は突出している。今後はディッファ州のデータ確認を急ぐとともに、6 月から各州で順次実施される第 3 回 CGDES 連合総会のモニタリングを行う予定である。

	第 2 回連合総会 CGDES 参加数	第 2 回連合総会 CGDES 参加率	CGDES 拠出金支払い校数	CGDES 拠出金支払い率	テーマ活動実行数 / 計画数	テーマ活動実施率	動員総額 (CGDES 拠出金 + 寄付金)
アガデス	464 / 564	82.3%	327	58.0%	20 / 25	80.0%	9,731,000
ディッファ	確認中				18 / 27	66.6%	1,377,000
ニアメ	623 / 790	78.9%	642	81.3%	13 / 16	81.3%	6,470,000
ティラベリ	2764 / 3382	81.7%	2517	74.4%	52 / 70	74.3%	18,200,785
マラディ	2362 / 2908	81.2%	1935	66.5%	90 / 122	73.8%	12,661,700
タウア	2632 / 2770	95.0%	2554	92.2%	125 / 167	74.9%	33,359,450
ザンデール	2351 / 2906	80.9%	1678	57.7%	59 / 105	56.2%	8,948,750
ドッソ	2152 / 2407	89.4%	1896	78.8%	57 / 114	50.0%	13,088,100
全体	13348 / 15727 (除 ディッファ州)	84.9%	11549 (除ディッファ州)	73.4%	434 / 646	67.2%	103,836,785

### (4) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動

今月は、来月 6 月中旬に予定しているタウア州教育フォーラム開催準備へ向けた、フォーラム執行委員会およびタウア州視学官会議を開催した。開催場所は、フォーラム開催と同様のタウア州マダウア県マダウア市とした (JICA 移動制限によりプロジェクトによるタ

ウア州都での開催が不可能なため)。

22 日開催のフォーラム執行委員会では、タウア州知事を筆頭に、執行委員会メンバーである州教育評議会代表、タウア州の県知事代表、市長代表、視学官代表、CGDES 連合代表が一同に会し、州フォーラムモデルの今回のフォーラムテーマ、日程、参加者、運営進行手法、準備内容、ならびに各アクターの役割分担に関して協議、承認を行った。最終的に、今回のフォーラムは、新入生男女比率国内最下位というタウア州の状況を踏まえ「男女格差の改善」をテーマとし、翌 6 月 11 日にタウア州マダウア市にて開催されることで確定した。また、フォーラムモデルの重要な要素として、タウア州内の全コミュニティに CGDES 連合とコミュニティの連携を強化し、コミュニティ内での教育改善活動を推進する「コミュニティ連絡協議会」の設置を進めていくことで関係者合意に至った。

翌 23 日の視学官会議では、上記承認内容の報告と共に、フォーラムのテーマである男女格差改善へむけた教育行政官として取り組むべき戦略が、フォーラムに先んじて協議された。特に、女子就学を促進する上で重要な要素として「教員の確保」の問題が最重要課題として挙げられ、コミュニティの女子就学促進へ向けた取り組みを無に帰さないためにも、校内の教員を優先的に 1 年生に配置するなど、新 1 年生に対する確実な教員の配置に取り組んでいくことが確認された。

州知事をはじめとする地方行政関係者から教育行政、コミュニティ代表 (CGDES 連合) に至るまで、いずれの会議参加者も非常にモチベーションが高く、各アクターがそれぞれの役割を認識した上で、成功へ向けた関与の姿勢を示しており、州教育フォーラムモデル開発パイロット活動にかかるタウア州選択の適切さを示すものであったと言える。

なお、今月後半は、翌月の州教育フォーラム翌日に実施する CGDES 連合・市長を対象とした「コミュニティ協議会設置研修」のためのタウア州 CGDES 監督官への講師研修へ向けたモジュール作成に取り組んだ。

#### 4. 教育省・ドナー関係

##### (1) 中等教育省就学局長との会合

現在、COGES 関係部署の創設、および各種制度の整備へ向けて取り組んでいる中等教育省からの依頼により、その中心を担うことが予想される就学総局長との面会を行った。討議内容は、主に中学校 COGES の現状に対するプロジェクトの認識を聞き取るものであり、それに基づいて「機能する COGES」の在り方について協議を行った。さらに関係部署設立にあたる人選にかかるアドバイスをプロジェクト側に求めるものであった。

中等教育省側は機能する COGES 設置へ向けて、プロジェクトの知見や初等での経験から最大限に学ぶ意識が強い。そのような中等教育省の意向に応えつつ、住民ニーズに即した COGES モデル開発へ向けて、引き続き当該部署創設および制度整備にかかる支援に取り組むとともに、来年度パイロット活動開始へ向けた検討を進めていく予定である。

## 5. 調査団受け入れ等

### (1) 人間開発部基礎教育第二課橋課長プロジェクト訪問

今月 12 日、本部人間開発部基礎教育第二課から橋課長が訪二し、半日という短い滞在であったものの、プロジェクト支援により増設した CGDES 調整部事務所訪問・調整部員との面会、教育省事務次官への表敬、プロジェクト対象サイトの訪問を行った。事務次官との会合においては、教育省側から CGDES 政策におけるプロジェクトの貢献が評されるとともに、プロジェクト開発のモデルの普及や CGDES 調整部への能力強化を主とした今後のさらなる支援を求める意向が示された（詳細、別添参照）。質のミニマムパッケージにおけるドリル活動を実施している学校を訪問し、実施状況の見学および関係者（CGDES メンバー、教員、保護者、CGDES 連合メンバー、視学官事務所関係者）への聞き取りを行った。

## 6. プロジェクト運営管理

- (1) タウア州フォーラム、および当該フォーラム準備会議、また 6 月 3～4 日にニアメで行われる「コミュニケーション連絡協議会」研修員の事前研修への支払いに向けた、出張旅費支払等の新基準の作成。また、会議費申請、ロジ関連にかかる準備。
- (2) 供与機材費で購入した物品管理の管理簿改訂、および、教育省からの供与物品のレター取付け。

## 7. 所感

### 成果：持続発展性の高いフォーラムモデル開発へ向けた地方行政の強い関与

プロジェクトが前フェーズより取り組み、大きな成果を上げてきた「州教育フォーラム」を、州レベルの教育開発にとってより持続発展性の高いものとするため、今フェーズではタウア州を対象とした「州教育フォーラムモデル」開発のパイロット活動を開始した。その中で、持続性を高める要素の一つとして地方行政の関与が重要となる。そこでは、州レベルにおいて州知事を議長とし、フォーラムの準備からその後の活動モニタリングを担う恒常的な「フォーラム執行委員会」を設置し、コミュニケーションレベル（市）においては、CGDES 連合とコミュニケーション行政の連携を強化し、フォーラムへのコミュニティニーズの反映やコミュニケーション行政によるフォーラム開催費用の予算化へと繋げる「コミュニケーション教育協議会」の設置が骨組みとなる。この骨組みが実質的に機能するためには、コミュニティ参加による教育開発の可能性、それに対する教育行政、そして地方行政による支援の重要性が、関係者間、特に新たな主要アクターとなる地方行政において認識され、その強いコミットメントを得ることが不可欠である。

その意味で、パイロット対象であるタウア州では、今月開催されたフォーラム執行委員会会合や現在までの準備状況を見る限り、州知事が各種アクターの理解とコミットメント

を促す牽引役として、非常に強いリーダーシップを発揮しており、この後のモデル開発、および地方行政のコミットメントに際して大いなる可能性が見受けられる状況と言える。

### **課題：フォーラムにおける確実な成果発現へ向けた戦略の検討**

上記の通り、来月のフォーラム開催へ向けては、非常に望ましい形で準備が進んでいる。その一方、コミュニティ参加動員の継続性を担保するためにも、フォーラムにおいては、テーマにかかる“目に見える成果を確実に発現させる”ことが非常に重要であり、その点で今回のフォーラムにおいてはさらなる戦略を練ることが不可欠であると言える。

今回のタウア州フォーラムのテーマは「男女比率の改善」であるが、(女子)就学促進に関わるテーマにおいては、その最終的な活動成否は教員の確保状況に左右される可能性が高い。過去のフォーラムにおいても、女子就学促進に取り組み、新入生登録の時点ではコミュニティ動員により圧倒的な成果を出したものの、その後教員の確保が進まず、教員不足の学級が頻発したことで、最終的な就学へと繋がらなかったケースが散見される(入学したものの、その後教員不在・不足を理由に学級閉鎖、児童の大幅退学へと至る)。

特に、タウア州では教員不足が恒常的な状況にあり、その状況は他州より厳しい状況と言われている。現在、各州における新たな契約教員の採用は教育省中央からの新採用割り振り数に合わせ、各州にて実施されるが、例え教育省中央から相当の割り振り数を得たとしても、それに見合うストック(契約教員候補者)がない場合、その数を満たせないという状況になる。タウア州では他州に比べ教員養成校生徒の絶対数が少なく、例年契約教員の候補者数が割り振り数を下回っている。つまり、需要に対して常に供給が下回るのは確実と言える。結果、他州から契約教員の候補を募ることとなるが、他州からの採用は、その一方で、離職要因となっている状況も見受けられる。例えば、タウア州では今年度1年間で614名への離職者が既に確認されている。

教員不足の問題は一朝一夕に解決できるものではない。上記のような教員の絶対数不足に加え、社会的制約や政治的・社会的圧力の中、教員配置の不均衡(町中の過剰教員配置に対して農村部では教員不足)の問題も常に抱えている。その中で、現時点で教員の確保にかかる不安材料を抱えるタウア州において、どのようにフォーラムを通じたコミュニティ動員の結果、女子新入生の就学を確定させるか、どのように教員配置に対するコミュニティのニーズに応えるかという点は、今回のフォーラム成否を左右する非常に重要な問題と言える。今回戦略の一つとして、新入生クラスへの優先的教員配置を一つの戦略として掲げているが、それを確実に執行するには教育行政官の強い意志と共に、地方行政・コミュニティの理解と支援が不可欠であり(別添、カルマ視学官聞き取り参照)、この点もその他の戦略と共にフォーラム討議にて十分に協議する必要があると言える。

## 8. 6月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
コミュニン協議会能力強化講師研修 (ニアメ)	3、4 日
タウア州教育フォーラム開催 (マダウア)	11 日
タウア州視学官会議 (マダウア)	12 日
タウア州連合・コミュニン能力強化研修 (マダウア)	12 日
PDDE/PSEF (ニジェール国 10 ヶ年教育開発計画／教育・研修セクタープログラム) レビュー会合	4～7 日
フォーラム報告連合総会モニタリング	中～下旬
CGDES 調整部・DEP との合同月例会議	26 日

以上

別添 1： 教育省事務次官との面会記録 (2014 年 5 月 15 日)

別添 2： カルマ視学官聞き取り記録 (2014 年 5 月)

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2014年6月

作成日: 2014年7月1日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 日	補助金介入評価エンドライン現地調査(5月5日~)	
2 月	JICA 支所との週会合 コミュニン連絡協議会講師研修シミュレーション	岩田 EPT、調整部
3 火	PTF(ドナー)会合 コミュニン連絡協議会講師研修(ニアメ)	アリ EPT、調整部
4 水	コミュニン連絡協議会講師研修(ニアメ) PDDE レビュー会合	EPT、調整部 アリ
	補助金介入評価エンドライン現地調査終了	
5 木	タウア州教育フォーラム準備内部会合 PDDE レビュー会合	アリ
6 金	タウア州教育フォーラム準備内部会合 PSEF レビュー会合	
7 土	PSEF レビュー会合	
8 日	タウア州教育フォーラム実施支援ミッション	アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ、調整部
9 月	JICA 支所との週会合 コミュニン連絡協議会研修シミュレーション(タウア州マダウア市) タウア州教育フォーラム開催準備会合(タウア州マダウア市)	岩田 アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ、調整部
10 火	タウア州教育フォーラムシミュレーション(タウア州マダウア市) タウア州教育フォーラム準備	アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ、調整部
11 水	タウア州教育フォーラム開催(タウア州マダウア市)	アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ、調整部
12 木	CGDES 連合・市長対象コミュニン連絡協議会研修(タウア州マダウア市) タウア州視学官会議(タウア州マダウア市) ドナー会合(GPE(世銀)・AFD コモンファンド合同ミッション報告会)	アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ、調整部 影山
	フォーラム広報ビデオ作成コンサルタント募集	
13 金		
14 土		
15 日		
16 月	事務次官・計画局長・調整部との会合	岩田、影山、アリ
17 火	スタッフミーティング JICA 支所との週会合	全員 岩田
18 水		
19 木	フォーラム広報ビデオ作成コンサルタント募集締め切り	
	フォーラム広報ビデオ作成コンサルタント選考委員会	影山、アリ、ハムザ、調整部、JICA 支所
20 金	フォーラム広報ビデオ作成コンサルタント候補者との協議	岩田、影山、ハムザ
21 土	フォーラム広報ビデオ撮影打ち合わせ	影山、ヤワレ、ザカリ
22 日	タウア州フォーラム報告連合総会・住民集会モニタリングミッション	ヤワレ、調整部
23 月	JICA 支所との週会合 フォーラム広報ビデオ撮影打ち合わせ フォーラム報告連合総会モニタリング(マダウア・ガルマ連合) フォーラム広報ビデオ撮影ミッション	岩田 影山、ザカリ、ビデオ作成コンサルタント ヤワレ、調整部 ザカリ・ビデオ作成コンサルタント
24 火	フォーラム報告連合総会モニタリング(サボンギダ・バンギ連合) フォーラム報告連合総会撮影 ドナー会合	ヤワレ、調整部、 ザカリ、ビデオ作成コンサルタント アリ
25 水	フォーラム報告住民集会モニタリング(マダウア・コニ) フォーラム報告住民集会撮影 テレビ会議(アフリカ基礎教育体制:支所) 中等教育省事務次官・研修/カリキュラム総局長との面会	ヤワレ、調整部 ザカリ、ビデオ作成コンサルタント 日本人専門家 アリ
26 木	フォーラム報告住民集会モニタリング(マダウア・コニ)	ヤワレ、調整部
27 金	スタッフミーティング	全員
28 土	ラマダン開始(予定)	
29 日		
30 月	JICA 支所との週会合	岩田

## 2. 今月の総括

今月は、タウア州で“新”州教育フォーラムを開催した。従来から、州教育フォーラムはCGDESの動員力を活かし、住民、保護者を中心とした地域教育開発関係者が一丸となって、教育開発テーマの改善に取り組むことで、女子の就学改善、卒業試験合格率の改善に大きく寄与してきた。今回は、地方自治体のフォーラムへの関与、地方自治体とCOGES連合の連携を強化し、この既存のフォーラムの持続性を高め、効果をさらに上げることを狙っている。具体的にはフォーラムの常設実施機関として、州知事、州教育事務所長などからなる「フォーラム執行委員会」を設立した。また今回、CGDES連合とコミューンの連携強化を目的とした「コミューン連絡協議会」設立を目指し、CGDES連合および市長への能力強化研修をフォーラム実施翌日に実施した。この協議会は住民の教育開発ニーズのコミューン教育予算への反映という重要な役割を演じることとなる。今回のフォーラムでの目標は、新入学児童の男女格差指標0.7から0.83とされたが、すでに、多くのコミューン、学校、村で保護者住民による改善活動が始まっている。

質のミニマムパッケージ開発パイロット活動においては、一連の質の改善活動（レベルテスト、テスト結果の住民・保護者との共有と分析、補習授業での算数ドリルなどの実施）の実施5か月後の最終テストの結果、対象全学年における点数上昇傾向が確認された。実施状況にかかる調査を通して、各校平均週あたり3.6回、週3.1時間を4.4カ月実施し、合計54.4時間を当該活動に充てたとの結果を得た。テスト結果を分析した結果、テスト平均点上位校の方が平均点下位校より、補習の機会がより多く、その時間がより長いこと、情報共有の頻度を表す住民総会実施平均数も多いことがわかった。

補助金モデル開発パイロット活動においては、介入評価調査におけるエンドライン現地調査の学力試験結果を集計したところ、プロジェクト開発の『補助金モデル』にあたるリソース管理および運営（計画策定）研修を受講したグループにおいて、対象全学年・試験科目共に、他グループ（コントロールグループおよびリソース管理研修のみのグループ）および全体平均を上回る傾向が見られた。

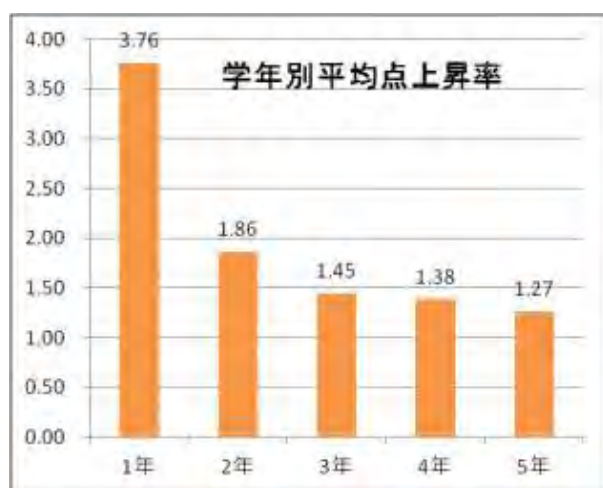
CGDES モニタリングでは、先月から今月にかけて全国各地で実施されたCGDES連合総会の情報収集に取り組むと共に、CGDESモニタリングの中核となるCGDES調整部のモニタリング能力の強化へ向けた技術移転への準備を進めた。

その他、世銀ワシントンの担当者を調査団長とした『GPE資金とフランス開発庁による基礎教育支援プロジェクト』にかかる世銀/AFD共同ミッションが来二し、教育分野ドナー会合にて、当該プロジェクト進捗状況報告が行われた。その中で、サブコンポーネントの一つであるCGDESへの補助金供与活動に関して概略説明がされると共に、対象地域にEPTプロジェクトの補助金パイロット対象地域を含めることが言及された。

### 3. 今月の主な活動

#### (1) 質のミニマムパッケージ開発パイロット活動

今月は、先月に引き続き、5月中旬に実施した事後テストおよび活動アンケート結果の集計を行うとともに、それを基にした優良事例となる学校の選出に取り組んだ。事後テストにおいては、最終的に対象107校中105校、11,436児童のテスト結果を回収した。結果、5月末時点の傾向と同様、全学年における平均点の上昇と共に、特に低学年における上昇率の高さが確認された。



また、学力テストと並行して実施したアンケート調査において、各校平均週あたり3.6回、週3.1時間を4.4カ月実施し、合計54.4時間を当該活動に充てたとの結果を得た。特に、上昇点比較において上位15%にあたる学校では、週当たりの実施回数は4.1回、週当たりの活動時間3.6時間、合計60時間平均であったのに対し、下位10%にては、週当たり2.9回の週2.2時間、合計35.8時間平均であった。さらに、当該活動にかかる情報共有のための住民集会を各校平均3.1回実施したことが報告された（なお、上位15%では平均3.2回、下位10%では平均2.8回の開催）。

今後、来年度へ向けて選出した優良事例の聞き取り等を行い、質のミニマムパッケージの成功要因・条件の抽出に取り組む予定である。

#### (2) 補助金モデル開発パイロット活動／補助金介入評価調査

先月から今月上旬にかけて補助金介入調査にかかるエンドライン現地調査が実施された。調査対象は、補助金供与とリソース管理研修を実施した「グループ60校(グループ1)」、左記の補助金・リソース管理研修に加えてリソース運用にかかる計画策定研修を実施した「グループ60校(グループ2)」、そして「コントロールグループ60校」の合計180校であり、対象児童に対する仏語・算数の学力試験、および児童・保護者・教員・校長・CGDES

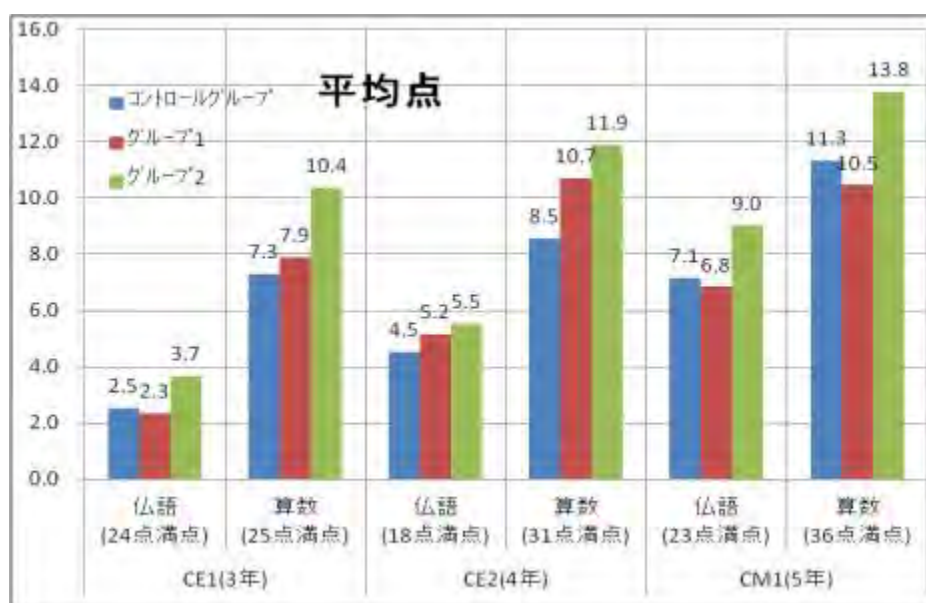


メンバーに対するインタビュー調査を実施した。

現在のところ調査内容の集計および分析中であるため最終結果ではないものの、プロジェクトでの集計の結果、グループごとの平均点は下表の通りとなり、プロジェクト開発の『補助金モデル』に当たるグループ2において、対象全学年・試験科目共に、他グループおよび全体平均を上回る結果を得た。

表：グループ別平均点

グループ	CE1(3年)		CE2(4年)		CM1(5年)	
	仏語 24点満点	算数 25点満点	仏語 18点満点	算数 31点満点	仏語 23点満点	算数 36点満点
コントロールグループ	2.52	7.31	4.51	8.55	7.15	11.34
グループ1	2.34	7.88	5.15	10.69	6.84	10.46
グループ2	3.67	10.37	5.54	11.90	9.02	13.78
全体	2.84	8.53	5.05	10.32	7.72	11.93



今後、JICA 研究所により、試験結果およびインタビュー調査結果が分析され、2年間に渡るプロジェクトの介入効果、およびモデルの有効性の評価が行われることとなる。

### (3) CGDES・CGDES 連合モニタリング)

6月は学年末にあたるため、CGDES 連合総会が開かれ、今年度の活動総括が行われた。7月はCGDES 監督官会議が開催される予定である。今月はこれらの会議日程等の収集と、その活動総括を全国レベルでまとめるためのフォーマット作成など、モニタリング

準備に向けた活動を実施した。

また、CGDES 調整部モニタリング課と今後のモニタリング体制について協議を行った。協議ではプロジェクトが協力期間の後半に突入していることから、調整部への能力強化を進め、調整部主導によるモニタリング体制を確立することが確認された。他方、そのためにはエクセルなどの IT 知識が不足していること等が課題として挙げられた。データ収集など数字を扱うことの多いモニタリング業務において、エクセルの基礎知識は不可欠であるが、調整部にはこれまでエクセルを使用した経験が全くない職員が多く、現状では調整部だけでデータ処理を行うことはほぼ不可能である。この問題を解消するため、調整部の希望者を対象に、7 月中にエクセルの基礎講座を実施し、四則計算や表の作り方などを講習する予定である。

#### (4) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動

今月 11 日にタウア州マダウア市において「来年度新入学児童における男女格差改善」をテーマとした『タウア州教育フォーラム』を開催した。今回のフォーラムは、持続発展性の高い「州教育フォーラムモデル」確立へ向けた活動の一環として、住民による地域教育開発活動の主要アクターであるコミュニティ代表 (CGDES 連合)、教育行政に加え、州知事をはじめとする県知事・市長といった地方行政の強い関与の下、州教育評議会議長および州議会議員、伝統的首長、宗教指導者、教員労働組合、パートナー機関等を含めた、およそ 250 名に及ぶ参加にて実施した。また、中央からは CGDES 調整部、計画局、女子就学促進局、および大統領府ならびに首相府の教育技術顧問が参加した。おもな議事次第は以下の通り。

- ①州教育事務所長によるタウア州男女格差状況の発表と問題提起
- ②上記問題の解決策と目標値設定、持続性の確保へ向けた戦略にかかる全体討議
- ③フォーラム決議・提言作成・承認
- ④グループ討議：フォーラム決議に基づいたアクター別活動誓約の設定

今回のフォーラムでは、2008 年実施の「女子就学促進フォーラム」にて改善した女子入学率および男女格差 (0.69→0.83 へ上昇) がこの 4 年間に 2007/2008 年当時と同レベルの 0.7 まで下降し、国内最下位となった現状等、タウア州の女子就学状況の問題を共有した上で、州知事による議事進行の下、州内アクターによる実施可能な問題解決策、および来学期新入学児童男女格差にかかる目標値の設定、ならびに、成果を維持していくための戦略に関して、非常に活発な討議が繰り広げられた。その結果、以下の決議がフォーラム参加者により定められた。

#### 「新入生男女格差改善にかかるタウア州教育フォーラム決議」(抜粋)

1. 2014/2015 年度の新学期、州内新入学児童の男女格差指数を現在の 0.7 から 0.83 へ

と上昇させるために取り組む

2. 関係グループへのフォーラム報告会合を行う
3. タウア州内全コミュニティにおいて、教育のための活動をモニタリング・評価する恒常的機関を設置し、学校分権化運営のコミュニティ内主要アクター間での活発な連携を強固にする

また、これらフォーラム決議を元に、CGDES 連合、市長、知事、教育行政、伝統的宗主、宗教指導者、教員組合、パートナー団体がそれぞれに、フォーラム決議達成へ向けた活動誓約を定めた（各アクター誓約詳細は別添参照のこと）。主要なアクターによる主な誓約内容（一部抜粋）は以下の通り。

#### CGDES 連合

- ・ 連合総会を通じた CGDES へのフォーラム報告
- ・ CGDES による住民へのフォーラム報告支援
- ・ CGDES による男女比を考慮した事前入学登録の実施促進と結果回収、他

#### 教育行政

- ・ 新一年生クラスに対する教員の優先的確保
- ・ 男女同比を新設校のクライテリアとして設定
- ・ 教員の不均衡配置の是正
- ・ 適切な時期の教員配属
- ・ 教員の欠勤予防のための教員モニタリング、他

#### コミュニティ

- ・ 次回市議会での議員へのフォーラム内容報告
- ・ CGDES 連合支援にかかる予算配分増加への見直し
- ・ フォーラム誓約実施状況モニタリングのためのコミュニティ委員会の設置
- ・ 教員配置のための移動にかかる視学官事務所への支援、他。

今回のフォーラムでは、持続発展性のある州教育開発のために、地方行政、地方自治体によるコミュニティ活動支援の必要性を強く打ち出したことから、州知事の強いリーダーシップの下、県知事、市長等による予想以上の強い関心が得られた。

今月後半には、フォーラム後の活動モニタリングとして、フォーラム報告 CGDES 連合総会の実施状況にかかる情報収集、ならびに実地モニタリングを行った。全般的には、6 月下旬までに、44 連合 41 連合においてフォーラムおよび研修内容報告の連合総会実施が確認された。しかしながら、モニタリングを通して、通常よりも CGDES 連合総会の開催時期を遅らせたことが原因となり、いくつかの連合において、通常平均 9 割となる参加率が大きく下回る状況が明らかになった。現場での活動を行う CGDES への情報共有が不十

分となった場合、最終的な結果へ大きな影響をもたらすため、今後は善後策を練ると共に、本番となる新学期入学募集へ向けた戦略を検討していく。

#### (5) タウア州 CGDES 連合・市長研修

上記州教育フォーラムの翌日、タウア州内 44 の CGDES 連合代表者（各連合 2 名）および 44 コミューンを市長を対象に、CGDES 連合とコミュニティ（市）の連携を通じたコミュニティ内教育開発のための『コミュニティ連絡協議会(Cadre de Concertation Communal : CACOCOM)』設置にかかる研修を実施した。当該コミュニティ連絡協議会は、コミュニティ（市）内の教育開発へ向けた関係者、特に CGDES/CGDES 連合とコミュニティの情報共有を強化すると共に、コミュニティのニーズに即した連携活動への取り組み促進、関連アクターによるフォーラム関連活動の実施状況モニタリング・評価、さらにはコミュニティ予算計画への CGDES/CGDES 連合活動支援、および持続的な州フォーラム開催へ向けたコミュニティからの開催費（参加費）盛り込みを目指したものである。具体的には、年三回の開催を通じて、情報共有、コミュニティ内教育改善目標設定とそれに基づく活動計画・予算案策定、活動モニタリング・評価、CGDES/CGDES 連合やコミュニティ等への活動指南を示すことを役割とする。

研修においては、コミュニティ連絡協議会の意義から構成、機能・役割、設立プロセス、具体的な活動スケジュールと協議内容の説明および意見交換をした上で、より具体的な理解を図り、実践へと繋げるために、研修参加者による会議シミュレーションを実施した。

地方分権化政策の中で、公共サービスの担い手である地方自治体の「コミュニティ」と、学校分権化政策の中で域内全初等教育機関に設置されている CGDES の集合体である「CGDES 連合」の連携は、地域のニーズを反映するコミュニティ教育開発のために有用でありながら、具体的なコミュニケーション・協議の枠組みが確立していない為に、多くのコミュニティでは、個々のイニシアティブに依存した場当たりの相互支援・連携に留まっている。そのなかで今回導入を試みる「コミュニティ連絡協議会」は、それを具体化する枠組みとして、CGDES 連合のみならず市長からも非常に積極的な支持が得られた。

今回の研修後、CGDES 連合代表者は連合事務局メンバーならびに CGDES に対して、市長は市議会議員およびその他関係者に対して研修内容の報告をした上で、7 月下旬までにタウア州内 44 コミューンにおけるコミュニティ連絡協議会の設置が進められる予定である。今後プロジェクトでは、各コミュニティにおけるコミュニティ連絡協議会立ち上げ状況のモニタリングを行うとともに、連絡協議会の機能化へ向けた支援に取り組んでいく。

#### (6) タウア州視学官会議

上記州教育フォーラムの翌日、教育行政官の誓約をより具体化するため、タウア州教育事務所長および州内全視学官による会合を開催した。討議を通して、教育行政ラインにおける具体的な活動、実施戦略、責任者、実施期間等の詳細が定められた。また、教育行政

官によるコミュニケーション連絡協議会の立ち上げ支援、およびを可能にするため、「コミュニケーション連絡協議会」の説明と共に、教育行政官の役割にかかる協議を行った。結果詳細は別添参照。

#### 4. 教育省・ドナー関係

##### (1) ドナー会合

今月上旬に、世銀ワシントンの担当者を調査団長とした、『コモンファンド（GPE（教育のためのグローバルパートナーシップ）資金＋AFD（フランス開発庁））による基礎教育支援プロジェクト』にかかる世銀/AFD 共同ミッションが、6月2日から約2週間に渡り実施されたことから、ニジェール国教育分野ドナー会合にて、ミッションの実施報告、当該プロジェクト進捗状況報告が行われた。

基礎教育支援である当該プロジェクトは、初等・識字・国語推進・市民教育省と中等教育省の二つの省が関与することから、予算配分および資金管理にかかり当初計画の修正が必要となったものの、プロジェクト開始へ向けて前進した旨が報告された。今後はコモンファンドの合意署名ならびに各活動の計画策定等、実施へ向けた準備が進められることとなる。

サブコンポーネントの一つである CGDES への補助金供与活動に関しては、230 万ドルが CGDES への補助金として配分されることがミッション団から報告され(対象 2800 校、4 年間)、特に世銀担当者からは、既に関係者能力強化が実施され、経験知があることを理由として、対象地域に EPT プロジェクトの対象地域を含めることが明言された。また、既に当該活動にかかる多くのツールが開発済みであることから、特に CGDES が銀行口座を保有できる状態であれば、より早い時期に実施可能な活動である旨が言及された。なお、会合詳細は別添会合記録参照。

#### 5. プロジェクト運営管理

##### 1) 予算管理

第 1 四半期の支出額は 103,768,834 Fcfa（6 月 23 日現在）で、これは第 1 四半期概算払額 122,426,150 Fcfa の 84.76%であった。

##### (2) 物品管理

機材供与費で購入したデスクトップパソコン 2 台とラップトップパソコン 2 台、JICA 支所から譲り受けたラップトップ 1 台を CGDES 調整部へ供与するため、OS（WindowsXP だったため、Windows7 に変更）とウイルスソフトを入れ替え、不具合のある部分は修理を行った。今後はこの PC を使用して、調整部の業務の効率化を図るよう、能力強化支援も行っていく。

##### (3) 事務所管理

一雨期になり、プロジェクト事務所庭が雑草等で荒れてきたことから庭師による手入れ

を行った。

一浄化槽の清掃を業者に依頼して行うとともに、ガードマン等が使用する外部のトイレが詰まったまま放置されていたことから、修理を行った。

## 6. 所感

### 成果：州教育フォーラムモデル確立へ向けた活動の本格的開始と関係者の強い関与

持続発展性の高い「州教育フォーラムモデル」開発へ向け、フォーラム開催の準備段階から、「州教育フォーラム執行委員会」の設立等を通し、CGDES 連合、教育行政に加え、地方行政、地方自治体の関与を促してきた結果、今までのフォーラムにおいては開会式の挨拶程度であった州知事がフォーラムの議長として議事進行を担ったのをはじめ、今まで以上に県知事、市長から具体的な誓約を引出し、州内の様々なアクターの関与を得たフォーラムが実現した。また、持続性の枠組みを支える「コミュニケーション協議会」設置に対する市長の反応も CGDES 連合への支援、フォーラム開催費の予算化等を含めて肯定的であり、地方行政の関与が強まったことで政治的な要素が絡む危うさが懸念されるものの、全般的には成功裏に第1回フォーラムを終えたと言える。

### 課題：アクター関与の継続性確保と確実な成果の発現

上記の通り、フォーラムおよびそれに続く視学官会議、CGDES 連合・市長研修共に参加者の強い関心と参加を得て、モデル確立へ向けた良好なスタートを切った。しかしながら、今回のフォーラム開催はあくまでスタートに過ぎず、持続的・自立的な地域教育開発活動モデルを確立していくには、これらアクターの関与を1回限りのフォーラムに留めず、継続的かつ強固な体制を築く必要がある。特に、その重要な要素である「コミュニケーション協議会」に関しては、設置へ至るまでの過程と共に、その実施サイクルが機能するまでは、プロジェクトからの密なモニタリングと支援が必須である。

さらに、コミュニティ活動の継続およびフォーラムの機能化においては、「目に見える結果」を確実に出すことが非常に重要であるといえる。そのためには、最終的な成果発現へ至るまで常に現場の状況に注視し、適宜状況に応じた対応策を講じられるようにする必要がある。特に、今回のフォーラム開催時期が遅れたことで、CGDES 連合総会の参加率が常時を下回るなど、具体的な成果を生む活動主体のコミュニティに対する情報共有不足が懸念される。その点で、夏季休暇明けの新学期へ向けて、現場アクターと共にその善後策ならびに戦略の立て直しを検討する必要がある。

## 7. 7月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
質のミニマムパッケージ優良事例聞き取り調査	上旬
補助金モデルパイロット活動優良事例聞き取り調査	上旬
CGDES 監督官会議モニタリング	中旬
コミュニケーション連絡協議会モニタリング	中旬～下旬
プロジェクト中間評価ミッション (コンサルタント来二)	28日～
岩田専門家休暇	4日～11日

以上

別添1：タウア州教育フォーラム決議・関係者誓約・提言まとめ

別添2：視学官会議協議結果

別添3：ドナー会合記録 (2014年6月)

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2014年7月

作成日: 2014年8月1日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 火	質のミニマムパッケージ優良事例聞き取り調査(ニアメ2校)	影山、アリ、カマラ、調整部
2 水	質のミニマムパッケージ優良事例聞き取り調査(カルマ2校)	影山、アリ、カマラ、調整部
3 木	CGDES 調整部・計画局・JICA 合同月例会議 質のミニマムパッケージ優良事例聞き取り調査(カルマ1校)	全員 影山、アリ、カマラ、調整部
4 金	質のミニマムパッケージ優良事例聞き取り調査(カルマ2校) 岩田専門家休暇(~11日)	影山、アリ、カマラ、調整部
5 土	質のミニマムパッケージ優良事例聞き取り調査(カルマ1校)	影山、アリ、調整部
6 日		
7 月	JICA 支所との定期会合 補助金モデルパイロット活動優良事例聞き取り調査(サイ2校、トロディ1校)	羽田野 影山、ヤワレ、調整部
8 火	補助金モデルパイロット活動優良事例聞き取り調査(トロディ1校)	影山、ヤワレ、調整部
9 水	CGDES 調整部との会合 補助金モデルパイロット活動優良事例聞き取り調査(サイ1校)	全員 影山、ヤワレ、調整部
10 木	スタッフミーティング 補助金モデルパイロット活動優良事例聞き取り調査(トロディ2校)	全員 影山、ヤワレ、調整部
11 金	プロジェクト中間評価対処方針会議(本部:橋課長、松崎職員、原チーフアドバイザー) 補助金モデルパイロット活動優良事例聞き取り調査(トロディ1校)	影山、羽田野、支所 影山、ヤワレ、調整部
12 土		
13 日		
14 月	JICA 支所との定期会合	岩田
15 火	CGDES 調整部能力強化情報処理研修(第1回)	羽田野、ハムザ
16 水	質のミニマムパッケージ優良事例聞き取り結果協議(電話会議:原チーフ) CGDES 調整部能力強化情報処理研修(第2回)	影山、アリ、カマラ 羽田野、ハムザ
17 木		
18 金	スタッフミーティング 教育省事務次官との面会 CGDES 監督官会議モニタリング準備会合 CGDES/CGDES 連合経験共有セミナー準備会合	全員 影山、アリ 羽田野、ハムザ、調整部 EPT、調整部
19 土	CGDES 監督官会議モニタリング準備会合 (新校長・CGDES)学校活動計画・簡易財務研修(ニアメ)モニタリング	影山、ハムザ、調整部 羽田野、ヤワレ
20 日		
21 月	JICA 支所との定期会合	岩田
22 火	CGDES 監督官会議モニタリング合同ミッション(~26日)	ハムザ、ザカリ、調整部
23 水	スタッフミーティング マラディ州 CGDES 監督官会議モニタリング タウア州 CGDES 監督官会議モニタリング(コニ開催)	全員 ハムザ、調整部 ザカリ、調整部
24 木	プロジェクト中間評価対処方針会議(本部:橋課長、松崎職員、原チーフ、コンサルタント) コートジボワール経験共有セミナー準備シミュレーション	影山、岩田、羽田野、支所 影山、アリ、調整部
25 金	コートジボワール経験共有セミナー準備・シミュレーション ザンデル州 CGDES 監督官会議モニタリング アガデス州 CGDES 監督官会議モニタリング(ザンデル開催) ドッソ州 CGDES 監督官会議モニタリング	影山、アリ、ヤワレ、調整部 ハムザ、調整部 ハムザ、調整部 ザカリ、調整部
26 土		
27 日		
28 月	中間評価団来二・調査打ち合わせ プロジェクト中間評価ミッション(~13日) ラマダン明け祝日	影山
29 火	支所との定期会合	岩田 影山、ヤワレ、調整部
30 水	コートジボワール経験共有セミナー現場視察準備(サイ、ナマロ、ニアメ市内サイト) ニアメ州・ティラベリ州 CGDES 監督官会議準備	影山、ハムザ、ヤワレ、ザカリ、調整部 羽田野、ザカリ、調整部
31 木	ティラベリ州 CGDES 監督官会議モニタリング(ニアメ開催) ニアメ州 CGDES 監督官会議モニタリング コートジボワール経験共有セミナー準備会合	ハムザ、調整部 羽田野、調整部 影山、ヤワレ、調整部長



## 2. 今月の総括

質のミニマムパッケージ開発においては、2013/2014 年度パイロット活動の総括を行い、来年度活動へと繋げるため、活動ならびに学力テスト結果において優良事例となる CGDES に対する聞き取り調査を行った。結果、優良 CGDES においては、関係者の自発的コミットメントの強さが顕著であり、また、モチベーションの維持、ファシリテーション実施状況、活動時間などにもいくつか共通点が見受けられた。今後さらに分析を進めた上、来年度のパイロット選択の条件化へと繋げていく予定である。

補助金パイロット活動においても同様に、優良事例の抽出を行い、対象 CGDES にかかる聞き取り調査を実施した。なお、聞き取りを行った優良 CGDES の状況を見ると、共通点として、圧倒的な学習時間の確保、実践的な学習内容、定期的な評価と結果共有、関係者の目的意識の統一・合意の徹底がなされていることが確認された。

CGDES・CGDES 連合モニタリングにおいては、2013/2014 年度総括となる CGDES 監督官会議が全国 8 州にて開催され、CGDES および CGDES 連合の活動総括が執り行われた。全般的には、CGDES あたりの年間活動数平均が 5.1 活動、動員総額は約 24 億 Fcfa(約 4 億 8 千万円)であり、CGDES 連合総会参加率も 8 割を超えるなど、例年と遜色なく、全国 CGDES および CGDES 連合の安定的なパフォーマンスが確認された。その他、CGDES 調整部のモニタリング能力強化へ向けた、情報処理能力強化研修を行った。

“新”州教育フォーラムモデル開発パイロット活動においては、先月実施したタウア州教育フォーラムおよび CGDES 連合・市長に対する能力強化研修を受け、その後の各アクターのフォーラム誓約にかかる活動状況の情報収集、モニタリングに取り組んだ。特に、CGDES 連合、市長、視学官によるフォーラム報告会合実施状況、および『コミュニケーション連絡協議会』設置状況にかかる定期的な情報収集モニタリングを行い、タウア州フォーラム執行委員会との情報交換を進めつつ、適宜対応に取り組んだ。なお、7 月上旬までにタウア州内全 44 連合にてフォーラムの報告総会が開催された後、現在は各コミュニケーションにて『コミュニケーション連絡協議会』設置が進められている。来月には、現在までの活動状況を評価し、今後の確実なフォーラム目標達成へ向けた戦略を協議するため、第 2 回フォーラム執行委員会を開催予定である。

なお、今月下旬より、プロジェクトの中間評価調査団が来二し、関係者インタビュー等、教育省関係者との合同による評価調査が開始された。当該調査は今後來月 13 日までの予定である。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 質のミニマムパッケージ開発パイロット活動

今月は、2013/2014 年度パイロット活動の経験から優良事例を抽出し、来年度のパイロット活動へ繋げるための、対象 CGDES に対する活動状況にかかる聞き取り調査を行った。事前・事後に実施した学力テストの上では、全体的な成績向上が見られたものの、学

校間での活動面および結果面で、成否にかかるばらつきが対象校間にてあったことは否めない。そのことから、特に確実な結果へと繋げる成功要因の分析、成果の顕在化にかかる必須要件を見極めることを目的として、今回の調査を実施した。

顕著であったのは、今回聞き取りを行った優良校全般に渡り、保護者、教員、住民、児童といった関係者の非常に強い『自発的コミットメント』に基づいて活動が実施された点である。そのコミットメントを支え、結果を促進するものとしてのモチベーション、ファシリテーション技術、および学習時間の面から、優良校にて見られた状況は以下の通りであった。

モチベーション	ファシリテーション	学習時間
児童の学力結果にかかる情報共有の徹底（公の場での発表、現状の関係者間での共通認識、目的意識の共有）	児童参加状況モニタリングの実施（活動への児童の出席を確実化）	最低限週 3～4 時間の実施
競争心の刺激（学校間、住民間、児童間、保護者間比較）	個々の児童に対する学習状況モニタリング（個別指導・採点・評価）の順守	定期的な活動（活動間を空けることなく、習慣化）
結果の視覚化（児童の変化が教員・保護者に認識される）	活動実施にかかるツール（ドリル）、学習用具の安定的確保	一定期間の実施（結果が顕在化するまで少なくとも 2～3 カ月の実践）

今後も引き続き分析を進めていき、最終的な分析結果をもって、来年度の活動実施へ向けた戦略検討を進めるとともに、パイロット校選択への条件化を図る予定である。

## (2) 補助金モデル開発パイロット活動

今年度 2 年目となる、2013/2014 年度当該パイロット活動の経験蓄積、優良事例の抽出、成功要因の見極めを目的とし、補助金管理・運用状況、特に児童の学習効果改善へ向けた活動にかかる CGDES への聞き取り調査を実施した。聞き取りを行った CGDES は、児童学力調査のベースラインとエンドライン間において、比較的大幅な飛躍が伺われる対象校、ならびに活動モニタリングを通して活発な活動が確認された対象校とした。聞き取りを実施した CGDES の共通項としては以下のような点が見られた。

- ・ **学習時間の大幅な確保**：補習ならびに夜間学習の両方を実施。結果、平均週 14 時間のクラス外学習を実現
- ・ **実践的な学習内容**：増加した学習時間を使用し、通常授業の復習に加え、練習問題を多く実践
- ・ **定期的な評価と結果共有の徹底**：定期的に児童の学習効果にかかる評価を実施し、全児童の出席状況、成績を、住民集会を通して関係者（教員、児童、保護者、住

民) に対し公に発表

- ・ 各種会合を通じた関係者間での合意形成（教員間、保護者・住民間、教員と住民間）：活動実施に際しては、教員会合、CGDES メンバー会合、住民集会を通して、事前に関係者間での完全な意識統一を図り、目的意識の共有と互いの役割・コミットメントを明確化

なお、今後も引き続き、今までの経験と成功例の分析を進め、モデルの精度を高めるための要素を抽出するとともに、今後他地域への適切なモデル適用を促すため、経験蓄積文書の作成等を進めていく。

### (3) CGDES・CGDES 連合モニタリング

7月には年度末にあたり、2013-2014年度のCGDES活動が終了することを受け、全国8州のCGDES監督官が、今年度の総括となるCGDES監督官会議を開催した。プロジェクトでは、CGDES調整部と合同で当該会議のモニタリングを実施し、結果をとりまとめた。

今年度は全国16,587CGDES中92.11%にあたる15,278CGDESの年間総括表が回収、分析された。年間総括表の取りまとめ結果は以下の通りである。

また、CGDESレベルでは、CGDESあたりの年間活動数平均が5.1活動、動員総額は約24億Fcfa(1CGDES平均約16万Fcfa)であり、平均活動数は昨年度とほぼ同様であるものの、動員総額は昨年度より約4億Fcfa、1CGDES平均にして約1万5000Fcfa上回っている。

表1:2013/2014年度COGES年間総括結果

1円=約5Fcfa

分析年間総括表数	活動数合計	CGDESあたりの活動数	動員額総計(Fcfa)	CGDESあたりの平均動員額(Fcfa)
15,278	77,895	5.1	2,446,580,631	160,137

表2:2013/2014年度COGES主要活動状況

教室建設	分析年間総括数	当該活動実施CGDES数	当該活動実施CGDES率	住民による建設教室数合計	CGDESあたりの平均数
	15,278	12,387	81.08%	24647	2.0
補習授業	分析年間総括数	当該活動実施CGDES数	当該活動実施CGDES率	補習時間数合計	COGESあたりの平均補習時間数
	15,278	9420	61.66%	860,727	91.4
日 夜	分析年間総括数	当該活動実施COGES数	当該活動実施COGES率	夜間学習時間数合計	COGESあたりの平均学習時間数

	15,278	6,639	43.45%	639,893	96.38
--	--------	-------	--------	---------	-------

CGDES 連合の活動状況に関しては、全国 266CGDES 連合のうち 9 割以上の CGDES 連合が年 3 回の CGDES 連合総会を開催し、CGDES 連合への CGDES 平均参加率は約 83%、また 78.82%の CGDES が連合へ拠出金を支出している。

一般的には活動は安定しており、計画数以上に総会や会合が開催されている連合もある一方、総会への参加率が低い地域や、総会の開催が滞っている連合もあるなど、連合によって差が見られる。これらの原因を探り、対応を図っていくことが必要である。

今月はまた、CGDES 調整部職員の能力強化を目的にエクセル研修を 2 回に渡って実施した。調整部には現在 8 名職員が在籍しているが、1 回目の講習会には 4 名が、2 回目の講習会には 7 名が参加し、リストやグラフの作成方法などの講習を行った。モニタリングで収集されたデータを基にエクセルを使ってスムーズにデータ処理ができるよう、引き続き支援を継続する予定である。

#### (4) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動

今月は、先月実施したタウア州での教育フォーラム後、フォーラムにおいて定められた各関係者の誓約活動実施状況にかかる情報収集、モニタリングを実施した。特に CGDES 連合総会でのフォーラム報告においては、実地モニタリングを通し、フォーラム内容の適切な情報伝達、フォーラム決議達成へ向けた CGDES 活動実施への意識統一のための討議等を見分した。結果、最終的に 7 月上旬時点にて、タウア州内 44 連合中全 44 連合にてフォーラム報告総会が実施されたことが確認された。また、視学官による指導主事へのフォーラム実施報告に関しても、順調に実施されたことの報告を得た。

また、来月開催予定である第 2 回『タウア州フォーラム執行委員会』開催へ向けた準備支援に取り組んだ。当該フォーラム執行委員会では、先月実施のフォーラム開催状況にかかる総括に加え、その後の各アクターに拠る誓約活動実施状況の評価し、「新入学児童における男女比改善（男女比 0.7 から 0.83 への上昇）」という州目標達成へ向けた戦略、およびモニタリング実施計画作成にかかる協議を行う。また、次回 2015 年 1 月に開催予定のタウア州フォーラム開催へ向けた準備にかかる検討も進めることとなる。

その他、州教育フォーラムモデルならびに、それにかかる一連の活動に対する関係者理解を促進するため、広報ビデオ作成へ向けた準備ならびに撮影をおこなった。現時点までに、フォーラム当日、CGDES 連合フォーラム報告総会、CGDES フォーラム報告住民集会の撮影が実施済みである。今後は、来月開催される州フォーラム執行委員会、その後のコミュニケーション連絡会議、CGDES により実施された活動結果としての女子入学状況、そして、最終的に次回フォーラムまでの撮影を実施し、一連の活動にかかる広報コンテンツを完成させる予定である。

## (5) コミューン連絡協議会

先月実施した CGDES 連合および市長への『コミュニケーション連絡協議会』設置にかかる能力強化研修を経て、プロジェクトにおいては、タウア州フォーラム執行委員会と共に情報収集モニタリングを行い、タウア州内 44 コミューンでのコミュニケーション連絡協議会設置に向けた支援を行った。

特に、市長による市議会議員への報告は、予定していた 6 月下旬までという期限に対し、当初全般的な遅れが見られたことから、州フォーラム執行委員会議長（州知事）および同委員会コーディネーター（州教育事務所長）との情報交換・対策協議を行い、各関係者に対するプロセス促進への働きかけに取り組んだ。具体的には、州知事から各県知事へのコミュニケーション連絡協議会設置に向けたプロセス推進を促すレターの発出がなされ、また、州教育事務所長から各視学官に対して、市長との連絡・支援の強化にかかる指示がなされた。結果、下旬までに 44 コミューン中約半数のコミュニケーションにて協議会の設置が進められた。

来月上旬には、第 2 回州教育フォーラム執行委員会を開催し、最終的な設置状況の評価を行うこととなる。

## 4. その他

### (1) プロジェクト中間評価

本部、支所、プロジェクト専門家によるプロジェクト中間評価にかかる勉強会、および対処方針会議を経て、今月末 28 日にプロジェクト中間調査団員中 2 名（評価分析コンサルタント・通訳）が訪二し、プロジェクト中間評価が開始した。調査第 1 週目となる今月月末は、プロジェクト実務カウンターパート部署である CGDES 調整部、CGDES メンバー、CGDES 連合事務局メンバー、教育行政官、プロジェクト専門家、ナショナルスタッフ（コンサルタント）などへのインタビューが実施された。なお、今回の中間評価は、教育省との合同評価として、教育省 CGDES 調整部ならびに計画局（プロジェクト担当フォーカルポイント）が調査団に参加する形で調査が実施されている。来月上旬には、調査団長および協力企画の本部プロジェクト担当職員が加わり、8 月 13 日まで調査が実施されることとなる。

## 5. プロジェクト運営管理

### 1) 予算管理

第 2 四半期 7 月の支出額は 7,219,223 Fcfa（7 月 27 日現在）で、これは第 2 四半期予算計画額 61,713,648 Fcfa の 11.69%であった。

### 2) 物品管理

- ・ 今フェーズと前フェーズの供与機材費で購入した機材のうち、現在プロジェクトで使用している物品について教育省から承認のレターを受理した。
- ・ 日常的に使用している備品管理の方法を見直し、プロジェクトターなどを事務所外へ持

ち出す際の管理帳を導入した。

### 3) 事務所管理

賃貸契約をはじめて2年が過ぎ、あちこちの不具合などが目立ってきており、今月は、日々スタッフが使用する台所、トイレなどの不良個所の修理を3か所行った。

## 6. 所感

プロジェクトの今フェーズ開始から約2年2カ月を経た今月、プロジェクト活動の中間評価団を迎えることとなった。2012年5月の立ち上げから、CGDES/CGDES連合の体制と成果の安定化、ならびに住民参加を通じた教育開発の促進を目指し、教育省担当部署の能力強化、および様々なパイロット活動に取り組んできた一方、治安の悪化による移動制限の強化、省庁改編、プロジェクト人員・カウンターパートの交替・異動等、活動上難しい局面も多々あり、結果として、活動実施にかかる遅れや具体的な成果体现が不十分であったことも否めない。

今回の中間評価を通じた関係者との協議、ならびに評価結果をもって、残り2年間となるプロジェクト活動のさらなる発展へ向け、適宜、プロジェクトの方向性・目標値の適切な設定、活動および体制の改善、軌道修正へと繋げていくこととする。

## 7. 8月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
プロジェクト中間評価	7月28日～8月13日
ニジュール・コートジボワール学校分権化政策経験共有セミナー	4日～9日
人間開発部基礎教育第二課松崎職員来二 (プロジェクト中間評価)	4日～13日
人間開発部基礎教育第二課橋課長来二 (プロジェクト中間評価)	6日～13日
CGDES/CGDES 連合経験共有セミナー開催	7日
プロジェクト合同調整委員会開催	8日
タウア州フォーラム執行委員会第2回会合開催 (ニアメ)	9日
原チーフアドバイザー運営指導調査	3日～12日

以上

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2014年8月

作成日: 2014年9月1日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 金	プロジェクト中間評価ミッション(7月28日~8月13日) 経験共有セミナー等準備会合(シミュレーション)	影山、アリ、ヤワレ、調整部
2 土	コートジボワールプロジェクトスタディツアー(~9日) JICA コートジボワールプロジェクト関係者訪二・関係者打ち合わせ	影山
3 日	原チーフアドバイザー運営指導調査(~12日) 原チーフアドバイザー訪二・打ち合わせ	影山
4 月	コートジボワール・ニジェール経験共有セミナー(1日目)	全員 松崎職員訪二
5 火	コートジボワール・ニジェール経験共有セミナー(2日目) 現地視察(コロ:CGDES、連合、市長) 現地視察(ニアメ:質のミニマムパッケージ対象校)	
6 水	コートジボワール・ニジェール経験共有セミナー(3日目) 現地視察(補助金対象校)	ヤワレ、ザカリ、 橋課長訪二
7 木	コートジボワール・ニジェール経験共有セミナー(4日目) CGDES・CGDES 連合経験共有セミナー	全員
8 金	コートジボワール・ニジェール経験共有セミナー(5日目) プロジェクト合同調整委員会 コートジボワール視察報告会	全員
9 土	コートジボワール・ニジェール経験共有セミナー(6日目) タウア州フォーラム執行委員会メンバーによる進捗報告・意見交換会	全員
10 日		
11 月		
12 火	プロジェクト中間評価ミニッツ署名(初等教育省次官) プロジェクト中間評価ミニッツ署名(中等教育省次官)	調査団、JICA 支所、EPT、調整部、計 画局 調査団、支所、EPT
13 水	中間評価調査団取材(新聞4社)	調査団、EPT 中間評価団離二
14 木	プロジェクト中間評価プレスリリース発行(新聞1社)	
15 金	プロジェクト中間評価プレスリリース発行(新聞1社)	
16 土		
17 日		
18 月	JICA 支所との週会合	岩田
19 火	スタッフミーティング(本部:原チーフアドバイザー)	全員
20 水		
21 木	プロジェクト中間評価プレスリリース発行(新聞1社)	
22 金	プロジェクト中間評価プレスリリース発行(新聞1社)	
23 土		
24 日		
25 月	JICA 支所との週会合	岩田
26 火	質のミニマムパッケージ仏語ドリルにかかる協議	影山、アリ、ハムザ
27 水	タウア州教育フォーラム執行委員会合準備打ち合わせ	影山、アリ、ハムザ、調整部
28 木	調整部・計画局との合同月例会議	全員、調整部、計画局、支所
29 金	タウア州教育フォーラム執行委員会モニタリング(~1日)	アリ、ハムザ、調整部、計画局 PF
30 土	タウア州教育フォーラム執行委員会準備会合	アリ、ハムザ、調整部、計画局 PF
31 日	タウア州教育フォーラム執行委員会合(コニ開催)	アリ、ハムザ、調整部

## 2. 今月の総括

今月は、「CGDES/CGDES 連合にかかる全国経験共有セミナー」および「合同調整委員会」、コートジボワールから視察団を迎えての「コートジボワール・ニジェール経験共有セミナー」開催、そして「プロジェクト中間評価」と、プロジェクト開始後2年3カ月を迎えた節目となる活動に取り組んだ。

「CGDES/CGDES 連合にかかる全国経験共有セミナー」においては、「コミュニティ活動成果の持続発展へ向けた CGDES/CGDES 連合モニタリング支援システムの強化」をテーマとし、2013/2014 年度 CGDES・CGDES 連合活動の総括評価、および今後の支援強化・方針にかかる討議を行った。今年度 CGDES/CGDES 連合の活動結果を通して、全国の 9 割以上の CGDES および CGDES 連合が安定的に機能しており、継続的な動員ならびに教育改善活動の実施に取り組んでいることが確認された。

「コートジボワール・ニジェール経験共有セミナー」においては、『コートジボワール国中部・北部紛争影響地域の公共サービス改善のための人材育成プロジェクト』の視察団を受け入れ、当該モデルを導入する際に必要となる基本的アプローチの理解と、その基本アプローチの応用編となる住民参加型教育開発モデルを理解できるよう当該セミナーを実施した。全日程を通し、両国間で非常に活発な議論が繰り広げられ、コートジボワール側の理解促進とともに、ニジェール側のモチベーション向上に繋がったと思われる。また、ニジェールが周辺国の「研修センター」的な役割を担い得ること、そしてその重要性を再認識することとなった。

先月下旬より約3週間実施された「プロジェクト中間評価」では、全体的に「プロジェクトの各コンポーネントの達成度は高く、プロジェクト目標達成の見込みも高い」との評価を得た。その一方、ニジェール側への確実な技術移転と、CGDES と地方自治体との連携強化の必要性が指摘され、これに関連した関係者への能力強化および PDM 改訂を含む、今後のプロジェクト活動の方向性を示す提言がまとめられた。最終的に12日、初等教育・識字・国語推進・市民教育省、および中等教育省とミニッツ署名が執り行われた。なお、上記全国経験共有セミナー翌日に「合同調整委員会」を開催し、半年の活動結果報告、今後6ヶ月の計画承認と共に、中間評価結果および提言の共有を行った。

その他、「州教育フォーラムモデル開発パイロット活動」においては、「州フォーラム執行委員会」会合を開催し、タウア州教育フォーラム後の各アクターによる誓約実施状況評価、目標達成へ向けた戦略検討、および自立的な執行委員会機能化へ向けた協議に取り組んだ。来年度新入学生男女格差改善にかかるフォーラム目標達成へ向けては、8割程度の事前登録においては目標値(0.83)を上回る結果(0.87)が見られたものの、今後、本番となる入学登録での目標達成へ向け、関係者活動のモニタリングおよび支援の必要性が確認された。

「CGDES/CGDES 連合モニタリング」においては、上記「全国経験共有セミナー」にて2013/2014 年度 CGDES および CGDES 連合の活動状況ならびに CGDES 連合とコミュニケーションの連携状況を共有するため、活動年間総括およびコミュニケーションの連合支援状況にかかる最終的なとりまとめを行った。また、モニタリングマニュアルにかかる検討に着手した。



### 3. 今月の主な活動

#### (1) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動

今月は、先月に引き続き、6月中旬に実施したタウア州教育フォーラム後の各アクターによる誓約実施状況にかかる情報収集、および州フォーラム執行委員会開催準備支援に取り組んだ。結果、8月下旬時点において、各活動結果は以下の通りとなった。

<各アクターによる報告会実施状況>

- ・ 連合総会での CGDES 代表への報告：44 連合中 44 連合実施（100%）
- ・ 視学官から指導主事への報告：23 視学官事務所中 23 視学官事務所実施（100%）
- ・ 市長から市議会議員への報告：44 コミューン中 43 コミューン（97.7%）

<コミュニケーション連絡協議会設置状況>

- ・ 44 コミューン中 35 コミューンにて「コミュニケーション連絡協議会」設置
- ・ 44 コミューン中 30 コミューンにて「コミュニケーション連絡協議会」認可発出
- ・ 44 コミューン中 17 コミューンにて第 1 回コミュニケーション連絡協議会開催

<新入生事前登録および男女比率状況>

- ・ 新入生事前登録者（8月下旬時点）：全体 76,959 名（男子 41,048 名、女子 35,911 名）
- ・ 男女比率 0.87

上記を含めたフォーラム後の各関係者活動モニタリングと、今後の目標達成へ向けた戦略検討のため、「州フォーラム執行委員会」を今月末日にタウア州コニにて開催した。尚、当初は中間評価団、コートジボワールプロジェクト視察団同席の下、9日に首都ニアメにて開催する予定であったが、議長である州知事の日程調整が直前につかなくなり、急遽日程及び場所を変更しての実施となった。当該活動における州知事のイニシアティブ、影響力圧倒的に強く、その意味においては州知事主導による当該委員会実施の効果は高いといえる。しかし、その一方で、多忙な州知事を議長とすることから、調整の複雑さ、形式上の様々な制約、迅速かつ時機を得た対応の難しさなど、委員会自体の機能不全へと繋がる危険性も内包することは否めない。また、現時点では情報収集等においても、プロジェクトによる定期的な進捗確認や委員会開催へむけた調整・介入を要する状態であり、委員会による自発的な取り組み、自立的な機能化にまでは至っていない。これらの点から、州知事の影響力を利用しつつも、実質的かつ自立的な機能性を高める方策を検討する必要がある。

上記の点を踏まえ、今回の執行委員会では、「フォーラム誓約活動にかかる現状の評価」「目標達成へ向けた戦略検討」「自立的な執行委員会機能化へ向けた検討」に取り組んだ。具体的な議題は以下の通り。①6月開催フォーラムの総括、②各アクターによる誓約活動実施状況評価モニタリング、③フォーラム目標達成へ向けたモニタリング・情報収集計画（目標達成戦略、委員会メンバーの責任分担、情報収集経路の確定等）、④次回フォーラムへ向けた今後の活動計画。

フォーラム目標である来年度新入生男女格差改善に関しては、8月下旬の事前登録状況にて 0.87 と目標値の 0.83 を上回る結果を得たものの、州内全学校の 8 割程度の結果であり、かつ

情報の正確性への注意も喚起された。今後は、実際の「入学登録」にて結果を出すことに重きを置き、執行委員会として目標達成へ向けた各アクターの活動モニタリング・支援に取り組む必要がある。その点から、討議においては、再度フォーラム目標達成へ向けた共通認識を固めた上で、目標達成へ向けた具体的なモニタリング戦略、問題点の抜き出したと改善策の検討、およびそれに対する委員会メンバーの役割の明確化を図るとともに、自立的かつ動的な委員会の機能化へ向けた定期的な情報収集と報告システム、ならびに活動計画を定めた。さらには、将来的な州教育フォーラムの持続的開催へ向けて、州レベルでの自立的な予算確保へ向けた戦略協議もあわせて行われた。

## (2) CGDES/CGDES 連合経験共有セミナー

半年に一度、全国の CGDES / CGDES 連合の活動結果および問題を共有し、今後の CGDES/CGDES 連合活動支援にかかる全国的な方向性を検討する、「CGDES/CGDES 連合経験共有セミナー」を今月上旬に開催した。参加者は、教育省中央関係者、全国 8 州の州教育事務所長、全国 8 州の州 CGDES 監督官の他、大統領府および首相府より教育分野技術顧問の参加を得た。また、今回のセミナーにおいては、コートジボワールからのプロジェクト視察および中間評価と同時期となったことから、同視察団ならびに JICA 調査団による視察も行われた。今回のセミナーテーマは、「コミュニティ活動成果の持続発展へ向けた CGDES/CGDES 連合モニタリング支援システムの強化」とし、①2013/2014 年度 CGDES/CGDES 連合活動年間総括の共有と評価、②前回セミナーテーマ『CGDES 連合とコミュニンの連携改善』に向けた取り組みの進捗状況共有、③モニタリング体制強化へ向けた討議（グループ別）、に取り組んだ。

2013/2014 年度の CGDES/CGDES 連合の活動年間総括においては、CGDES・CGDES 連合ともに全体的に昨年度総括を上回る結果が共有され、安定的な機能状況が確認された。特に CGDES においては、全国約 16500 校中 92.1%の CGDES が年間総括表を提出し、また CGDES 連合においても 96%の連合が年間 3 回の連合総会を開催している状況から、9割以上の CGDES および CGDES 連合が基本的機能を保っているのみならず、CGDES モニタリング体制が安定的に機能している点が伺われた。今年度は CGDES あたり 5.1 活動が実施され、全国 24 億 Fcfa を超える額が動員された（CGDES あたり 160,140Fcfa）。これは例年と同様、もしくはそれを上回っており、全国的にコミュニティ動員と学校改善活動が安定的・継続的に実施されている状況を示している。また、前回セミナーの議題であった「CGDES 連合とコミュニンの連携」状況においては、全体的な改善状況が報告された。コミュニンからの支援を受けた CGDES 連合の割合、支援額平均ともに昨年度より改善しており、又、市長が今年度開催された CGDES 連合総会中 8 割の総会に参加しているとの結果を得た。

なお、今回は 8 州中 6 州の州教育事務所長が新任であり、当該セミナー初参加となることから、グループワークを活用し、新州教育事務所長の学校分権化政策および CGDES 活動の理解促進、その促進にかかる教育行政としての役割認識を強化するための時間とした。その一方の CGDES 監督官グループにおいては、モニタリング体制、特に中央と州間の強化レポーティン

グシステムの強化のため、年間報告事項及び手段の確認とそれに合わせたカレンダー作成に取り組んだ。最終的に両グループの成果品に加え、CGDES 調整部、教育省、市（コミュニケーション）、CGDES、ドナーに対する提言がまとめられた（セミナー内容詳細は、別添参照のこと）。

### **(3) CGDES・CGDES 連合モニタリング**

今月はモニタリングマニュアルの改訂に着手した。現在のマニュアルは 2010 年に作成されたものであり、当時と比べて用語の変更や追加点がいくつか見られるためである。主な改訂予定箇所は以下の通り。

- ・用語の変更 COGES→CGDES など
- ・コミュニケーションや市長との連携について記載する
- ・CGDES/CGDES 連合経験共有セミナーについて記載する
- ・各種フォーマットを追加する
- ・州・県 CGDES 監督官の CGDES/CGDES 活動報告スケジュールを追加する 等

なお、7月に開始されたカウンターパートである CGDES 調整部員を対象としたエクセル研修は、9月に再開の予定である。

## **4. 教育省・ドナー関係**

### **(1) プロジェクト合同調整委員会**

上記経験共有セミナーの翌日に、プロジェクトの合同調整委員会を開催した。今回はプロジェクト中間評価調査団も参加し、通常の6ヶ月活動報告、前日開催の経験共有セミナー報告、今後6ヶ月の活動計画の他に、中間評価団より評価結果が共有された。

中間評価団による発表は、7月28日から実施された調査の概要、成果および目標達成状況、5項目評価、提言案が共有された。

なお、今回の合同調整委員会では、委員会後、下記コートジボワール視察団による今回の視察報告も行われた。コートジボワール視察団からは、一連のセミナー、関係者意見交換、現地視察を通じた気づきから、帰国後の学校分権化政策にかかる活動計画、今後の展望等が発表された。

## **5. プロジェクト訪問・ミッション受け入れ**

### **(1) プロジェクト中間評価**

先月28日から開始したプロジェクト中間評価調査が今月13日まで実施された。先月末に訪二した評価分析コンサルタントに引き続き、今月第一週目には調査団「協力企画」の人間開発部基礎教育第二課松崎職員、二週目には団長である橘課長が参团し、合計約3週間に渡る中間評価が実施された。現地視察、教育省関係者ならびにプロジェクト専門家との協議等を経て、現PDMに基づく活動評価、5項目評価、PDMの改訂を含む提言案が教育省およびプロジェクトに提案され、教育省側の合意の下、12日に初等教育・識字・国語推進・市民教育省、およ

び中等教育省とミニッツの署名が執り行われた。

なお、調査結果としては、全体的に「プロジェクトの各コンポーネントの達成度は高く、プロジェクト目標達成の見込みも高い」との評価を得た。評価5項目に関しては、『妥当性』、『有効性』、ならびに『効率性』については「高い」。『インパクト』については、特に質のミニマムパッケージによる高い上位目標達成が見込まれるとのことで「概ね高い」との評価であった。その一方、『持続性』については「中程度」とされ、政策・組織面では比較的高いものの、持続性の確保をより確実なものにするためには、特に財政面、技術面に関して、ニジェール側への確実な技術移転と、CGDES と地方自治体との連携強化の必要である旨、提起された。また、今後のプロジェクトの方向性をより明確にするために、成果の整理と指標の修正による PDM 改訂が提案された。(詳細、別添「現地報告書(抜粋)」参照)。

今回の中間評価実施に際しては、2004 年から 10 年に渡り実施してきたみんなの学校プロジェクトの広報を兼ね、中間評価団長への取材インタビュー記事を含む「プレスリリース」を行った。

## (2) コートジボワールスタディツアー受入／コートジ・ニジェール経験共有セミナー

経済基盤部主管の技術協力プロジェクト「コートジボワール国中部・北部紛争影響地域の公共サービス改善のための人材育成プロジェクト」(以下 PCN-CI)における一コンポーネント「COGES 活性化による学校運営改善」に、みんなの学校の機能する COGES モデルが導入されることから、当該プロジェクト関係者によるニジェールみんなの学校プロジェクト訪問が実施された。それを受け、プロジェクトにおいては、両国経験共有セミナーを開催し、当該モデルを導入する際に必要となる基本的アプローチの理解と、その基本アプローチの応用編となる住民参加型教育開発モデルを理解できるよう、プレゼンテーション、意見交換、現地視察等からなる当該セミナーを実施した。なお、コートジボワール側からは、15 名(コートジボワール C/P 11 名、コンサルタント 2 名、邦人コンサルタント 1 名、JICA 事務所所員 1 名)、ニジェール側からは、主に CGDES 調整部、ニジェールみんなの学校プロジェクト専門家・コンサルタントおよびスタッフが参加した。

全日程を通して、コートジボワール側とニジェール側にて非常に活発な意見交換が行われ、短い期間ながら、機能する COGES の基本からその応用モデル、教育省中央から現場での COGES 活動に至るまで網羅する、充実した視察協議となった。コートジボワール視察団は、非常に密なプログラムの中、“ニジェールの経験を最大限吸収し、現在取り組んでいるマニュアル作成ならびに自国での活動に反映させる”という明確かつ高い目的意識の下、今後のプロジェクト活動への反映が大いに期待できる、積極的かつ真摯な姿勢にて取り組んでいた。特に、今回の訪問プログラムにおいては、プロジェクト・教育省中央 CGDES 調整部からの説明のみならず、現地視察、活動見学等、多様なレベルの関係者との意見交換を行ったため、「住民参加」と「現場での実践」におおいに示唆を与えたと思われる。その意味で、関係者への適切な技術支援を行うことで、ニジェールが COGES 政策の先陣として、周辺諸国の「研修センター

的な役割」を担い得ること、そしてその重要性を再確認した。

その一方、今回のセミナーではコートジボワール側のみならず、ニジェール側にとっても有益なものとなった。自らの経験を共有することで、その強みを再認識するのみならず、コートジボワール側が先んじている事項、地方分権化や法制度、国のイニシアティブや内務省と教育省の協働などを知ることにより、今後の展望にかかる新たな視点を得ることとなったと思われる。今後もこのような域内での情報交流を通して、地域的な発展へと繋げることが望まれる。

## 6. プロジェクト運営管理

### 1) 予算管理

第2 四半期 8月の支出額は 15,742,141 Fcfa (8月29日現在) で、7月の支出額と合わせると 25,450,992 Fcfa となり、これは第2 四半期予算計画額 61,713,648 Fcfa の 41.24%であった。

### 2) 事務所管理

雨期になり、事務所2階部分で2か所、また外で物置として使用している建物で雨漏りが始まったため、修理を行った。

### 3) プロジェクト活動広報に関して

今月は CGDES/CGDES 連合経験共有セミナーを新聞2社に掲載、テレビ・ラジオ3社で放映した。アトリエの内容だけでなく、この時期に訪問中であったコートジボワールからの調査団へのインタビューも放送された。また、中間レビュー調査にかかるプレスリリースを新聞4社に掲載した。

## 7. 所感

### 成果：プロジェクト活動にかかる結果の発現

今年度の CGDES 活動総括結果から、例年に引き続き、ニジェール全土 16,000 を超える CGDES 中 9 割以上が基本的機能を保ち、住民参加により 24 億 Fcfa もの動員と各種活動が全国で実施され、CGDES 連合を含む、住民活動を支えるモニタリング体制もある程度安定していることが確認された。また、補助金モデルや質のミニマムパッケージパイロット活動においても、活動実施状況と学力テストを通して、住民参加によるリソース管理・運用と質の改善活動が、学校改善と児童の学力向上に効果を与える可能性も見受けられた。州教育フォーラムモデルに関しては、まだスタートを切ったばかりであるが、

今回のプロジェクト中間評価においては、「各コンポーネントの達成度は高く、プロジェクト目標達成への可能性も高い」との評価を得たことなどから、プロジェクトが現在まで取り組んできた活動が、ある程度“見える結果”を出しつつあることが伺える。

### 課題：到着地点の明確化と活動の優先順位づけ

その一方、「新」州教育フォーラムモデルに関しては、関係者のモチベーションは非常に高く今後が期待できるとは言え、モデル構築へ向けた取り組みを開始して間もない。「機能する

中学校「COGESモデル」に関しては、来学年度以降のパイロット活動再開となる。よって、プロジェクトが取り組む4つのパイロット活動中、2つがまだ「具体的な結果発現」に遠い状態である。また、中間評価を通して、PDM改訂を含むプロジェクト活動の課題と方向性の整理がなされ、プロジェクト目標達成へ向けた方向性がより明確となったが、提言に見る通り、様々な課題が依然として残っている事もまた明らかとなった。

1年7カ月という決して長くはない残り時間の中で、各種課題に対してどう取り組み、どのレベルまでを着地点とするのか、限りある時間と資源の中で、よりニジェール教育開発にとって有効な成果を得るには、どの活動への配分に重きを置くべきか。今後プロジェクトが有効な結果を残すには、プロジェクト活動の優先順位づけをしつつ、明確かつ具体的に組み直すことが必要である。今回中間評価により示された活動と方向性の整理を重要な起点として、プロジェクト終了までの道筋の明確化、具体化を進めていく。

## 8. 9月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
CGDES 調整部対象情報処理能力強化研修	5日、上～下旬
タウア州コミュニケーション連絡協議会開催	～10月
影山専門家休暇	4日～29日
岩田専門家休暇	16日～10月16日

以上

別添1：CGDES/CGDES 連合経験共有セミナー開催記録

別添2：コートジボワール・ニジェール経験共有セミナープログラム

別添3：プロジェクト中間評価現地報告書（抜粋）

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2014 年 9 月

作成日: 2014 年 10 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 月	JICA 支所との定期会合	岩田
2 火		
3 水	CGDES 調整部との会合(中間評価提言内容検討)	全員
4 木	影山専門家健康管理休暇(~30日)	
5 金	CGDES 調整部情報処理能力強化研修	羽田野、ハムザ
6 土		
7 日		
8 月	JICA 支所との定期会合 JICA 研究所との補助金モデル評価調査にかかる打ち合わせ(於:本部)	岩田 (本部)原、影山
9 火		
10 水	CGDES 調整部情報処理能力強化研修 みんなの学校プロジェクト活動にかかる NHK 取材(於:本部)	羽田野、ハムザ (本部)原、影山
11 木	PTF 会合 CGDES 調整部との会合(中間評価提言内容検討)	アリ 全員
12 金	臨時会計役代理引継ぎ	岩田、羽田野
13 土		
14 日	岩田専門家一時帰国休暇(~10月15日)	
15 月		
16 火		
17 水		
18 木	第 4 回教育 KMN勉強会(シェアリングランチ:ニジェールみんなの学校「住民参加による教育開発プロジェクト最新の成果」(於:本部)	(本部)原、影山
19 金	GIZ アトリエ	羽田野、ザカリ
20 土		
21 日		
22 月		
23 火		
24 水	初等教育省主催 PC 研修の CGDES 調整部員への還元講習モニタリング	羽田野
25 木		
26 金		
27 土		
28 日		
29 月		
30 火		

## 2. 今月の総括

先月のプロジェクト中間評価を経て、プロジェクト活動の軌道修正へ向けた準備期間となる今月は、継続的な活動とともに、昨年度までの総括に取り組んだ。また、中間評価の結果を踏まえた今後の体制への検討を進めた。

州教育フォーラムモデル開発パイロット活動においては、先月実施した『タウア州教育フォーラム執行委員会』で討議された活動状況を元に、引き続きフォーラム目標達成へ向けた現場活動の進捗モニタリング支援を行った。現状としては、新入生男女格差改善へ向けた取り組み、ならびにコミュニケーション連絡協議会の実施においても活動の遅れが見られ、新学期開始となる来月以降の活動の立て直し、機能化への戦略的な取り組みの必要性が確認された。

CGDES モニタリング関連においては、7月から開始した、教育省中央 CGDES 調整部に対する情報処理にかかる能力強化研修を引き続き行った。今後は、当該研修にて取り組んだ事項を実践へと結び付けられるようフォローアップ、支援する必要がある。

補助金モデルパイロット活動においては、2年間にわたるパイロット活動の総括として、対象校の 2012/2013 年、ならびに 2013/2014 年度年間活動総括表の取りまとめを行った。その結果、住民からの動員額（補助金額を除いた分）にはいずれの CGDES グループにもほぼ差が無く、補助金が住民動員を減ずることなく「住民動員への強化・補完」として学校改善活動に使用されている状況が見受けられた。また、実施活動に関しては、補助金およびリソース管理に加え、リソース活用の研修（計画策定研修）を受講したグループ（グループ 2）において、より多くの CGDES が児童の学力改善に繋がる実践的な活動（補習授業、夜間学習、練習問題実践）に取り組み、かつ集中的にリソースを投入している状況が確認された。

その他、プロジェクト中間評価団の提言をプロジェクト運営および活動へ反映させるため、CGDES 調整部との協議を行い、全ての提言を具体的な活動、実施者、実施期限へと落とし込む計画策定に取り組んだ。当該計画は、来月開催予定の臨時合同調整委員会にて、改訂 PDM および PO の承認と共に、委員会メンバーとの協議、承認へと進める予定である。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動

今月は、先月実施した『タウア州教育フォーラム執行委員会』での討議および決定事項も踏まえ、執行委員会による活動モニタリングの下、フォーラム目標達成へ向けた活動が現場にて引き続き行われた。結果、『コミュニケーション連絡協議会』に関しては今月末時点で、以下の通りとなった。

<コミュニケーション連絡協議会設置状況>

- ・ 44 コミュニオン中 43 コミュニオンにて「コミュニケーション連絡協議会」設置
- ・ 44 コミュニオン中 38 コミュニオンにて「コミュニケーション連絡協議会」認可発出



- ・ 44 コミュニオン中 22 コミュニオンにて第 1 回コミュニケーション連絡協議会開催

なお、新入生事前登録の進捗情報においては、夏季休暇中ということもあり、現場の状況が執行委員会レベルにまで十分に集まっていないことが確認された。

上記の通り、『コミュニケーション連絡協議会』に関しては、現時点でその機能化が課題であることは明確である。今後新学期に入り、当該協議会にとって重要な時機に差し掛かることから、機能化へ向け、集中的に取り組む必要がある。さらに、フォーラム目標である男女格差改善への取り組みにかかる情報が十分に集まっていない点は、フォーラムの成否にとって大きな懸念事項である。今月末からはもはや新入生の事前登録ではなく、新入生の入学登録が現場にて行われる。本番の新入生入学で成果を示せるよう、関係者との密な連絡による戦略共有、情報収集に取り組んで行くこととする。これら現時点での課題は、現場活動の指針とモニタリング支援を行う『州教育フォーラム執行委員会』の機能性の問題であるともいえ、今後、当該委員会の機能化へ向けた戦略検討を進める必要がある。

## (2) CGDES・CGDES 連合モニタリング

今月は調整部対象のエクセル研修を再開した。3 回目となる研修には 8 人全員が、4 回目には 6 人が参加した。前回の研修から 1 か月以上間があいてしまったため、3 回目の研修ではリストの作成や計算方法等を忘れてしまっている部員も見られたが、4 回目の研修では、一人ずつに CGDES 数や活動計画回収数、活動数、活動総括数等が入った紙を渡し、そのデータから活動計画回収率や、1 CGDES あたりの平均活動数、活動総括回収率等を導き出してリストを完成させるという実習を行ったところ、時間はかかったものの、6 人中 4 人がリストを完成させることができた。素早く作業を進められる部員もいる一方で、手助けを必要とする部員もまだ多いので、今後はフォローしつつも、モニタリング等を通して実際に入手したデータを入力し、分析するという実践を通して徐々に作業に慣れて行くことが必要である。

## (3) 補助金モデル開発パイロット活動

今月は、2 年間にわたる補助金モデルパイロット活動の総まとめとして、対象校（補助金介入評価調査のコントロールグループを含む）の 2012/2013 年、ならびに 2013/2014 年度の年間活動総括表の取りまとめを行った。その結果、平均実施活動数においては、補助金供与 CGDES が、補助金供与の無い CGDES を上回る一方で、住民からの動員額（補助金額を除いた分）にはいずれの CGDES グループにもほぼ差が無く、補助金が住民動員を減ずることなく「住民動員への強化・補完」として学校改善活動に使用されている状況が見受けられた（表 1 参照）。また、実施活動に関しては、補助金およびリソース管理に加え、リソース活用の研修（計画策定研修）を受講したグループ（グループ 2）において、より多くの CGDES が児童の学力改善に繋がる実践的な活動（補習授業、夜間学習、練習問題実践）に取り組み、かつ集中的にリソースを投入している状況が確認された（表 2・3

参照)。なお、今後はさらに詳細の分析をすすめ、当該モデルの改善へ向けた材料とする。

表 1:年間総括結果概要

年度	対象校グループ°(対象校数)[注 1]	総括表回収数(率)	1校あたりの活動実施数	1校あたりの平均動員額(Fcfa)	1校あたりの住民による動員額(概算)[注 2]
2012-2013 年度	コントロールグループ°(60校)	38(63%)	4.58	106,836	106,836
	グループ 1(60校)	44(59%)	5.86	359,782	136,065
	<b>グループ 2(60校)</b>	<b>42(64%)</b>	<b>6.38</b>	<b>360,818</b>	<b>137,101</b>
2013-2014 年度	コントロールグループ°(60校)	48(80%)	4.06	134,143	134,143
	グループ 1(60校)	54(90%)	6.01	382,690	132,140
	<b>グループ 2(60校)</b>	<b>55(92%)</b>	<b>5.8</b>	<b>380,674</b>	<b>130,124</b>

注 1) グループ間の介入の違いは以下の通り。

- ・ 【コントロールグループ】介入なし、【グループ 1】補助金供与+リソース管理研修、【グループ 2】補助金+リソース管理研修+計画策定研修(リソースの効果的な使い方にかかる研修)。
- ・ なお、プロジェクト開発の『補助金モデル』は【グループ 2】に当たる。

注 2) 1校当たりの平均支出額および補助金供与額より算出。

- ・ 1校あたりの住民による動員額 = 支出額平均 - 補助金供与額平均
- ・ 2012/2013 年度 1校あたりの補助金供与額平均は、223,717Fcfa
- ・ 2013/2014 年度 1校あたりの補助金供与額平均は、250,550Fcfa

表 2:主な活動別実施 CGDES 割合

年度	対象校グループ°	総括表回収数	当該活動別実施 CGDES 割合(CGDES 数)				
			教室建設	文房具/ 教科書購入	補習授業	夜間学習	補強練習 問題演習
2012-2013 年度	コントロールグループ°	38	89.4%(34)	55.3%(21)	44.7%(17)	36.8%(14)	0%
	グループ 1	44	88.6%(39)	81.8%(36)	65.9%(29)	52.3%(23)	2%(1)
	<b>グループ 2</b>	<b>42</b>	<b>90.5%(38)</b>	<b>66.7%(28)</b>	<b>73.8%(31)</b>	<b>90.5%(38)</b>	<b>33%(14)</b>
2013-2014 年度	コントロールグループ°	48	87.5%(42)	62.5%(30)	41.7%(20)	18.8%(9)	2.1%(1)
	グループ 1	54	92.6%(50)	90.7%(49)	53.7%(29)	51.9%(28)	3.7%(2)
	<b>グループ 2</b>	<b>55</b>	<b>92.7%(51)</b>	<b>49.1%(27)</b>	<b>83.6%(46)</b>	<b>78.2%(43)</b>	<b>63.6%(35)</b>

表 3:主な活動別投入額割合

年度	対象校グループ°	総括表回収数	グループ内投入総額(Fcfa)	当該活動別投入額割合				
				教室建設	文房具/ 教科書購入	補習授業	夜間学習	補強練習

					教科書購入			問題演習
2012-2013	コントロールグループ	38	4,059,775	40.7%	17.0%	5.2%	4.1%	0%
年度	グループ 1	44	15,830,400	14.9%	48.0%	2.9%	5.3%	0.2%
	グループ 2	42	15,154,360	20.3%	26.0%	7.0%	21.1%	10.8%
2013-2014	コントロールグループ	48	6,438,435	42.9%	19.2%	3.4%	1.4%	0%
年度	グループ 1	54	20,665,260	20.8%	52.1%	2.6%	5.3%	0.9%
	グループ 2	55	20,937,070	16%	23.7%	20.7%	20.1%	11.7%

また、先月実施された中間評価団による提言を踏まえ、本部プロジェクト担当者との協議を経て、当初 2 年間の予定であった補助金供与にかかるパイロット活動を、新たなサイト（3 校程度を予定）にて継続することとなった。この継続期間での実施においては、より確実に質の改善および児童の学力向上へと繋がる「補助金供与と能力強化のモデル」の完成を目指し、かつ当該モデルの有効性を国内外へ発信することを目指す。

#### 4. 教育省・ドナー関係

##### 1) 中間評価提言内容実践へ向けた計画策定協議

先月実施されたプロジェクト中間評価での提言に基づき、それら提言のプロジェクト運営および活動への実践的な反映をめざし、CGDES 調整部との協議を行った。この協議を通し、全ての提言を具体的な活動、実施者、実施期限へと落とし込む計画策定に取り組んだ。当該計画は、来月開催予定の臨時合同調整委員会にて、改訂 PDM および PO の承認と共に、委員会メンバーとの協議、承認へと進める予定である。

#### 5. プロジェクト運営管理

##### 1) 予算管理

第 2 四半期 9 月の支出額は 9,434,351Fcfa（9 月 30 日現在）で、第 2 四半期の合計額は 35,092,438Fcfa となり、これは第 2 四半期予算計画額 61,713,648 Fcfa の 56.86%であった。

#### 6. 所感

今月は、学校が夏季休暇であることに加え、先月実施された中間評価の結果に基づき、今後のプロジェクト運営・活動の軌道修正にかかる準備を進めるため、全体的な活動量を減じたが、その結果、特に「州教育フォーラムモデル」開発活動にかかる課題が浮き彫りとなった。プロジェクトによる直接的なモニタリング・情報収集を抑え、現場の『タウア州教育フォーラム執行委員会』のイニシアティブにある程度任せるかたちとしたことが、当初予定に比べて、大幅に活動進捗に遅延が生じることとなったと言える。来月の新学期開始から、本格的に各活動を新たに展開していくことから、今回の遅延の立て直しを早急

に図る必要がある。

## 7. 10月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
CGDES 調整部・計画局との月例会議	10 日
補助金モデルモジュール改訂	上旬～下旬
質のミニマムパッケージモジュール改訂	上旬～下旬
補助金モデル開発パイロット活動新規サイト選定	上旬～下旬
質のミニマムパッケージパイロット活動新規サイト選定	上旬～下旬
中学校 COGES 情報収集・ベースライン調査	上旬～下旬
臨時合同調整委員会	27 日
羽田野専門家離任	1 日
原チーフアドバイザー運営指導調査	22～28 日

以上

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2014 年 10 月

作成日: 2014 年 11 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 水	臨時会計役代理交替  羽田野専門家離任	影山、羽田野
2 木	スタッフミーティング(本部:原チーフアドバイザー) 2014 年度第 2 四半期在外事業強化費会計報告 JICA 支所との会合	全員 影山 影山
3 金		
4 土		
5 日	タバスキ(犠牲祭)	
6 月	タバスキ(犠牲祭)	
7 火	スタッフミーティング	全員
8 水	スタッフミーティング(本部:原チーフアドバイザー)	全員
9 木	見返り資金申請にかかる計画省担当局長への面会	影山、アリ、調整部
10 金	CGDES 調整部・計画局との月例会合同会議	全員、調整部、計画局(PF)
11 土		
12 日		
13 月	JICA 支所との定期会合	影山
14 火	チーム内会合(補助金研修モジュール改訂)	影山、ヤワレ、調整部
15 水	チーム内会合(質のミニマム研修モジュール改訂)  岩田専門家休暇一時帰国戻り	影山、アリ、マト、カマラ
16 木	初等教育省事務次官との面会(臨時合同調整委員会にかかる協議) 中等教育省事務次官との面会	影山、アリ、調整部長 影山、アリ、調整部長
17 金	CGDES 調整部・計画局との臨時合同調整委員会準備会合(PDM 改訂)	全員
18 土		
19 日		
20 月	JICA 支所との定期会合	岩田、影山
21 火		
22 水	原チーフアドバイザー運営指導調査(~28 日)	
23 木	臨時合同調整委員会準備会合(シミュレーション) スタッフミーティング チーム内会合(フォーラム)	全員 原、影山、アリ、ハムザ
24 金	臨時合同調整委員会開催 チーム内会合(質のミニマム)	全員、調整部、計画局(PF) 原、影山、アリ
25 土	チーム内会合(中学校 COGES、モニタリング、補助金) 初等教育省事務次官との面会	原、影山、ハムザ、ヤワレ、ザカリ 原、影山
26 日		
27 月	CGDES 調整部との会合(能力強化プログラム作成アトリエ) JICA 支所との定期会合 スタッフミーティング	全員、調整部 岩田 全員
28 火	↓	
29 水		
30 木		
31 金	CGDES 調整部・計画局との月例会合同会議	全員、調整部

## 2. 今月の総括

今月は8月に実施されたプロジェクト中間評価の提言に従い、改訂 PDM の承認にかかる臨時合同調整委員会を実施した。結果、改訂 PDM、活動計画等はほぼ提案のまま委員会メンバーにより承認され、今後の活動枠組みが公式化した。

「補助金モデル開発」および「質のミニマムパッケージ開発」においては、モデルのさらなる改善に向けて、昨年度の経験と優良事例を基にした研修モジュールの改訂作業を開始した。この二つのモデル開発パイロット活動においては、両者の目的ならびに活用面での共通性と補完性に鑑み、両モデルのパイロット対象校を重複させ、両モデルの統合という新たな試みを開始する予定である。

「州教育フォーラムモデル開発」に関しては、フォーラム目標達成へ向けた今年度新入学生登録および関係者取り組み、ならびにコミュニケーション連絡協議会の設置・会合状況にかかる情報収集を行った。

なお、プロジェクトが開始当初から取り組み、中間評価団の提言の一つでもあった「CGDES 調整部の能力強化・技術移転」に関しては、CGDES 調整部との協議を通し、移転技術・能力、具体的活動、実施時期等を含む「技術移転計画」を策定した。

その他、中等教育省より、中等 COGES の担当部署となる「COGES 中央推進室」設置にかかる省令が発出された。これを受け、今後は当該部署とともに、「機能する中学校 COGES モデル開発」パイロット活動の本格的な開始へと早急に進めていく予定である。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動

今年度新入生登録が実施される今月、新入生の男女比率改善を掲げてフォーラムを実施したタウア州においては、フォーラム執行委員会の州知事ならびに州教育事務所長（および教育行政）により、フォーラム目標達成へ向けた働きかけが行われた。

- ・ 校長および教員に対して任地へ早期赴任の呼びかけ（新学期開始前の在勤地への移動）
- ・ コミュニティラジオを通じた関係者啓発
- ・ 州知事による関係者（知事、市長等）へのフォーラム決議、誓約順守を呼びかけるレター発出
- ・ 州内の関係者（県知事、市長、コミュニケーション長（伝統的宗主）、CGDES 連合等）との面会の機会を利用したフォーラム目標達成へ向けた協議、など

しかしながら、州教育事務所長をはじめとする教育行政側の働きかけの一方で、新入生入学状況は不安定であり、現時点では、成果を確実に示し得る正確な情報収集ができていない。今後も定期的な情報収集を継続していくものの、最終的には12月下旬にかけて確定する見込みである。

COGES 連合とコミュニケーションの連携にかかる「コミュニケーション連絡協議会」に関しては、州内

44 コミュニオン中 43 コミュニオンでの設置が確認されている。その一方で、設置後未だに第 1 回目の会合を開催していないコミュニティも多く、当該協議会の実施サイクルが固まるまでにはさらなる働きかけと時間が必要と言える。来月以降年度末にかけては、コミュニティ（市）の予算審議会が実施される時期であることから、コミュニティ連絡協議会での協議を通じた「フォーラム参加費および CGDES 連合支援費のコミュニティ予算への盛り込み」を確実に促していく必要がある。プロジェクトにおいてもコミュニティ連絡協議会実施にかかる情報収集、および現地モニタリングを含めた集中的な活動モニタリングを実施していく。

## **(2) 補助金モデル開発パイロット活動**

2 年間に渡り取り組んできた、補助金モデル開発のパイロット活動、および JICA 研究所による介入評価調査は、2013/2014 年度学年末をもって終了し、最終的なインパクト評価の分析結果は出ていないものの、現場レベルでの有効性が評価され、今後ニジェールのセクタープログラムの枠組みで実施される CGDES への補助金供与に際し、当該モデルの活用が予定されている。それを受け、プロジェクトにおいては、当該モデル適用にかかる CGDES 調整部の能力強化、ならび計画・実施支援に取り組むことで CGDES 調整部と合意した。

その一方、8 月に実施された中間評価においては、さらなるモデルの改善へ向けた活動の継続が提言として示された。そのことから、昨年度の経験や優良事例を基にした研修モジュールの改訂に着手した。今学年度新規に行うパイロット活動においては、下記の通り、質のミニマムパッケージとの統合によるモデル試行を行う予定である。

## **(3) 質のミニマムパッケージ開発パイロット活動**

今年度の当該パイロット活動においては、昨年度の対象 CGDES 内にて継続の意思がある CGDES を選出し、活動支援を行うとともに、新たな地域への拡大を図る予定である。そこで、昨年度までの経験および優良事例を元とした、モジュール改訂へ向けた協議、ならびに新規対象地域選出にかかる検討を開始した。

尚、新規対象地においては、上記の「補助金モデル」との統合という新たな試行に取り組む予定である。「質のミニマムパッケージ」と「補助金（リソース管理・運用）モデル」は、共に“住民参加を通じた質の改善”とを目的としており、児童の基礎学力向上に結び付く CGDES 活動をその核としている。また、質のミニマムパッケージツールである算数ドリルに関しては、児童あたりのコストに鑑みて、今後 CGDES・コミュニティの自己資金による購入は難しく、CGDES への補助金と補完的に組み合わせることがより普及可能性を高める手段と考えられる。よって、この二つのモデルを統合し、補助金（リソース）の効果的活用手段としての「質のミニマムパッケージ」導入というモデル構築へ向けたパイロット活動に取り組む。

#### **(4) CGDES・CGDES 連合モニタリング**

今学年度開始に伴い、全国各地では CGDES 連合の事務局会合ならびに連合総会日程調整が進められ、第一回事務局会合が現在開催されている。なお、今学年度は、現在まで CGDES 調整部と共に実施してきた一連の情報収集・モニタリング業務を、より CGDES 調整部主導としたものへと移行するため、各州の情報を CGDES 調整部に一元化する方向で進めている。また、来月以降に実施される各州での CGDES 監督官会議開催へ向けて、潤滑な予算執行へ向けた情報収集、予算執行プロセスにかかる関連部署への働きかけを開始した。

その他、今後の CGDES モニタリング体制公式承認へ向けて、内部調査・データ収集へ向けた調査票作成準備を進めた。

### **4. 教育省・ドナー関係**

#### **(1) プロジェクト合同調整委員会**

先々月 8 月に実施されたプロジェクト中間評価の提言に基づき、プロジェクト PDM 改訂案承認を主な目的とした「プロジェクト臨時合同調整委員会」を今月 24 日開催した。主な議題としては、①PDM および活動実施計画改訂案の承認、②中間評価団提言の実施計画承認、③今後 6 ヶ月の活動計画承認、ならびに④みんなの学校群地域経験共有セミナー開催についての協議。

各議題協議の結果、PDM および活動実施計画改訂案ともに、微細な変更が加えられたものの、ほぼ提案のかたちで承認された（別添、改訂 PDM 参照）。また、その他の提言実施計画並びに 6 ヶ月の活動計画においても問題なく承認へと至った。

今回の今回からは、初等教育省委員会メンバーに加え、『機能する中学校 COGES モデル開発』活動の管轄省である中等教育省関係者の参加も得た（事務次官および COGES 関係部職員）。中等教育省側からは、非常に強いプロジェクトへの期待が示された。また、地域経験共有セミナー開催においては、中等教育省としても積極的に関与を望むとの意向が次官により示された。

今後、来月初めには、当委員会会合報告書を作成した上で、関係三者（初等教育省、中等教育省、JICA）による議事録の確認・合意署名を執り行う予定である。

#### **(2) CGDES 調整部技術移転計画策定会合**

8 月に実施された中間評価の提言に基づき、今後の教育省 CGDES 調整部への技術移転計画策定を行った。ニジェールにおける CGDES 活動の持続性を高めるため、CGDES 調整部に対する能力強化はプロジェクト活動にとっても一つ柱であることから、2012 年 5 月のプロジェクト立ち上げより現在まで、合同月例会議、共同モニタリングミッション、セミナー・研修準備・実施、日常的な意見交換、その他各種業務実施にかかる支援・アドバイス等、日々の活動を通して公式、非公式に能力強化・技術移転に取り組んできた。し



かしながら、中間評価の際には、CGDES 調整部側に現在まで能力強化・技術移転を受けてきたという意識が低い状況が見受けられ、プロジェクト、日本人専門家側の改善が調査団より求められた。

それを受け、今回の CGDES 調整部メンバーとの協議では、計画策定、モニタリング、研修分野における強化すべき技術（能力）の見極めを行い、それらの移転手段としての具体的な活動へと落とし込む形とした。関係者全員での策定を行ったことから、実施内容（活動）自体は今まで取り組んできたものと実質的にはほぼ差異がないものの、より CGDES 調整部側の意識を喚起することへと繋がると思われる。

### **(3) 中等教育省 COGES 中央推進室創設**

今月 10 月 21 日付で、中等教育省により「COGES 中央推進室」創設と組織、および役割を規定する省令が発出された。当該推進室は中等教育省事務総局付きの部署となり、秘書、研修部、広報・渉外部、モニタリング・評価部から構成され、COGES の設置から、関係者能力強化・支援、介入ドナーへの広報・調整等を行うことを任とする。地方分散化レベルでの構成は、中等州教育事務所に州 COGES 監督官、中等県教育事務所に県 COGES 監督官が配置されることとなる。

中等教育省は以前より、COGES 分野にかかるプロジェクト支援への要望とそれにかかる省側の全面的な協力を強く示しており、当該政策発展へむけたプロジェクト支援への期待は、上記 24 日に開催された合同調整委員会においても強調された。

現時点では、COGES 中央推進室正式な人員の任命はまだ発出されていないものの、今回の省令によって、プロジェクトのカウンターパート部署が確定したことから、「機能する中学校 COGES モデル開発」パイロット活動を早急に立ち上げ、当該部署とともに有効なモデル開発へと取り組む予定である。

### **(4) 初等教育省事務次官との面会**

上記臨時合同調整委員会翌日の 25 日、初等教育省事務次官との会合を行った。今回の会合では、事務次官が臨時合同調整委員会での途中退席となったことから、最終的に承認に至った事項の報告、今後の議事録署名にかかる手続き等を協議するとともに、3 月に開催予定のみんなの学校群地域経験共有セミナーにかかる説明ならびに意見交換を行った（別添、「初等教育省事務次官会合記録」参照）。特に、ホスト国として、当該セミナーを成功させることの意義と次官の役割の重要性、綿密な準備の必要性を確認した。

## **5. プロジェクト運営管理**

### **1) 予算管理**

第 3 四半期の実行計画額は 113,492,555Fcfa。10 月の支出は 11,380,031Fcfa で、これは予算額の約 10.03%であった。

## 2) 事務所管理

一運転手、ガードマンの詰所のトイレが故障したため修理を行った。またその際に詰所扉の鍵の未設置、割れたガラスが放置されていることが判明したため、今後修理をする予定。一プロジェクト事務所の庭にあるトイレが詰まっていて使えないとのことから、水洗設備の修理と配管を太いものに交換した。合わせて、浄化槽の清掃作業を行ったが、これは雨期に大量の雨が砂とともに流れ込む構造上の問題があることもわかり、修理を検討中。

## 6. その他（プロジェクト訪問ミッション、調査団等）

### (1) 原チーフアドバイザー運営指導調査ミッション（22日～28日）

今月22日～28日まで、本部より原チーフアドバイザーの運営指導調査ミッションが実施された。今回のミッションでは、上記、臨時合同調整委員会開催と共に、CGDES調整部への技術移転計画策定会合、次官との協議、プロジェクトの各活動にかかるプロジェクト内詳細打ち合わせを行い、今後のプロジェクト活動の方向性を明確化することに焦点が置かれた。また、3月に開催予定のみんなの学校群地域経験共有セミナー実施にかかり、ニジェール教育省側と情報共有を図るとともに、その重要性の周知が行われた。

## 7. 所感

### 成果：プロジェクト活動の整理

8月の中間評価調査団により提言された、PDM改訂を含む各種事項が今月開催の臨時合同調整委員会にて承認され、プロジェクトの新たな活動枠組みが公式化した。今回のPDM改訂は、目標や実施内容における変更はないものの、プロジェクト活動と成果の整理により、関係者全てにとってより明確なものとなったと思われる。その意味で、今学年度以降のパイロット活動を仕切り直す良い機会となった。特に、管轄省の問題等により不確定であった「機能する中学校 COGES モデル開発」活動が、初等教育省・中等教育省両者の前で公式化されたことで、当該パイロット活動再開への土壌が整ったと言える。

### 課題：今学年度活動の早期立ち上げと効率的なプロジェクト実施

今月は上記の通りPDM改訂を行い、新たな枠組みで残り1年半となるプロジェクトのスタートを切ったが、ニジェールの学校サイクルに鑑みると、実質的にはこの1年間(2014/2015学年度)にて多くの活動を並行的に実施し、かつ具体的な結果を出す必要がある。「質のミニマムパッケージ」と「補助金モデル」の統合によるパイロット活動、および「機能する中学校モデル開発」のパイロット活動は、継続というよりは新たな試行であり、モデル確立ならびに成果の発現へ向け、取り組むべき事項、業務量は決して少なくない。また、タウア州でのフォーラムモデル開発においては、遠隔地での実施もあり、いまだモデル確立への道筋が明確となっておらず、機能化へはさらなる挺入れが必要と言える。一年という短い時間のなかで多くの活動の同時進行で行い、かつ確実な成果まで到達する必要

があることから、一刻も早い今年度活動の立ち上げとともに、それを可能とするプロジェクト体制の効率化にかかる検討も進める必要がある。

## 8. 11月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
PDM 改訂臨時合同調整員会議事録承認署名式 (初等教育省、中等教育省、JICA)	4 日
補助金モデル研修モジュール改訂	3～14 日
質のミニマムパッケージ研修モジュール改訂	3～14 日
補助金モデル・質のミニマムパッケージサイト選定・関係者協議	3～7 日
補助金モデル・質のミニマムパッケージ CGDES 調整部能力強化研修	17～19 日
補助金モデル・質のミニマムパッケージモデル講師研修	21～22 日
補助金モデル・質のミニマムパッケージ CGDES 研修	27～29 日
中等 COGES 中央推進室との会合	5 日
中学校基礎調査 (基礎情報収集)	6～12 日
中学校訪問調査	13～18 日
機能する中学校 COGES モジュール開発	24～12月4日
コミュニン連絡協議会モニタリング	中旬～下旬
CGDES 調整部合同月例会議	27 日

以上

別添 1 : 初等教育事務次官面会記録 (2014 年 10 月 25 日)

別添 2 : 改訂 PDM 日本語版 (2014 年 10 月 24 日承認)

別添 3 : CGDES 調整部技術移転計画

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」

## プロジェクト活動月報 2014 年 11 月

作成日: 2014 年 12 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 土		
2 日		
3 月	JICA 支所との定期会合 補助金モデル・質のミニマムパッケージモジュール作成	岩田 影山、アリ、ヤワレ
4 火	臨時合同調整委員会会議議事録合意署名(初等教育省、中等教育省、JICA)	影山、岩田、アリ
5 水	初等教育・識字・国語推進・市民教育省大臣との面会 中等教育省 COGES 中央推進室(CNP COGES)との会合 キリタシ CGDES 連合事務局会合(コロ県):補助金モデルパイロット活動協議	影山、アリ 影山、ハムザ、ザカリ アリ、ヤワレ、調整部
6 木	スタッフミーティング	全員
7 金		
8 土		
9 日		
10 月	JICA 支所との定期会合	岩田
11 火		
12 水	中等教育省 COGES 中央推進室(CNP COGES)との会合	影山、ハムザ、ザカリ
13 木	スタッフミーティング PTF 会合 ドッソ州中等教育事務所長との会合	全員 アリ 影山、ハムザ
14 金	補助金モデル・質のミニマム融合モジュールにかかる協議	全員、調整部
15 土	ニアメ州中等教育事務所長との会合	影山、ハムザ、中等 CNP
16 日		
17 月	JICA 支所との定期会合 中学校機能する COGES モデルモジュール作成 中学校基礎調査票回収 CGDES 調整部補助金モデル・質のミニマムパッケージ研修(1 日目)(~19 日)	岩田 影山、ハムザ、ザカリ、中等 CNP 影山、アリ、ヤワレ、調整部
18 火	CGDES 調整部補助金モデル・質のミニマムパッケージ研修(2 日目)	影山、アリ、ヤワレ、調整部
19 水	CGDES 調整部補助金モデル・質のミニマムパッケージ研修(3 日目) キリタシ CGDES 連合総会(コロ県):補助金モデルパイロット活動協議 コロ県視学官との補助金モデル・質のミニマム研修にかかる協議	影山、アリ、ヤワレ、調整部
20 木		
21 金	補助金モデル・質のミニマムパッケージ講師研修(1 日目)	影山、アリ、ヤワレ、調整部
22 土	補助金モデル・質のミニマムパッケージ講師研修(2 日目)	影山、アリ、ヤワレ、調整部
23 日		
24 月	JICA 支所との定期会合	岩田
25 火	スタッフミーティング	全員
26 水	補助金モデル・質のミニマムパッケージ CGDES 研修(ニアメ 2 校)【1 日目】 キリタシコミュニティ CGDES 研修準備・モニタリング	影山、カマラ、PF ニアメ、調整部 アリ、ヤワレ、調整部
27 木	補助金モデル・質のミニマムパッケージ CGDES 研修(ニアメ 2 校)【2 日目】 補助金モデル・質のミニマムパッケージ CGDES 研修(キリタシコミュニティ 37 校)【1 日目】	影山、カマラ、PF ニアメ アリ、ヤワレ、PF ティラベリ、調整部
28 金	補助金モデル・質のミニマムパッケージ CGDES 研修(ニアメ 2 校)【3 日目】 補助金モデル・質のミニマムパッケージ CGDES 研修(キリタシコミュニティ 37 校)【2 日目】	影山、カマラ、PF ニアメ アリ、ヤワレ、PF ティラベリ、調整部
29 土	補助金モデル・質のミニマムパッケージ CGDES 研修(キリタシコミュニティ 37 校)【3 日目】	アリ、ヤワレ、PF ティラベリ、調整部
30 日		

## 2. 今月の総括

今月は、各種パイロット活動の本格的始動へと活動を進めた。

『補助金モデル・質のミニマムパッケージ開発』においては、両モデルのさらなる改善をめざし、両者を結合するかたちでのパイロット活動に取り組むため、モジュールの改訂ならびに関係者（CGDES 調整部、CGDES 監督官、CGDES）の能力強化研修に取り組んだ。今後は、CGDES 現場レベルでの各種会合、学力テスト、住民集会を経た上で、CGDES 活動実施・ドリル導入に向けた CGDES への補助金供与、ドリルファシリテーター研修へと進めていく。

『機能する中学校 COGES モデル開発』においては、中等教育省での COGES 中央推進室の設置を受けて、推進室関係者とのパイロット活動実施プロセス共有から、対象サイト選定へ向けた情報収集、能力強化モジュール作成に取り組んだ。尚、パイロット活動対象地としては、ニアメ特別区ならびにドゥソ州内とすることで合意した。

『州教育フォーラムモデル開発』においては、タウア州での新入学児童登録状況の情報収集に取り組んだが、11 月末時点において、前回のタウア州教育フォーラムにて設定した目標値の男女比 0.83 を下回る 0.8 であることが確認された。今後、最終的な数値が確定する 12 月末までに状況の改善を図るため、州内関係者への現状にかかる情報共有を行うとともに、善後策の検討、対応を進めていく。

その他、教育のためのグローバルファンド（GPE）とフランス開発庁（AFD）コモンファンドによる「質の教育支援プロジェクト（PAEQ）」の活動実施準備が進められ、サブコンポーネントである CGDES への補助金供与にかかる活動計画策定案が CGDES 調整部により作成された。計画においては、EPT プロジェクト開発の「補助金モデル」を踏まえ、当モジュールにかかる関係者能力強化が盛り込まれるとともに、EPT プロジェクトが実施協力機関として関与することとなった。また、当プロジェクト開発の「補助金モデル」の適用が予定の教育省資金による CGDES への補助金供与活動に関しても、予算執行が進められた。

みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー開催へ向けては、初等教育省大臣との協議を経て、2015 年 3 月 10～13 日の開催が確定するとともに、当該セミナー準備・運営にかかる準備委員会が省令により設置されることとなった。現時点で、委員会メンバー、責務、実施形態、運営にかかる省令のドラフトが作成されたことから、大臣による署名を待って、委員会設置ならびに第一回会合へと進めていくこととなる。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 補助金モデル・質のミニマムパッケージ結合パイロット活動

CGDES 補助金モデルのさらなる改善をめざし、今学年度の新たな試みとして、補助金モデルと質のミニマムパッケージを併せたパイロット活動を実施することから、今月はモジュール改訂ならびに関係者の能力強化研修に取り組んだ。なお、今年度ニジュールにお

いては、教育のためのグローバルパートナーシップ (GPE) 資金プロジェクトや教育省資金による CGDES への補助金供与が計画されており、それに対する EPT プロジェクト開発の「補助金モデル」のモジュール導入が予定されている。その状況に鑑み、今回の一連の能力強化研修においては、上記活動の実施機関である教育省中央 CGDES 調整部が適切に同モジュールの適用を図れるよう、当該調整部員への能力強化にも重きを置いたものとした。

リソースを効果的に学力向上へと結びつけるための「リソース活用 (計画策定)」モジュールにおいては、昨年度までの優良事例を踏まえた活動計画策定プロセスを盛り込み、質のミニマムパッケージの要素を入れ込むかたちへの改訂に取り組んだ。また、コミュニティオーディットをベースとした「リソース管理」に関しても、EPT プロジェクト以外の外部資金にも対応できる形に改訂した。

能力強化研修においては、CGDES 調整部に対する講師研修実施へ向けた能力強化から、CGDES 監督官を対象とした講師研修を経て、パイロットサイトであるコロ県キリタシコミュニティの 37 校およびニアメ市内 2 校に対する CGDES 研修を実施した。

今後、各学校にて、研修報告となる CGDES メンバー会議ならびに教員会議、学力テストの実施、補助金情報およびテスト結果の共有とリソースの有効活用にかかる活動計画策定・承認の住民集会在実施されることになる。また、これらのプロセスを経た後、来月上旬～中旬にかけて、補助金の供与、ならびに算数ドリルのファシリテーター研修を実施予定である。

## (2) 機能する中学校 COGES

先月、中等教育省に COGES 中央推進室が設置されたのを受け、当該室長ならびに室員と今後の方向性、パイロット活動実施プロセス、パイロット対象地選定にかかる協議を行った。なお、パイロット地域に関しては、都市部と農村部の中学校では、それを構成するコミュニティ、保護者等の状況の違いが大きいことから、都市型モデル開発としてのニアメ特別区、農村部型モデル開発としてドソ州でのパイロット活動を進めていくことで合意した。

上記協議を踏まえ、今月は、対象各州関係者との協議、中学校関連情報の収集および、今後の「機能する COGES 設立」ならびに「活動計画策定」にかかる関係者能力強化研修実施へ向け、モジュール作成に取り組んだ。

今後は、ベースとなる情報収集結果の分析ならびに現地調査（関係者アンケート）を実施し、最終的な対象中学校の選定を進めるとともに、研修モジュールの確定ならびに中央・地方関係者および現場中学校関係者への能力強化へと進めていく。

## (3) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動

6 月に開催した「タウア州教育フォーラム」の新入学児童男女格差改善目標達成へ向け、

新学期開始 10 月から現場にて新一年生の入学登録、それにかかる情報収集が実施されている。プロジェクトにおいてもタウア州関係者との情報交換を定期的に行い、状況把握に努めていたが、今月末の時点で、州内 7 割の学校の情報が回収され、男女比 0.8 であることが明らかとなった。農村部においては通常 12 月下旬まで新入学登録がつづくことから、この数値は最終結果ではなく、かつ、2012/2013 年度の 0.74 よりは改善へ向かっているものの、フォーラム決議による目標値の 0.83 よりは下回っており、目標達成に対して難しい状況であることが確認された。

この背景には、まず、当初から懸念されていたように同テーマにかかるフォーラム開催の時期が大きく影響した点は否めない。前回のフォーラム開催が夏季休暇開始と重なったため、CGDES 連合総会から住民集会へと繋がるコミュニティへの情報伝達が十分実施されなかった可能性がある。加えて、夏季休暇ならびに農繁期による住民・教員の不在状況から、現場レベルでの事前登録活動の実施やその状況把握・フォローアップが十分行われず、その結果を踏まえた上での入学登録へと適切に繋げることが出来なかったと言える。そして、教育省中央の統計上の数値に反して、現場においては教員不足の懸念が常にあり、その点が現場レベルでの就学促進を困難にしていることも一つの要因として挙げられる。

今後は、早急に現在の状況を教育行政、地方行政、CGDES 連合等の関係者と共有し、現場レベルへの情報共有・対応を図っていく。また、近日中にタウア州教育事務所長により視学官会議が開催され、善後策の対応が検討される予定である。

#### 4. 教育省・ドナー関係

##### (1) GPE・AFD コモンファンド「質の教育支援プロジェクト」

ニジェール国教育・研修セクタープログラムを支援する、教育のためのパートナーシップ (GPE) およびフランス開発庁 (AFD) のコモンファンドによる「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」の活動開始準備が、現在教育省にて進められている。そこで、当該 PAEQ のサブコンポーネントとして盛り込まれている「CGDES への直接補助金供与活動」においても、活動詳細計画案の策定が CGDES 調整部により進められた (詳細、別添参照)。

当該補助金供与においては、EPT プロジェクト開発の「補助金モデル」に従い、コミュニティオーディットをベースとする「リソース管理モジュール」と児童の基礎学力改善へ向けた取り組みに CGDES 活動を集約させるリソースの適切な活用の「活動計画策定モジュール」が導入される予定であり、当該実施計画案においてもそれを踏まえた活動が盛り込まれた。また、一連の活動実施にかかる協力機関として EPT プロジェクトの関与が計画されていることから、プロジェクトとしては、当該活動の実施機関である CGDES 調整部を支援する形で、より効果的な活動および成果の発現へと結びつくよう適宜技術支援を実施していく。

なお、今後、当該計画案は教育省中央執行委員会ならびに GPE の承認を経た後、実施へと進められる予定である。

## (2) 国の CGDES への補助金供与

2014 年度 CGDES 調整部活動として、教育省予算により、プロジェクト開発の「補助金モデル」をベースとした 200 校 CGDES への補助金供与活動が計画されたが、今月末にそれにかかる関係各州への予算執行許可が下りたことが確認された。しかしながら、関係者（講師、CGDES）への関連研修が実施されていないことから、関連研修の実施をもって CGDES への補助金供与が執行されるよう、事務次官から各州への通知を発出する手続きが進められた。

## (3) 初等教育大臣との面会

今月初め、10 月 24 日開催のプロジェクト合同調整委員会臨時会合にて合意した通り、3 月開催予定の「みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー」に関して、初等教育省大臣と協議を行った。結果、当該セミナー開催は 2015 年 3 月 10 日～13 日とし、それに向けて準備委員会を省令発出により設置するとともに、中等教育省からの準備委員会への参加、ならびに関連他省のセミナー招待を行うことで合意を得た（詳細別添参照）。

## 5. プロジェクト運営管理

### (1) 予算管理

11 月の支出は 14,265,951Fcfa で、10 月の支出額の 11,383,601Fcfa と合わせると 25,649,552Fcfa となり、これは第 3 四半期の実行計画額 113,492,555Fcfa に対して約 22.60%の執行であった。

### (2) 機材供与

中間評価時にプロジェクト終了を見据え、C/CGDES への業務移行を段階的に行っていくにあたり、C/CGDES の能力強化、特にモニタリングシステムの強化の重要性が示唆された。これまでの機材では作業がスムーズに行えないことが報告されていたこともあり、新たにノート PC3 台とカラーコピー機（計 1,400,000Fcfa）を購入し、12 月 1 日に供与する予定である。

### (3) 事務所管理

スタッフの人数とスペースの関係から、掃除夫一人では掃除の行き届かないことが多く、特に共有スペースの衛生環境に問題があった。清掃作業計画表を作成し、計画的に掃除をするよう指導したところ、少しずつ改善されてきている。

## 6. その他

### (1) 「みんなの学校」プロジェクト群地域経験共有セミナー

先月開催した臨時合同調整委員会、ならびに上記大臣との会合において、当該地域経験共有セミナー開催へ向けた潤滑な準備のための「準備委員会」の設置とそれにかかる省令の発出が協議された。それを受け、CGDES 調整部、EPT プロジェクト、大臣等の意向を



踏まえ、委員会メンバー、会合頻度、責務、運営方法等を盛り込んだ委員会設置を規定する省令のドラフト作成が進められた。今後は、大臣の署名をもって設置へと進めていく。

## 7. 所感

成果：

### 1) パイロット活動の本格的始動と CGDES 調整部能力強化

補助金モデルと質のミニマムパッケージの二つの主要活動において、関係者能力強化から現場での活動開始へと繋がられた点は、モデル改善を目指すパイロット活動において大きく歩を進めたと言える。特に、一連の能力強化研修において、CGDES 調整部の能力強化にも重きを置いて取り組んだ点は、今後 GPE・AFD コモンファンド資金による PAEQ (質の教育支援プロジェクト)や教育省資金による CGDES 補助金供与活動実施に際して、CGDES 調整部が中心的な役割を担うための下準備として有効であったと思われる。結果的には、CGDES 調整部の研修講師（指導側）としての技術的課題が様々見受けられ、今後も継続的な能力強化支援が必要である点は否めないものの、モデルの理解および調整部が担うべき役割意識、技術的な問題点にかかる認識強化へと繋がったと思われる。

### 2) プロジェクト開発「補助金モデル」の対外的な認知と普及開始

上述の通り、GPE・AFD コモンファンド資金による PAEQ (質の教育支援プロジェクト) や教育省資金による CGDES への補助金供与活動の準備が、本格的な実施へ向けて進められている。いずれの補助金供与に際しても、プロジェクト開発の「補助金モデル」の適用が前提となっており、コミュニティオーディットによる「リソースの適切な管理」と、児童の学力向上へ向けた「効果的なリソース活用のための活動計画策定」という二つの能力強化モジュールが導入される。この点は、プロジェクト開発の「モデル」の有効性が教育省ならびに他ドナーにより認知されたと言えるとともに、モデルの普及へ向けた、大きな前進となると言えよう。

### 課題：州教育フォーラムモデルの機能化とその支援体制再考の必要性

今月は、州教育フォーラムモデル開発パイロット活動にかかる懸念が、数値として明確に表れたと言える。今回の目標値を下回る活動結果に関しては、フォーラム開催時期の問題など、当初から予想されていた懸念事項が主に影響したことは確かであり、その意味で、予測事項にかかる事前の対処と結果への見積もりがプロジェクト側でも甘かった点は否めない。その点から、フォーラムテーマとその後の情報伝達・現場活動を念頭に入れた開催時期の適切な設定が、次回フォーラム開催に係る第一の改善事項と言える。

その一方、上記のような技術的側面のみならず、当該モデル自体の機能化にかかる検討を再度進める必要がある。今回のフォーラムでは州知事が非常に強いコミットメントを示しているのは確かであるが、州知事を中心とした執行委員会によるイニシアティブ、情報伝達経路を重視するあまり、現場の情報収集からその結果への対処まで、全体的な対応が

遅れ気味となった点は否めない。州知事を中心とした地方行政の関与は、今回のフォーラムモデルの一つの大きな柱であるが、それが翻って、「上からの通知で下はすべて動く」という行政側のロジックに基づいて今回の活動が進められた感が幾分ある。「州教育フォーラムモデル」において、地方行政の関与の下でどう実践的に機能化させるか、再度検討の余地がある。

さらに加えて、CGDES 調整部およびプロジェクトスタッフ側にも、フォーラム後の状況を十分にモニタリングし、適宜問題に対応しつつ、機能化へと進めていく支援体制が十分になかった点も指摘できる。6月のフォーラム開催後から現在まで、フォーラム以外の各種活動が重なり、現場の情報収集・フォローアップ、現場情報に基づく軌道修正等が十分ではなかった。今後も教育省、およびプロジェクト共に様々な活動が予定されていることから、CGDES 調整部、プロジェクト内共に、活動の適切な調整とさらなる効率的な実施を進める必要がある。

## 8. 12月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
質のミニマムパッケージ算数ドリルファシリテーター講師研修	4～5日
補助金モデル・質のミニマムパイロット活動：児童学力テスト実施・住民集会・活動計画策定（キリタシ）	1～9日
キリタシコミュニティ 37校補助金供与アトリエ開催（ニアメ開催）	8日
ニアメ 2校補助金供与住民集会実施	10日
質のミニマムパッケージ算数ドリルファシリテーターCGDES研修（ニアメ 2校）	11～12日
質のミニマムパッケージ算数ドリルファシリテーターCGDES研修（キリタシコミュニティ 37校）	12～13日
質のミニマムパッケージ算数ドリルファシリテーター校内研修	15～20日
機能する中学校 COGES 計画策定モジュール開発	上旬
中学校 COGES 現地調査	8～12日
中等教育省 COGES 中央推進室能力強化研修：機能する中学校 COGES モデル（COGES 設置研修・計画策定研修）	中旬
機能する中学校 COGES モデル COGES 設置講師研修	中～下旬
機能する中学校 COGES モデル COGES 設置研修	下旬

以上

別添 1：初等教育・識字・国語推進・市民教育省大臣との面会記録（2014年11月5日）

別添 2：GPE・AFD コモンファンド資金「質の教育支援プロジェクト」における CGDES への補助金供与活動計画案

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2014 年 12 月

作成日: 2015 年 1 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 月	JICA 支所との定期会合 補助金対象校住民集会・学力テスト実施	岩田
2 火		
3 水	中等教育省 COGES 中央推進室 (CNP COGES) との会合	影山、ハムザ、ザカリ
4 木	算数ドリルファシリテーター講師研修 (1 日目)	影山、アリ、ヤワレ、調整部
5 金	算数ドリルファシリテーター講師研修 (2 日目) 保護者会中央事務局関係者との会合	影山、アリ、ヤワレ、調整部 影山、ハムザ、中等 CNP
6 土		
7 日		
8 月	キリタシコミュン対象校補助金供与アトリエ JICA 支所との定期会合 中学校 COGES 基礎調査 (ドッソ州ドッソ県) 中学校 COGES 基礎調査 (ドッソ州)	影山、岩田、アリ、ヤワレ、調整部 岩田 ザカリ、中等 CNP
9 火	「質の教育支援プロジェクト」世銀・GPE・AFD ミッション会合 中学校 COGES 基礎調査 (ドッソ州ドッチ県) 中学校 COGES 基礎調査 (ドッソ州ドッソ県・ボボイ県)	影山、アリ ハムザ、中等 CNP ザカリ、中等 CNP
10 水	ニアメ対象校補助金供与 (補助金受領住民集会) 質の教育支援プロジェクト活動計画作成支援 中学校 COGES 基礎調査 (ドッソ州ドッチ・チビリ県) 中学校 COGES 基礎調査 (ドッソ州ボボイ県)	影山、ヤワレ、調整部 影山、アリ、ヤワレ ハムザ、中等 CNP ザカリ、中等 CNP
11 木	中学校 COGES 基礎調査 (ドッソ州チビリ県) キリタシコミュンファシリテーター研修準備・モニタリング	ハムザ、中等 CNP
12 金	キリタシコミュン対象校算数ドリルファシリテーター研修 (1 日目)	アリ、ヤワレ、調整部
13 土	キリタシコミュン対象校算数ドリルファシリテーター研修 (2 日目)	アリ、ヤワレ、調整部
14 日		
15 月	ニアメ対象校算数ドリルファシリテーター研修 (1 日目)	影山、アリ、ヤワレ
16 火	ニアメ対象校算数ドリルファシリテーター研修 (2 日目) キリタシコミュン対象校ファシリテーター校内研修モニタリング	影山 アリ、ヤワレ、調整部
17 水	PTF 会合	アリ
18 木	共和国宣言記念日	
19 金	中等 COGES 中央推進室との会合 (モジュール策定、活動計画策定)	影山、ハムザ、ザカリ、中等 CNP
20 土		
21 日		
22 月	JICA 支所との定期会合 カルマコミュン教育フォーラム (質のミニマムパッケージにかかる意見交換) ニアメ対象校ファシリテーター校内研修モニタリング	岩田 アリ 影山、ヤワレ
23 火	中学校 COGES 調査 (ニアメ)	影山、ハムザ、ザカリ、中等 CNP
24 水	中学校機能する COGES パイロット対象選定会合	影山、ハムザ、ザカリ、中等 CNP
25 木	クリスマス	
	中等関係者能力強化研修準備会合	影山、ハムザ、ザカリ
26 金	中等 COGES 中央推進室能力強化 (COGES 設置研修)	影山、ハムザ、ザカリ
27 土	中学校 COGES 設置講師研修シミュレーション・準備会合	影山、ハムザ、ザカリ、中等 CNP
28 日	質のミニマムパッケージ算数ドリル活動にかかる NHK 電話取材 中学校 COGES 設置講師研修準備・モニタリング	影山
29 月	中学校 COGES 設置講師研修 (ドッソ開催) みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー準備委員会設置省令発出	ハムザ、ザカリ
30 火	中学校 COGES 設置講師研修 (ドッソ開催) 初等教育省事務次官との会合	ハムザ、ザカリ アリ
31 水		

## 2. 今月の総括

今月は、先月に引き続き、各パイロット活動始動にかかる活動に集中的に取り組んだ。

『補助金モデル・質のミニマムパッケージ』結合パイロット活動においては、対象 39 校において、補助金受領、質の改善へむけた活動実施の準備が進められたことから、補助金供与ならびに算数ドリルファシリテーター研修を実施した。その後、各対象校にて、補助金を利用した「算数ドリル」の購入、ファシリテーターに対する「校内研修」が実施され、今月末から 1 月初めに「算数ドリル」活動が開始されることとなった。当該活動の裨益児童は 39 校の 1 年～6 年まで 4125 名（12 月中旬時点、その後新入生の数が急増している対象校あり）、当該活動のファシリテーターとして、教員 112 名、コミュニティファシリテーター 80 名が参加することとなる。

『機能する中学校 COGES モデル』パイロット活動においては、基礎情報収集および中学校関係者への聞き取り調査を実施した後、ドッソ州 4 県 29 校ならびにニアメ州 12 校を当該パイロット校の対象校とすることで確定した。また、対象校への機能する COGES 設置へ向け、COGES 設置にかかるモジュール作成、中等教育省 COGES 中央推進室への能力強化研修、ならびに対象地区の中等 COGES 監督官に対する講師研修を行った。

『州教育フォーラムモデル』パイロット活動においては、最終的に、タウア州の 2014・2015 年度新入学児童の男女比が、フォーラム改善目標値に達しないことが確定した。今回のフォーラム活動結果に鑑み、次回フォーラムへ向けた戦略の転換を行い、モデルの立て直しを図る方向で今後進めていく。

その他、「みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー」開催へ向けて、初等教育省省令により当該セミナー開催特別委員会が設置された。今後は、来月初めの第 1 回委員会会合を開催した上で、本格的な準備を進めていく。

また、GPE・AFD コモンファンド資金の「質の教育支援プロジェクト（PAEQ）」開始へ向けた世銀・AFD 共同ミッションが実施された。CGDES 調整部が担う CGDES への補助金供与活動においても活動内容の協議が行われ、EPT プロジェクト支援のもと、活動計画修正案の作成が行われた。今後も引き続き、当該活動開始へ向けた CGDES 調整部への各種支援を行う予定である。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 補助金モデル・質のミニマムパッケージ結合パイロット活動

先月末にリソース管理・運営、活動計画策定研修を受けた 39 の CGDES（キラタシコミュニケーション 37、ニアメ 2）では、今月の初めから関係者会合、学力テスト、各種住民集会（情報共有、計画策定、計画承認）が実施され、補助金活用による算数ドリル活動開始へ向けた準備が進められた。その間、プロジェクトにおいては算数ドリルファシリテーター研修実施に向けたモジュール改訂、ならびに講師研修を行った。

上記活動の実施を受け、今月上旬には、対象 CGDES への補助金供与、ならびに算数ドリル

を用いた補習活動のためのファシリテーター研修（各 CGDES より 2 名参加）を実施した。補助金供与においては、キリタシコミュン 37CGDES の代表者を集めての補助金供与アトリエを通し、ニアメ 2 校に対しては住民集会を通して行った。なお、39 校に対する補助金額は、学校あたり平均 214,923 フランセーファー、総額 8,382,000 フランセーファーに上る。

補助金受領および関係者の能力強化を終えたそれぞれの CGDES では、補助金を用いて「算数ドリル」や補習活動に必要な資材を購入するとともに、研修に参加しなかった現場ファシリテーターに対する「校内研修」を実施し、算数ドリル活動開始へ向けた準備が進められた。昨年度の当該算数ドリル活動においては、モニタリングや聞き取りを通して、ファシリテーターの質（理解力、実践力・技術等）の問題が少なからず見受けられたが、その原因の一つとして、昨年度実施したカスケード式のファシリテーター研修（各校代表 2 名を直接研修した上で、その 2 名が各地にて他のファシリテーターに研修を行う形式）が十分に機能しなかった点が挙げられる（校内研修が実施されない、実施されても内容が不十分など）。その点を改善するために、昨年度同様にカスケード式とするものの、今年度は、校内研修の実施方法や校内研修シミュレーションを研修内容に盛り込むとともに、CGDES 調整部、現場教育行政官（県教育事務所長、視学官、指導主事、CGDES 監督官）と共同で、校内研修時の視察モニタリングを集中的に行った。結果、全対象校にて校内研修が実施され、かつ比較的安定した内容の研修が実施されたことが確認された。今後、12 月末から 1 月上旬にかけて、現場での算数ドリル活動が開始される予定である。尚、当該活動の裨益児童は 39 校の 1 年～6 年まで 4125 名（12 月中旬時点、その後新入生の数が急増している対象校あり）、当該活動のファシリテーターとして、教員 112 名、コミュニティファシリテーター 80 名が参加することとなる。

その一方、昨年度『質のミニマムパッケージ』活動の対象校であったカルマコミュンおよびニアメ内 107 校においては、各 CGDES の代表者や教員が集結した CGDES 連合総会ならびにコミュンフォーラムの機会を通して、今後の当該活動継続にかかる協議を行った。その中で、一般的に授業外の補習や算数ドリル実施の効果にかかる支持はあるものの、特に、教員からは算数ドリル活動実施の負担に対して金銭的インセンティブに欠けることから、継続が難しいとの声が上がった。今後は、各 CGDES にて住民集会における協議を通して、継続意志のある CGDES に対して引き続きドリルの配布ならびに活動支援を行う予定である。

## **(2) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動**

今月は、パイロット活動を開始するに当たっての中学校 COGES 基礎調査を対象候補地であるドッソ州ならびにニアメ州で実施した上で、当該パイロット活動の対象校を選出するとともに、中学校への COGES 設置にかかるモジュール作成、ならびに関係者への能力強化研修に取り組んだ。

基礎調査においては、先月候補地域の中学校から収集した基礎データをもとに、2 州合計 21 校（ドッソ州 15 校、ニアメ州 6 校）を訪問し、校長、教員、生徒、保護者、保護者会・COGES メンバーへの現状にかかる聞き取りを行った。結果、基礎データならびに訪

問調査状況に基づき、最終的にドッソ州 29 中学校、ニアメ州 12 中学校、合計 41 校を当該パイロット活動対象とすることとなった。

また、中等教育省 COGES 中央推進室とともに、中学校での機能する COGES 設置にかかるモジュールを作成し、COGES 中央推進室メンバーに対する当該モジュールの研修、ならびに対象地域（ドッソ州内 4 県、ニアメ全区）の州・県 COGES 監督官に対する講師研修を実施した。中学校現場関係者への研修講師および今後の中等 COGES モニタリングを担う中等の県 COGES 監督官は、先月の COGES 中央推進室の設置後、新たに設置・任命が進められたポストであり、COGES や学校分権化政策にかかる事前の知識は殆ど有していないに等しい。今回の研修を通していても、当該活動における理解度や研修技術の点においては個人差があることは否めないことから、今後中央 COGES 推進室と共に、継続的な能力強化を通して、COGES 監督官としての知識・理解・技術の安定化を図っていく。なお、来月初めには、対象校校長および教員への COGES 設置研修（選挙研修）を実施する予定である。

### **(3) CGDES/CGDES 連合モニタリング**

10 月下旬～12 月にかけて、全国の CGDES 連合において第 1 回連合総会が開催された。そんな中、今月中旬に、CGDES 監督官会議開催に係る見返り資金が各州に送金されたことを受け、全国の CGDES ならびに CGDES 連合の年度開始活動状況、計画策定状況を見分するため、CGDES 調整部によるタウア州、アガデス州の CGDES 監督官会議モニタリングが実施された。その他の州における CGDES 監督官会議に関しても随時開催される予定である。

なお、CGDES 調整部による CGDES/CGDES 連合活動の情報収集ならびにデータ処理・分析の能力強化へと結びつけるため、今回の一連の CGDES/CGDES 連合関連データの収集は、基本的に CGDES 調整部が中心的に取り組む予定であり、プロジェクトにおいては、CGDES 調整部による州データの収集、処理、分析にかかる技術支援を適宜行う。

### **(4) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動**

6 月に開催した「タウア州教育フォーラム」の新入学児童男女格差改善目標達成へ向け、新学期開始の 10 月から実施されていた新一年生の入学登録が 12 月下旬を前にほぼ確定した。全体的な州内入学児童数（女子児童数を含む）は拡大している一方で、男女比率の点からみると 11 月末の状況からの改善は見られず、12 月下旬時点にて男女比 0.8 と当初のフォーラム目標値である男女比 0.83 の達成見込みがなくなった。

殆どの県にてフォーラム以前の男女比からの目立った改善が見られなかったという点のみならず、「執行委員会」を通じた情報収集・活動モニタリング、ならびに「コミュニケーション連絡会議」を通じた CGDES 連合とコミュニケーションの連携ともに、フォーラムモデル構造の機能化にまで十分至らず、かつ CGDES 連合—CGDES (コミュニティ) 間の情報共有ネッ

トワークも今回は十分にその機能を果たし得なかった可能性が見受けられる。

そのことから、今年度初めに開催を予定していた次回のフォーラムにおいては、新たな教育開発テーマではなく、今回の結果共有、問題の分析、CGDES ネットワークならびにフォーラムモデル機能化へ向けた対策を協議する場として準備を進めていく。

#### 4. 教育省・ドナー関係

##### (1) GPE・AFD コモンファンド「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」ミッション会合

今月上旬に、GPE（教育のためのグローバルパートナーシップ）・AFD（フランス開発庁）コモンファンド資金「質の教育支援プロジェクト」実施へ向けた世銀ならびに AFD の共同ミッションが訪二した。今回のミッションでは 2015 年 1 月のプロジェクト開始へ向けた準備が進められた。その中で、CGDES 調整部が実施機関となる「CGDES への補助金供与」関連活動にかかる計画案の協議会合が開かれ、EPT プロジェクトも当該活動への協力機関として参加した。協議においては、ミッション側から活動実施にかかる資金管理運営手続きマニュアル策定の必要性、ならびに当初計画額から見た活動予算見積り目の妥当性等が指摘されるとともに、関係者間での各種マニュアルの承認会合が提案された。また、EPT プロジェクト側からもコミュニティメンバーに対する研修実施の重要性、および講師研修を明確に盛り込んだ活動計画の再構成にかかる提案を行った。その後、これら協議の結果を元に、CGDES 調整部による活動計画の修正作業をプロジェクトにて支援した。

当該活動開始にあたっては、資金管理手続きマニュアルの作成が一つの要件であることから、当該マニュアル作成支援を行うとともに、それを含むモジュール一式の関係者承認へ向けた CGDES 調整部への支援を進める。

##### (2) みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー開催特別委員会設置

先月から準備を進めていた「みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー」開催特別委員会の設置、構成、権限等にかかる省令が発出された。これにより、3 月のセミナー開催へ向けた教育省側のイニシアティブと準備の進展が期待される。来月頭には第一回会合を開催し、セミナープログラムの共有、開催に係る業務とその分担、教育省側予算の確保、今後の進め方等について協議する予定である。

#### 5. プロジェクト運営管理

##### 1) 予算管理

12 月の支出は 32,635,133Fcfca で、10～11 月の支出額の 25,055,252Fcfca と合わせると 57,690,385Fcfca となり、これは第 3 四半期の実行計画額 113,492,555Fcfca に対して約 50.83%の執行であった。

##### 2) 機材供与

12月1日、CGDES調整部に対して、ノートPC3台とカラーコピー機、電気安定機（計1,400,000Fcf）の機材供与を行った。

## 6. 広報

### (1) プロジェクト活動にかかるNHK電話取材

ニジェール支所を通して、質のミニマムパッケージ開発パイロット活動において実施している「コミュニティ支援の算数ドリル活動」にかかる電話取材をNHK報道局記者より受けた。記者からの質問に基づき、ニジェールの学校現場における問題点、コミュニティ支援による補習時間を活用したドリル活動の概要説明を行った。

## 7. 所感

### 成果：機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動の本格的開始

ニジェール側からの要望が強い一方で、管轄省の変更や担当部署の設置待ち等により、開始が遅れていた「機能する中学校 COGES モデル」開発パイロット活動が、今月ようやく本格的な現場での活動実施に大きく歩を進めることとなった。中等教育省次官、実働カウンターパートである COGES 中央推進室ともに意識が高く、プロジェクトならびに活動への高い理解と真摯な対応も得られており、比較的順調なスタートを切れたと言える。特に、対象地域のドッソ州では州教育事務所長の強い賛同もあり、今後の活動実施にかかる現場の協力体制にも期待できる。確かに、学校現場関係者の能力強化・モニタリング指導を担う中等の県 COGES 監督官は、皆新任の為、当該分野にかかる知識や研修技術も安定していない点は否めないものの、COGES 中央推進室のモチベーションに鑑みても、今後の一連の活動を通して、COGES 監督官の質の安定化へと進めていくことは可能と思われる。

プロジェクト終了まで残り1年半を切り、実質的に一年間の COGES 活動の成果を検分出来る最後の年であることから、モデル構築へ向けて集中的に取り組んでいく必要がある。

### 課題：CGDES 調整部の計画能力と自立的なモニタリング体制の確立

今月、見返り資金を用いた CGDES 調整部による CGDES 監督官会議のモニタリングが2州に対し実施されたが、見返り資金の限られた予算枠の中で、最大限の効果を上げる活動計画であったとは言い難い。その一方、それ以外の州にかかるモニタリング費の支援を全面的にプロジェクトに依頼して来ており、当初からの計画および意識の甘さが伺える。CGDES 調整部の活動計画策定能力強化は、プロジェクト活動の一つとして盛り込まれているが、日常の活動において実践する意識が無い場合は、実用的な技術としては身につかないであろう。今後、CGDES 調整部との会議においてこの点を指摘し、対策を協議していく。



CGDES モニタリング活動（州・県 CGDES 監督官モニタリング費、監督官会議開催費、CGDES 調整部モニタリング費）にかかる見返り資金は、今年度中には終了する。2013、2014 年ともに、初等教育省予算による CGDES 調整部の活動計画に当該活動は盛り込まれ、国家予算による支出が予定されているが、国家予算は実質後払いが基本となっていることもあり、実際予算執行許可に至ったのは 2013 年、2014 年ともに年度末である。今後、見返り資金の終了に伴い、当該活動が国家予算のみで実施される場合、その時機を得た執行がほとんど現実的でない状況下でいかに現場のアクターを動かし、最大限の効果を生む活動とするかは、CGDES 調整部にとって大きな課題となると言える。また、当該活動資金が執行されない（執行が確定しない）ことで、特に州・県レベルのモニタリング活動が滞った場合、プロジェクト活動の進捗にも支障が出ることは明らかであり、その点で対策を検討する必要がある。

## 7. 1 月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
CGDES 調整部・計画局・EPT 合同月例会議	2 日
CGDES 調整部・EPT みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー開催特別委員会第 1 回会合準備会議	5 日
みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー開催特別委員会第 1 回会合	6 日
機能する中学校 COGES 設置研修（ドッソ州、ニアメ州）	5～6 日
中等 COGES 中央推進室能力強化研修（計画策定、簡易財務）	8～9 日
COGES 設置にかかる住民集会（情報共有集会、選挙集会）実施・モニタリング	7～28 日
機能する中学校 COGES 活動計画策定・簡易財務講師研修（ドッソ開催）	12～14 日
機能する中学校 COGES 活動計画策定・簡易財務 COGES 研修（ドッソ州、ニアメ州）	29～30 日
タウア州フォーラム執行委員会会合	20 日
州フォーラ準備視学官会議	21 日
質のミニマムパッケージ算数ドリル活動開始	上旬
補助金・質のミニマムパッケージパイロット活動モニタリング	上～下旬

以上

別添 1：みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー開催特別委員会設置省令（抜粋）

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」

## プロジェクト活動月報 2015 年 1 月

作成日: 2015 年 2 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 木	元旦	
2 金	CGDES 調整部・計画局・EPT プロジェクト合同月例会議	全員
3 土	中学校 COGES 活動計画策定モジュール作成会合	影山、ハムザ、ザカリ
4 日	中学校 COGES 設立研修モニタリング	ザカリ、中等 COGES 推進室
5 月	スタッフミーティング(本部:原) JICA 支所との週会合 中学校 COGES 設立研修(ドゴンドッチ会場:ドゴンドッチ県、チビリ県 16 校対象)	全員 岩田 ザカリ、中等 COGES 推進室
6 火	地域経験共有セミナー開催準備特別委員会第 1 回会合 中学校 COGES 設立研修(ドッソ会場:ドッソ県、ポボイ県 13 校対象) 中学校 COGES 設立研修(ニアメ会場:ニアメ 12 校対象)	岩田、影山、アリ ザカリ、中等 COGES 推進室 ハムザ、中等 COGES 推進室
7 水	PAEQ 用補助金管理・活動計画モジュール改訂	アリ、ヤワレ、調整部
8 木	中等 COGES 中央推進室能力強化研修(活動計画策定・簡易財務管理研修) PAEQ 用補助金管理・活動計画モジュール改訂	影山、ハムザ、ザカリ、中等推進室 アリ、ヤワレ、調整部
9 金	中等 COGES 中央推進室能力強化研修(活動計画策定・簡易財務管理研修) PAEQ 用補助金管理・活動計画モジュール改訂	影山、ハムザ、ザカリ、中等推進室 アリ、ヤワレ
10 土	算数ドリル活動モニタリング(キリタシコミュン)	アリ、ヤワレ、調整部
11 日	中学校 COGES 講師研修モニタリング	ハムザ、ザカリ、中等 COGES 推進室
12 月	JICA 支所との週会合 中学校 COGES 活動計画策定・簡易財務管理講師研修(1 日目)(ドッソ開催)	岩田 ハムザ、ザカリ、中等推進室
13 火	中学校 COGES 活動計画策定・簡易財務管理講師研修(2 日目)(ドッソ開催)	ハムザ、ザカリ、中等推進室
14 水	中学校 COGES 活動計画策定・簡易財務管理講師研修(3 日目)(ドッソ開催) 算数ドリル活動モニタリング(ニアメ)	ハムザ、ザカリ、中等推進室 影山、カマラ、調整部
15 木	タウア州フォーラム執行委員会・視学官会議準備会合	影山、アリ、ヤワレ
16 金	スタッフミーティング タウア州フォーラム執行委員会・視学官会議準備会合	全員 影山、アリ、ハムザ、ヤワレ、調整部
17 土		
18 日	タウア州フォーラム執行委員会会合モニタリング	アリ、ハムザ、調整部
19 月	JICA 支所との週会合	岩田
20 火	タウア州フォーラム執行委員会会合 中等 COGES 中央推進室との学力テスト実施準備会合	アリ、ハムザ、ザカリ、調整部 影山、中等 COGES 推進室
21 水	タウア州視学官会議(フォーラム準備会合) セネガル NS プロジェクト訪問受け入れ(プロジェクト紹介、現地視察)	アリ、ハムザ、ザカリ、調整部 影山、ヤワレ、調整部
22 木	中学校学力テスト開発会合	中等 COGES 推進室
23 金		
24 土		
25 日		
26 月	スタッフミーティング(本部:原) JICA 支所との週会合 地域経験共有セミナー開催準備特別委員会会合準備会議 PTF 会合(デッファ州緊急援助)	全員 岩田 岩田、影山、アリ、調整部 アリ
27 火	地域経験共有セミナー開催準備特別委員会第 2 回会合	岩田、影山、アリ
28 水	PTF 会合 算数ドリル活動モニタリング(ニアメ)  中学校 COGES 研修モニタリング	アリ 影山、カマラ、調整部 ハムザ、ザカリ、中等 COGES 推進室
29 木	中学校 COGES 活動計画策定・簡易財務管理研修(1 日目ドッソ州 2 会場)	ハムザ、ザカリ、中等 COGES 推進室
30 金	中学校 COGES 活動計画策定・簡易財務管理研修(2 日目ドッソ州 2 会場) 経験共有セミナーパネルディスカッション関係会議【本部:原、研究所小塚】	ハムザ、ザカリ、中等 COGES 推進室 影山、岩田
31 土	中学校 COGES 活動計画策定・簡易財務管理研修(3 日目ドッソ州 2 会場)	

## 2. 今月の総括

今月も、現在取り組んでいるモデル開発パイロット活動が大きく進展した。

### 『補助金モデル・質のミニマムパッケージ開発』

一連の立ち上げプロセスが終了。対象各地において算数ドリル活動が開始された。モニタリングの結果、順調な立ち上がりやファシリテーションの改善を確認。来月中旬には、中間テストを実施する予定。その他、GPE 資金による「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」での 2800 校補助金供与に関し、プロジェクト開発済みの補助金管理及び計画策定モジュール普及適用を支援した。来月にはこれらのモジュールの承認アトリエが開催予定である。

### 『機能する中学校 COGES モデル開発』

41 対象校に「機能する COGES 設置研修」を実施。全校における順調な設立プロセス（関係者会合、住民集会、選挙集会、COGES 設置）を確認した。さらにドゥソ州内対象校につき COGES への一連の能力強化研修（学校活動計画策定、簡易財務、質の改善）を実施した。来月は残りの対象 COGES に対する当該研修を実施予定。

### 『州教育フォーラムモデル開発』

第 2 回フォーラム開催へ向けた「タウア州フォーラム執行委員会」会合、フォーラム準備州視学官会議を開催。会合では第 1 回フォーラム決議、改善目標に対する現状（活動総括）分析、改善策を協議。さらに、第 2 回フォーラムでの論点・目標、具体的な開催準備も議題となる。なお、第 1 回フォーラムの結果として、女子は 2012/2013 年度に比べ 6,330 名増（男子 2,362 名増）となったことが明らかになった（1 月中旬時点）。

### 『CGDES/CGDES 連合モニタリング』

先月に続き、各州 CGDES 監督官会議の開催を確認。今年度 CGDES および CGDES 連合の活動計画策定状況および活動状況のデータが収集された。今後來月開催予定の国内経験共有セミナーへ向け、取りまとめ、分析を実施する予定。

### 『みんなの学校群地域経験共有セミナー準備』

本セミナー開催に向けて、ニジェール支所、本部、参加国、参加プロジェクト協力を得て、準備進行中。セミナー開催にかかるニジェール側の準備に関しては、本セミナー特別準備委員会の会合を開催し、本セミナー内容・プログラム共有、準備内容の確認と共に、委員会メンバー内での作業・役割分担に取り組む。また、セミナー開催費の教育省とプロジェクト間での費用負担配分協議を実施。その他、セミナー討議議題に関する CGDES 連合とコミュニケーションの連携状況調査を開始した。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 補助金モデル・質のミニマムパッケージ結合パイロット活動

算数ドリル活動の順調な開始、ファシリテーター能力の改善および、GPE 補助金開始支援

11 月中旬から 1 カ月半にわたって進めてきた、関係者能力強化、各種住民集会による計

画策定、補助金供与、ドリルの購入等のプロセスが終了し、今月上旬には、各地対象校にて、質のミニマムパッケージにかかる算数ドリル活動が開始した。その立ち上げ状況を検分するため、プロジェクトにおいては、現地算数ドリル活動のモニタリングを現場行政官と共に実施した。対象校中約 3 分の 1 程度の視察となったものの、全般的には、順調な立ち上げと計画に沿った取り組みがなされていることが確認された。特に、研修やモニタリングを通して、ファシリテーター校内研修の確実な実施へと注力したことから、コミュニティファシリテーターを含めて、比較的大きな問題なく、ドリル活動が進められていることが伺われた。これは、今回の改善されたファシリテーター研修の効果によるものと推定される。なお、活動開始から約 1 カ月半なる来月 2 月中旬には、中間学力テストを実施する予定であることから、実施へ向けた準備を開始した。

その他、教育のためのグローバルパートナーシップ（GPE）資金による「質の教育支援プロジェクト」2800 校に対する CGDES への補助金供与活動の支援として、プロジェクト開発済みの補助金管理及び補助金有効利用のための活動計画策定モジュールを今回の普及適用できるよう、CGDES 調整部と共にモジュール改訂作業に取り組んだ。来月には教育省により当該モジュールの承認アトリエが開催される予定である。

## **(2) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動**

### 機能する COGES 設立研修、ならびに財務・計画策定研修の実施、学力テストの開発、ニアメ地区の課題と都市部対策の必要性

先月の中等教育省 COGES 中央推進室、ならびに対象地域 COGES 監督官への講師研修を経て、今月上旬にはドッソ州 29 校、ニアメ州 12 校に対する機能する COGES 設立研修を実施した。その後、各中学校にて、関係者への報告会合、住民集会、選挙集会等が実施され、今月下旬までに対象校にて COGES 設置が進められた。

また、上記 COGES 設置プロセスと並行する形で、簡易財務研修および学校活動計画策定研修モジュールの作成、COGES 中央推進室への当該モジュール研修にかかる能力強化、ならびに COGES 監督官への講師研修を実施した。そして、今月下旬には、上記プロセスを経て設置された中学校 COGES（ドッソ州 29 校）を対象に、学校活動計画策定、簡易財務、ならびに質の改善活動にかかる研修を行った。なお、当該活動計画策定プロセスにおいては、卒業試験合格率改善活動の実施に取り組むため、学力テストの実施、および住民・保護者への結果共有を策定プロセスに組み込んでいることから、パイロット校での共通テストとして、基本 5 科目（仏語、数学、物理・化学、英語、生物）のテストを開発し、対象校へ配布した。今後、当該研修を受講した対象各校にて、最終学年度生徒を対象とした学力テスト実施される予定である。

当該モデル開発パイロット活動においては、首都ニアメとドッソ州の 2 州を対象としているが、現在までに対象州間にて関係者の当該活動にかかる意識・関与状況において、大きな差が生じてきている。ドッソ州においては現場校長、COGES、保護者、学校関係者

ともに非常に当該活動への意識・関与が高く、州・県 COGES 監督官、ならびにその他行政官もそれに応えるかたち、もしくは後押しするかたちで取り組んでいる。一方のニアメに関しては、研修における学校関係者の参加状況は悪くないものの、COGES 監督官の意識も関与も乏しく、現場の情報収集も十分になされていない。そのため、12校それぞれの現場においてどれほど機能する COGES の設置プロセスを順守した形で進められているか、成否両面を含めて十分に把握できているとは言い難い。今後、最終的な結果の差異と共に、プロセス実施状況の情報収集・検分に努め、今後のモデル拡大を念頭にした、問題点の抽出、場合によっては都市部の特殊性等を踏まえた検討も進める必要がある。

### (3) CGDES/CGDES 連合モニタリング

各州 CGEDS 監督官会議開催、調整部によるモニタリング実施、コンサルタント調査支援

先月に引き続き、現在までにティラベリ州を除く 7 州にて CGDES 監督官会議が実施され、ディップファ州を除く 6 州に対して CGDES 調整部によるモニタリングが実施された。なお、会議にて収集された各州の CGDES・CGDES 連合計画策定、および活動状況は、CGDES 調整部によりその取りまとめが行われている。今後來月下旬予定の国内経験共有セミナーでの共有に向け、適宜プロジェクトにて情報分析等の支援を行う予定である。

その他、3 月開催予定の地域経験共有セミナーの一テーマである「CGDES 連合とコミュニティの連携」にかかるコンサルタントの調査を支援するかたちで、連携状況が優良な 20 コミュニティの選出の上、調査票作成および調査実施にかかる支援を行った。来月上旬には対象者への配布を行い、その後、回収・取りまとめへと進めていく。

### (4) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動

男女格差改善フォーラム活動にて女子 6,330 名増 (男子 2,362 名増)、男女比は 0.79 (目標 0.83 未達成)、全コミュニティでの「コミュニティ連絡協議会」設置、持続的フォーラム開催に向けた課題あり

今月中旬、第 2 回タウア州教育フォーラム開催へ向けた「タウア州フォーラム執行委員会」会合、ならびにフォーラム準備のタウア州視学官会議を開催した。今回の会合では、第 1 回フォーラム決議、改善目標に対する現状 (活動総括) を分析し、問題点を明確にすることで、改善戦略への検討を進めるとともに、第 2 回フォーラムでの論点・目標、具体的な開催準備にかかる協議を行った。

第 1 回フォーラム決議にかかる活動総括として、今回の会合直前 (1 月中旬時点) に、再度 2014/2015 年度新入生登録数の集計を行ったところ、以下の通りの結果を得た。

- 2014/2015 年度タウア州新入生は 97,452 名、内、男子 54,536 名、女子 42,916 名 (州内 2,720 校中 2,061 校 (75.8%) の結果)
- 比較年度 (2012/2013 年時) と比べ、男子は 2,362 名増加したのに対し、女子は 6,330 名の増加

- 男女比 0.79（当初の 0.74 より 0.05 上昇）

児童数の面からみると、女子新入生の大幅な増加が図られており、今回の取り組みが女子の就学促進へ大きく繋がったことを示すものと言える。しかしながら、前回のフォーラム目標である男女比でみると 0.74 から 0.79 と改善が見られたものの、最終的な目標値 0.83 への達成はならなかった。なお、目標値を達成したのは州内 9 県中 3 県のみであった。

また、地域教育開発のためのコミューン内関係者連携とフォーラム活動の持続化を目指した「コミューン連絡協議会」の活動状況、およびコミューンと CGDES 連合の連携に関しては以下の通りの結果となった。

- 州内 44 コミューン中全 44 コミューンにて、当該連絡協議会が設置、公式化（認可発出）
- 全 44 コミューンにて第 1 回コミューン連絡協議会会合が開催
- 全 44 コミューンが 2015 年度コミューン予算に CGDES 連合への活動支援を計画（具体的な金額は不明）
- いずれのコミューンも 2015 年度コミューン予算内で次回フォーラム開催に係る参加費用を明確に計画せず

上記の通り、州内すべてのコミューンにおいて「コミューン連絡協議会」が設置・公式化され、コミューン内連携の枠組みは整った。しかしながら設置後に継続的な会合が実施されることはなく、具体的な上記フォーラム目標達成へ向けた調整・モニタリング機関として機能化するまでには達しなかった。また、今後の州教育フォーラム開催にかかる具体的な予算化へも至らず、州フォーラム持続化へ課題を残すこととなった。

なお、今回の活動総括を通して、フォーラム後の情報伝達、関係者調整・モニタリング機関（フォーラム執行委員会、コミューン連絡協議会）の機能化、および活動モニタリングに問題が見受けられたことから、第 2 回フォーラムにおいては、活動総括を共有した上で、それらの改善策への協議を図るとともに、フォーラムの自立的かつ持続的な開催への具体策、それにかかる各アクターの役割分担を明確化していく。

## (5) 「みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー」開催準備

経験共有セミナー準備は適宜進展、ロジスティック、セミナー内容ともに詰めが必要

当該セミナーに関し、プロジェクトにて開催準備を進めている。準備状況は以下の通り、

- 1) 開催期間【確定】：2015 年 3 月 10 日（火）～13（金）4 日間
- 2) 参加国、機関【概ね確定】：ニジェール、ブルキナファソ、マリ、セネガル、マダガスカル、コートジボワール、ガーナ（専門家）、ケニア（専門家）、世界銀行、UNESCO：IIEP（ケニア人大学教授）、ADEA、ICU、JICA
- 3) 出席者【概ね確定】：140 名（国外約 80 名、国内約 57 名）
- 4) 会議場・宿泊施設【確保済】：ニアメ GRAND HOTEL
- 5) パネル討議【パネリスト確定・各種内容準備中】：

テーマ 1『補助金』については、IIEP 関係者（ケニアッタ大学）、世銀、JICA 研究所からのパネリストで決定。テーマ 2『地方分権』については、議論のベースとなる調査が、JICA コンサルタントにより現在実施中。

6) ニジェール国内初等・中等教育省・JICA・プロジェクト合同「セミナー開催準備特別委員会」【適宜開催】:

当該セミナー開催準備を進めるため、ニジェールにて標記の準備特別委員会（初等教育省省令による）が 12 月下旬に設置され、その後定期的に会合を開催（1 月上旬に第一回会合、下旬に第二回会合を実施）。

- ・ 第一回会合においては、当該セミナー TOR およびプログラム概要の共有、国内参加対象の検討、準備内容の確認と作業分担・実施時期の確定にかかる協議を実施。第二回会合では、TOR、国内参加者の承認および現在までの準備事項の進捗共有、国外参加者受け入れ等の役割分担を行うとともに、本セミナー開催に係るプロジェクトと教育省側の予算分担内容にかかる協議を行った。
- ・ 教育省側負担分に関しては執行にかかる承認を得ている一方で、CGDES 調整部により申請された活動予算計画が現在の開催計画（日数、参加者数、項目単価等）と合致しておらず、かつ予算内訳の調整に制限があることが判明した。そこで、再度教育省内で調整の可能性を探るとともに、プロジェクトと CGDES 調整部間で再度分担内容・予算額の調整を行うこととなった。

## 5. プロジェクト運営管理

(1) 1 月の支出は 21,083,711Fcfa で、これは第 4 四半期の実行計画額 94,952,170Fcfa に対して約 22.2%の執行であった。

(2) 2 月以降、大きな会議が続くことから、年度末に向けて計画的かつ確実な予算執行を行っていく。

## 6. その他、プロジェクト訪問受け入れ等

### (1) セネガル JICA 事務所ナショナルスタッフプロジェクト訪問

今月 21 日、ニジェール視察訪問中のセネガル JICA 事務所ナショナルスタッフによるプロジェクト訪問を受け入れた。CGDES 調整部と共にプロジェクト概要、特に現在プロジェクトにて取り組んでいる各種パイロット活動を中心に説明した後、補助金モデルと質のミニマムパッケージパイロット活動のニアメ市内対象校を視察した。現場視察においては、算数ドリル活動視察ならびに関係者との意見交換を行った。

## 7. 所感

### 成果：みんなの学校群地域経験共有セミナー特別準備委員会の始動

当初予定よりも設置にかなり時間を要したものの、今月初めの第 1 回会合を皮切りに、

地域経験共有セミナーにかかる本格的な準備が開始された。今回の地域セミナー開催に関しては、CGDES 調整部のみならず、初等教育省大臣、事務次官への事前の働きかけが功を奏し、以前ニジェールにて開催した同種のセミナーに比べ、教育省側の主催者としての認識が格段に高いと言える。結果、当初の予定通りにはいかない様相ではあるものの、国内参加者にかかる費用等、教育省によるある程度の予算分担が期待し得ると思われる。また、プロジェクトならびに CGDES 調整部が実質主導である上、関係者調整の難しさがあることは否めないが、省令による特別委員会設置により、他省や他局の関与と作業分担が公に可能となる点は、教育省主催のセミナーとして準備を進めていく上で、ある程度有効に働いていると思われる。今後も継続的な会合と作業分担、進捗確認を通して、確実な準備を進めていく。

## 課題：

### (1) 州教育フォーラムの自立的・持続的開催に向けた具体策の必要性

上記の通り、州教育フォーラムモデルにおいては、まだ十分に機能化へと至っておらず、今後機能化へ向けた軌道修正、戦略・要素の改善が必要となる。特に、自立的かつ継続的なフォーラム開催の実現を可能とする現実的な具体案の検討と提示が求められると言える。関係者一同、州教育フォーラムの持続的な開催の必要性には合意しているものの、観念的な検討に終始し、具体的な案にまで落とし込めていない。今後は、第3回となるフォーラムへ向けて、プロジェクト等外部からの支援なしに、各種費用は何を誰がどう負担するのか、内容は誰がどのように組み立てるのか、誰（何）の発起により進めるのか、全体的な現場の指揮は誰が当たるのか等、具体的な議論を進める必要がある。来月開催のフォーラムにおいては、その点への議論を盛り込み、自立的・持続的開催へ向けた一歩となるよう進めていく。

### (2) 多様な活動の実施過程における質の確保

上記フォーラムを含め、今後2月～3月にかけて、主要なものだけでも「中学校 COGES 研修」、「タウア州フォーラムおよび関連会合」、「国内経験共有セミナー」、「地域経験共有セミナー」と、プロジェクトにとり重要な活動に立て続けに取り組むこととなる。それらの活動の効果的な実施、ならびにその活動から成果を得るに当たっては、十分な準備とその後のフォローアップ・モニタリングが必須であることは言うまでもない。しかしながら、連続して多様な活動が続く際には、準備やフォローアップの面で詰めの甘いものとなりやすく、結果として活動自体の質の低下へと繋がり易い。今後2カ月の活動は、いずれも今までプロジェクト活動を評価し、あるいは今後の活動の成否を決する重要なものである。これらの多様で連続する活動それぞれの質を保ちつつ、成果を生み出すためには、既に残り時間は短いものの、十分な準備計画と適切な作業分担、人材の活用を進める必要がある。



## 8. 2月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
地域セミナー開催準備特別委員会会合	上旬～下旬
CGDES 連合 - コミュニティ連携アンケート調査実施	上旬
タウア州 CGDES 監督官会議 (フォーラム、市長 - 連合会議準備会合)	8 日
タウア州教育フォーラム開催 (コニ)	9 日
タウア州市長 - CGDES 連合会合	10 日
タウア州視学官会議	10 日
質のミニマムパッケージ対象校児童学力中間テスト実施	中旬
質のミニマムパッケージ算数ドリル活動モニタリング	上～下旬
中学校 COGES 計画策定・簡易財務研修 (ニアメ 12 校対象)	5～7 日
中学校 COGES パイロット校学力テスト実施	18～25 日
中学校 COGES 活動計画策定住民集会モニタリング	中～下旬
CGDES/CGDES 連合国内経験共有セミナー (ニアメ開催)	24・25 日

以上

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2015 年 2 月

作成日: 2015 年 3 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 日		
2 月	JICA 支所との週会合	岩田
3 火	地域セミナー開催準備委員会会合 CGDES 連合-コミュニティ連携調査(調査票配布・回収)	岩田、アリ 影山
4 水	タウア州フォーラム準備会合	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ
5 木	スタッフミーティング 地域セミナー開催準備委員会会合 在ニジェール邦人安全対策委員会(在コートジボワール大使館) ニアメ対象中学校 COGES 学校活動計画策定・簡易財務研修(1 日目) タウア州フォーラム準備会合	全員 岩田、アリ 岩田、影山、支所 ザカリ 影山、アリ、ヤワレ
6 金	ニアメ対象中学校 COGES 学校活動計画策定・簡易財務研修(2 日目) タウア州教育フォーラム実施・モニタリングミッション	影山 アリ、ハムザ、ヤワレ、調整部
7 土	ニアメ対象中学校 COGES 学校活動計画策定・簡易財務研修(3 日目) タウア州教育フォーラム事前会合	影山、岩田 アリ、ハムザ、ヤワレ、調整部
8 日	タウア州教育フォーラム事前会合(CGDES 監督官準備会合、視学官準備会合) タウア州教育フォーラム実施・モニタリングミッション タウア州教育フォーラム撮影ミッション	アリ、ハムザ、ヤワレ、調整部 ザカリ、支所(ハッサン)、調整部 コンサルタント
9 月	JICA 支所との週会合 タウア州第 2 回州教育フォーラム開催(コニ)	岩田 アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ、調整部
10 火	タウア州 CGDES 連合・コミュニティ協議会合(コニ) タウア州視学官会議(コニ)	ハムザ、ヤワレ、ザカリ、調整部 アリ、調整部
11 水		
12 木	PMAQ 対象校中間学力テスト実施	ヤワレ
13 金	国内 CGDES・CGDES 連合経験共有セミナー準備会合	影山、アリ、ヤワレ
14 土		
15 日		
16 月	JICA 支所との週会合 PTF グループテーマ会合(学校運営関係) 国内連合経験共有セミナー準備会合/地域セミナー協議	岩田 アリ 影山、岩田、アリ、ヤワレ、ハムザ、調整部
17 火	スタッフミーティング	全員
18 水	地域セミナー現地視察準備学校訪問 中学校 COGES 学力試験実施	アリ、ヤワレ、調整部
19 木	地域セミナー開催準備委員会会合 地域セミナー現地視察準備学校訪問	影山、岩田、アリ 影山、アリ、ヤワレ、調整部
20 金	国内経験共有セミナー準備会合	影山、アリ、ヤワレ、調整部
21 土		
22 日		
23 月	JICA 支所との週会合 国内経験共有セミナー準備会合(シミュレーション)	全員 全員、調整部
24 火	CGDES/CGDES 連合活動国内経験共有セミナー(1 日目)	全員
25 水	CGDES/CGDES 連合活動国内経験共有セミナー(2 日目)	全員
26 木	PTF 会合	アリ
27 金		
28 土		

## 2. 今月の総括

今月のプロジェクト活動においては、2014/2015年度前半のCGDES活動を総括する活動に取り組むとともに、パイロット活動のさらなる進展に取り組んだ。

「補助金モデル・質のミニマムパッケージ」結合パイロット活動においては、算数ドリル活動開始後1カ月半における状況を測るため、中間学力テストを実施した。その結果、1～6年全学年にて事前テストと比べて平均点の上昇がみられ、全体的には正答率が22.9%改善される結果となった。この正答率上昇結果は、昨年度「質のミニマムパッケージ」での事前テストから事後テスト（活動期間約4カ月半）の上昇率とほぼ同様であり、短期間でありながら、確実な改善状況が伺われる結果となった。

「機能する中学校モデル」開発パイロット活動においては、先月に引き続き、活動計画策定、簡易財務、ならびに質の改善活動にかかるCOGES研修を実施した。また、全対象中学校において、主要科目にかかる最終学年生徒を対象とした学力テストを実施し、本格的な現場でのCOGES活動開始へ向けた下準備を進めた。このテスト結果を元に、各校にて住民集会が開催され、問題分析、卒業試験向上へ向けた活動計画策定が進められている。

「州教育フォーラムモデル」開発パイロット活動においては、先月実施した「タウア州教育フォーラム執行委員会」での協議を踏まえ、「第2回タウア州教育フォーラム」、その翌日には「視学官会議」ならびに「CGDES連合・コミュン協議会合」を開催し、前フォーラムでの決議内容にかかる活動結果の共有・評価を行うとともに、次回フォーラム開催へ向けた活動戦略を協議した。前回のフォーラム目標である女子就学促進・男女比改善においては、昨年度比5,671名の女子入学者数増へと繋がった一方で、男女比は0.77と、目標値の0.83には届かない結果となった。CGDES連合とコミュンとの連携においては、州内全コミュンにて「コミュン連絡協議会」が設置され、CGDES連合に対する支援がコミュン予算に盛り込まれた。これらの結果から、次回フォーラム開催へ向けて、引き続き男女比改善へ向けた活動に取り組むと共に、州内アクターによるフォーラムの自立的開催を目指した決議ならびに活動誓約が定められた。

「CGDES・CGDES連合モニタリング」においては、2014/2015年度のCGDES・CGDES連合活動の状況取りまとめを行った。全国17,197 CGDES中90.25%に当たる15,520 CGDESの質の改善にかかる学校活動計画が回収・分析された結果、各校平均5.73活動が計画、一校当たりの計画額は193,410Fefaとなり、全国CGDESにより30億Fefa以上(約6億円)もの動員が予定され、全国2万6千を超える教室建設と共に、年間180時間の増加に繋がる補習・夜間学習が多くのCGDESにて計画されていることが明らかとなった。

これらの活動を踏まえ、今月末には「CGDES・CGDES連合活動国内経験共有セミナー」を開催し、中央・地方関係者と共に活動評価、課題抽出、戦略協議に取り組んだ。

また、特別準備委員会メンバーを中心として、「みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー」の開催準備を進めた。なお、今月初めには、教育省側の費用負担分が固まり、プロジェクトと教育省との共同出資による開催となることが確実化した。

### 3. 今月の主な活動

#### (1) 補助金モデル・質のミニマムパッケージ結合パイロット活動

今月は、質のミニマムパッケージにおける算数ドリル活動開始から1カ月半が経過したことを受け、対象校の児童に対し、中間学力テストを実施した。その結果、以下表の通り、1～6年全学年にて事前テストと比べて平均点の上昇がみられ、全体的には正答率が22.9%改善される結果となった。

学年別平均点							
	1年 (12点満点)	2年 (24点満点)	3年 (44点満点)	4年 (56点満点)	5年 (61点満点)	6年 (61点満点)	全体
事前テスト (正答率)	0.85 (7.1%)	6.33 (26.4%)	12.96 (29.4%)	23.42 (41.8%)	25.35 (41.6%)	34.85 (57.1%)	- (33.9%)
中間テスト (正答率)	4.38 (36.5%)	13.31 (55.5%)	22.43 (51.0%)	34.84 (62.2%)	38.31 (62.8%)	44.44 (79.2%)	- (56.8%)
上昇点 (上昇正答率)	3.5 (29.4%)	6.98 (29.1%)	9.47 (21.5%)	11.43 (20.4%)	12.96 (21.2%)	9.59 (15.7%)	- (22.9%)

対象校クラス別でみると、対象39校にてテストを実施した合計123クラス中116クラス(94.3%)にて平均点が改善した。なお、平均点に変化がなかったクラスは、教員未配属により現在まで授業が実施されていなかった1年生クラスが主であった。

その他、年度末に向けて、対象校に対する供与補助金の証憑書類回収、管理状況の検分を開始した。

#### (2) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動

先月のドゥソ州中学校 COGES への研修に引き続き、今月初めにニアメ州内対象12の中学校 COGES に対する、活動計画策定・財務管理ならびに質の改善活動にかかる研修を実施した。

今月上旬は中学校における学期末試験の実施に加えて、特にニアメでは学生デモ・集会、教員・生徒のストライキ等が重なり、パイロット活動への影響も懸念されたものの、中旬には、当該パイロット活動にかかり開発した統一学力テストが各対象校にて実施され、その結果共有、および学校活動計画策定にかかる住民集会開催が進められている。今後、引き続き学校活動計画策定が行われ、各地にて活動計画承認にかかる住民集会が開催されたのち、3月中旬には各校にて卒業試験結果改善へ向けた補習・強化活動が各校にて実施される予定である。

### (3) CGDES/CGDES 連合モニタリング

昨年 12 月～1 月にかけて各州にて回収された今学年度（2014/2015 年度）第一四半期の CGDES/CGDES 連合活動計画策定状況等が、プロジェクトの支援の下、中央 CGDES 調整部とともに取りまとめられた。その結果、今学年度初めの CGDES 活動にかかる状況としては、全国 17,197 CGDES 中 90.25%に当たる 15,520 CGDES の質の改善にかかる学校活動計画が回収・分析された（1 月下旬時点）。治安悪化により、通年よりも大幅に値を下げたディッファ州を除いて、いずれの州でも 9 割前後の回収率となり、ディッファ州の影響がある中でも、全般的には例年と遜色なく 9 割以上の CGDES とそれを支えるモニタリング・情報網の順当な機能性の維持が伺われる結果となった。

全国的な CGDES 学校活動計画策定結果としては、各校平均 5.73 活動が計画され、一校当たりの計画額は 193,410Fcfa、全国 CGDES の計画総額は 30 億 Fcfa 以上（約 6 億円）に上った（下表 1、2 参照）。特に、アクセス向上にかかる「(藁葺等) 教室建設」活動においては、全国で 2 万 6 千教室（CGDES あたり 2 教室）の建設が計画されるとともに、質の改善へ向けた「補習・夜間学習」においては、5 割～7 割の CGDES において CGDES あたり年間 180 時間（両活動実施の場合）もの学習時間増加へ繋がる計画となった。

表 1：過去 4 年間の学校活動計画回収・分析状況推移

2011-2012 年度 回収率	2012-2013 年度 回収率	2013-2014 年度 回収率	2014-2015 年度回 収率	4 年間の平均回収 率
94.63%	91.67%	92.04%	90.25%	92.15%

表 2：2015/2016 年度全国 CGDES 活動計画状況

分析学校活動 計画数	計画活動総数	CGDES あたり平 均活動数	計画総額 (Fcfa)	CGDES あたり平均 計画額 (Fcfa)
15,520	89,006	5.73	3,001,730,118 (約 6 億円)	193,410 (約 4 万円)

表 3：CGDES 主要活動計画状況

	分析活動計 画数	当該活動計 画 CGDES 数	当該活動計画 CGDES 割合	総計画数	CGDES 平均
教室建設	15,520	12,867	82.91%	26,219 教室	2.0 教室
補習	14,656	10,371	70.76%	853 386 時間	82.3 時間
夜間学習	14,656	7,396	50.48%	725,421 時間	98.1 時間

CGDES 連合活動においては、年度初めの第 1 回連合総会が全国 266 連合中 259 連合 (97.4%) にて開催され、平均 8 割を超える CGDES 参加率を得た (ただし、治安の影響によりディップファ州においては、両者ともに 6 割程度)。1 月下旬時点での各 CGDES からの拠出金回収率は 5 割、コミューン、その他からの貢献額を併せると、各 CGDES 連合計画額に対し、約 5 割の動員率となった。

#### (4) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動

前月開催した「タウア州教育フォーラム執行委員会」の結果を受け、今年 9 日に『第 2 回タウア州教育フォーラム』を開催した。また、翌 10 日には、フォーラム協議内容をより具体化するための「タウア州視学官会議」ならびに「タウア州 CGDES 連合・コミューン協議会合」を実施した。

#### 『第 2 回タウア州教育フォーラム』

今回のフォーラムにおいては、昨年 6 月に開催した第 1 回タウア州教育フォーラムの決議内容である「女子就学促進／男女比率改善」ならびに、コミューン (市町村) 関係者連携による教育開発のための「コミュニティ (CGDES 連合) と地方自治体 (コミューン) の協議・連携枠組み作り」にかかる活動成果の共有を図るとともに、課題の抽出、解決策の協議に取り組んだ。また、次回、第 3 回州教育フォーラムにおいては、プロジェクトからの支援 (費用、技術) を限定した上で、タウア州内関係者による自立的な開催を目指すことから、今後の州教育フォーラムの自立的・継続的開催実現へ向けた戦略協議を行った。

具体的な前フォーラム活動結果としては、女子就学促進目標に対し、全般的には 99,593 名の新入生中、女子 43,312 名、男子 56,281 名となり、昨年度比 5,671 名の女子入学者数増加 (男子は 3,280 名) へと繋がった一方で、男女比は 0.07 の向上が見られたものの、目標値の 0.83 には届かない結果となった。また、コミューン連絡協議会の設置に関しては、予定通り州内全コミューンにおける設置へと繋がるとともに、CGDES 連合支援のコミューン予算への盛り込みが図られた一方、州教育フォーラムの持続的開催へ向けたフォーラム参加・開催費の予算化には至らなかった (以下、詳細)。

#### 【女子就学促進／男女比率改善】

- 2014／2015 年度新入生登録数 (タウア州内学校中 77% 結果) : 99,593 名、内、男子 56,281 名、女子 43,312 名
- 昨年度比、女子 5,671 名、男子 3,280 名の増加
- 男女比: 0.77 (当初値 0.7 から 0.07 の増加を得たものの、目標値 0.83 には及ばず)
- 州内 (旧) 9 県中、目標値 0.83 に達したのは、タウア市とアバラック県の 2 県のみ

#### 【コミューン・CGDES 連合連携】

### コミュニオン連絡協議会状況

- ▶ タウア州内全 44 コミュニオンにて、「コミュニオン連絡協議会」が許認可発出により設置
- ▶ 全 44 協議会にて少なくとも第 1 回会合が開催

### コミュニオン予算計画

- ▶ 44 コミュニオン中 43 コミュニオンにて「CGDES 連合への支援」がコミュニオン予算内にて具体的に計画
- ▶ 総額 14,650Fcfa(コミュニオン平均 332,955Fcfa)の支援が計画
- ▶ 第3回州教育フォーラム開催・参加にかかる予算計画は、いずれのコミュニオンにても盛り込まれず

上記の結果およびフォーラムの持続的発展にかかる協議から、第 2 回タウア州フォーラムの決議として、引き続き、女子就学促進、男女比へ向けた活動に従事するとともに、フォーラムアプローチを支えるコミュニケーション網の強化、コミュニオンと CGDES 連合連携枠組みであるコミュニオン連絡協議会の機能化、ならびに自立的・定期的な州教育フォーラム開催へ向けて取り組むことが定められた（以下、決議内容参照）。

### **【第 2 回フォーラム決議】**

<b>決議 1</b>	2015 年 10 月の新学期、新入生登録男女比を現在の 0.77 から 0.83 とするための改善活動に従事する
<b>決議 2</b>	関係者へのフォーラム実施報告のための総会、会議を開催するとともに、絶えずこれにかかる情報発信に取り組む
<b>決議 3</b>	学校分権化運営にかかる州およびコミュニオン関係者間の活発な連携を強化するため、フォーラム誓約活動の調整と実施の機関（州教育フォーラム執行委員会、コミュニオン連絡協議会）を活性化する
<b>決議 4</b>	州教育フォーラム執行委員会の下、州教育フォーラムの定期的な開催を担う（費用、内容およびロジ面）

### **『タウア州視学官会議』**

上記フォーラムの翌日に開催された「州視学官会議」においては、前回フォーラム後の活動状況にかかる課題（コミュニケーション、調整機関の機能化、モニタリング）にかかる具体的な改善策・活動を協議すると共に、今回のフォーラム決議にかかる教育行政としての誓約内容を元に、具体的な活動計画（活動、実施責任者、モニタリング責任者、期間）を策定した。

## 『タウア州 CGDES 連合・コミュニン協議会合』

上記視学官会議と並行して、CGDES 連合代表者と市長による協議会合を実施した。主な協議内容は以下の通り。

- ① 前回フォーラムの課題点改善へ向けたコミュニン関係者の活動戦略協議
- ② 州教育フォーラムの持続性確保へ向けた戦略協議：開催費、参加費負担
- ③ 次回コミュニン連絡協議会の討議内容（コミュニン目標設定、フォーラム目標達成へ向けた連携活動協議）

特に、「州教育フォーラム」の持続性確保において、コミュニン予算による開催支援・CGDES 連合代表者の参加費確保が一つの方策となることから、今回の協議では、次回のフォーラム開催におけるコミュニン予算の活用可能性にかかる討議を行った。また、設置後、未だに十分な機能性確保にまで至っていない「コミュニン連絡協議会」を活性化するため、女子就学状況にかかるコミュニンごとの結果と今後の改善戦略にかかる協議を、コミュニン別・県別に行い、コミュニン連絡協議会を通したコミュニン目標設定と具体的な関係者連携活動へと繋げることを目指した。

### (5) 「CGDES/CGDES 連合国内経験共有セミナー」開催

今月 24、25 日に教育省中央・地方の主要な CGDES 関係教育行政官が一同に会しての CGDES 活動にかかる「国内経験共有セミナー」を開催した。当該セミナーは、半年間の CGDES 関連活動結果を共有し、問題の抽出を行うと共に、今後の方向性を協議する場である。主な討議内容は以下の通り。

#### 討議内容（2 日間）

- ① 2014/2015 年度 CGDES・CGDES 連合活動状況
- ② CGDES 連合・コミュニン連携状況アンケート調査結果概要
- ③ プロジェクトパイロット活動結果共有（補助金モデル、質のミニマムパッケージ、州教育フォーラムモデル）
- ④ みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー概要説明
- ⑤ グループ討議
  - 州教育事務所長：「効果的な学校補助金の要件と教育行政の役割」
  - 州 CGDES 監督官：「教育開発のための効果的なコミュニンと CGDES 連合の連携にかかる必要要件と CGDES 監督官の役割」
- ⑥ 現場視察（補助金モデル・質のミニマムパッケージ対象校）：算数ドリル活動視察

今回は、2014/2015 年度の全国 CGDES および CGDES 連合活動の開始状況を共有・評価するのに加えて、現在プロジェクトにて実施している『補助金モデル』、『質のミニマムパッケージ』、『州教育フォーラムモデル』パイロット活動の結果共有を併せて行った。



また、パイロット活動の共有においては、「補助金モデル・質のミニマムパッケージ結合パイロット活動」対象地であるニアメ市内 CGDES の算数ドリル活動の視察を行った。

さらに、当セミナーの参加者は、来月 3 月上旬に実施する「みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー」国内参加者と同様であることを踏まえ、地域セミナーのテーマ・目的を共有するとともに、地域セミナーにてより効果的な討議が出来るようテーマにかかるグループ討議、現場視察等を盛り込んだ。

なお、今回の各種発表、討議を経て、以下の点がセミナー提言として参加者により承認された。

### 提言

- 教育省に対し
  - 1 州教育フォーラムを制度化する
  - 2 新たな県の県 CGDES 監督官を、学校分権化政策にかかる経験を持つ教員の中から任命する
- CGDES 調整部・EPT プロジェクトに対し
  - 1 CGDES・CGDES 連合活動モニタリングにかかる回収情報のひな形を統一する
- 市長に対し
  - 1 視学官の提案を考慮した上で、(未だ任命されていない場合) 教育担当を任命する
  - 2 コミュニオン・CGDES 連合の連絡協議会設置を進める

### **(6) 「みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー」開催準備**

先月から当該セミナー準備委員会等を通して協議を続けてきた、セミナー開催における初等教育省とプロジェクトとの費用分担が、初等教育省大臣の承認を経て固まった。最終的に教育省側予算は当初計画より減額されたものの、国内参加者にかかる費用、現地視察、参加者配布キット（一部）など 6,695,000Fcf だが、ニジェール初等教育省より支出されることとなった。その他の開催にかかる費用（会議費、会場費、参加者配布キット他）は、プロジェクト側からの支出となる。

なお、開催に係る費用分担が確定したのを受け、準備委員会会合を定期的に行い、役割分担を再度明確化すると共に、適宜進捗確認を行いながら各種準備を進めた。特に現地視察においては、70 名以上の参加者による視察となることから、数回の事前訪問を行い、現場関係者との調整を行った。

### **4. プロジェクト運営管理**

- 1) 2 月の支出は 33,776,157Fcf であり、1 月分と合わせると 54,859,868Fcf となり、第 4 四

半期の実行計画額 94,952,170Fcf に対して約 57.77%の執行状況である。

2) 年度末を控え、また「みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー」の開催があることから、確実な予算執行を行いながら、年度末に備えて早めに締め作業を行っていく。

3) 来年度の契約（コンサルタント、ナショナルスタッフ、機器メンテナンスなど）の契約が年度末で終了することから、支所と相談しながら来年度の契約をすすめていく。

## 5. 所感

### 成果：

#### 1) パイロット活動の全国的な共有

今回の国内経験共有セミナーでは、州教育事務所長に加えて、より現場に近い全国の州 CGDES 監督官に対し、補助金モデル、質のミニマムパッケージ、州教育フォーラムモデルと各種パイロット活動結果の共有を行った。特に今回「補助金モデル」の説明と結果共有、現場視察を行えたことは、単なるプロジェクト活動の情報共有という意味に留まらず、GPE（教育のためのグローバルパートナーシップ）資金や国家予算による CGDES への補助金供与活動の実施に際する布石として、有効な機会となったと言える。今回の参加者の中でも州 CGDES 監督官は、補助金にかかる関係者への能力強化研修を行う際に講師を務めることとなることから、リソース管理とその使い方にかかる能力強化の重要性と効果の認識を得たことは、今後の関係者能力強化プロセスに有益に働くことが期待される。

#### 2) 教育省による「地域セミナー」開催費負担

当初計画よりは減額となったものの、初等教育省による地域セミナーの一部負担が確定した。減額となった原因としては、計画策定に際しプロジェクト側との事前調整を怠った点、ならびに、セミナー開催にかかる必要事項の予測や各種項目に対する見積もりの甘さ、また、CGDES 調整部が教育省の予算執行手続きにあまり通じていない点などが挙げられる。しかしながら、現在までに 5 回実施している当該地域セミナーにおいても、相手国政府による（一部なりとも）費用負担は初めてのことであり、プロジェクトやドナーからの支援に依存する部分が多いニジェール教育省の状況に鑑みると、非常に大きな進展と言える。このことはニジェール教育省内においても、当該分野における周辺国の先駆者としての自負と共に、今回のニジェール開催の重要性を意識した上で、国としてのイニシアティブを発揮したという意味で評価できよう。

### 課題：パイロット関連活動の拡大への具体的な展望

上記の通り、今回の国内経験共有セミナーを通し、全国の地方関係者に対する各種パイロット活動の結果を共有した。今回の共有は、州 CGDES 監督官にとっては直接的な情報共有を得る初めての機会であったことから、モデル説明および結果共有、現場視察、討議

を盛り込んだものの、全般的には概要を説明するに留まったため、現場アクターが実際のこの経験をどのように活用していくかという点で示唆を与えるまでには至っていない。補助金モデルに関しては、今後 GPE 資金ならびに国家予算による CGDES への補助金供与が確定しており、確実なモデルの適用とパイロット活動経験を生かすことが求められ、今回の共有がその布石としての役割を担うことが期待されるが、その一方の「質のミニマムパッケージ」や「州教育フォーラムモデル」に関しては、参加者による当該パイロット活動への興味に反して、直接的に現場での実践に活かされる道筋を示すものではなかった。その結果、特に、現場に近い CGDES 監督官等は、当該パイロット活動に対し建設的な展望やその中での自らの役割を描くことが難しく、時に懐疑的に、時に無関係なものとして捉える姿が見受けられた。今後、各種パイロット活動の展開を念頭に言えうえで、引き続き各種モデルの経験共有を行う一方で、現場関係者に対しても、現場での実践の仕方と今後の展望を具体的なかたちで示す必要がある。

## 6. 3月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
地域セミナー開催準備特別委員会会合	上旬～
CGDES 連合 - コミュニケーション連携調査 (JICA コンサルタント)	1～16 日
みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー準備会合	9 日
みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー (ニアメ開催)	10～13 日
学校分権化運営地域ネットワーク会合	10～13 日中
中学校 COGES 活動計画策定住民集会モニタリング	上旬～中旬
中学校 COGES 質の改善活動モニタリング	中旬～下旬
質のミニマムパッケージ算数ドリル活動モニタリング	上旬～下旬
補助金モデル対象校証憑書類回収	上旬～中旬
タウア州コミュニケーション連絡協議会会合モニタリング・情報収集	中旬～下旬
GPE 資金質の教育支援プロジェクト (PAEQ) モジュール承認会合	未定
プロジェクト・CGDES 調整部・計画局合同月例会議	26 日
教員養成校 CGDES モジュール研修にかかる関係者会合	下旬
原チーフアドバイザー運営指導調査 (地域セミナー準備・開催)	3～14 日

以上

別添 1：第 2 回『タウア州教育フォーラム』参加アクター別活動誓約

別添 2：「国内経験共有セミナー」グループ討議結果

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」

## プロジェクト活動月報 2015 年 3 月

作成日: 2015 年 4 月 1 日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 日	JICA コンサルタントコミュニティ・連合連携調査	
2 月	JICA 支所との週会合 トロディ県マカロンディコミュニティ・連合関係者聞き取り 地域セミナー現地視察受け入れにかかる現場行政官との打ち合わせ PTF テーマ別グループ会合	岩田 JICA コンサルタント アリ、ヤワレ、調整部 アリ
3 火	原チーフアドバイザー運営指導調査	
	地域経験共有セミナー開催準備特別委員会会合 コロ県リボレコミュニティ・連合関係者への聞き取り	岩田、影山、アリ JICA コンサルタント
4 水	スタッフ会議 教育省インクルーシブ担当部署との会合 地域セミナー現地視察受け入れ準備	全員 原 ヤワレ、調整部
5 木	世銀との会合 地域セミナー発表シミュレーション	原 影山、アリ、ヤワレ、調整部
6 金	地域経験共有セミナー開催準備特別委員会会合 見返り資金関係会合 JICA コンサルタントとのシミュレーション	岩田、影山、アリ 調整部 原、影山
7 土	JICA コンサルタントとの打ち合わせ セネガル日本人専門家との打ち合わせ	原、影山 原、影山、岩田
8 日	パネリストとの打ち合わせ	原、影山
9 月	地域セミナー開催準備委員会会合・シミュレーション 地域セミナー会場準備 地域セミナー現地視察受け入れ準備	影山、アリ、ヤワレ、準備委員会 岩田、アワ ヤワレ、調整部
10 火	みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー開催(1 日目)	全員
11 水	みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー開催(2 日目)	全員
12 木	みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー開催(3 日目)	全員
13 金	みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー開催(4 日目) 教育省統計局長との会合	全員 小塚(JICA 研究所)、原、影山
14 土		
15 日		
16 月	JICA 支所との週会合 補助金モデル対象校証憑書類回収	岩田 ヤワレ
17 火		
18 水	GPE 資金補助金供与手続きマニュアル方針会議・改訂作業	影山、アリ、ヤワレ
19 木	GPE 資金補助金供与手続きマニュアル方針会議・改訂作業 ハンディキャップインターナショナルとの会合 地域セミナー議事録作成会合	影山、アリ、ヤワレ 影山、アリ ヤワレ、調整部
20 金	地域セミナー議事録作成会合	ヤワレ、調整部
21 土		
22 日		
23 月	JICA 支所との週会合 調整部との GPE 資金学校補助金供与手続きマニュアルにかかる方針会議	岩田 影山、アリ、ハムザ、ヤワレ、調整部
24 火	PTF テーマ別グループ会合	アリ
25 水	PME 資金学校補助金供与手続きマニュアル改訂	ヤワレ、調整部
26 木	PME 資金学校補助金供与手続きマニュアル改訂 児童インタビュー	ヤワレ、調整部 影山
27 金	地域セミナー開催準備委員会会合(実施総括・報告書作成) 機能する中学校 COGES 活動(補習)モニタリング(ニアメ) PME 資金学校補助金供与手続きマニュアル改訂	岩田、影山、アリ、委員会メンバー 影山、ハムザ ヤワレ、調整部
28 土		
29 日		
30 月	JICA 支所との週会合	岩田
31 火	2014 年度会計締め	

## 2. 今月の総括

今月は数カ月に渡る準備を経て、「みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー」を開催した。当該セミナーは、JICA 支援により学校運営改善プロジェクトを実施している周辺国の関係者が一同に会し、各国の経験を共有するとともに、域内共通の問題および対策を協議する場として定期的に開催されてきたものである。今回の開催に当たっては、「地方行政とコミュニティ」、「成果を上げる学校補助金」、「住民参加を通じた質の改善」というより広域的な関心事項をテーマとするとともに、みんなの学校群の経験と成果を広く発信するため、コートジボワール、マダガスカル等の教育省関係者、JICA 個別専門家、国内外ドナー等の参加を得るとともに、パネル討議のためのゲストスピーカーを招聘するなど、総勢 140 名に上るセミナーとなった。

「補助金モデル・質のミニマムパッケージ」結合パイロット活動においては、今年度対象校全てが、プロジェクト供与の補助金全額を質の改善にかかる活動のために支出したことが確認され、それに関連するすべての証憑書類を回収した。また、補助金モデルパイロット活動と並行して 2012 年より JICA 研究所と共に取り組んできた「補助金介入評価調査」においては、そのエンドライン調査の分析結果が JICA 研究所より共有された。補助金に加えて、リソース管理とその使い方(児童の学習効果に繋がる活動計画策定)にかかると能力強化を含む、プロジェクト開発の「補助金モデル」を導入したグループが、児童学力テスト結果において、他グループよりも平均点が高いことが確認された。その背景として、このグループでは、当該モデルを導入していないグループより多くの CGDES が補習・夜間学習に取り組み、児童の参加率も良く、かつ(家族の支援のもと)児童の自宅学習時間が増加していることが判明した。これらの結果は、プロジェクトが導入した能力強化の効果をまさに示すものと言える。

「州教育フォーラムモデル」開発パイロット活動においては、先月のフォーラム開催を受け、各 CGDES 連合にて、コミュニオンならびに教育行政による支援の下、フォーラム報告のための連合総会が開催された。また、CGDES 連合とコミュニオン(市)との連携を促進し、フォーラム目標達成へ向けた協働や次回フォーラム開催に係るコミュニオンの支援内容を協議する「コミュニオン連絡協議会」が各コミュニオンにて開催された。

「機能する中学校 COGES モデル」開発パイロット活動においては、先月実施した学力試験のコミュニオンとの結果共有を通して、各地で学校活動計画が策定され、それに基づく中学卒業試験結果改善へ向けた補習・強化学習活動が開始した。

その他、教育のためのグローバルパートナーシップ(GPE)資金による「CGDES への直接補助金供与活動」実施へ向け、当該資金の流れ、管理・運用規定となる「補助金運用マニュアル」の作成支援を CGDES 調整部に対し行った。なお、当該補助金供与においては、プロジェクト開発の「CGDES への補助金供与にかかる能力強化モデル」が適用される。今後、今回作成した運用マニュアルの他、プロジェクト開発の「リソース管理」「質の改善のための活動計画策定」マニュアルの承認が行われ、当該活動始動へと進められる予定である。

### 3. 今月の主な活動

#### (1) みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー開催

今月 10 日～13 日の 4 日間、国内、国外総勢およそ 140 名の参加を得て、『みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー』をニジェール首都ニアメにて開催した。当該地域経験共有セミナーは、JICA 支援により学校運営改善プロジェクトを実施している周辺国の関係者が一同に会し、各国の経験を共有するとともに、域内共通の問題および対策を協議する場として、2006 年より各国持ち回りで実施されてきたものである。昨年度 2 月にはセネガルのダカールにて開催され、定期的な当該セミナーの開催が提言として挙げられたことを受け、ニジェール教育省およびプロジェクトの提案により、2015 年度のニジェール開催が決定した。

今年度は例年通りのブルキナファソ、マリ、ニジェール、セネガルといった「みんなの学校プロジェクト群」関係者（日本人専門家、カウンターパート等）に加え、コートジボワール、マダガスカルから教育省ならびに JICA 関係者、ガーナ、ケニアから JICA 個別専門家、世銀、ADEA、UNICEF、ローカル NGO 等の参加も得ることとなった。これは、既存のプロジェクト実施国のみならず、みんなの学校群の経験を他国ならびにドナー等に広く共有することを今回のセミナーにおける一つ目的としたことに拠るものである。

なお、今回のセミナーの討議テーマは以下の三点である。

- コミュニティと地方行政の協働による教育開発
- 成果のでる学校補助金
- コミュニティ参加を通じた教育の質の改善活動

今回初めての試みとして、セミナーの討議テーマである“コミュニティと地方行政の協働による教育開発”と“成果のでる学校補助金”においては、国際基督教大学の西村教授をモデレーターとして迎えた「パネルディスカッション」形式を採用し、広島大学の小塚教授（JICA 研究所）、ケニアッタ大学のンデリツ教授（IIEP/UNESCO の紹介）、世銀、各国代表者からモデレーターおよびパネリストとしての参加を得た。

「コミュニティと地方行政の連携」テーマに関しては、JICA コンサルタントが事前に 3 か国（ブルキナファソ、セネガル、ニジェール）にて実施した調査結果をもとに、地域教育開発へ向けた両者の関係改善の要素にかかる討議が行われた。「補助金」テーマにおいては、まず、ケニアッタ大学のンデリツ教授により、UNESCO の IIEP が 9 か国にて実施した学校補助金の研究調査結果を元に、学校補助金の世界的な状況共有がなされた。そして次に、広島大学の小塚教授により、JICA 研究所がニジェールにて実施した「補助金介入インパクト評価」の分析結果が共有され、リソース管理とその使い方（計画策定）の能力強化を含むプロジェクト開発の「補助金モデル」の有効性が示された。パネルディスカッションにおいては、これら二つの調査結果を元にして、より成果を上げる補助金供与の必要要件、補助金政策の方向性、戦略にかかる討議に取り組んだ。

その他、三つ目のテーマである“コミュニティ参加を通じた教育の質の改善活動”においては、ニジェールとセネガルで実施されている“算数ドリルを用いた補習活動”を事例として共

有するとともに、それを実践するニアメ市内の学校視察・活動見学を行った。

今回の4日間のセミナーでは、例年のように、プロジェクトを実施している各国の経験・活動結果のみをベースとするのではなく、より普遍的テーマにかかる各種調査結果の共有とパネリストによる討議という、外部からのより俯瞰的な視点を入れることで、背景やプロジェクト進度の異なる参加国間の活発な討議が可能となったのみならず、各国ごとに具体的かつ実現可能な活動戦略の検討へと結びつけることに繋がったと思われる。

## (2) 補助金モデル・質のミニマムパッケージ結合パイロット活動

今月は会計年度末となることから、今年度39CGDESに対し供与した補助金にかかる証憑書類の回収を実施した。証憑書類内容にかかり細かい部分での修正、取り直し等が生じたものの、今月中旬には、プロジェクト支援の学校補助金にかかる全額支出が確認され、かつ全証憑回収に至った。活動面に関しては、ほぼすべてのCGDESが順調に活動を続けていることが確認された。来月には、算数ドリル活動のファシリテーション技術の向上、ならびに学年度末から来年度へ向けた課題抽出と戦略検討のためのファシリテーター経験共有アトリエを実施予定である。

その他、プロジェクト開発「補助金モデル」関連モジュールに関し、ニジェール教育省ならびに他ドナーによる適用が可能となるよう、汎用性の高いマニュアル改訂に取り組むとともに、それを基にした教育省の学校補助金運用マニュアルの作成支援に取り組んだ。

## (3) 補助金介入評価調査

2012年より2年間に渡り、プロジェクト実施の補助金モデル開発パイロット活動と並行して、JICA研究所により補助金介入インパクト評価が実施されたが、今回、上記の「みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー」において、当該介入インパクト評価分析結果が広島大学小塚教授（JICA研究所）より共有された。当該評価調査は、対象校を三種①コントロールグループ（介入なし）、②補助金+リソース管理研修グループ（「補助金グループ」）、③補助金+リソース管理+計画策定研修（リソースの使い方）グループ（「能力強化グループ」）に分け、児童の学力への効果を分析するものであり、上記グループ③に当たる、一連の能力強化を盛り込んだプロジェクト開発「補助金モデル」の有効性を示すことを目的とした。共有された結果概要（一部抜粋）は以下の通りである。

### (1) 算数・フランス語学力テスト結果

- 算数とフランス語の平均点は、ベースライン時いずれのグループも同程度であったものが、エンドライン時には、二つの能力強化を受けた③「能力強化グループ」の平均点が他のグループよりも上回った。これらグループ間の違いは、（4年の仏語を除き）統計的に有意な差が生じている。

表 1：エンドライン正答率比較

	算数			仏語		
	CE1(3年)	CE2(4年)	CM1(5年)	CE1(3年)	CE2(4年)	CM1(5年)
①コントロールグループ	30%	29%	32%	11%	26%	31%
②補助金グループ	32%	35%	30%	10%	29%	30%
③能力強化グループ	<b>42%</b>	<b>38%</b>	<b>38%</b>	<b>16%</b>	<b>31%</b>	<b>40%</b>

①「コントロールグループ」: 介入なし

②「補助金グループ」: 補助金+リソース管理研修

③「能力強化グループ」(EPTモデル): 補助金+リソース管理+計画策定(リソースの有効利用)研修

- 上記結果は、**能力強化が児童の学力向上に効果的であった**ことを示していると言える。

## (2) 補助金の使い道

- 学校補助金は、②「補助金グループ」③「能力強化グループ」共に、教科書、教員ガイド、文房具等の購入に使用された。それにも関わらず、上記結果の差異が出たことは、購入品の活用が②「補助金グループ」にて効果的に行われなかったことが予想される。

## (3) 実施 CGDES 活動の違い

- 校外学習において、グループ間の違いが見て取れる
- ③「能力強化グループ」の児童は他グループに比べて、より多くの補習や夜間学習に参加しており、③「能力強化グループ」のほとんどのCGDESが補習と夜間学習の実施支援に取り組んでいた。また、③「能力強化グループ」児童は、家族の支援のもと、より自宅学習に取り組んでいる傾向が見られた。
- 追加学習ならびに自宅学習が児童のテスト結果と相関していることが確認された。

表 2：補習・夜間学習への児童の出席状況（出席率）比較

	補習		夜間学習	
	ミッドライン調査	エンドライン調査	ミッドライン調査	エンドライン調査
①コントロールグループ	14%	28%	11%	24%
②補助金グループ	24%	36%	22%	42%
③能力強化グループ	<b>39%</b>	<b>54%</b>	<b>43%</b>	<b>48%</b>



表 3：自宅学習時間比較

	自宅学習時間(H)	
	ミッドライン調査	エンドライン調査
①コントロールグループ	0.68	1.4
②補助金グループ	0.87	1.4
③能力強化グループ	<b>1.15</b>	<b>1.77</b>

表 4：CGDES 実施活動状況比較（当該活動実施 CGDES の割合）

	補習			夜間学習		
	ベースライン	ミッドライン	エンドライン	ベースライン	ミッドライン	エンドライン
①コントロールグループ	63%	69%	51%	35%	41%	35%
②補助金グループ	63%	68%	59%	50%	55%	59%
③能力強化グループ	<b>59%</b>	<b>83%</b>	<b>83%</b>	<b>39%</b>	<b>86%</b>	<b>79%</b>

今回共有された JICA 研究所の分析結果は、プロジェクト開発の「補助金能力強化モデル」の有効性を示したのに加え、今後の学校補助金政策の方向性を指し示す上で、非常に重要かつ意義のあるものであると言える。今後、ニジェールにおいては、ドナー並びに国による CGDES・学校への直接補助金供与が計画されていることから、当該調査結果を広く発信していくことが求められよう。

#### (4) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動

先月に引き続き、各地で活動計画策定にかかる住民集会が実施され、今月中旬には、対象校での卒業試験合格率改善へ向けた補習・強化学習活動が開始されている。今月末のイースター休暇を利用した最終学年生徒に対する集中的な補習活動の実施に取り組む対象校がある一方で、中等 COGES に関しては、まだモニタリング支援体制が確立していないため、全体的な情報収集に遅れが生じており、特にニアメでの情報収集および活動の立ち上げの遅れが顕著である。この点は今後の課題として、4月以降のモニタリング強化を進めていく。また、今後も引き続き、活動状況の情報収集・モニタリングを行うとともに、来月には、5月に実施予定の第1回目模擬試験実施へ向けた準備に取り組む予定である。

#### (5) CGDES・CGDES 連合モニタリング

先月から今月にかけて、各地にて今学年度中間総括となる CGDES 連合総会が開催された。その結果、学校活動計画回収率が 92.6%へと上昇、全国 CGDES 連合への拠出金回収率も 6割（3月上旬時点）へと進展が見られた。

表 1：2015／2016 年度全国 CGDES 活動計画状況（3 月上旬）

分析学校活動 計画数 (回収率)	計画活動総数	CGDES あたり平 均活動数	計画総額 (Fcfa)	CGDES あたり平均 計画額 (Fcfa)
16,490 (92.6%)	89,397	5.42	3,046,957,375 (約 6 億円)	184,776 (約 4 万円)

表 2：2015／2016 年度 CGDES 連合動員状況（3 月上旬）

連合数	拠出金 回収率	CGDES 拠出 総額 (Fcfa)	コミュニン支 援総額 (Fcfa)	他パートナー 支援総額 (Fcfa)	CGDES 連合 動員合計 (Fcfa)	CGDES 連合 計画額 (Fcfa)	動員率
266	59.1%	58,023,620	15,554,075	10,442,050	84,019,745	167,875,725	50.05%

#### (6) 州教育フォーラムモデル開発

先月から今月にかけて、タウア州にてフォーラム報告の CGDES 連合総会、並びにコミュニン連絡協議会会合が開催された。両者ともに、先月 2 月に開催した第 2 回タウア州教育フォーラムの報告が主要議題となった。

連合総会に関しては、ほぼすべての連合が報告総会を実施し、かつ、メンバー CGDES による住民集会の開催報告が上がってきている。一方のコミュニン連絡協議会に関しては、まだフォーラム後の開催に至っていないコミュニンがあるものの、フォーラムでの協議および決議、ならびに各アクターによる活動誓約に加え、フォーラム翌日に実施した「CGDES 連合・コミュニン協議会合」での意見交換、戦略協議が功を奏し、多くの市長がより積極的な関与（特に、フォーラム報告連合総会への参加）を示していることが報告された。

来月は、翌 2015／2016 年度新入生募集へ向けた、第 1 回目の事前登録を開始することとなる。

#### 4. 教育省・ドナー関係

##### (1) GPE・AFD コモンファンド「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」

当 PAEQ プロジェクトの CGDES への補助金供与活動（学校改善のための補助金）に関しては、教育省・資金元の世銀・フランス開発庁との合意の下、みんなの学校プロジェクト開発のリソース管理および活動計画策定モジュールを、CGDES 能力強化モデルとして採用することとなっているが、別途、資金の流し方、資金管理・モニタリング等の規定となる「補助金運用マニュアル」の作成および承認が条件化されていることから、教育省

CGDES 調整部により当該マニュアルのドラフト開発が進められた。

しかしながら、CGDES 調整部により作成された運用マニュアルドラフトにおいて、調整部が他の支援ドナーの協力を得て開発したことから、プロジェクト開発の「補助金モデル」と合致しない内容が散見された。これではプロジェクトの「補助金モデル」の適用にはならず、CGDES 能力強化内容との齟齬による現場での混乱が生じるのみならず、「補助金モデル」自体の効果を減ずる結果となることが予想されることから、CGDES 調整部との協議を経て、再度「補助金運用マニュアル」の抜本的な見直しをすることで合意、プロジェクトの全面的な支援により、プロジェクトの「補助金モデル」モジュールに基づく「運用マニュアル」作成をおこなった。

今後、教育省により、当該「運用マニュアル」、およびプロジェクト開発のリソース管理マニュアル、(補助金活用にかかる)活動計画策定マニュアルの 3 種マニュアルの承認アトリエが開催されることとなる。

## (2) Handicap International との会合

ニジェール国にてインクルーシブ教育支援に取り組む当該 NGO からの依頼により、みんなの学校プロジェクト活動の説明、および意見交換を行った。なお、当プロジェクトからは、CGDES 全般 (ミニマムパッケージ、CGDES 活動内容・動員状況、プロジェクト変遷、インパクト等)、および現在の取り組み (パイロット活動：補助金モデル、質のミニマムパッケージ、州教育フォーラムモデル) にかかる概要プレゼンテーションを行った。

今回の会合を通して、「個々の児童ニーズに即した学び」を支援する「質のミニマムパッケージ (コミュニティ支援算数ドリル活動)」に代表されるみんなの学校のアプローチは、当該 NGO におけるインクルーシブ教育の理念である「児童一人ひとりのニーズに合わせた学び」と合致している上、みんなの学校によるコミュニティアプローチはニジェール国内にて広く普及されているため、みんなの学校プロジェクトとの連携・協働は、今後のインクルーシブ教育普及に貢献する可能性があり、実施したい旨の発言が、当該 NGO 代表からなされた。

たしかに、当該 NGO の代表が説明するインクルーシブ教育の概念とプロジェクトアプローチに全体的な親和性は見出されるが、当該 NGO は、「CGDES・コミュニティの”利用価値”」を認め、自分たちの方針・活動を進める手段として「CGDES の活用」といった、CGDES を活動に関与させている多くの団体・機関と同様の認識を持っており、その点で当該 NGO のコミュニティに対するアプローチは限界がある。当該 NGO などの考え方は、インクルーシブ教育のコミュニティの役割を限定し、インクルーシブ教育進展の可能性を狭めている。このようなコミュニティアプローチに相違のある NGO との直接的な協働や、拙速なみんなの学校による現在のニジェールインクルーシブ教育への直接的介入は難しいと思われる。

一方、本プロジェクトでは、教育開発に関するコミュニティのマイノリティーや女子、あるいは、「個々の児童のニーズ」に対する対応や改善の経験を積み重ねており、これらの視点か

ら、インクルーシブ教育に対するコミュニティの具体的な対応例を付け加えた提言を行えば、当該 NGO、ひいてはニジェールのインクルーシブ教育のコミュニティアプローチの改善へ貢献できると思料する。(別添、会議議事録を参照)

### (3) 見返り資金

教育省 CGDES 調整部ならびに州・県 CGDES 監督官への情報収集体制強化、移動手手段の補強にかかる見返り資金への申請が、プロジェクト支援の下、教育省により昨年度 9 月に行われた。これは、ニジェール国における CGDES 活動の持続性を支える要素としての「機能する CGDES モニタリング・支援体制」を安定・強化、発展させることを目的としたものである。この申請を受け、見返り資金の管理・運用を担当する計画省にて、見返り資金申請プロジェクトにかかる会合が実施された (CGDES 調整部による参加)。

今後、プロジェクト活動においても、CGDES 活動の成果の維持と発展をさらに強固なものとするため、CGDES モニタリングシステムの評価・承認アトリエを開催し、モニタリングシステムの公式化へと進めていく予定であり、当該見返り資金による体制維持支援はそれを補強するものとして期待される。そのことから、引き続き、見返り資金獲得へ向けた教育省、CGDES 調整部への支援に取り組む。

## 5. プロジェクト運営管理

- 1) 3 月の支出は 27,323,319Fcfa で、第 4 四半期の合計は 83,183,187Fcfa となった。「みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナーの際に JICA 支所からプロジェクト予算で支払われたセミナー開催費 11,675,500Fcfa を合わせると 94,858,687Fcfa となり、第 4 四実行計画額 94,952,170Fcfa に対して約 99.90%の執行状況である。
- 2) 2014 年度の総執行額は 296,700,862Fcfa で、年間資金受入額 296,794,345Fcfa に対して 99.96%であった。
- 3) 来年度の契約 (コンサルタント、機器メンテナンスなど) の契約については新年度の臨時会計役が委嘱されてから可能となるため、新年度の業務がスムーズに始められるよう、予算到着後は早急に契約をすすめていく。

## 6. 所感

### 成果：

#### 1) 教育省との共催による地域経験共有セミナー実施

数カ月に渡る各種準備を経て、今月、みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナーの開催が実現した。今回の地域セミナーでは、参加国の増加、多様な参加者の招聘、初のパネルディスカッション方式の採用に加え、カウンターパート省との開催費分担を試みたことで、例年のセミナーより多くの調整が必要となったものの、単なる“経験共有”以上の成果が得られたと思われる。

特に、CGDES 調整部にとっては、これ程大きな会合の運営を担ったことは一つの成果であり、その過程において有効な能力強化へと繋がったと言える。その一方、業務分担、責任分与の面でも多くの反省点を見出すこととなり、その意味でも今後国内でのセミナー等に今回の経験が活かされることが期待される。また、当該セミナーの開催費用負担、準備委員会の活動を通して、学校分権化政策の重要性、ならびに周辺国に対する先駆者としてのニジェール位置づけを教育省側が再認識する機会となったと思われる。

## 2) プロジェクト開発「補助金モデル」の有効性を示す調査結果

上記地域経験共有セミナーにおいて、2012年より JICA 研究所と共に実施してきた「補助金介入評価調査」のエンドライン調査結果が共有された。共有された結果は、まさにプロジェクト開発「補助金モデル」の導入、補助金供与にかかる CGDES・住民への能力強化が有効に働いたことが示されるものであった。GPE 資金や国の資金による学校補助金において、プロジェクト開発能力強化モデルが用いられることが既に予定されているものの、その実践、適切な導入の必要性を後押しする上でも、また今後の教育省における学校補助金政策の方向性を示す上でも、プロジェクトならびに教育省にとって、当該結果は非常に重要な意味を持つ。今後、教育省内部および他ドナーに対して、当該結果の積極的な発信を進めていく。

### 課題：

#### 1) 地域経験共有セミナーにかかる国内参加者間の意識の温度差

今回の地域経験共有セミナーにおいては、教育省からの開催費一部負担ならびに、開催準備委員会の設置と、ニジェール国側のイニシアティブが伺われるものとなった。その一方、ニジェール国内参加者の参加意義が十分に見受けられなかった。ニジェール国内からの参加者として、中央は教育省のみならず、地方分権化にかかる他省からの参加や、現場を知る州教育事務所長、州 CGDES 監督官等、多様な参加者を含めることにより議論を深め、また、多様なアクターの巻き込みにより、ニジェール国における当該学校分権化政策へのさらなる理解の促進、具体的な活動戦略への反映へと繋がることを期待された。しかしながら、セミナー討議および国別討議においては、その意図を反映する結果とはならず、一部積極的な参加者以外は、単なる“出席”に留まるか、テーマの本質的な理解なしに議論をかき回すだけの存在として、全般的に当該セミナーから学びとる姿勢に欠けている感があったことは否めない。時間的な制限、セミナープログラム構成、参加者の多様性ゆえのまとまりにくさという点はあったものの、前月に当該地域セミナーの下準備を兼ねた国内経験共有セミナーを開催し、地域セミナーに繋がる議論を行ったにもかかわらず、国内参加者間での活発な議論へと繋がらなかった点は、当該セミナーの一つの反省材料と言える。このような大きなセミナーでは、概して「出席すること」が目的となり、表面的でその場限りの議論に終始し、具体的な成果に結びつけることが概ね難しい。しかしながら今

回のセミナーでは、大半の国外参加者は一貫した学ぶ姿勢と具体的な成果を意識して議論に取り組んでおり、その意味である程度成功を収めたと言えるが、それがホスト国であるニジェール参加者の多くには全く当てはまらなかった点は非常に残念である。

今後は、当該セミナーでの学びを国内にどのように浸透させていくか、成果としての活動計画を国内参加者総意のものとしてどのように現場に反映していくかが、今後の一つの課題と言える。

また、セミナー運営に関しても、特に中心的な役割をになった CGDES 調整部内部において、作業・役割分担、責任分与に偏りにより、一部関係者に多くの負担がかかることとなった。これは通常業務においても見られる傾向であり、業務効率性の面からも改善が必要と言える。

## 2) CGDES 調整部によるプロジェクト開発補助金モデルの適切な活用

上記にて述べたように、GPE 資金の CGDES への補助金供与にかかる規定文書「補助金運用マニュアル」ドラフト第一稿が、CGDES 調整部により作成された。しかしながら、既に教育省ならびに GPE 資金の管理主体である世銀等により、EPT プロジェクト開発の補助金モデルの適用にかかる合意を得、国内・地域経験共有セミナーを通して、その成果を共有しているにもかかわらず、作成されたドラフトは、「運用マニュアル」として内容的に不十分であるのみならず、プロジェクトの「補助金モデル」、能力強化モジュール内容と合致しない点が盛り込まれていることが判明した。これは、CGDES 調整部に「運用マニュアル」自体への理解が不足していたことがその一因であるが、それに加えて、CGDES 調整部の方で、調整部を支援するドナーとの関係性を考慮し、(特に補助金に関して経験のない) 他ドナーの活動要素を盛り込んだ結果であったことも伺われる。

現在まで、パイロットプロジェクトでの実践、関係者との調整に加えて、なによりも具体的な成果の発現をもって、プロジェクト開発の「補助金モデル」のスケールアップへ向けて働きかけてきたが、今回の件は、最終的には、CGDES 調整部との協議を経て、「運用マニュアル」の作成し直しへと繋がったものの、プロジェクト「補助金モデル」が適切に用いられず、その効果にかかる評価にも影響を与えかねない状況であったと言える。

プロジェクトの直接介入ではない分、ある程度の質の低下は予想されるとはいえ、今後一連のプロセス実施に至るまで、当該活動実施にかかる教育省ならびに関係者の動向に注視し、CGDES 調整部の支援を通じた、適切なモデルの反映、質の確保への注意が必要と言える。

#### 6. 4月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
PME 補助金供与手続きマニュアル・研修モジュール承認アトリエ	上～下旬
質のミニマムパッケージファシリテーター経験共有アトリエ (追加研修)	16日
教員養成 校講師対象学校分権化政策研修にかかる CGDES 調整部講師研修	下旬
タウア州 2015/2016 年度新入生事前登録開始	上旬
影山専門家パリ出張 (旅券更新)	14～18日
影山専門家コートジボワール出張 (技術交換)	24～5月1日
岩田専門家健康管理休暇	29日～5月29日

以上

別添 1 : Handicap International との会合記録

**「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」  
プロジェクト活動月報 2015 年 4 月**

作成日: 2015 年 5 月 1 日

**1. 今月の活動、人の動き、イベント**

日付	活動	担当、出張者
1 水	プロジェクトコンサルタント選考委員会	影山、岩田、支所、調整部、計画局
2 木		
3 金	算数ドリル開発支援/現地試行・現地版作成	影山
4 土		
5 日		
6 月	研究所インパクト評価結果報告会(本部:電話会議)	影山 イースターマンデー
7 火	JICA 支所との週会合	岩田
8 水	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山
9 木	教員養成校研修活動計画協議会合	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ
10 金		
11 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山
12 日		
13 月	JICA 支所との週会合 質のミニマムパッケージ算数ドリル経験共有準備会合	岩田 影山、アリ、ヤワレ、調整部
14 火	影山専門家旅券更新	パリ出張(~18日)
15 水	質のミニマムパッケージファシリテーター経験共有会合準備・シミュレーション	アリ、ヤワレ、調整部
16 木	質のミニマムパッケージ算数ドリル活動ファシリテーター経験共有会合(キリタシコミュン)	アリ、ヤワレ、ザカリ、調整部
17 金		
18 土		影山専門家戻り
19 日		
20 月	JICA 支所との週会合	岩田
21 火	スタッフミーティング	全員
22 水	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山
23 木	教育省事務次官との面会 中等教育県事務所長・県 COGES 監督官との会合(ニアメ5県)	アリ、影山、調整部 影山、ハムザ、ザカリ、CNP COGES
24 金	影山専門家技術交換コートジボワール	出張(~5月1日)
25 土		
26 日		
27 月	JICA 支所との週会合	
28 火	モニタリングシステム評価コンサルタント募集開始(5月12日まで) 中等教育州・県事務所長・COGES 監督官との会合(ドッソ州)	ハムザ、CNP COGES
29 水	中等教育州・県事務所長・COGES 監督官との会合(ドッソ州)	ハムザ、CNP COGES
30 木	岩田専門家一時帰国	休暇(~5月29日)



## 2. 今月の総括

今月は、2014/2015 年度中間期を過ぎたことを受け、「補助金モデル・質のミニмумパッケージ」結合パイロット活動において、コミュニティ支援による算数ドリル活動のファシリテーター経験共有会合を実施した。当該活動では、コミュニティ支援による学習時間の増加や学力テストの結果改善のみならず、児童の学習態度の変化、出席率の向上、教員の指導意欲にかかる変化など、肯定的な効果が共有され、学年度末へ向けたさらなる改善策が協議された。

「機能する中学校 COGES モデル開発」パイロット活動においては、各地で卒業試験合格率改善へ向けた COGES 活動が進められている。その一方、COGES 監督官による COGES 活動のモニタリング、情報収集、報告・共有に問題が見られることから、今後モニタリングへの検討とレポート・情報共有体制づくり、および関係者能力強化を進めていく。

「州教育フォーラムモデル開発」パイロット活動においては、前フォーラムの決議の一つである 2015/2016 年度新入生男女比率改善へ向けた取り組みが開始された。今後は、この結果、ならびにその他フォーラム決議の活動進捗を元に、CGDES 連合総会、コミュニケーション連絡協議会での共有を行い、州アクターによる次回フォーラムの自立的開催へ向けた協議・取り組みを進めていく。

その他、「CGDES・CGDES 連合モニタリング」に関連して、教育開発に貢献する CGDES 活動の継続的な実施を支援する体制を強化するため、CGDES モニタリングシステムの外部評価、ならびに教員養成校への CGDES 関連研修の実施へ向けた準備を進めた。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 補助金モデル・質のミニмумパッケージ結合パイロット活動

今月は、当該パイロット活動における算数ドリルのファシリテーター経験共有会合を開催した。この会合においては、中間試験の結果共有、各校での実践経験ならびに優良事例の共有、共通問題の抽出と改善策の検討と共に、パイロット校における現在までの実施状況にかかる情報収集を行った。また、今後の活動としての学年度末学力テストスケジュールを共有し、それを目標とした取り組みを確認した。当該会合には対象各校より 2 名のファシリテーターが参加したが、積極的かつ活発な議論が展開され、当該活動への関心の高さが伺われるものとなった。

いずれの参加者からも、成功要因として、保護者・住民との「コミュニケーション」の重要性が挙げられ、情報共有を通じたコミュニティの理解促進、住民間での問題解決と関係者のモチベーション向上へ繋がった点が報告された。加えて、校内でのファシリテーター間の会合・コミュニケーションを通じたファシリテーターの技術向上に取り組む CGDES も見られた。また、当該活動への参加のみならず、通常授業における児童の出席状況の改善や、授業内での児童の学習態度の変容など、当該活動内に留まらない波及効果を含め、

ドリル活動への児童の高いモチベーションが刺激となり、教員およびファシリテーターの活動継続にかかる動機づけへと繋がっている様子が伺われた。なお、共有したテスト結果に限らず、児童の学習効果への正の影響は、いずれの参加者も実感として得ているとのことであった。

全般的には、児童、ファシリテーター（教員・コミュニティ）、保護者、住民などいずれのアクターも当該活動への強い支持を示していることから、大半の CGDES が来年度以降の継続を望んでおり、それを踏まえて、現ドリルの範囲以上（掛け算、割算など）のドリル冊子を望む声が多く挙がった。

今後、現在の続きとなるドリル開発に継続して取り組むとともに、質のミニマムパッケージやそれにかかる経験の普及、ならびにコミュニティ資源のみでは入手が難しいドリル冊子の展開戦略に関しても検討を進めていく。

## **(2) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動**

ドッソ州においては、現在までに対象全 29 校の学校活動計画ならびに学力試験結果が回収され、各校においては卒業試験結果改善へ向けた順調な補習活動が実施されている。その一方、ニアメ州の対象 12 校においては、今月上旬時点で学校活動計画の回収は 1 校のみ、試験結果も 12 校中 6 校と、現場での COGES 活動実践のみならず、情報収集状況に問題を抱えている点が明らかとなった。

この状況を踏まえ、現況および問題を関係者と共有し、各自が担うべき役割の確認を踏まえた対策の検討を行うとともに、対象校の共通模試を来月実施するための協議を行うことを目的として、県ごとの関係者（県教育事務所長、県 COGES 監督官）会合を COGES 中央推進室と行った。その結果、明らかに活動の進捗や情報収集に問題があるニアメのみならず、比較的順調なドッソ州においても、現場モニタリングおよび情報収集、関係者への報告・フィードバックという COGES 監督官による COGES 活動のモニタリング・支援、レポートニング、情報共有体制に問題を抱えていることが判明した。この点に関して、ドッソ州では、COGES 監督官のモニタリング手段にかかる問題が特に挙げられたが、一方のニアメにおいては、協議を通して、多くの情報が個々の COGES 監督官で止まっている状況が確認され、全般的に、定期的な情報収集、報告・フィードバック、問題解決へ向けた関係者間での情報共有にかかる COGES 監督官の意識欠如が伺われた。

今後、COGES 監督官定期会議、ならびに中等 COGES 活動にかかる中央レベルの経験共有セミナーを開催していく予定であるが、関係者官での情報収集、報告・フィードバック、情報共有のメカニズムを早急に導入する必要性に鑑み、COGES 中央推進室と共に、COGES 活動モニタリング体制の構築への検討を進めていく。

## **(3) 州教育フォーラムモデル開発**

今月は今年 2 月に実施したタウア州教育フォーラムでの決議を踏まえ、来学年度の新

入生男女比改善へむけたタウア州での第1回入学事前登録が実施された。各視学官事務所によって回収された結果、現在は男女比率0.87と好調であるが、この数値はまだかなりの不確実性を伴うため、来月以降、各コミュニティにて開催される「CGDES 連合総会」、ならびに「コミュニティ連絡協議委員会」にて共有を行い、学年度末である6月の第2回事前登録へ向けた検討材料とする。また、その他のフォーラム決議と各アクターの誓約内容にかかる活動状況進捗を確認し、州アクターによる次回フォーラムの自立的開催へ向けた準備を進めていく。

#### **(4) CGDES・CGDES 連合モニタリング**

教育開発に貢献する COGES 活動の継続的な実施を支援する体制として、みんなの学校プロジェクトにおいては、第1フェーズから第2フェーズにかけて、CGDES モニタリング・支援システムの構築および強化に取り組み、機能する CGDES 活動の維持に貢献してきた。今後もこの体制を維持・発展させていくことの重要性に鑑み、モニタリングシステム自体の有効性および体制維持の必要性を示し、今後国が取り組むべき方向性を提案するための評価をおこなった上で、関係者の認知を高め、継続的な関係者の関与とリソースの確保を後押しするための国家承認へと進めていく予定である。そこで今月は、その一連のプロセスを開始するため、外部評価の実施へ向けた関係者調整等準備を開始した。

来月には、外部評価を担うコンサルタントの選定と共に、現地調査へ向けた準備を進めていく。

#### **(5) 教員養成校 CGDES 研修**

上記、CGDES モニタリング外部評価・承認への取り組みに加え、教育開発に貢献する CGDES 活動が継続して実施される体制の確立へ向けたもう一つの活動として、教員養成校への CGDES 研修導入へ向けた、関係者調整等の活動実施準備を開始した。2007年に機能する COGES の全国展開を終えているニジュールにおいては、その後毎年1000校ずつ増加する新設校への対応として、CGDES 設置のための新校長研修ならびに新 CGDES 研修が教育省予算もしくはドナー支援により実施されてきた。しかしながら、実際のところ毎年の予算確保は難しく、その継続が困難なのは明らかである。また、CGDES メンバーとして調整の役割が求められる校長はもちろんのこと、CGDES 活動に理解と関与が求められる教員の新任、入れ替わりへの対応も必要となる。それらの点を考慮し、当該研修は、新たに現場に就く教員候補生に対し、CGDES への理解と基礎的知識を提供することを目的としたものである。また、最終的には、今後これら教員候補生への CGDES 関連研修が継続的なものとなるよう働きかけを進めていく予定である。

具体的には、教育省中央の能力強化の意も含めて、CGDES 調整部、初期・継続教員研修局 (DFIC)、ならびに全州 CGDES 監督官を対象とした当該研修の講師研修を来月上旬に行い、その後、全国8教員養成校の講師に対する研修を実施した上で、来月下旬には、

各教員養成校による今年度卒業予定の教員候補生に対する CGDES 関連研修へと繋げていく。

#### **4. 教育省・ドナー関係**

##### **(1) 教育省事務次官との会合**

今後のプロジェクト活動として、教員養成校への CGDES 研修ならびに CGDES モニタリングシステムの外部評価実施にかかる協議を次官と行った。教員養成校への CGDES 研修に関しては、プロジェクトの直接的なカウンターパート部署である CGDES 調整部のみならず、教育省の初期・継続教員研修局、ならびに教員養成校への理解と関係者間調整が必要であることも踏まえ、教育省としての取り組みとしての重要性にかかる説明を行った。また、CGDES モニタリングシステムの外部評価に関しても、同様に、評価調査実施後、承認アトリエを開催し、国家モデルとしての承認へと繋げる予定であることから、それを踏まえた当該活動の必要性と共に、承認へ向けたプロセスの協議を行った。

次官からは当該取り組みにかかる合意を得るとともに、CGDES モニタリング支援体制の持続発展性へ向けた両活動の重要性にかかる理解が得られた。

##### **(2) COGES への補助金供与活動**

2014 年度教育省 CGDES 調整部の活動として計画されていた国家予算による「CGDES への学校補助金供与（200 校対象）」にかかり、今月末から 5 月初めにかけて、対象校への研修が CGDES 調整部により実施された。当該研修にかかり、プロジェクトからは、補助金モデルのマニュアル 2 種（リソース管理マニュアル、計画策定マニュアル）の提供を行った。なお今回は、CGDES 調整部にて講師研修を計上していなかったことから、調整部による対象 CGDES への直接研修のかたちとなった。

##### **(3) 教育のためのグローバルパートナーシップ (GPE) 質の教育支援プロジェクト (PAEQ)**

みんなの学校プロジェクト開発の補助金モデルの導入を予定していた GPE 資金による CGDES への補助金供与において、当初 2800 校を対象とする予定であったが、教育省中央の意向により 1000 校へと対象校が減少する運びとなった。

その一方、当該 GPE 資金のプロジェクトに関与する世銀、AFD（フランス協力庁）からは、全般的な遅れがみられる当該 PAEQ プロジェクトにおいて、必要モジュールの作成など着実に準備を進めた CGDES 調整部の取り組みに対する高い評価がなされた。これも、各種研修モジュール、運用マニュアル作成を含め、みんなの学校が適宜技術的な支援を実施してきた結果と言える。今後も、特に講師研修等、モデル普及における質の確保へ向けて、CGDES 調整部への技術支援に努めることとする。

なお、世銀・AFD 両者からは、先月開催された「みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー」（別添参照）に関しても、当該活動に関連するテーマを含んでいたことも

あり、その運営と内容が高く評価された。

## 5. プロジェクト運営管理

- 1) 4月の支出額は13,215,784 Fcfa で、これは第1 四半期概算払額 60,848,900 Fcfa の21.72%であった。
- 2) 新年度となり、今年度のコンサルタント、NGO との契約を実施した。また、事務所維持管理にかかる契約（コピー機メンテナンスなど）も行った。

## 6. 所感

### 成果：持続的な CGDES 活動実施支援体制の確立へ向けた活動の展開

みんなの学校プロジェクトでは、第1フェーズより CGDES 活動の持続発展性を確保するため、CGDES モニタリング・支援体制の構築、強化に取り組んできた。その効果および機能性の高さは、個々の CGDES が活動を継続的に行っている状況のみならず、毎年全国16000校（2015年度現在）の9割以上に上る CGDES の学校活動計画策定状況、並びに年間総括状況が、定期的に CGDES 連合や県・州レベルの教育行政を通して中央に集められ、評価・分析され、適宜フィードバックが行われている状況からも伺われる。また、CGDES 連合総会から州レベルの CGDES 監督官会議、ならびに中央の経験共有セミナーの定期的開催から成る集会型モニタリングモデルの導入は、資金・手段、情報網の制約もあり、学校現場の情報収集が容易ではないニジェールにおいて、非常に有効なモニタリングのかたちを示し得ていると言える。その結果、現在では、ニジェール教育開発における CGDES 活動の効果と当該活動を支えるモニタリングシステム維持の重要性にかかる認識が進み、教育省による CGDES 監督官モニタリング費の確保にまで至っている。

このような流れの中、教育省との協議により、当該モニタリングシステムの国家承認へ向けて、現存の CGDES モニタリングシステムの外部評価実施へ向けた取り組みを開始した。また、毎年1000校もの新設に伴う新たな CGDES 設置が必要となるニジェールの状況と CGDES 機能化における教員、特に校長の役割の重要性に鑑み、新任教員への CGDES にかかる安定的な研修システムを構築するための「教員養成校への CGDES 研修」実施へ向けた準備も始動した。

これらの活動は、CGDES 調整部のみならず、ニジェール教育省全体として、教育開発に大きな貢献を果たしている CGDES 活動を支えていく体制を固める上で、一つの契機となると思われる。

### 課題：CGDES 調整部による戦略的活動実施へ向けた取り組みの必要性

上記の通り GPE 資金プロジェクトにおいて、CGDES 調整部の取り組みが評価されたが、それには、みんなの学校「補助金モデル」の適切な活用のため、適宜 EPT プロジェクトからのインプット、技術支援を行ってきた背景がある。その一方、CGDES 調整部主

導を進めてきた教育省予算による CGDES への補助金供与に関しては、みんなの学校補助金モデルを採用する一方、当初から講師研修を予算化していないなど計画策定時点での問題を抱えていた。その問題に対し、GPE 資金の講師研修活用や、プロジェクト支援による講師研修も念頭に協議を行っていたが、2014 年度予算執行の締切りが迫り、十分な準備が出来ないまま急遽 200 校への直接研修を実施することとなった。

CGDES 調整部では、みんなの学校プロジェクトとの活動の他に、教育省予算による活動、CGDES 介入ドナーとの活動等、様々な活動を抱えている。そのような状況下、個々の活動の調整が十分に出来ておらず、CGDES 発展へ向けて相互補完的に効果を高める可能性がある中で、すべての活動が別個の活動として、活動計画策定から実施に至るまで場当たりの対応に終始している面が少なからずある。ニジェール国の CGDES 発展を担う CGDES 調整部としては、本来、発展へ向けたビジョンの下、活動の中心軸を明確に描いた上で、適切な活動計画の策定、様々な活動の調整および優先順位づけ、適切な種々活動の実施管理が求められる。現在まで、プロジェクトにおいては技術研修や会議・会合での協議、調整部の活動計画策定にかかる技術支援等を通し、個別活動にかかる計画策定、実施能力の強化に取り組んできたが、今後は、プロジェクト終了後を見据え、CGDES 調整部と現在の課題にかかる認識を共有した上で、今後の方向性と核となる活動を見極めるための協議を進めていく。

## 6. 5月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
教員養成校 CGDES 研修にかかる講師研修 (CGDES 調整部、初期・継続研修局、全州 CGDES 監督官対象)	6-7 日
教員養成校講師対象 CGDES 研修 (ドッソ市、ザンデール市開催)	13-14 日
教員養成校教員候補生への CGDES 研修モニタリング	18-24 日
CGDES 連合総会モニタリング	中旬～下旬
タウア州コミュン連絡協議会モニタリング	中旬～下旬
機能する中学校 COGES パイロット校対象卒業試験模試実施	下旬
中学校 COGES 活動モニタリング	中旬～下旬
CGDES モニタリングシステム外部評価実施	下旬～
第 6 回みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー開催報告会(本部)	11 日

以上

別添 1：第 6 回みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー報告 (ニアメ開催)

# 「ニジュール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2015 年 5 月

作成日: 2015 年 6 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 金	影山専門家コートジボワール出張戻り 算数ドリル開発支援/現地試行・現地版作成	影山
2 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山
3 日		
4 月	JICA 支所との週会合 教員養成校講師への CGDES 研修モジュール作成	影山 影山、アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ
5 火	教員養成校講師への CGDES 研修にかかる講師研修シミュレーション プロジェクト経理指導受入(南ア事務所松本氏、JICA ニジュール支所中川氏)	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ 影山
6 水	教員養成校講師への CGDES 研修にかかる講師研修(ニアメ開催)	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ
7 木	教員養成校講師への CGDES 研修にかかる講師研修(ニアメ開催) 中等 COGES パイロット校での模擬試験実施にかかる協議	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ 影山、ハムザ、中等 COGES 室
8 金	中等 COGES での模擬試験実施にかかるニアメ関係者会合(教育行政、対象 COGES)	ハムザ、ザカリ、中等 COGES 室
9 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山
10 日		
11 月	みんなの学校群地域経験共有セミナー報告会(本部:テレビ会議) JICA 支所との週会合 教員養成校講師 CGDES 研修モニタリングミッション(ザンデル)	影山 影山 アリ、ヤワレ、調整部、DFIC
12 火	CGDES モニタリングシステム評価コンサルタント選定委員会(応札書類開封) 教員養成校講師 CGDES 研修モニタリングミッション(ドッソ)	影山、支所 ハムザ、ザカリ、調整部、DFIC
13 水	教員養成校講師への CGDES 研修(ドッソ会場、ザンデル会場開催) 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	ハムザ、ザカリ、アリ、ヤワレ、調整部、DFIC 影山
14 木	教員養成校講師への CGDES 研修(ドッソ会場、ザンデル会場開催)	ハムザ、ザカリ、アリ、ヤワレ、調整部、DFIC
15 金	機能する中学校 COGES 活動モニタリング(ドッソ)	ハムザ、ザカリ
16 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山
17 日		
18 月	JICA 支所との週会合	影山
19 火	CGDES モニタリングシステム評価コンサルタント選定委員会(書類開封・技術審査) 中学校 COGES 模擬試験実施準備 教員養成校 CGDES 関連講義モニタリング(マラディ・ザンデル)	影山、アリ、支所、調整部、教育省 ハムザ、ザカリ、中等 COGES 室 ヤワレ、調整部、DFIC
20 水	マラディ教員養成校 CGDES 関連講義モニタリング 中学校 COGES 模擬試験実施準備 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	ヤワレ、調整部、DFIC ザカリ、中等 COGES 室 影山
21 木	機能する中学校 COGES 対象校への模擬試験問題・解答用紙配布(ドッソ州、ニアメ州) ザンデル教員養成校 CGDES 関連講義モニタリング	中等 COGES 室、ザカリ ヤワレ、調整部、DFIC
22 金	スタッフミーティング(本部:原) CGDES モニタリングシステム評価コンサルタント選定委員会(予算案審査) ザンデル教員養成校 CGDES 関連講義モニタリング	全員 影山、アリ、支所、調整部、教育省 ヤワレ、調整部
23 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山
24 日		
25 月	JICA 支所との週会合 機能する中学校 COGES パイロット対象校統一模擬試験実施モニタリング(ニアメ)	影山 ハムザ、ザカリ
26 火	タウア州コミュン連絡協議会モニタリングミッション	ハムザ、調整部
27 水	コミュン連絡協議会モニタリング(マダウア県サボンギダコミュン) 算数ドリル試行(プロジェクト事務所) UNESCO ジェンダープロジェクトにかかる説明会合	ハムザ、調整部 影山 アリ
28 木	CGDES 連合モニタリング(マダウア県) UNESCO ジェンダープロジェクトキックオフセレモニー 質のミニマムパッケージ事後学カテスト配布	ハムザ、調整部 影山、アリ ヤワレ
29 金	コミュン連絡協議会モニタリング(マダウア県) UNESCO ジェンダープロジェクト担当者(UNESCO ダカール)との協議 岩田専門家一時帰国休暇戻り	ハムザ、調整部 影山、アリ、ヤワレ
30 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所) コミュン連絡協議会モニタリング(コニ県マルバザコミュン)	影山 ハムザ、調整部
31 日		

## 2. 今月の総括

今月の主要な活動は以下の通りであった。

「補助金モデル・質のミニマムパッケージ」パイロット活動においては、児童の学習効果、通常授業へ出席の他様々な効果が確認されているが、**今月は**年度末の学力テスト実施への準備を進めるとともに、現場でのニーズに基づき、新たな算数ドリル開発へ向けて、日本側コンサルタントの編集作業が進められている。プロジェクトにおいてはより現場に適したドリルとなるよう、編集者との意見交換を進めるとともに、プロジェクト事務所における近隣児童とのドリル試行に取り組んだ。

「機能する中学校 COGES モデル開発」パイロット活動においては、COGES 活動支援のために、対象校に対する統一模擬試験を実施した。この分析結果を元に、本番卒業試験へ向けた戦略検討、ならびに関係者との共有を行う予定である。

「州教育フォーラムモデル開発」パイロット活動においては、コミュニケーション連絡協議会会合を視察し、予想以上に関係者のコミュニケーション連絡協議会にかかる積極的関与を確認し、当該会合の機能と可能性に期待を得た。また、タウア州フォーラム決議目標にかかる男女比率においては、4月事前登録の結果、まだ5割の状況であるが、0.89と大きな改善があることが確認された。

CGDES・CGDES 連合モニタリングにおいては、各地で年間総括の CGDES 連合総会が開催されていることが確認された。また、現在、教育省の主導によって、県 CGDES 監督官の大幅な増員が進められている。なお、これら連合総会を含む CGDES モニタリング支援システムの有効性を示すための評価実施へ向けた準備を進めた。

また、教員養成校への CGDES 関連研修においては、プロジェクト支援により中央の講師研修から、各教員養成校の講師に対する研修を経て、来年度の新教員すべてをカバーする今年度卒業予定の 6,290 名の教員候補生に対する講義が、教員養成校の授業の枠内にて、すべての教員養成校にて実施された。

その他、GPE (教育のためのグローバルパートナーシップ) 資金による CGDES への補助金供与活動においては、来学年度配布へ向けた準備が教育省ならびに介入ドナー (GPE、世銀、AFD) により進められている。ドナー側では、補助金の配布と管理にかかる強い懸念があることから、EPT プロジェクトのパイロット活動における CGDES の銀行口座活用やリソース管理状況にかかる経験の共有が求められた。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 補助金モデル・質のミニマムパッケージ結合パイロット活動

#### 「学習効果、出席率改善等様々な効果の確認、来年度継続への意志と新ドリルへのニーズ」

コミュニティの参加と動員により校外活動として実施されてきた算数ドリル活動では、学習時間の増加、児童への学習効果、通常授業における出席率の改善、学校とコミュニティの対話の増加、コミュニティの関心・理解の向上、児童の学習態度や教員意識の変化と様々



な効果が見受けられたが、夏季休暇の開始を目前となり、大半の学校において今年度活動が終了した。それを受け、来月初めに、今年度の活動総括として、対象 39 校での学力テストを実施する予定であり、その実施準備を進めた。

また、先月のファシリテーター経験共有会合にても、当該活動により得た様々な効果に鑑み、来年度継続への強い意思が示されたが、継続に際しての要望として、現在のドリルの先段階となる掛け算や割り算を含めた新たなドリルに対する強い希望が挙げられた。このように現場でのニーズも高いことから、既存の算数ドリルの次のステップをカバーするドリル開発が本部契約のコンサルタントにより進められている。それを受け、開発過程を通してプロジェクトではより現場の状況に即したドリルとなるよう適宜意見交換を行うとともに、プロジェクト事務所周辺の児童を集め、試行を実施した。

## **(2) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動**

### **「対象校への統一模擬試験の実施、および本番試験に向けてさらなる活動の強化推進」**

機能する中学校 COGES の設立から、学力試験結果のコミュニティとの共有を通じた学校活動計画策定を経て、各パイロット対象校においては、保護者・コミュニティ支援による卒業試験結果改善へ向けた補習授業・強化活動が実施されている。

今月は、それら各パイロット校での COGES 活動を支援するため、教育行政との協働により、対象 41 校での統一模擬試験を行った。大半の COGES においては、生徒の学力向上へ向けた補習強化授業の実施に加え、模擬試験実施支援を計画していたことから、プロジェクトからは、試験問題の開発支援、試験問題用紙および解答用紙の提供を行い、各対象校ではコミュニティの支援により、教員、職員、COGES にて模擬試験の実施、採点、集計等が進められた。採点が終了した学校においては、その結果を踏まえ、本番の卒業試験へ向けた活動のさらなる強化の必要性が確認された。

来月初めには、対象全校の結果を回収、集計・分析した上で、COGES 監督官会議での協議を経て、COGES 監督官をはじめとする教育行政を通じた、各校へのフィードバック・改善戦略の共有を行う予定である。

## **(3) 州教育フォーラムモデル開発**

### **「コミュニケーション連絡協議会のモニタリング実施と予想を上回る活性化状況の確認」**

先月、タウア州においては、第 1 回の 2014/2015 年度新入生事前登録が現場にて実施されたが、今月上旬時点で、州内 52% の小学校の登録状況が集められ、男女比 0.89 という結果となった。州内 5 割程度の状況につき、現時点でフォーラム決議目標値にかかる成否の判断は出来ないものの、来月には、第 2 回となる新入生事前登録が実施されることから、途中経過としての関係者間の意識喚起に繋がったと言える。今後も定期的な情報収集、モニタリング等を通して、最終的な目標達成へ向けた取り組みを支援していく。

また、今月下旬、プロジェクトにて、CGDES 調整部とともに、コミュニケーション連絡協議会

会合モニタリング視察を実施した。今回の日程では、会合視察および協議会メンバーとの協議は州全体で見れば一部であるものの、予想以上に関係者のコミュニケーション連絡協議会にかかる積極的関与と期待が伺われるものであった。今回会合視察もしくは協議会メンバーとの協議を行ったコミュニケーションでは、コミュニケーション連絡協議会での関係者協議を経て、コミュニケーション内契約教員（特に初期研修未受講者）に対する研修実施や学用品の運搬・配布など、現場関係者（コミュニティ、連合、教育行政、地方行政）のニーズに合致したコミュニケーションによる教育分野支援が実施されていることが確認された。また、前フォーラム決議に基づく活動においては、コミュニケーション予算に州教育フォーラム参加費用負担・開催支援費が盛り込まれているのに加え、コミュニケーション連絡協議会にて男女比にかかるコミュニケーション目標を設定したうえで、先月の事前登録結果を元に、目標値に達していない学校の識別、教育行政とコミュニケーションによる巡回訪問等が実施されていた。

今後はさらに他のコミュニケーション連絡協議会の具体的な状況にかかる情報を収集した上で、これらの経験を他地域、他州等へ共有する機会への検討を進めていく。

#### **(4) CGDES・CGDES 連合モニタリング**

##### **「県 CGDES 監督官の大幅増員およびモニタリング体制外部評価実施へ向けた準備」**

今月は、各地にて CGDES 連合総会が開催され、2014/2015 年度の CGDES 活動ならびに連合活動の年間総括が行われた。プロジェクトにおいては、CGDES 調整部と共に CGDES 連合総会モニタリングを実施した。今後、CGDES 調整部と共に、今年 2014/2015 年度の CGDES および CGDES 連合活動の取りまとめを進めていく。

その他、年度末活動の一方、教育省中央（CGDES 調整部発案）からの通達により、新設県における県 CGDES 監督官の任命が進められている。これにより、現在 50 名の県 CGDES 監督官が 76 名へと増加することとなる（26 名の増員）。CGDES 調整部では、新任 CGDES 監督官の能力強化に加えて、既存の州・県 CGDES 監督官に対する再強化ともなる研修の実施を予定している。この大幅な増員はニジュールの CGDES モニタリング体制においても大きな契機となり、安定化への適切な対応が必要となることから、プロジェクトにおいても適宜 CGDES 調整部の活動支援に取り組む。

なお、CGDES モニタリングシステム評価のコンサルタント選定が予定よりも遅れたものの、来月初めには、コンサルタントの確定を経て、CGDES モニタリングシステム評価にかかる現地調査が開始する予定である。

#### **(5) 教員養成校 CGDES 研修**

##### **「教員養成校講師への CGDES 研修、および全卒業予定教員候補生への CGDES 講義実施」**

先月から準備を進めていた教員養成校への CGDES 関連講義実施へ向け、教育省中央関係者に対する講師研修ならびに、全国 8 校の教員養成校の講師に対する研修を行った。

講師研修では、CGDES 調整部員、初期・継続教員研修局員、および各州 CGDES 監督

官を対象としたが、特に州 CGDES 監督官の参加に関しては、教員養成校の講師に対する研修での講師役を担うのみならず、今後各州教員養成校で教員候補生に対して実施される CGDES 関連講義のモニタリング、ならびに今後の継続的な講義実施支援を視野に入れたものであった。上記講師研修を経て、今月中旬には、ザンデールならびにドッソの二ヶ所にて、全州の教員養成校にて関連講義を担う講師（計 73 名）ならびに研修局長に対する CGDES 関連研修を実施した。当該研修においては、いずれの参加者も予想以上に積極的な姿勢を示し、既に学校分権化・CGDES 関連事項は、教員養成校の通常講義においても触れられているものの、より内容を充実させる意味で非常に有効との反応を得た。

その結果、当該研修後から現在（5 月 2 日）までに、全国教員養成校 8 校中全校において、今年度卒業予定の 6,290 名の教員候補生を対象とした講義が実現したことが確認された。これにより、2015/2016 年度より現場に出る新教員のすべてに対して、CGDES 関連事項の研修を行ったこととなる。なお、CGDES 調整部ならびに初期・継続教員研修局員と共に実施したモニタリングを通して、講義の準備状況に各講師で差異はあったものの、全般的には比較的順当な講義が実施され、講義を受けた教員候補生の関心も非常に高いことが確認された。

今年度は当該活動の実施予定時期、教員養成校のスケジュール、および教員候補生の卒業時期等の関係で、CGDES 関連にかかる集中的な特別講義の実施（終日）という形で組み込んだが、来年度以降の恒常的な実施にかかる検討を進めていく。

#### 4. 教育省・ドナー関係

##### (1) GPE 質の教育支援プロジェクト (PAEQ) : CGDES への補助金供与

GPE 資金を主とするコモンファンドの PAEQ プロジェクトによる CGDES への補助金供与に関しては、各種研修モジュールが世銀、GPE、AFD (フランス協力庁) と共有され、現在、モジュール承認アトリエ開催に向けた準備が教育省により進められている。そんな中、世銀より EPT プロジェクトの経験にかかる問い合わせを受けるなど、補助金の配布と管理にかかる関心・懸念が世銀、AFD、GPE 関係者から示された。特に、中間媒体を通さずに確実に CGDES に補助金を配布するための銀行口座への直接送金の可能性や、CGDES による銀行利用の義務化、また、プロジェクトモデルにおける CGDES による資金管理ツールや措置の妥当性、不正にかかる対応等が協議されている。プロジェクトでは、世銀等からの上記に関連する経験等の問い合わせにかかり、適宜対応を行っている。

##### (2) UNESCO ジェンダー関連プロジェクト担当者によるプロジェクト訪問

日本政府の支援により、ニジェールにおいて UNESCO によるジェンダー関連のプロジェクトが立ち上がった。当該プロジェクトは、教育システムにおけるジェンダー不均衡を是正するための 1 年間（活動費 162,000 米ドル）UNESCO ダカールが実施に当たる。当該プロジェクトの立ち上げに際しては、ジェンダーにかかる既存のプロジェクトや介入

ドナー、JICAプロジェクト活動の状況把握を目的として、UNESCO ダカールから担当者が訪二したため、UNSCO 側の依頼により、当担当者ならびにニジェール UNESCO 委員会の代表に対し、みんなの学校プロジェクト活動にかかる説明を行った。

## 5. プロジェクト運営管理

### (1) 2015 年第 1 四半期 5～6 月分入金

今月上旬に 2015 年第 1 四半期 5～6 月分の在外事業強化費概算額がニジェール支所より送金された。当該期間のプロジェクト在外事業強化費実行計画額は、40,365,900FCFA。内、プロジェクト口座への送金額は 30,387,400FCFA (9,978,500Fcfaf は支所管理)。

### (2) 経理指導 (南ア事務所松本氏)

南ア事務所の松本氏より、プロジェクトへの経理指導が実施された。会計処理、物品管理等に係る指導を受けた。経理指導受入時には、臨時会計役が休暇中であり、代理による対応であったことから、今回指導のあった点に関しては、再度、JICA ニジェール支所、臨時会計役との間で確認、適宜改善に努めていく。

### (3) CGDES モニタリング評価コンサルタント募集

先月末より、当該コンサルタントの募集を行ってきたが、第 1 回目募集においては、応募者が応募要項を満たしていなかったため、再募集となった。その後、再募集における選定プロセスにかかり教育省との調整が必要となったものの、最終的に来月 2 日に選定委員会を開催、コンサルタントの選定を進めていくこととなった。

## 6. 所感

### 成果：教員養成校での CGDES 関連講義実施

今月は、教員養成校での CGDES 関連講義実施へ向けた一連の活動を実施した。これにより、6,000 名を超えるすべての卒業予定教員候補生に対する講義が実施された。なお、当該活動にかかり、プロジェクトからの支援は、研修講師および教員養成校講師への研修費、ならびに現場のモニタリング費用のみである。教員養成校での教員候補生への講義は、授業の枠組みにおいて実施しているため、外部からの予算的な支援なしで 6,000 名もの対象者への研修を実施したこととなり、費用対効果の上でも今後の継続可能性の面でもその有効性は高い。3 年前に同様の研修をプロジェクトにて実施した際には、中央 COGES 推進室の意識の低さもあり、現場の教員養成校での調整がつかずに、最終的な対象である教員候補生には当該研修が反映されないという結果となった。それが今回は、教育省中央、CGDES 調整部、初期・継続教員研修局、各州教員養成校との事前調整と、特に各教員養成校の研修局長の理解と責任およびその調整・統率力により実現が可能となった。また、今回の活動を通し、現場教員養成校での CGDES 関連講義にかかる実況とニーズへの示唆を得、来年度以降の戦略検討の材料となったと言える。

## 課題：教員養成校への CGDES 関連講義の継続的实施へ向けた戦略検討

上記の通り、教員養成校への研修実施を通して、CGDES 関連講義のニーズならびに既存の状況が確認され、今後も継続的・恒常的な CGDES 関連講義の実施ならびに充実の可能性が見受けられたと言える。しかしながら、現在、学校分権化ならびに CGDES 関連の講義は、職業倫理および社会学の中の一項目に過ぎず、年間 2～4 時間程度との実施となる。カリキュラムの大幅な変更の実現は容易ではないことから、この既存の枠組みをいかに効果的に活用し、内容の充実・適切化を図ることが必要であろう。また、州 CGDES 監督官による関与を促進するなどのサポート体制も含め、今回の一連の活動を単発的なものとせず、今後に繋がるよう、来年度以降の戦略検討を進めることが必要である。

### 7. 6月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
機能する中学校 COGES モデル開発パイロット対象校模擬試験結果集計・分析	1日～8日
機能する中学校 COGES モデル開発パイロット対象地域 COGES 監督官会議開催（ニアメ開催）	9日
質のミニマムパッケージ学年度末学力テスト実施	3日
CGDES モニタリグシステム評価コンサルタント評価調査実施	上旬～
タウア州 2015/2016 年度新入生事前登録実施	上旬～
ニアメ教員養成校 CGDES 関連講義モニタリング	1～2日
アガデス教員養成校 CGDES 関連講義実施	1～2日
原チーフアドバイザー着任（～2016年1月16日）	29日

以上

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2015 年 6 月

作成日: 2015 年 7 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 月	JICA 支所との週会合 中学校 CGDES パイロット対象校統一模擬試験結果回収・集計・分析 算数ドリル開発支援/現地試行・現地版作成	岩田 影山
2 火	CGDES モニタリングシステム評価コンサルタント選定委員会	影山、アリ、調整部、教育省
3 水	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山
4 木		
5 金	CGDES モニタリングシステム評価コンサルタントとの協議 グループ会合	影山、ハムザ アリ
6 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山
7 日		
8 月	JICA 支所との週会合 CGDES モニタリングシステム評価コンサルタントとの協議 質のミニマムパッケージ事後学力テスト回収	岩田 影山、ハムザ
9 火	CGDES モニタリングシステム評価コンサルタントとの協議	影山、ハムザ
10 水	CGDES モニタリングシステム評価調査 質のミニマムパッケージ対象コミュニオン CGDES 連合総会(キリタシコミュニオン) 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	コンサルタント ヤワレ、ハムザ、調整部 影山
11 木		
12 金	中等 COGES 中央推進室との会合(COGES 監督官会議準備)	影山、ハムザ
13 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山
14 日		
15 月	JICA 支所との週会合 中等 COGES 中央推進室との会合(COGES 監督官会議準備) PTF 会合(GPE・コモンファンドミッション-PTF との協議)	岩田 影山、ハムザ 影山、アリ
16 火	中等 COGES 監督官会議(ニアメ州、ドッソ州)	影山、ハムザ、ザカリ、中等 COGES 室
17 水	プロジェクト活動にかかる JICA 支所との協議 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、岩田 影山
18 木	JICA 支所会計指導	岩田、影山
19 金	スタッフミーティング(本部:原)	全員
20 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	
21 日		
22 月	JICA 支所との週会合 JICA 支所会計指導	岩田 岩田
23 火		
24 水	PTF 会合(UNICEF-PTF 協議) 算数ドリル試行(プロジェクト事務所) PTF 会合(UNESCO-PTF 協議)	アリ 影山 アリ
25 木	GPE/コモンファンド質の教育支援プロジェクト(PAEQ)キックオフ式典 中等 COGES 中央推進室との 2016 年度活動にかかる協議	アリ 影山、ハムザ
26 金		
27 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山
28 日		
29 月	JICA 支所との週会合 原チーフアドバイザー着任(~2016 年 1 月 16 日)	岩田
30 火	スタッフミーティング CGDES 連合モニタリング(ニアメコミュニオン)	全員 ハムザ

## 2. 今月の総括

今月「補助金モデル・質のミニマムパッケージ」結合パイロット活動においては、今年度の活動総括として、児童の学力変化を見るための事後テストを実施した。その結果、事前－中間－事後間にて全学年の平均点が上昇し、約5ヶ月間の活動を通して、全学年平均正答率の37.6%上昇（33.9%→71.5%）へと繋がったことが確認された。この背景には、学校あたり週合計12.4時間の学習時間の確保（週平均8回の算数ドリル活動実施）がコミュニティ支援により実現したことがある。

「機能する中学校 COGES」モデル開発パイロット活動においては、先月実施した41対象校での模擬試験結果の集計を行うとともに、対象州であるニアメ州ならびにドッソ州の中等 COGES 監督官会議を開催し、対象 COGES の活動状況にかかる協議を行うとともに、COGES モニタリングにかかる COGES 監督官ならびに中央推進室への能力強化を図った。なお、今回の会議を通して、今後の中等 COGES の活性化と発展のためには、COGES 活動モニタリング面での強化、当該体制確立へ向けた検討と取り組みが不可欠であることが明確となった。

「COGES/COGES 連合モニタリング」においては、みんなの学校プロジェクト第1フェーズから第2フェーズにかけて構築および強化に取り組んできた「CGDES モニタリング・支援システム」の外部評価実施にかかる国内コンサルタントが確定し、今月中旬より現地調査が開始された。調査では、CGDES 連合総会の視察から、CGDES、連合、中央・地方教育行政官、地方行政への聞き取りが行われ、約2カ月の評価調査・分析を経た上で、当該モニタリング体制にかかる承認アトリエ開催へと進める予定である。

## 3. 今月の主な活動

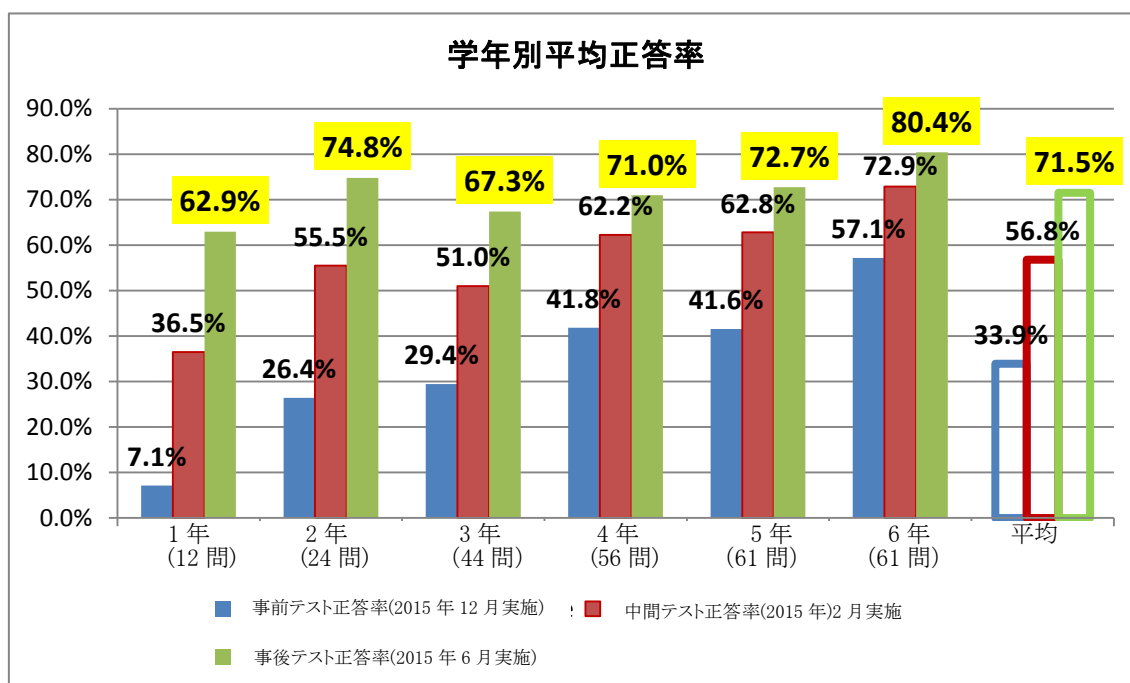
### (1) 補助金モデル・質のミニマムパッケージ結合パイロット活動

#### 「質の改善へ向けた住民参加の多様な効果とテスト結果の改善」

今年2014/2015年度パイロット活動における児童の学力変化を見るため、事後テストを今年6月に実施した。その結果、パイロット活動対象校39校（対象児童約4000人）で、事前（2014年12月）－中間（2015年2月）－事後（2015年6月）間において、全学年の平均点が上昇し、事前テスト時平均正答率33.9%が、約5ヶ月後の事後テストにおいて37.6ポイントの改善し、71.5%まで上昇した。特に、今年度取り組んだドリル範囲にかかる内容の比重が高い低学年（1、2年）のテストにおける正答率は一年生で7.1%→62.9%、2年生で26.4%→74.8%と5割の改善をみた。これの結果は、この活動が基礎からの積み重ねが重要な四則計算で、低学年で落ちこぼれていく生徒に対する有効な対策であることを示していると同時に、現在開発中の高学年向けのドリルを導入すれば、中高学年の成績もより改善する可能性があることを示していると思われる。なお、詳細結果は以下の通り。

表 1:2014/2015 年度対象校学力テスト結果

学年	事前テスト (2014年12月)		中間テスト (2015年2月)		事後テスト (2015年6月)		事前—事後間比較(差異)	
	平均点	正答率	平均点	正答率	平均点	正答率	平均点	正答率
1年 (12点満点)	0.85	7.1%	4.38	36.5%	7.55	62.9%	+6.70	+55.8%
2年 (24点満点)	6.33	26.4%	13.31	55.5%	17.94	74.8%	+11.61	+48.4%
3年 (44点満点)	12.96	29.4%	22.43	51.0%	29.63	67.3%	+16.67	+37.9%
4年 (56点満点)	23.42	41.8%	34.84	62.2%	39.74	71.0%	+16.33	+29.2%
5年 (61点満点)	25.35	41.6%	38.31	62.8%	44.37	72.7%	+19.02	+31.2%
6年 (61点満点)	34.85	57.1%	44.44	72.9%	49.05	80.4%	+14.20	+23.3%
全体平均		33.9%		56.8%		71.5%	+14.09	+37.6%



このような良好な結果を引き出した直接的な要因は、この活動を実施した5カ月間で、学校平均250時間(平均12.4時間)近くにのぼるドリル実施のための校外学習時間の確保であっ



た。この長時間にのぼる学習時間の確保は、保護者・住民への学力テスト結果の共有によって起こったものである。この児童全員を対象とした学力テスト結果の住民への開示は、その結果が保護者に対しても、教員に対しても衝撃を与え得るものであり、その状況を改善するためのドリル活動実施のための校外学習支援につながったと言える。この支援の成果が中間テストでの成績の伸びで確認され、保護者にとっては、自分たちの動員への理由づけと、補習を実施している教員、住民ファシリテーターへの賞賛と支持に繋がった。多くの場合、無償にて算数ドリル活動に参加しているファシリテーターや教員にとっては、この賞賛が大きな動機付けとなり、活動は加速して行ったと思われる。

なお、この活動のインパクトは学習改善に留まらないことが確認された。関係者へのアンケート調査では、個人指導となるドリル活動を通じた児童と教員のインタラクティブな関係の成立により、児童側では、学習意欲や通常授業への出席率の改善、教員側には、個々の児童に対する教授意識の改善が報告されている。特に教員意識の改善は、一方通行の授業が一般的である中、画期的なインパクトと言えよう。また、その他にもコミュニティと教員の対話の増加、コミュニティの児童学力にかかる関心・理解の上昇と様々な効果も同時に報告された。

## **(2) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動**

### **「監督官会議を通じた行政官能力強化、模擬試験結果による COGES の奮起」**

今月は、先月に実施した 41 対象校での模擬試験結果の集計を行うとともに、対象州であるニアメ州ならびにドッソ州の中等 COGES 監督官会議を開催した。

今回の中等 COGES 監督官会議は、中等 COGES 監督官のみならず、中央の COGES 中央推進室にとっても、初の中 COGES 監督官会議となるため、ニアメでの二州合同開催とし、COGES 中央推進室ならびに州・県 COGES 監督官の能力強化のための要素を会議プログラムに組み込んだ。能力強化内容としては、COGES 監督官会議の目的や会議内容・議題、ならびに個々の監督官の準備事項といった「COGES 監督官会議」についてと、COGES 監督官のモニタリングにおける役割と責務、ならびにレポーティングシステムにかかる「COGES モニタリングシステム」に関して取り扱った。

今回が初めての会議であったため、COGES 監督官側の事前準備が不十分であった点は否めないものの、全般的に COGES 監督官のおのおのが現場の状況を十分に把握できていないのに加え、COGES 活動におけるモニタリングの重要性にかかる認識、ならびに「情報収集・報告／共有・フィードバック」という基本的な情報の流れがまだ十分に浸透していないことは明らかであった。そのことから、全般的に、中等 COGES の活性化と発展のためには、COGES 活動モニタリング面での強化、当該体制確立へ向けた検討と取り組みが不可欠であることが今回の会議を通して明確になったと言える。なお、今回は変則的な会議のため、COGES 活動状況の共有、問題の抽出、解決策の協議等にまで十分な討議が進められなかったが、その点は次回以降の会議を通して修正を図ることとする。

その他、先月実施した対象校での中学卒業試験対策の模擬試験結果に関しては、COGESの活動計画を通して、対象各校共に補習授業や強化学習が実施されていたものの、合格圏にいる生徒（通常校）は全体のわずか4.2%という集計結果となった。なお、現場の対象校では、予想をはるかに下回る結果から、教員、COGESメンバー、保護者、生徒の意識を強く喚起し、模擬試験実施直後より集中的な補習活動が実施されている。一方、対象中学校外にて同じ試験問題を使用して模擬試験を実施した中学校では、上記対象校の状況をはるかに下回る結果（合格圏内生徒数は2%程度）との報告を得た（現在データ分析中）。

### **(3) CGDES・CGDES 連合モニタリング**

#### **「CGDES モニタリングシステム外部評価調査開始」**

今月、みんなの学校プロジェクト第1フェーズから第2フェーズにかけて、構築および強化に取り組んできた「CGDES モニタリング・支援システム」の外部評価実施にかかる国内コンサルタントが確定した。今後、およそ2カ月に渡り、当該モニタリングシステムの評価調査が実施され、来月末には、調査報告を基にしたモニタリング体制の承認アトリエを開催する予定である。なお、この調査は、教育開発に貢献するCOGES活動の継続的な実施を支援する体制としての「現モニタリングシステム」の有効性、および体制維持の必要性を示し、今後国が取り組むべき方向性にかかる提案を含めて、関係者の認知を高め、継続的な関係者の関与とリソースの確保を後押しするための国家承認へと進めるものである。

当該コンサルタント確定後は、今調査の目的・実施内容から、CGDES概要、プロジェクト概要、モニタリングシステムの説明、関係者への聞き取り調査にかかる調査票作成への支援をプロジェクトから行った上で、今月中旬から現地調査が開始された。

CGDES モニタリングシステムの特徴である「集会型モニタリング」であり、当該システムにとり非常に重要な要素の一つである「CGDES 連合総会」の視察が、時期的な制約のために二連合に留まったものの、CGDES、CGDES 連合事務局メンバー、CGDES 監督官、教育行政、地方行政（市長）、CGDES 調整部をはじめとする地方および中央での関係者聞き取りが行われた。また、来月には、州レベルの集会型モニタリングとなる「CGDES 監督官会議」が各州にて開催される予定であることから、これら会議視察を行うとともに、引き続き関係者聞き取りならびにデータ分析が行われる予定である。

## **4. 教育省・ドナー関係**

### **(1) 教育省・ドナーによる学校補助金関連動向**

教育のためのグローバルパートナーシップ（GPE）資金によるCGDESへの学校補助金供与も来学年度には開始される予定であるが、その「質的教育支援プロジェクト（PAEQ）」に加え、ニジェール国内では来学期2015/2016年度には、UNICEF（ザンデール、マラディ州内対象）、ならびに今年度に引き続いて国家予算によるCGDESを通した学校補助

金供与が計画されている。その他、ルクセンブルグ開発庁 Lux-dev（ドツソ州内対象）においては、学校プロジェクト（学校活動計画内の特定活動（質およびスポーツ・文化系活動）に対する使途限定補助金）の実施、ドイツ復興金融公庫 Kfw（ティラベリ、タウア、ニアメ州内対象）では、学校建設に保護者を活用し、その労役の対価が CGDES 資金として支払われる形での支援を予定している。

そのような中、多くのドナーが支援金等の配布方法として、CGDES の銀行口座への直接送金を指向していることから、現在 CGDES 調整部では、適宜プロジェクトによる支援を得つつ、みんなの学校プロジェクトでの補助金モデル開発パイロット活動時に活用したマイクロファイナンス機関との CGDES 口座にかかる協定書の更新手続きを進めている。さらに、国家予算による補助金はもちろんのこと、他ドナーによる補助金に対しても、CGDES 調整部によるみんなの学校開発モジュールの活用が期待される。

## 5. プロジェクト運営管理

(1) 6月の支出は15,421,582Fcfa で、第1四半期の合計は43,403,294Fcfa となった。支所からプロジェクト予算で支払われた州レベルでのアトリエ参加者への交通費 3,083,700Fcfa を合わせると46,486,994Fcfa となり、第1四半期実行計画額 60,848,900Fcfa に対して約76.39%の執行状況である。

### (2) 経理指導（野路企画調査員（経理指導））

ニジェール支所に約6カ月出張されている野路企画調査員（経理指導）より、プロジェクトへの経理指導が実施された。臨時会計役だけでなく専門家も交えて、会計処理、物品管理等に係る指導を受けた。一方、州レベルでのプロジェクト活動にかかる支払方法については野路企画調査員が現状把握後に改善策を考案していただけるとのこと。同企画調査員は10月まで滞在されることから、今後も引き続き指導を受けながら適宜経理業務の改善を行ってほしい。

### (3) CGDES モニタリング評価コンサルタント募集

4月末より数度の募集・選定作業を行ってきたが、最終的に6月2日の選定委員会にて候補者が選定され、プロジェクトと価格交渉などを行い、最終決定した。当該コンサルタントとは6月9日に契約を行った。

## 6. 所感

### 成果：住民参加を通じた質の改善活動にかかる具体的な成果の発現

今月は、2012 年度の開始から 3 年目を迎える「質のミニマムパッケージ」の今学年度総括として学力テストを実施した結果、上記本文の通り、児童の学力におけるプラスの効果が伺われる結果となった。特に、導入した算数ドリルの学習範囲がテスト範囲の中心となる低学年において、その上昇率が高い点は、少なからず算数ドリルによる効果が伺われるものである。そして、非識字率の高いニジェールにおいて特に、教育の質や児童の学力

に介入すべきアクターとしての認識を今まで得てこなかった保護者・住民が、児童の学力状況の共有を通して、当該活動の実現ならびに年間 250 時間近くの学習時間確保に貢献したことは、彼らが児童の学力向上における重要なアクターであることを示したものである。また、質のミニマムパッケージの導入が、そのような保護者・住民による意識の変化、児童学力向上への関与、住民と教員との関係改善の他、児童の授業出席率の改善や授業態度の変容、学習理解度の向上、さらには、教員レベルにおいても、児童のやる気や保護者・住民による評価を通じたモラルの上昇、ドリルの実践を通じた個々の児童への意識や教え方にかかる新たな認識の獲得といった多様な効果を生み出した点は、当該活動の発展性において非常に重要である。

今後は、これら成果ならびにそれを生み出した要素・メカニズムを整理した上で、如何にこの効果を拡大・普及させていくかについて検討を進めていくことが求められよう。

### 課題：中等 COGES の現状把握とモニタリングシステム構築へ向けた構想の必要性

今月、今年度「機能する中学校 COGES」モデル開発に当たり、初めて中等 COGES 監督官会議を開催した。COGES 中央推進室、地方 COGES 監督官共に「COGES 監督官会議」にかかる理解が不十分であったことから、その会議の質にかかる問題を今後改善していく必要があることは言うまでもないが、他方、全般的に信憑性のある情報量の不足とアクター間のコミュニケーションの不具合が見受けられ、今後の中等 COGES 発展へ向けでは、現況の適切な把握・分析と共に、モニタリング体制構築へ向けた青写真を早急に描く必要があるとの認識を得た。

現在の中等 COGES 監督官が提供する情報の量と質では、中学校 COGES の実際の機能化状況や根本的な問題の原因を適切に判断することが難しい。その背景には、個々の COGES 監督官によるモニタリングや必要な情報への理解の問題と共に、モニタリング体制、情報ネットワークが固まっていないことから来る情報収集の不安定さがある。さらに、収集された情報が個々の COGES 監督官に留まり、現場や県レベルのアクター、ならびに州や中央へと共有されていないことで、時機を得た対応を多く逃してきた状況が伺われた。

現時点では、まだ中等レベルにおける COGES モニタリング体制にかかる構想が十分練られていないが、今後、ニジェルの中等レベルにおける機能する COGES モデルの拡大、普及へ向けて、確実かつ早急な検討が必要な点と言える。

## 7. 7月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
CGDES モニタリングシステム外部評価調査	上旬～下旬
CGDES 監督官会議モニタリング	上旬～中旬
CGDES モニタリングシステム承認アトリエ開催	下旬
中学校 COGES 監督官会議 (ニアメ州、ドッソ州)	中旬～下旬
質のミニマムパッケージ算数ドリル開発支援・仏語版作成	上旬～下旬

質のミニマムパッケージ算数ドリル試行（プロジェクト事務所）	上旬～下旬
タウア州教育フォーラム執行委員会会合	下旬
タウア州教育フォーラム視学官会議	下旬

以上

# 「ニジュール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2015 年 7 月

作成日: 2015 年 8 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 水	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
2 木	スタッフミーティング(質のミニマムパッケージ活動協議) JICA 調査団との会合(アフリカ部、ブルキナ所長、ニジュール支所)	原、影山、アリ、ヤワレ 原、影山、岩田
3 金	スタッフミーティング(機能する中学校 COGES モデル活動協議)	原、影山、ハムザ、ザカリ
4 土		
5 日		
6 月	JICA 支所との週会合 スタッフミーティング 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	岩田 全員 影山、カマラ
7 火	スタッフミーティング ドイツ復興金融公庫(Kfw)コンサルタントプロジェクト訪問	全員 原、アリ
8 水	中等教育省 COGES 中央推進室(CNP COGES)との会合 JICA 支所との会合	原、影山 原、影山
9 木	世銀教育担当者との会合 JICA 支所との会合(経理関係) CGDES 連合総会モニタリング(ニアメコミュン 2) モニタリングシステム評価コンサルタントとの会合	原 岩田、影山 ハムザ、原、調整部 原、影山、ハムザ、調整部
10 金	JICA 支所・CGDES 調整部新規案件にかかる協議会合 JICA 支所との会合(経理関係) ドイツ開発庁(GIZ)プロジェクト訪問	原、影山、アリ 岩田、影山 ハムザ
11 土		
12 日		
13 月	JICA 支所との週会合 CGDES 調整部・計画局との合同月例会議 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	岩田 全員 影山、カマラ
14 火	ラマダン 27 日目祝日	
15 水	CGDES 調整部との協議	原
16 木	モニタリングシステム評価コンサルタントとの会合	原、影山、ハムザ
17 金	ラマダン明け祝日	
18 土		
19 日		
20 月	JICA 支所との週会合 スタッフミーティング 中等 COGES 中央推進室との会合 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	岩田 全員 影山、ハムザ、ザカリ 影山、カマラ
21 火		
22 水	教育 KMN 勉強会(本部:TV 会議)	原、影山
23 木	PTF 会合(AFD 事務所) CGDES 調整部との会合	原、アリ 原、影山、アリ、ヤワレ、ハムザ
24 金	中等 COGES 中央推進室との会合 中等支援協議	原、影山、ハムザ 原、ハムザ
25 土		
26 日	CGDES 監督官会議モニタリングミッション(~8月3日)	ハムザ、調整部、計画局、コンサルタント
27 月	JICA 支所との週会合 スタッフミーティング マラディ州 CGDES 監督官会議モニタリング 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	岩田 全員 ハムザ 影山、カマラ
28 火	ニアメPMAQ サイト訪問(ガーナ・マダガスカル視察準備)	影山、アリ、ヤワレ
29 水	AFD プロジェクト事務所訪問 ザンデール州 CGDES 監督官会議モニタリング	原、影山、アリ ハムザ、原(電話での参加)
30 木	教育省計画局長との協議	原
31 金	タウア州 COGES 監督官会議モニタリング サイ補助金サイト訪問(ガーナ・マダガスカル視察準備)	ハムザ、原(電話での参加) アリ、ヤワレ

## 2. 今月の総括

今月は、残り 10 か月となるプロジェクトおよび各種活動の方向性をプロジェクト内部および教育省関係者と協議するとともに、プロジェクト終了へ向けた一つの大きな課題である「プロジェクト開発の住民参加による教育開発モデル」の普及を視野に入れた取り組みを行った。

まず、発信可能な成果が見られた「補助金モデル」「質のミニマムパッケージ」パイロット活動においては、その経験を取りまとめた広報のための報告書（仏語）作成、および普及へ向けた関係者との協議に取り組んだ。特に、現在、その成果に反して拡大・普及の展望が立っていない「質のミニマムパッケージ」に関し、GPE（教育のためのグローバルパートナーシップ）資金による基礎教育支援プロジェクトにコモンファンドとして資金を投入しているフランス協力庁（AFD）、ならびに GPE 資金の管理主体である世銀の教育担当者に対しての成果発信を行い、今後の GPE 並びに他ドナー資金によるスケールアップの可能性を協議した。

「機能する中学校 COGES モデル」開発においても、今後のモデル確立へ向けた検討材料として、2014/2015 年度のパイロット活動の取りまとめ文書の作成を進めた。

その他、CGDES モニタリング体制に関しては、来月の CGDES モニタリング体制承認会合へ向け検討を進めるとともに、CGDES 調整部主導による「CGDES・CGDES 連合活動モニタリング国内経験セミナー」開催へ向けた準備を開始した。また、州 CGDES 監督官会議のモニタリングを通して、現場レベルでの安定的なモニタリング支援実施状況を確認した。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 補助金モデル・質のミニマムパッケージ結合パイロット活動

今後のモデル導入地域拡大・普及を視野に、プロジェクト開始後から 3 年間にわたり取り組んできた「補助金モデル」「質のミニマムパッケージモデル」開発パイロット活動の経験を取りまとめた報告書（仏語）作成に取り組んだ。

補助金モデルに関しては、来学年度より GPE 資金の「質の教育支援プロジェクト（PAEQ）」や国による CGDES への補助金導入活動において、当該モデル導入のスケールアップが図られることとなっているが、特に、質のミニマムパッケージに関しては、プロジェクト後の拡大、普及にかかる目途がまだ立っていないことから、世銀、AFD を中心としたドナーへの成果の発信として当該報告書の共有、ならびに、GPE 資金のプロジェクトへの統合可能性を視野に入れた協議を開始した（下記「教育省・ドナー関係」項目参照）。

### (2) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動

2014/2015 年度の当該パイロット活動は、中等教育省とともに年間を通しての実施した初めての年度であったことから、今年度の活動を総括する取りまとめ文書（仏語）の

作成を進めた。当該モデルは、まだ普及モデルとして十分に確立しているとは言い難く、今後のさらなる検討が求められることから、実施プロセスおよび活動、結果等を整理することで、モデルの要素の見極めを進めていく。また、来月には、対象州での CGDES 監督官会を開催予定であることから、現場関係者との意見交換を通し、現場の状況をさらに収集し、モデルの改善に向けた検討材料としていく。

### **(3) CGDES・CGDES 連合モニタリング**

今月は、先月に引き続き、CGDES モニタリングシステム評価にかかるコンサルタントの調査進捗に合わせ、コンサルタントとの協議、調査実施・報告書作成支援を行うとともに、来月中旬に予定している、モニタリングシステム承認会合へ向けた検討、準備を進めた。

また、CGDES 調整部主導による全国 CGDES 活動のモニタリング支援体制の確立へ向け、半年に一度実施している「CGDES・CGDES 連合モニタリング国内経験共有セミナー」の開催準備を開始した。今回の当該セミナー開催においては、今までのプロジェクトによる CGDES 調整部への能力強化の総括として、プロジェクトは後方支援に徹し、CGDES 調整部が主導的・中心的に取り組む形で準備を進めている。

なお、当該セミナー開催に合わせ、今月末には、2014/2015 年度の総括となる各州 CGDES 監督官会議のモニタリングを CGDES 調整部、計画局と協働で行った。いずれの州においても、当該会議においては、安定的な CGDES 活動の進捗とその州内取りまとめにかかる協議が実施されており、CGDES および CGDES 連合活動、ならびにそのモニタリング体制の安定性が確認された。

## **4. 教育省・ドナー関係**

### **(1) PTF 会合 (7月23日)**

PTF 間の定期会合が開催された。会議の冒頭で、原から着任の挨拶をした。会議内容は、GPE 資金の動向であったが、特に特質すべき内容はなかった。

### **(2) 世銀、AFD との会合**

赴任の挨拶と同時に、プロジェクトの活動、特に質のミニマムパッケージの説明を行った。両機関とも、質のミニマムパッケージの結果に対しては強い興味を持った。AFD に対しては、質のミニマムパッケージを GPE の補助金供与加える提案をしたが、好反応であった。(詳しくは会議メモを参照)

### **(3) CGDES 関連ドナーの活動**

7月3日に初等教育省 CGDES 調整部長に CGDES 関連ドナーの動きについて、聞き取りを行った。結果は以下の通り

➤ スイス (Cooperation Suisse)

スイス協力庁のプロジェクトは、特にコミュニケーションへの教室建設と教員管理の分権化



の分野で活動を行っている。教室建設については、スイスのプロジェクトがマラディ州のいくつかのコミューン予算に実際に資金を入れて、コミューンが教室建設を行う実証を行っている。コミューンによる契約教員管理については、マリなどの同分野先進近隣国への研修旅行などを実施しているが、教員給与のコミューン予算への投入を教育省が拒否しており、実証は進んでいない。

➤ ルクセンブルグ (Lux Development)

ドッソ州に長く介入しているルクセンブルグのプロジェクトは、対象校に対する教室建設支援と同時に補助金支援を行っている。補助金対象校は、100校程度で、計画された活動計画に対して、必要だと判断された活動に対して補助金を付ける形としている。

➤ UNICEF

現在まで、学校政府普及などに際し、CGDESを活用し、対象州においてはCGDESメンバーに対する能力強化研修を行ってきた。現在は、CGDES関連では「教育の質と公平」というプロジェクトの実施を推進している。現在は、このプロジェクトも補助金を使った計画研修があるが、このマニュアルは、トーゴの例を模して、トーゴ人のコンサルタントによって作られているが、複雑で、コミュニティーには理解しにくいものとなっているとのこと。実際にUNICEFの研修旅行でトーゴに行ったが、UNICEFの対象校で住民参加がニジェールのCGDESに比べてとても低いことを確認したとのこと。

➤ ドイツ (KFW)

携帯電話を使った契約教員への給与支払いのパイロット活動を行っている。

## 5. プロジェクト運営管理

- (1) 7月の支出は10,056,572Fcfで、第2四半期の実行計画額90,422,051Fcfに対して約11,12%の執行状況である。
- (2) 野路企画調査員（経理指導）により、ニアメ外でのアトリエや研修にかかる参加者交通費をはじめとする現地での支払に関する新しい実施方法が検討されていたが、最終的に「活動先の州教育事務所長と合意書を交わしたうえで、その州の教育省関係者へ送金（概算でも可能）をし、支払をする」という案がかたまった。8月7日のDossoでの中等COGES監督官会議にて第1回目を実施する予定である。また、通常「現地調査費」といわれる、車両ガソリン代、パンク修理費用などについては、車両ガソリン代は出張者の旅費として代表者へ概算払、パンク修理、車両故障にともなうバスでの移動費用などは出張前に支所に対して「立替払事前申請」を行ったうえで、立替払い精算を行うこととなった。この立替払事前申請の第1回目を7月26日～8月3日の初等CGDES監督官会議出張時に実施した。

## 6. その他（プロジェクト訪問、視察受け入れ等）

### (1) ガーナ・マダガスカルスタディツアー受け入れ（三カ国経験共有会合）

来月8月末より一週間、ガーナ、マダガスカルの両国からニジェールみんなの学校プロジェクト視察を受け入れるにあたり、三カ国経験共有セミナーを開催することとなった。機能する学校運営委員会、補助金の効果的な管理・運用、住民参加を通じた教育開発にかかるニジェールの取り組みとその成果を共有することで、訪問両国のみならず、ニジェール関係者にとっても具体的な結果を生む学びの場となるよう、両国の視察目的と調整しつつ、プログラムの作成、視察現場の調整等、準備をすすめた。

## 7. 所感

### ○成果

#### ➤ 各活動成果の取りまとめ（各活動の仏語報告書作成）とその報告書を使った広報活動

みんなの学校プロジェクトでは、第3フェーズ開始以来、住民参加を通じた教育開発に向け革新的なパイロット活動を実施してきた。代表的なパイロット活動としては、住民参加による学習の質の向上を目指した「質のミニマムパッケージ」と、住民参加を通して補助金の効果的な運用を目指した「補助金モデル」がある。これらのパイロットは、実証を経てそれぞれ普及モデルとして外部に示せる結果を出している。しかし、結果報告のための日本語での資料はたびたび作成されているものの、仏語説明資料に関しては、ワークショップや経験共有セミナーのプレゼン資料が作成されているのみで、文章資料は作成されてこなかった。そこで、プロジェクトは、今回これらのパイロット活動の広報となる報告書をプロジェクトで作成することとし、今月はそのドラフトが上がってきた。今後、これらの報告書の質を上げ、活動を宣伝できるあらゆる機会にこの報告書を有効利用していく。

また、モニタリング体制承認ワークショップのために、現在ニジェールのモニタリング体制について、評価報告書が作成されつつあるが、これらの報告書も外部へのモニタリング体制の説明等の際に有効利用できることが想定される。以上のような文章資料の他に、プロジェクトではその基本モデルに関する詳細な評価説明資料を過去に作成している。しかし、その作成時期が、省庁との統廃合の混乱時期に重なったため、承認ワークショップを開けず、教育省公認の文章とはならなかった。今後、以上のような文章を統合して、プロジェクトがニジェールで開発したモデルに関する総合的な説明資料を作成することも検討していく。

#### ➤ ニジェールの現実に適合した算数ドリルと寺子屋スクール

質のミニマムパッケージの重要な構成要素である「算数ドリル」の新レベルドリルの開発は3月末より継続的に実施されている。4月以降、日本で系統だって数章ごと開発されるドリルの内容検証を、プロジェクト事務所で毎日実施している「寺子屋スクール」の中

で行っている。この「寺子屋スクール」は算数を学びたい近隣の子に無償で開催されている活動で、朝8時から2時間程度プロジェクト事務所のテラスを「スクール」として解放して行っている。現在夏休み中だが、毎日児童は5~10名通ってきている。児童は、それぞれの進度合わせたレベルのドリルを、プロジェクト専門家とスタッフの支援を受けながら、基本的に自分で実施していく。専門家は児童の進捗を逐一チェックしながら、ドリルのニジェール子どもたちへの適合性を検証する。改善点については、日本側に報告し、わからない点については、日本側での算数の権威であるリソースパーソンに質問し、改善していく。専門家と日本の担当者とのやり取りは、例えば、ニジェールでは→(矢印)等を使用した図解の解説が日本の子どもに比べて容易に理解できないため、複雑なものは使わないようにするとか、過去の例でいうと、子どもが知っている動物の種類が、日本とニジェールでは違うために、数の概念を教える時に使う動物の絵を、猫や犬を羊やラクダに変えるなど社会的な背景にまで及ぶこともあり、時にメールのやり取りが10回を超えることも稀ではない。この非常に地味で忍耐のいる作業が、日本の高い算数自習の技術がニジェールの現場に適用されたすぐれた教材を生み、前回の質のミニマムパッケージでの大きな成果に繋がった。現在の新レベルの開発は今年いっぱい続くが、プロジェクトの新パイロットでは、新レベルもできた順に投入していく。

## ○課題

### プロジェクト成果拡大再生産の強化（初等教育）

現在、プロジェクト期間終了まで10か月を切り、今後の最大の目標は、第一フェーズからの成果を保ちつつ、現在取り組んでいる試行の成果を今後のニジェールの教育開発に活かしていくことである。以下、現在までのプロジェクトの成果を総括し、今後の課題を探る。

#### ➤ 住民参加による教育開発への土台の確立

みんなの学校が第1フェーズから取り組んできたCGDES(COGES)、CGDES連合の機能化やモニタリング体制の確立は、住民が教育改善を自ら考え、実施していく枠組み作りであり、枠組みを維持してく仕組みの構築であった。これらの枠組み作りは、成功し、現在もCGDESやCGEDS連合は機能し、教育改善活動も、大きな住民動員によって維持されている。このCGDESやCGEDS連合が機能しつづけ、住民参加が起り続けている状態が、みんなの学校が最終的に目指す住民と行政の協働シナジーによる効率的な教育開発の基礎となる。この「基礎となる状態」をいかに永続化するかが、今フェーズでプロジェクトが取り組むべき第1の目標であった。

CGDESに関する住民参加は、教育という分野の改善ニーズの高さや多様さから、プロジェクトが導入した枠組みによってもたらされるCGDESやCGEDS連合などの運営の透明性と参加機会の確保によって、ある程度のレベルまで維持されていくということが

確認されている。しかし、現在の高い住民参加のレベルを維持するためには、行政モニタリングの介入と支援が必要である。行政からの支援は、中央の CGDES 調整部と地方の CGDES 監督官のモニタリングが中心となる。プロジェクトはその第 1 フェーズより、これら行政官の能力強化に取り組み、また他の教育行政官も巻き込み、総合的かつ効率的な行政モニタリング体制の確立に成功した。情報共有機会の確保がカギとなっているこの体制の永続化への課題は、モニタリングの実施費用や CGDES 監督官の会議開催費用などの予算の国庫からの獲得であったが、CGDES の司令塔である CGDES 調整部の努力によってそれらの予算が獲得されるようになってきた。以上の分析をもって、住民参加による教育開発の基礎はほぼ確立されていると判断できる。

### ▶ **プロジェクト成果のニジェール教育開発への貢献**

このように、プロジェクト成果を発展させる基礎がある現在、プロジェクトの次の、そして最大の目標は、現在試行中の成果をもっとも効果的な形で、ニジェールの今後の教育開発課題解決のために活かすことにある。現在、ニジェールの最大の教育開発課題は、教育の質の改善にある。前回の PDDE（教育開発プログラム 2004－2014）で主要な目標として質の改善が挙げられていたが、このプログラム評価で、質が改善についてはほとんど触れられず、教育省が実施したレベル試験の結果は悪化したと述べられていた。この悪化の理由は質に関する教育デリバリーの質および量が、そのニーズに対し絶対的に不足しているからである。今後もこの根本的な問題が簡単に解決されるとは考えにくく、2030 年に向けて質の改善が最も大きな課題となることは間違いない。

一方、みんなの学校としては、第 3 フェーズ開始以来、住民参加を通じた効率的な教育開発モデルを作り続けてきた。そのモデルのほとんどが、最終的に教育の質の改善を目的したものだった。この理由は、住民参加が起こるために必要な保護者、住民の教育開発ニーズが、「自分たちの子どもがしっかりと学んでいるのか」という点、つまり教育の質に向くようになったからである。この教育の質の改善にむけた代表的な試みが、「住民参加による補助金の有効利用」と「学習の質の改善ためのミニмумパッケージ」であった。これらの試みの成果は、インパクト評価やレベルテストの実施前後比較で明確に証明されてきたが、学習の質ミニмумパッケージについては、普及の目途はたっていなかった。そこで、プロジェクトは成果の最大化とモデル普及可能性の改善を狙い、2 つの試行を統合したモデルを開発した。統合モデルは、去年の 12 月からの 5 カ月間の実証の結果、現在までの同様の試行の中で最高の成果を出し、普及に関しても、現在進行中のみんなの学校モデルの採用が決まっている GPE 資金による補助金配布計画で質のミニмумパッケージの要素を付け加えれば統合モデルとなり、その可能性が広がった。

この統合モデル普及により、学習の質で改善が望めるのは、算数の計算能力向上と限られた範囲であるが、すべての児童の学ぶ機会を与え、学べない児童に対する配慮の視点を教員に持たせられるという意味で、ニジェールの教育の質の改善のための政府の努力に将来的に大きな

貢献を果たすことは間違いない。今後、現在進行中の補助金配布を統合モデルにすべく、質のミニмумパッケージを付け加えるよう働きかけを、教育省、GPE 関係ドナー（世銀、AFD）に対して強化していくべきであろう。

## 8. 8月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
ニアメ州中等 COGES 監督官会議	5 日
ドッソ州中等 COGES 監督官会議	7 日
CGDES モニタリングシステム評価調査	上旬～中旬
CGDES モニタリングシステム承認アトリエ開催	20 日
教育省開催 GPE 資金 PAEQ プロジェクト CGDES 学校補助金関連モジュール承認アトリエ	中旬
マダガスカル教育省・JICA スタディツアー受け入れ	30 日～9 月 5 日
ガーナ教育省・JICA スタディツアー受け入れ	30 日～9 月 5 日
ガーナ・マダガスカル・ニジェール経験共有アトリエ開催	31 日～9 月 4 日

以上

別添 1： 会議メモ（世銀、AFD）、GPE の補助金供与活動の概要メモ

# 「ニジュール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2015 年 8 月

作成日: 2015 年 9 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 土	算数ドリル開発支援・仏語版作成	影山
2 日		
3 月	独立記念日	
4 火	JICA 支所との週会合 スタッフミーティング 中等 COGES 監督官会議準備会合 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	岩田 全員 影山、ハムザ、中等 COGES 推進室 影山、カマラ
5 水	ニアメ州中等 COGES 監督官会議 セクタープログラムグループ会合	原、影山、ハムザ、ザカリ、中等 COGES 推進室 アリ
6 木	モニタリング評価コンサルタントとの打ち合わせ ドゥソ州中等 COGES 監督官会議モニタリング	原、影山、ハムザ、アリ、ヤワレ、調整部、PF 計画局 ハムザ、ザカリ、中等 COGES 推進室
7 金	ドゥソ州中等 COGES 監督官会議	ハムザ、ザカリ、(電話参加)原、影山
8 土		
9 日		
10 月	JICA 支所との週会合 モニタリングシステム評価コンサルタントとの打ち合わせ ニジュール支所新所長プロジェクト訪問 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	岩田 影山、ハムザ、ヤワレ、調整部、PF 計画局 原、影山 影山、カマラ
11 火	スタッフミーティング	全員
12 水		
13 木		
14 金	モニタリングシステム承認アトリエ準備内部会合 モニタリングシステム省令ドラフト作成会議	原、影山、アリ、ハムザ、ヤワレ 原、アリ、ハムザ、ヤワレ
15 土		
16 日		
17 月	JICA 支所との週会合 初等教育省(事務次官、他)、AFD、PAEQ コーディネーターとの PMAQ 普及戦略協議 モニタリングシステム承認アトリエ準備会合 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	岩田 原、アリ、調整部 原、影山、アリ、ハムザ、ヤワレ、調整部 影山、カマラ
18 火	モニタリングシステム承認アトリエ準備会合(シミュレーション) モニタリングシステム評価コンサルタントとの打ち合わせ	原、影山、アリ、ハムザ、ヤワレ、調整部
19 水	モニタリングシステム承認アトリエ準備会合	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ、調整部
20 木	CGDES モニタリングシステム承認アトリエ開催(ニアメ)	全員
21 金	世銀との会合	原
22 土		
23 日		
24 月	JICA 支所との週会合 スタッフミーティング 国内経験共有セミナー準備会合 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	岩田 全員 全員、調整部 影山、カマラ
25 火	教育省事務次官との会合	原、アリ
26 水		
27 木	質のミニマムパッケージドリル活動モニタリング スタッフミーティング(3 国経験共有セミナー準備)	影山、ヤワレ 全員
28 金	3 国経験共有セミナー現地視察準備 ニアメ州教育評議会参加 国内経験共有セミナー・三国経験共有セミナー打ち合わせ	ヤワレ アリ ハムザ、調整部
29 土		
30 日	マダガスカル・ガーナチーム受け入れ	原、影山
31 月	ガーナ・マダガスカル・ニジュール 3 国経験共有セミナー(~9 月 4 日)	全員

## 2. 今月の総括

今月は、プロジェクトが第1フェーズより取り組んできた学校運営委員会モニタリング体制をより強化なものとするため、その制度化へ向けた「CGDES/CGDES 連合活動モニタリング・支援システム承認アトリエ」を開催した。その結果、当該システムの有効性が評価され、省令を通じた国家制度化への省令案の作成へと繋がった。

「機能する中学校 COGES モデル」パイロット活動においては、対象州 COGES 監督官会議を開催し、今年度パイロット活動結果の評価、改善への協議を行った。今後、さらにモデルの改善へと検討を進めるため、来月には現場関係者とのモデル評価ワークショップを開催する予定である。

また、先月より世銀・フランス協力庁 (AFD) と教育のためのグローバルパートナーシップ (GPE) 資金による「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」学校補助金供与対象校への質のミニマムパッケージ導入にかかる協議を進めていたが、今月は事務次官、GPE コーディネーター等の教育省中央関係者と当該協議を行った。その結果、概ね関係者の同意を得られ、2015/2016 年度活動において、一部対象校にて試行する方向で準備を進めることとなった。

その他、今月末にガーナ・マダガスカル両国よりニジェールの学校運営委員会の取り組みを視察するスタディツアーを受け入れ、ガーナ・マダガスカル・ニジェール 3 国経験共有セミナーを開始した。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動

今月初め、2014/2015 年度の当該モデルパイロット州であるニアメ州およびドッソ州において、COGES 監督官会議を開催した。今月の COGES 監督官会議は、各州の COGES 監督官とともに、今年度の機能する COGES パイロット活動にかかる一連の活動実績を取りまとめ、評価し、問題点の抽出ならびに今後の改善点への協議を行った。具体的には、民主的な COGES 設置状況、住民集会の開催および動員状況、活動計画策定状況、年間総括における活動の実施状況（活動数、動員額）、卒業試験合格率改善へ向けた補習・強化演習実施状況である。また、各対象校の卒業試験合格率状況の分析も行った。

個別的には、動員状況の改善や補習時間の十分な確保による卒業試験合格率の上昇、COGES 活動にかかる優良事例等は見られるものの、パイロット校全体での具体的な成果の発現にまでは十分に至らず、導入プロセスの軽視、アクター動員戦略の不足、情報共有の不徹底、生徒の巻き込み不足による活動の停滞等が見受けられた。また、全体的にパイロット対象校にかかる情報の精度が低く、COGES 監督官による情報収集、モニタリング、COGES 機能化へ向けた指導・支援の不十分さが顕著であった。

今後、機能する中学校モデルの改善へ向けて、今年度のパイロット活動結果をもと

に、問題点並びにその改善、モデルの要素にかかる協議ワークショップを現場関係者とともに実施する予定である。

## (2) CGDES・CGDES 連合モニタリング

今月 20 日、現在の CGDES/CGDES 連合モニタリング体制の有効性を評価し、今後の持続性強化へ向けた国による制度化を促進するための「CGDES/CGDES 連合活動モニタリング・支援システム承認アトリエ」を開催した。主な議事次第は以下の通り。

- 現行 CGDES/CGDES 連合活動モニタリング・支援システム紹介（成り立ち、メカニズム、配備・手法、成果など）
- モニタリングシステム外部評価結果・システム改善案の発表
- CGDES/CGDES 連合活動モニタリング・支援システム制度化にかかる省令案共有
- アトリエ参加者による省令案修正および承認

このアトリエでは、現在のモニタリングシステムおよびその成果、ならびに外部コンサルタントによるモニタリングシステム評価調査結果を共有したのち、その有効性と制度化の必要性を参加者と確認した上で、より持続性の高いシステムへ向けた制度化へとつなげるための省令ドラフト案の作成・承認を行った。アトリエにて承認されたモニタリングシステム、ならびにその制度化にかかる省令案は現行システムを基本としつつ、主に以下の点が定義された。

- ・ **モニタリング体制の構成**：5 層（ローカル、コミューン、県、州、中央）
- ・ **モニタリング担当者／組織**：CGDES、CGDES 連合、県 CGDES 監督官、州 CGDES 監督官、CGDES 調整部
- ・ 上記の任務実施を**補佐する支援アクター**：計画局長・統計局長、州教育事務所長、県教育事務所長、視学官、指導主事、校長
- ・ **各アクターの権限・業務**
- ・ **モニタリングの枠組み・活動**：「CGDES/CGDES 連合活動モニタリング・支援ナショナルセミナー（年 2 回）」、「CGDES 監督官会議（年 4 回）」、「CGDES 監督官による巡回モニタリング（各連合につき年 9 回）」、「CGDES 調整部による巡回モニタリング（年 3 回）」、「CGDES 連合総会（年 3 回）、事務局会合（年 6 回）」、「CGDES 住民集会（計画策定、承認、中間・年間総括）」
- ・ **予算**：上記国家行政官によるモニタリング活動は国家予算により確保、コミュニティ関係者による活動は CGDES 分担金、外部支援・補助金等を財源

また、今回の承認アトリエ参加者からは、以下の点が提言された。

- 国に対して
  - ・ 教育分野にかかる地方自治体への権限と資源の移譲を加速化させる
- 初等・識字・国語推進・市民教育省に対して



1. 成果の持続性のために、CGDES/CGDES 連合活動モニタリング・支援のシステムを制度化する
  2. モニタリング・支援システム制度化にかかる省令を広める
  3. CGDES/CGDES 連合活動のモニタリング・支援システムの持続性のために必要な予算を確保する
  4. 州の CGDES/CGDES 連合活動にかかる視学官会議開催を再開する
  5. 活動計画にかかるコミュニティの資源動員を国家統計に盛り込む
- コミュニティ（市）に対して
- ・ CGDES 連合への財的・物的支援を継続する

#### 4. 教育省・ドナー関係

今月も、先月に引き続き、質のミニмумパッケージ-補助金結合モデルの GPE 資金による PAEQ の中での補助金コンポーネントへの導入のための以下の働きかけを行った。

- 事務次官、教育省関係者、AFD の担当者との会議
- 世銀との会議
- CGDES 調整部を通じた PAEQ 補助金プロセスの中への質のミニмумパッケージコンポーネントの挿入と公式化促進

次官との会議では、質のミニмумパッケージ・補助金結合モデルの実証の経緯とその結果を説明し、また、この結合モデルが大きな投入や研修スケジュールの変更なしに現在予定されている補助金供与研修に付帯できることを説明した。さらに今年の補助金対象 1000 校中、200 校程度でこの結合モデルを試行する可能性について提案した。この提案は、参加者に肯定的に受け止められただけでなく、AFD 担当者から今年実施する場合、手続を急ぐことをアドバイスされた。世銀の会議では、前述の会議についての報告を行ったが、PAEQ 補助金対象校だけではなく、PAEQ による全国普及をより積極的に目指すべきである旨の発言があった。（詳細は会議議事録参照）。

これらの会議を受けて、CGDES 調整部と協議し、質のミニмумパッケージの PAEQ 補助金プロセスへの導入のための具体的な手続を特定し、教育省内の承認手続を行った。この結果、承認のための書類が大臣に提出され、現在、承認を待っている。

また、24 日、25 日に開催されたニジェールの主要な教育関係者を集めた国家教育評議会において、今年度試行した補助金・質のミニмумパッケージ結合モデルの発表をニアメ教育事務所長から行えることとなり、そのプレゼン資料作成や、プレゼン技術等をプロジェクトスタッフが発表を行う視学官に対して行った。参加者の賞賛を持って受け取られた。

#### 5. プロジェクト運営管理

- (1) 8月の支出は12,638,629Fcfa で、7月の執行額との合計は22,695,201Fcfaで、第2四半期の実行計画額90,422,051Fcfa に対して約25.09%の執行状況である。

- (2) 8月7日のDossoでの中等COGES監督官会議にて、州の教育省関係者に送金を行う新しい支払い方式の第1回目を実施した。金額的には小額で支払先も多くなかったこと、またプロジェクトスタッフのアシストもあって問題なく支払いを実施できた。

## 6. その他（プロジェクト訪問、視察受け入れ等）

### (1) ガーナ・マダガスカル・ニジェール三国経験共有セミナー開催

今月末31日に、ガーナ（12名参加）、マダガスカル（6名参加）の二国からのみんなの学校プロジェクトスタディツアー受け入れを行い、ニジェールの経験共有を中心に、三国経験共有セミナーを開催した（8月31日～9月4日）。今回のセミナーでは、ガーナ、マダガスカルともに、今後JICA支援による機能する学校運営委員会モデルの導入と機能化への活動を予定していることから、両国の中央・地方の関係者にニジェールの知見を共有し、アプローチの理解を深めることを一つの大きな目的とした。

初日となる31日は、3国のそれぞれの学校分権化政策ならびに学校運営委員会の活動状況等基本情報の共有および各国の課題に関して協議を行った。特に、ニジェールからは「機能する学校運営委員会モデル」の要素とその全国的な導入による教育開発への成果を共有するとともに、現フェーズのみんなの学校プロジェクトにおいて取り組んでいる3つのパイロット活動、「補助金モデル」「質のミニマムパッケージモデル」「州教育フォーラムモデル」の取り組みと成果について説明を行った。9月1日、2日目以降のプログラムにおいては、現地視察、現場関係者との意見交換、能力強化手法の共有等を通して、ニジェールの取り組みと成果にかかる具体的な理解を促進する。

## 7. 所感

今月は、日程的には、非常にタイトであったが、今までのプロジェクトの成果の総括と今フェーズ実証したモデル、成果拡大への可能性が広がった。

成果はまず、として「CGDES モニタリングシステム承認アトリエ」開催（ニアメ）があげられる。ニジェールのCGDESのモニタリング体制は、「CGDES⇔CGDES 連合⇔州・県CGDES 監督官⇔COGES 監督官会議⇔全国モニタリングワークショップ」という「行政官による巡回型」モニタリングと「住民参加による集会」モニタリングを組み合わせた形で、CGDESの高い機能性を支えている。その持続性も高く、学校運営委員会モニタリング体制としては、世界的にみてもオリジナル性の高いグッドプラクティスである。今回のアトリエでは、このすでに機能しているこのモニタリング/支援体制をニジェールのさまざまな関係者に周知させ、省令案を作るなど、制度化の準備するために実施したが、本文に記した通り、成功裏に終了した。これは、ニジェールのモニタリング/支援体制確立において、非常に重要なステップとなった。

2つ目の成果としては、「質のミニマムのパッケージ」の普及が外部資金で始められる可能性が出てきたことである。第2フェーズまでは、プロジェクトとして、コモンファンドの流れやその使用事項決定、実施プロセスについて、ほとんどわからなかったが、第3

フェーズにはいり、プロジェクトの独自のネットワークや CGDES 調整部から、それらの動きについて詳しい情報が得られるようになった。この情報によるタイムリーな打ち込みが功を奏し、PAEQ 補助金供与へみんなの学校が開発した補助金有効活用のための能力強化モデルが全面的に採用された。これは、非常に大きな成果であった。しかし、その一方質のミニマムパッケージについては、その実証で大きな改善がみられているにも関わらず、外部資金による拡大の目途がついていなかった。しかし、その拡大について、本文で述べたように、現在可能性が出てきており、この拡大成功し、対象校で成果が実証されれば、PAEQ 対象校 2800 校を超え、全国普及の可能性も見えてくるかもしれない。

## 8. 9月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
ガーナ・マダガスカル・ニジェール学校分権化政策経験共有セミナー	8月31日～4日
CGDES・CGDES 連合活動モニタリング国内アトリエ	9日
プロジェクト合同調整委員会	10日
機能する中学校 COGES パイロット活動年度総括ワークショップ	20～21日
2015/2016年度中学校 COGES パイロットサイト選定	中～下旬
質のミニマムパッケージ算数ドリル開発：開発支援、現地試行、仏語版作成	上旬～下旬
岩田専門家休暇	8日～23日

以上

別添1. 会議議事録（事務次官、質のミニマムパッケージ（PMAQ）-補助金結合モデル、コモンファンド資金による PAEQ への補助金の導入のための会合）

別添2. 会議メモ（2015年8月21日 世銀）

別添3. ニジェール CGDES モニタリング/支援体制確立へのプロセスの経験からの教訓

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2015 年 9 月

作成日: 2015 年 10 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 火	ガーナ・マダガスカル・ニジェール三国経験共有セミナー(2 日目) 算数ドリル開発支援・仏語版作成 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	全員、調整部 影山 カマラ
2 水	ガーナ・マダガスカル・ニジェール三国経験共有セミナー(3 日目)	全員
3 木	ガーナ・マダガスカル・ニジェール三国経験共有セミナー(4 日目)	全員
4 金	ガーナ・マダガスカル・ニジェール三国経験共有セミナー(5 日目)	全員
5 土		
6 日		
7 月	JICA 支所との週会合 スタッフミーティング CGDES・連合国内モニタリングセミナー準備会合 算数ドリル試行(プロジェクト事務所) 岩田専門家一時休暇帰国(~23 日)	岩田 全員 原、影山、アリ、ハムザ、ヤワレ 影山、カマラ
8 火	CGDES・連合国内モニタリングセミナー準備会合(シミュレーション)	原、アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ、調整部
9 水	CGDES・連合国内モニタリングセミナー開催	全員、調整部
10 木	プロジェクト合同調整委員会開催	全員、調整部
11 金	テレビ会議(本部) スタッフミーティング	原 全員
12 土		
13 日		
14 月	JICA 支所との週会合 スタッフミーティング 中等 COGES 中央推進室との会合(ワークショップ準備) 初等教育省カリキュラム教育改革局との会合(質のミニマムパッケージ説明) 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山 全員 影山、ハムザ、ザカリ 原、アリ 影山、カマラ
15 火		
16 水	CGDES モニタリング評価調査コンサルタントとの打ち合わせ	全員
17 木	中学校建設施行式	原、影山
18 金	機能する中学校 COGES モデルワークショップ準備会合	全員
19 土		
20 日	機能する中学校 COGES モデルワークショップ準備会合	原、影山、ハムザ、ヤワレ、ザカリ
21 月	機能する中学校 COGES モデルワークショップ(1 日目) 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	全員 影山、カマラ
22 火	機能する中学校 COGES モデルワークショップ(2 日目) ドナー会合 CGDES 調整部との協議	全員 アリ 原
23 水	スタッフミーティング	全員
24 木	犠牲祭祝日(タバスキ)	
25 金	犠牲祭祝日(タバスキ)	
26 土		
27 日		
28 月	JICA 支所との週会合 スタッフミーティング 中等 COGES 中央推進室との活動計画協議 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	岩田 全員 影山、ハムザ、ザカリ 影山、カマラ
29 火	CGDES 調整部との活動計画協議	原、アリ
30 水		

## 2. 今月の総括

今月は、10月からの新学期に備え、各種活動の総まとめとなるセミナー・ワークショップを開催するとともに、今後プロジェクトが進む方向性を定める合同調整委員会ならびに各種協議を実施した。

「**機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動**」においては、「**中学校 COGES モデル改善協議ワークショップ**」を開催し、2014/2015年度のパイロット活動の総括とともに、モデル改良へ向けた改善点の協議を中央・地方の様々な現場関係者で行った。今回の協議をもとに、2015/2016年度のパイロット活動ならびにモデル自体の改善へと進めていく。

「**CGDES/連合活動モニタリング**」においては、半年に一度実施する CGDES 活動の中央レベルのモニタリング会合として、「**CGDES/連合活動モニタリング国内セミナー**」を開催した。今回の会合では、プロジェクトによる教育省 CGDES 調整部の能力強化の総括のひとつとして、CGDES 調整部主導のもと実施した。なお、2014/2015年度 CGDES 活動総括においては、5億7千万円に上る住民動員が確認されるとともに、地方自治体との連携強化状況も見受けられ、ニジェール全土の CGDES および連合の機能性の高さと活動の安定性が確認された。

「**質のミニマムパッケージ**」においては、2015/2016年度の活用を目指し、算数ドリルの次レベル分冊へ向けた準備を進めた。また、GPE 資金の「**質の教育支援プロジェクト (PAEQ)**」学校補助金対象校への質のミニマムパッケージ導入（プロジェクト開発「**補助金モデル・質のミニマムパッケージ結合モデル**」適用）試行を具体化するための関係者協議に取り組んだ。ここ数カ月の関係者協議や様々な活動を通して、関係者間での本モデルの認知と期待が高まっており、PAEQ での試行は、モデル活動スケールアップならびに普及へ向けた非常に重要な布石となると思われる。

その他、ガーナ、マダガスカルからのスタディツアーを受け入れ、「**ガーナ・マダガスカル・ニジェール三国経験共有セミナー**」を実施した。この多国間経験共有セミナーは訪問両国にとって非常に有用なものとなったのみならず、ニジェールにとっても自国の経験を再評価するうえで有益なものとなった。

なお、「**プロジェクト合同調整委員会**」を開催し、この半年にわたるプロジェクト活動の総括を行うとともに、プロジェクト終了までの活動計画の承認を行った。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動

#### モデル改善へ向けた機能する中学校 COGES モデル」協議ワークショップ開催

今月は、機能する中学校 COGES モデルの改善とその確立へ向け、「中学校 COGES モデル協議ワークショップ」を開催した。概要は以下の通り

⇒目的；2014/2015年度 COGES モデルパイロット活動の結果総括、およびパイロット

校における卒業試験結果の共有

⇒参加者；パイロット対象地域及び中学校の教育行政官（州教育事務所長、県教育事務所長、視学官）、州・県の COGES 監督官、COGES（委員長、校長）、教員、生徒の代表

⇒主要議事；全体会合において、1）COGES の設置から活動計画策定、その実施・評価、モニタリングに至るまで活動プロセスごとの総括、2）成功事例と課題の抽出。グループワークにおいて、3）アクターごとの活動成否要素の分析。全体会合で、4）2015/2016 年度のパイロット活動実施にかかるロードマップを共有、承認

#### ⇒セミナー総括

今回のワークショップでの各種討議を通して、卒業試験合格率上昇へ向けた活動の優良事例が共有される一方、課題としては

- 1）COGES 設置ならびに活動計画策定・実施プロセスの軽視（特に民主選挙の不実行）
- 2）生徒を主とする多様な関係者間の情報共有・巻き込み不足（特に卒業試験 COGES 活動の主要アクターである教員・生徒への情報不足）
- 3）関係者動員にかかる（中学の特徴を考慮した）情報共有戦略不足
- 4）パイロット立ち上げ遅延による活動実施期間不足
- 5）教育行政による活動モニタリング・情報収集の問題（ワークショップの協議取りまとめおよび提言は別添 1 参照のこと）。

今後は、ここで協議された経験、成功事例と課題をもとに、モデルの改良のためのモデルの改訂、中学校 COGES 活性化と継続につながる情報共有とモニタリング体制への新たな取り組みにかかる試行を視野に入れた検討を進めていく。

#### 以下は 2014/2015 年度パイロット活動結果（対象 41 中学校）

##### (ア) 活動概要総括

- 民主的選挙による COGES 設置：41 中 40（選挙総会平均参加者数 112 名）
- 住民集会開催状況：平均 3.3 回（年間総括集会の開催率は 40%以下）
- 平均活動数：9.6 活動
- 動員額：総動員額 44,869,060Fcf（約 940 万円）、COGES あたり 1,150,490Fcf（約 24 万円）
- 卒業試験合格率改善へ向けた補習実施：41 中 41（週当たり 11.2 時間実施）

##### (イ) 対象校卒業試験結果

	2014 年合格率(パイロット前年)	2015 年合格率	増加
対象 41 中学校	24.74%	46.77%	+ 20.96
全国平均	26.44%	45.87%	+ 19.43

## (2) CGDES・CGDES 連合（以下連合）モニタリング

### ① CGDES 活動評価の為に「連合モニタリング国内セミナー」開催

本セミナーは、前回まで「連合経験共有セミナー」という名称で開催されていたものを「CGDES モニタリング・支援」としての役割と意義に焦点を当てる意味で改名された。セミナーの参加者は、通常のセミナーと同様、中央・地方の主要な教育行政関係者で、協議内容は、前半期 CGDES/連合活動の評価、課題の解決策、次期活動であった。詳細な議事事項は以下の通り。

- 1) 各種会合実施報告（前回 CGDES/連合国内経験共有セミナー、地域経験共有セミナー、モニタリングシステム承認アトリエ）
- 2) 2014/2015 年度 CGDES・連合活動総括評価、
- 3) 「質の教育支援プロジェクト（PAEQ）」における CGDES への補助金供与活動実施概要（活動概要、目的、サイト選定、実施プロセスなど）
- 4) 地方での国家予算執行にかかる説明および効率的な使用法にかかる協議（グループワーク）

⇒**総括**：今回のセミナーで特筆すべきことは、教育省 CGDES 調整部に対するプロジェクトの能力強化の集大成の一つとして、本セミナープログラム内容の検討からその準備まで、CGDES 調整部主導により取り組んだこと。CGDES 調整部も通常以上に自らの役割を意識して取り組み、プロジェクトから適宜支援はあったものの順調な「自主開催」にこぎつけることができ、CGDES 調整部の能力強化という意味では非常に有効な機会となった。

⇒**提言**：最終的に参加者からの教育省に対するセミナー提言として以下の点が示された。

- 1) 2015 年 8 月 20 に開催した「CGDES/連合活動モニタリング・支援システム承認アトリエ」での提言実施を迅速に進める
- 2) 2015 年 3 月開催の第 6 回学校分権化地域経験共有セミナー（みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー）にてニジュールが誓約した事項の実施を継続して進める
- 3) コミュニティとともに、地方行政ならびに伝統的権威に対して、2015 年 10 月 1 日の新学期開始を保証するよう十分な措置をとるよう促す
- 4) 質の教育支援プロジェクト（PAEQ）において実施される学校補助金供与メカニズムの実施を迅速に進める

### ②2014/2015 年度 CGDES 活動、連合活動総括

今回の上記セミナーを通して、評価がまとまった。まず、活動総括表を掲げる。

表 1：CGDES 活動総括表集計結果（0.209 円/Fcfa）

回収・分析 年間総括表数 (回収率)	実施活動数	CGDES 平均実 施活動数	動員総額(Fcfa)	CGDES ごとの平 均動員額 (Fcfa)
16 020 (89%)*	86 486	5.4	2 731 545 575	170 508

\*全国 18003 校中 89%を集計

今年、全国およそ 18000 校中 16000 校（89%）の活動総括が集計され、住民動員は総額 2,731,545,575Fcfa（約 5 億 7 千万円）、CGDES あたり約 170,508Fcfa の動員となり、CGDES あたり 5.4 活動が年間実施されたことが確認された。

総括としては、今年度も引き続き、ニジェール全土にて高い住民動員と安定的な活動が実施され、動員額の面で言えば、過去 5 年の結果を上回る成果を挙げた。これは、ニジェール国内 CGDES や連合の継続的な高い機能性や、その機能性を下支えするモニタリング支援体制の適切さを示し、今までの CGDES や連合に対する研修あるいは、教育省に対する政策支援などプロジェクト支援の方向性の正しさと適切さを証明するものとなった。

また、CGDES の主要活動（教室建設、補習授業、夜間学習）実施状況に関しては、「補習授業・夜間学習」では年度ごとの変動があり、今年度はわずかに減少が見られたものの、今年度も 3 活動ともに比較的安定した実施が確認された。教育へのアクセス向上を支援する「教室建設」は、今年度も CGDES あたり 2 教室、全国で 25,000 教室以上がコミュニティ自身により建設された。一方の児童の学力向上を目指した「補習、夜間学習」では、全国 5 割程度の CGDES が実施し、両者合わせて年間平均 166 時間の学習時間増加に貢献した。

表 2 : CGDES 主要活動実施状況

教室建設	活動実施 CGDES 数(%)	全国総建設教室数	CGDES あたりの平均 建設教室数
	12,171 (76%)	25,233 (全国小学校教室数の 訳 40%に当たる)	2.1
補習・追加授業	活動実施 CGDES 数(%)	補習実施時間数(時間)	学校ごとの平均補習 時間(時間)
	9,308 (61.2%)	727,763	78.2



夜間学習／チュートリアル	活動実施 CGDES 数(%)	実施時間数(時間)	学校ごとの平均実施 時間数(時間)
	6,588(43.3%)	581,907	88.3

さらに、先月実施された、「CGDES 活動モニタリングシステム承認アトリエ」では、モニタリング体制全体に加え、CGDES 機能化及び教育開発における連合の果たす役割の重要性と有効性が確認されたが、2014/2015 年度の連合活動総括を通して、その安定的な機能性と地方行政との連携を通じた教育開発への貢献可能性が見いだせる結果が得られた（結果概要以下参照）。

- 国内全 266 連合中 9 割を超える連合が年間 3 回の連合総会を開催（3 回に満たない連合は、治安悪化が理由）
- 平均 CGDES 参加率は 81%以上
- 全連合総会の 8 割以上に市長が参加

表 3：連合資源動員状況

CGDES 拠 出金回収率	CGDES 拠出金動員 額合計(連合あたり 平均額) Fcfa	市からの寄付金 総額(連合あたり 平均額) Fcfa	連合動員総額中 市からの寄付金の 割合(%)	連合動員額合計 (連合あたりの平均 動員額) Fcfa
76.74%	103,266,380 (388,219)	41,881,275 (157,448)	24.86%	168,469,455 (633,344)

### (3) 質のミニマムパッケージパイロット活動

#### 「算数ドリル」新刊開発と発行準備、および活動スケールアップへの下準備

質のミニマムパッケージの重要な構成要素である「算数ドリル」の開発（以前開発されたものの次レベル）が現在継続的に実施され、前年度まで使用してきた三冊のドリル冊子（運筆、ドリル No.1、ドリル No.2）に加え、新たな三冊が加わることとなる。

この新たなドリル作成の過程は、まず日本側での専門家が作成し、その内容を現地担当専門家が確認するとともに、プロジェクト事務所での試行（寺子屋活動）で実際に子どもたちに問題を解かせてみて適用性を再度確認。問題があれば、日本側との質問と回答が幾度も繰り返し替えられ、日本語版の確定へと至る。そして、それを現地担当専門家が仏語訳し、仏語訳をこちらの算数関係者に確認して初めて現地仕様版が確定する。このように日々の細かい作業を繰り返した中、2015/16 年度のパイロット活動開始へ向け、7 か月で 3 冊の仏語版の印刷・配布へと準備を進めることとなった。

これら新しいドリルは、2015/2016 年度のプロジェクトによる直接的なパイロット活

動（約 40 校、児童 4000 名対象）にて活用されるのに加え、現在、協議を進めている GPE 資金による「質の教育支援プロジェクト（PAEQ）」における CGDES 補助金供与への質のミニмумパッケージ導入に際しても、使用する予定である（200 校対象）。なお、PAEQ 対象校への質のミニмумパッケージ導入に関しては、世銀・フランス開発庁（AFD）を主とする関係ドナーおよび教育省側と大枠での合意に達したことから、対象サイト選定、実施スケジュールを含む、実施のための具体的事項にかかる関係者間との協議を進めた（詳細に関しては、以下「教育省・ドナー関係」参照のこと）。

#### 4. 教育省・ドナー関係

今月 22 日に PTF 会合が開催された。主なテーマは、10 月に予定されていた教育・訓練セクタープログラム（PSEF）レビュー会合の延期と、レビューに向けたテーマ別会合の活性化であった。PSEF レビューは 10 月開催を予定していたが、準備が間に合わず、12 月以降開催の可能性高いことが話題となった。また、レビューの内容を掘り下げるために設立されたテーマ別会合（質、アクセス、制度・システム管理）が現在機能していないため、活性化すべきであるとの提案があった。プロジェクトからは、レビュー会合の討議の中で、「質のミニмумパッケージ」試行と成果について発表を行うことを提案し、了解された。

みんなの学校開発「補助金有効活用/質のミニмумパッケージ結合モデル」は、プロジェクトからの関係ドナー、教育省への働きかけによって、GPE 資金・世銀管理の「質の教育支援プロジェクト（PAEQ）」による補助金供与活動への導入の合意が得られた。この導入は、すでに今年度の補助金供与対象として決定している 1000 校内、200 校から始める予定である。

#### 5. プロジェクト運営管理

- (1) 9 月の支出は 20,140,058Fcf であつた。第 2 四半期は計 42,834,911Fcf の支出となり、計画額 90,422,051Fcf に対して約 47.37%の執行状況であつた。
- (2) 第 2 四半期は学校の休暇に加え、ラマダン、羊犠牲祭などが相次いであつたため、比較的活動にゆとりがあつた。10 月からは新学期が始まるため、プロジェクト活動も最終年度として総仕上げの活動を展開していくことになる。終わりが決まっているので、全ての活動が確実に行えるように準備をし、スムーズに実施できるような体制を維持していきたい。

#### 6. その他（プロジェクト訪問、視察受け入れ等）

##### (1) ガーナ・マダガスカル・ニジェール三国経験共有セミナー開催

先月末 31 日に、ガーナ（12 名参加）、マダガスカル（6 名参加）の二国からのみんなの学校プロジェクトスタディツアー受け入れを行い、ニジェールの経験共有を中心

に、三国経験共有セミナーを5日間にわたり開催した(8月31日～9月4日)。今回のセミナーでは、ガーナ、マダガスカルともに、今後JICA支援による機能する学校運営委員会モデルの導入と機能化への活動を予定していることから、両国の中央・地方の関係者に対してニジェールの知見を共有し、アプローチの理解を深め、かつ、ここでの学びを各国の今後の活動へと反映させることを一つの大きな目的とした。

初日となる31日には、ニジェールからの経験発表を通して、「機能する学校運営委員会モデル」の要素とその全国的な導入による教育開発への成果、現行する3つのモデル開発パイロット活動―「補助金モデル」「質のミニマムパッケージモデル」「州教育フォーラムモデル」の取り組みと成果を共有したが、9月1～3日のプログラムにおいては、以下の内容を盛り込み、ニジェールの取り組みと成果にかかる具体的な理解の促進を図った。

- ▶ 「機能するCGDES」、「機能する連合」、「地方自治体との連携」、「補助金モデル」、「質のミニマムパッケージ(算数ドリル活動)」というテーマごとに関連するCGDES、連合、市長を訪問。現場関係者との意見交換を行うとともに、質のミニマムパッケージにおける算数ドリル活動の視察を実施
- ▶ ニジェールにおけるコミュニティ能力強化手法にかかり実践(シミュレーション)を交えながら共有、その効果を協議
- ▶ 機能するCGDESモデルの確立からその普及、CGDES・連合活動のモニタリングを現場で担う全州のCGDES監督官との経験共有、意見交換会を開催。現場の知見に基づく教育開発における住民およびCGDESの貢献、住民参加の教育開発における重要性とその要因、またそれを進める上での現場行政官の役割についての協議・質疑応答を実施

そして、これらプログラムを経たセミナー最終日には、ガーナ・マダガスカルそれぞれがニジェールでの学びを取りまとめ、今後の各国活動への展望にかかる報告がなされた。いずれの国の発表からも、運営側の意図を理解したうえで、今回の視察が有効に反映されたことが確認されるものであった(ガーナ・マダガスカル視察報告書は別添参照のこと)。

今までの仏語圏アフリカからの視察と異なり、今回は、言語の問題に加え、社会背景や教育システムに差異が多い英語圏からの視察ということで、経験共有の側面での難しさはあったものの、両国参加者の高い関心と問題意識を踏まえての参加を得られたことで、単なる訪問にとどまらない有効な機会となったと思われる。ニジェール側にとっても、他国に経験を共有することで、その経験の意味付けを再度振り返り、かつその価値を再評価する機会となったと言える。

## (2) 合同調整委員会開催

上記「CGDES/連合活動モニタリング国内セミナー」の翌日、前回の委員会から現在

までのプロジェクト活動の成果を評価し、今後プロジェクト終了までの活動計画を承認するためのプロジェクト合同調整委員会を開催した。今回の協議では、通常のプロジェクト活動総括、および今後の活動計画承認に加え、プロジェクト活動としてのみならず、ニジェールの CGDES 政策発展にとっても重要な意義を持つものであることから、今月上旬開催の「ガーナ・マダガスカル・ニジェール三国経験教諭セミナー」、前日開催の「CGDES/連合活動モニタリング国内セミナー」および先月開催の「CGDES/連合活動モニタリングシステム承認アトリエ」の結果報告を行った。

プロジェクト活動報告においては、教育省中央・地方（州教育事務所長）とともに、「質のミニマムパッケージ」ならびにそのツールである算数ドリルへの強い関心が示され、一刻も早い本活動のより詳細な経験共有と、パイロット地域を超えた他地域、他州への拡大を望む声が多く上がった。プロジェクト開発の「質のミニマムパッケージ」がニジェール教育関係者にとり、まさにそのニーズに応え、現在教育現場が抱える問題の突破口となる可能性を見出している結果と言えよう。

## 7. 所感

### **成果 (1) : GPE 資金・世銀「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」補助金への「みんなの学校補助金有効活用モデル」導入**

ニジェールにおける補助金供与は、世銀が管理する「質の教育支援プロジェクト」の中で、今年 1000 校、来年以降、2800 校まで数を増やして 2018 年までの 3 年間実施される予定になっている。

一方、ニジェールみんなの学校の「補助金有効活用モデル」は、住民に対する補助金の管理とその補助金を有効に使う計画方法の能力強化を補助金供与とを同時に行うことによって、学習の質を改善できるという仮説に基づいた、2 年間のパイロット活動を経て形成されたモデルである。そして、このパイロット活動を研究の対象として、JICA 研究所がインパクト調査を行い、モデルの有効性が証明された。近々、正式な調査結果の論文が発表される。

世銀のプロジェクトの補助金供与に、みんなの学校の「補助金有効活用モデル」を付加すべくプロジェクトはさまざまな働きかけを、世銀、教育省に対して行ってきた。紆余曲折はあったが、これらの働きかけが功を奏し、プロジェクトモデルが採用されることが決定した。さらに今回は、補助金供与や「補助金有効活用モデル」の研修が適切な時期に実施できるように教育省を支援した結果、今年度対象 1000 校に対する補助金有効活用モデルの研修が 11 月、補助金供与が 12 月までに、実施される見込みとなった。（ニジェールの新学期開始は 10 月 1 日）

学校補助金政策は、世界的に実施されており、世界銀行もこの政策を推進しているが、今回初めて、補助金供与と能力強化が一体となり、しかもその成果がインパクト評価で証明されているモデルが大規模に展開されることになった。このモデルが、対象 1000 校に

において、パイロットと同様の効果を挙げることができれば、そのインパクトは非常に大きく、今後のモデル展開に大きな追い風となると思われる。

## **成果 (2) : GPE 資金・世銀「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」学校補助金への「みんなの学校補助金有効活用/質のミニムパッケージ結合モデル」導入**

プロジェクト第3フェーズでは、上記述べた「学校補助金有効活用」モデルの他に、「質のミニムパッケージ」モデルを試行して、学力の改善に大きな成果を挙げた。そして、さらに効果を拡大するため、昨年12月より、このモデルと学校補助金有効活動モデルを結合したモデルを試行したところ、成果がさらに改善した。このことから、世銀プロジェクト (PAEQ) 学校補助金活動へのこの「結合モデル」導入を現在試みている。

この導入が成功すれば、プロジェクトが得た質の改善成果の“面的拡大”が期待できる他、結合モデルで行うレベルテストの推移で、学習の質の改善の度合いを測れ、補助金の効果測定指標となる可能性もある。

## **課題 (1) : 成果の刈り取り**

補助金供与へのプロジェクトモデル導入の成功は、ニジェールの困難が予想される教育開発にとっての希望となり、プロジェクトにとっても、その目標を越える成果を挙げられる可能性がある。その一方、来年5月のプロジェクト終了までに、モデルの改善あるいは成果分析、報告、発表など所謂、「成果の刈り取り」が難しいという問題も出てきた。

プロジェクトで成果が刈り取れない場合、このモデルは、アプローチやツールの開発を一から JICA が行っているにもかかわらず、今後モデルの実施は、世銀が管理するプロジェクト内で行われていくため、このモデルがあげた成果が世銀のプロジェクトの成果として評価される可能性もある。プロジェクトとしては、これらのモデルの成果が正しく評価、応用され、アフリカの教育開発に資していくことを希求する。

## **成果/課題 : 中学校の機能する学校運営モデル**

中学校の機能する学校運営委員会モデルの実証に当たっては、学校を取り巻く様々な状況や学校への関係者ニーズが小学校とは異なる中学校で、みんなの学校の機能する学校運営委員会モデルをどのように応用するかという点で、試行してきた。小学校の学校運営委員会機能化モデルは、運営の透明性や関係者間の情報共有、成果の視覚化といった、運営一般の改善に普通に使われる概念をミニムパッケージと呼ばれるモデルによって具現化したもので、このモデル自体のコンセプトは中学でも通用するとプロジェクトは考えた。適応しなければならないのは、モデルを構成する活動の内容であった。小学校のミニムパッケージは、「学校運営委員会の事務局選挙」や「学校活動計画の策定・実施・評価」、「地方行政官の巡回型モニタリングと学校運営委員会をグループ化した連合の集会型モニタリングの実施」といったいくつかの活動によって構成されてお

り、プロジェクトでは、ひとつひとつの活動の内容を中学向けに再構成していく思考を重ねた。

この思考の後、到達した中学校“学校運営委員会”モデルの特徴は、基本的な小学校の学校運営委員会活性化モデル（ミニマムパッケージ）ではなく、質に焦点を当てたさらに進化したモデルを適用したところにある。初めから“進化モデル”を適用した理由は、中学校の大半の生徒・保護者の中学校教育に対するニーズが、中学校卒業試験の合格に象徴される「学習の質」にあることが、パイロット実施に当たって行ったベースライン調査で明確に示されたためであった。

このような過程を経て形成されたモデルは、昨年12月からニアメとドッソで試行されたが、本文でも説明されている今年9日に実施した「機能する中学校 COGES モデルワークショップ」で、その試行の結果が総括された。総括の結果、明らかになったのは、各学校委員会の機能度、卒業試験合格率の改善などは、プロジェクトの思惑よりは低い結果となったが、その理由が、マニュアルの内容や研修の質というよりは、研修時期が遅れ、実際の活動が開始されたのが今年2月で、6月の学期末までの活動期間が短かったこと、COGES 監督官に移動手段等がなく、モニタリング等ができなかったなど外部要因が大きく影響していることがわかった。全体としては、大半の対象校で民主選挙による学校運営委員会の事務局員が選ばれ、レベルテストが実施され、その結果の共有後、保護者/住民の活動計画が策定され、活動計画で計画された補習が非常に活発に行われた。

今後は、上記ワークショップで明らかになった教訓を生かしながら、今年度のモデルの完成を目指し、実証を行っていく。

### **その他：経験共有セミナーの成功、みんなの学校プロジェクトへの理解の促進**

今月開催したガーナ・マダガスカル・ニジェール三国経験共有セミナーは、先月末から今月の初めまで実施され、参加国にとって“さまざまな具体的学びがあったセミナーであった”との評価を得た。送付された同経験共有セミナーの事後報告書（添付を参照のこと）の内容からも、参加国の視察ニーズを満たし、それぞれの国における今後の学校運営（自立的学校運営）政策の展開に貢献したことがわかる。今回の経験共有セミナーは、ニジェールみんなの学校プロジェクトが、その開始以来に複数回にわたって同様のセミナーやスタディツアーを受け入れてきた集大成ともいえるが、このような活動の成否には様々な要素に留意する必要がある、みんなの学校プロジェクトのこれまでの経験からの教訓を取りまとめることも意義があると思料する。

## **8. 10月の主な予定**

27日内 容	日 程 (予定)
機能する中学校 COGES モジュール改定ワークショップ	5日

中学校 COGES 設立講師研修（ニアメ開催）	13～14 日
中学校 COGES 対象学力テスト実施（旧パイロット校対象）	12 日～16 日
中学校 COGES 設立研修（ニアメ州新規パイロット校対象）	21 日
中学校 COGES 設立研修（ドッソ州新規パイロット活動対象）	23、24 日
中学校 COGES 計画策定・簡易財務講師研修	29～31 日
タウア州教育フォーラム執行委員会会合（マダウア開催）	19 日
タウア州教育フォーラム視学官会議（マダウア開催）	20 日
タウア州 CGDES 監督官対象質の改善計画策定講師研修（ニアメ開催）	23～24 日
質のミニマムパッケージパイロット校学力テスト実施	12～16 日
GPE 資金「質の教育支援プロジェクト（PAEQ）」学校補助金活動モジュール承認アトリエ開催（初等教育省 CGDES 調整部主催）	9 日

以上

別添 1：機能する COGES モデル改善協議ワークショップ協議結果総括

別添 2：マダガスカル国「みんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト」ニジェール視察報告（マダガスカル事務所）

別添 3：ガーナ国「ニジェールみんなの学校プロジェクト」視察報告書（ガーナ個別専門家）

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2015 年 10 月

作成日: 2015 年 11 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 木	算数ドリル開発支援・仏語版作成	影山
2 金	PAEQ 学校補助金モジュール承認アトリエ準備会合	原、影山、アリ、ヤワレ、調整部
3 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
4 日		
5 月	機能する中学校 COGES モジュール改訂ワークショップ JICA 支所との週会合	原、影山、ハムザ、中等推進室 岩田
6 火	世銀との会合	原
7 水	PAEQ 学校補助金モジュール承認アトリエ準備会合 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	アリ、ヤワレ 影山、カマラ
8 木	スタッフミーティング PAEQ 学校補助金モジュール承認アトリエ準備会合 中等 COGES 対象校学力テスト配布	全員 原、影山、アリ、ヤワレ、調整部 ザカリ
9 金	中学校 COGES 講師研修準備会合 PAEQ 学校補助金活動モジュール承認アトリエ開催(初等教育省 CGDES 調整部主催)	原、影山、ハムザ、ザカリ、中等推進室 原、影山、アリ、ヤワレ、調整部
10 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
11 日		
12 月	JICA 支所との週会合 スタッフミーティング 中等 COGES 設立講師研修シミュレーション	岩田 全員 影山、ハムザ、ザカリ、中等推進室
13 火	中等 COGES 設立講師研修(1 日目)	原、影山、ハムザ、ザカリ、中等推進室
14 水	中等 COGES 設立講師研修(2 日目) タウンフォーラム州執行委員会会合準備 中等 COGES 旧対象校学力テスト実施(2 日間)	原、影山、ハムザ、ザカリ、中等推進室 影山、アリ、ヤワレ
	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
15 木	祝日(イスラム年元旦)	
16 金	タウンフォーラム州執行委員会会合準備	影山、アリ、ヤワレ
17 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
18 日		
19 月	JICA 支所との週会合 タウンフォーラム州執行委員会会合(コニ開催)	岩田 アリ、ヤワレ、ザカリ
20 火	タウン州フォーラム準備視学官会合(コニ開催) 中等 COGES 中央推進室との研修準備会合	アリ、ヤワレ、ザカリ 原、影山、中等推進室
21 水	中等 COGES 設置研修(ニアメ対象 6 校)	原、影山、中等推進室
	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
22 木	中等 COGES 中央推進室との研修準備会合 タウン州 CGDES 連合能力強化講師研修準備会合	原、影山、中等推進室 原、影山、アリ、ヤワレ、調整部
23 金	タウン州 CGDES 連合能力強化講師研修(計画策定講師研修)(1 日目)	原、影山、アリ、ヤワレ、調整部
24 土	タウン州 CGDES 連合能力強化講師研修(計画策定講師研修)(2 日目) 中等 COGES 設置研修(ドッソ対象 36 校)	原、影山、アリ、ヤワレ、調整部 ザカリ、中等推進室
	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
25 日		
26 月	JICA 支所との週会合	岩田
27 火	スタッフミーティング 中学校 COGES 計画策定・財務管理講師研修準備会合	全員 原、影山、ザカリ、中等推進室
28 水	中学校 COGES 計画策定・財務管理講師研修準備会合 PAEQ 補助金供与・能力強化研修計画・準備(調整部技術支援)	影山、ハムザ、ザカリ、中等推進室 原、アリ、ヤワレ、調整部
	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
29 木	中学校 COGES 活動計画策定・財務管理講師研修(1 日目) PAEQ 補助金供与・能力強化研修計画・準備(調整部技術支援)	原、影山、ハムザ、ザカリ、中等推進室 原、アリ、ヤワレ、調整部
30 金	中学校 COGES 活動計画策定・財務管理講師研修(2 日目) 教育ローカルパートナーグループ会合(GPLE) 初等教育省事務次官との会合(PAEQ 対象校への PMAQ 導入に関して)	原、影山、ハムザ、ザカリ、中等推進室 原、アリ 原、アリ、調整部
31 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所) 中学校 COGES 活動計画策定・財務管理講師研修(3 日目)	影山、カマラ 原、影山、ハムザ、ザカリ、中等推進室



## 2. 今月の総括

小学校・中学校ともに 2015/2016 年度新学期開始月である今月は、今年度各種モデル開発パイロット始動となる活動に取り組んだ。

「機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動」としては、新規対象校について、その選定（42 校）、モジュール改訂・作成、各種講師研修、COGES 設置研修を実施した。昨年度からの対象校に対しては、年度初めの学力試験を実施し、質の改善に係る活動計画策定促進支援をおこなった。

「州教育フォーラムモデル開発パイロット活動」においては、来月のタウア州教育フォーラム開催へ向けて、『タウアフォーラム州執行委員会』会合および『タウア州フォーラム準備視学官会議』を開催し、

- ① 前回フォーラム目標である 2015/2016 年度新入生男女比進捗、
- ② 次回フォーラム開催費の州負担状況、
- ③ 第 3 回タウア州教育フォーラム開催計画

について協議を行った。協議の結果、①に関しては、2015/2016 年度新入生男女比が、現時点で男女比「0.88」（フォーラム目標 0.83 より 0.05 増、昨年度比 0.11 増）に達したことがわかった。また、②については、44 コミュニティ中 40 コミュニティがコミュニティ関係者のフォーラム参加費をコミュニティ予算に計上していることが確認された。最終的に、全コミュニティ関係者参加費に加えて、州・県知事や州教育評議会関係者の参加費や昼食・会場費等、フォーラム開催にかかる費用の 4~5 割近くを州・県・コミュニティ側に負担とすることとなった。なお、③の次回タウア州教育フォーラムのテーマとしては「教育の質の改善:児童の基礎学力向上」とすることで確定した。

「補助金有効活用モデル開発パイロット活動」においては、モデルの拡大普及へ向け、GPE（教育のためのグローバルパートナーシップ）資金の「質の教育支援プロジェクト（PAEQ）」学校補助金供与へのモデル適用に向けた技術支援を行った。今月初めには、教育省 CGDES 調整部主催による「PAEQ 学校補助金マニュアル承認アトリエ」が開催され、プロジェクト開発のモジュールを含む PAEQ 補助金供与にかかるマニュアル三種の承認が進められた。これにより、みんなの学校プロジェクト開発の「補助金有効活用モデル」のモジュールが正式に PAEQ 対象校の現場にて採用されることが確定した。

「質のミニマムパッケージパイロット活動」においては、GPE 資金 PAEQ プロジェクト補助金対象校への質のミニマムパッケージ導入（『補助金有効活用－質のミニマムパッケージ結合モデル』試行）に関し、最終的に今年度は 180 校に対して行うことで確定した。また、PAEQ 対象校へのドリル普及にかかる印刷・販売に関しては、今後の算数ドリル普及へ向けた購買・普及ルート確立も視野に入れ、教育省の文書作成機関である INDRAP（研究文書・教育指導法国家研究所）と協議を進めていくこととなった。

### 3. 今月の主な活動

#### (1) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動

今月は 2015/2016 年度のパイロット活動開始へ向け、新規対象校の選定、各種モジュールの改訂・作成に取り組むとともに、昨年度からの対象校に対する学力試験、今年度新規対象校「機能する COGES」立ち上げに向けた講師研修（COGES 設置、計画策定、簡易財務研修）、および新規対象校への COGES 設置研修を開始した。各活動の詳細は以下の通り。

##### 【新規パイロット対象校選定】

- ・ ニアメ州 6 校、ドッソ州 36 校（ボボイ県 16 校、ログ県 5 校、ドッソ県 2 校、チビリ県 4 校、ドッチ県 3 校、ガヤ県 6 校）、計 42 校で確定
- ・ ドッソ州ボボイ県内の全 24 中学校（新旧パイロット校合計）は、モニタリング体制構築へ向けた「中学校 COGES 連合」設置試行予定

##### 【機能する中学校 COGES モデルモジュール改訂】

- ・ 「保護者会事務局・中学校 COGES の民主的な設置」、「中学校 COGES 活動計画策定・実施・モニタリング／評価プロセス」、「中学校 COGES リソース簡易管理手続き」の 3 マニュアルを改訂
- ・ 上記に加え、教育の質改善、卒業試験結果改善へ向けた COGES 活動の実施を支援する「補習（補習授業・強化演習）実践テクニックガイド」を作成
- ・ モジュールの改訂においては、昨年度パイロット活動の問題点を踏まえ、COGES 活動関係者グループ（COGES メンバー、保護者・住民、生徒、教員等）それぞれの「情報共有」の枠組み・機会を明確にし、その実施に重きを置くものとした。

##### 【モジュール講師研修】

- ・ 上記 3 つのマニュアル（COGES 設置、活動計画策定、簡易財務）および活動実践ガイドにかかり、対象 2 州の州・県 COGES 監督官（計 13 名）に対し、2 回に分けて講師研修を実施

##### 【新規対象中学校 COGES 研修】

- ・ ニアメ州、ドッソ州それぞれにおいて、今年度新規対象中学校の校長および教員代表（42 校計 84 名）に対して、機能する中学校 COGES 設置へ向けた、保護者会事務局・COGES の民主的設置プロセスにかかる研修を実施
- ・ 上記の研修を受け、各校において今月末までに関係者グループへの報告会を開催。その後来月上旬～中旬にかけて情報共有住民集会、選挙集会が開催される予定

##### 【昨年度からの対象中学校 COGES】

- ・ 今月中旬、昨年度からの 41 対象全校中学 3 年生に対して、主要 5 科目の学力試

験を実施。現在、結果回収中。

- ・ 上記学力試験の結果をもとに、今月下旬までに各校にて結果共有・計画策定にかかる住民集会在開催され、今年度学校活動計画の策定が進められた
- ・ 来月以降、卒業試験合格率改善へ向けた補習・強化演習等の COGES 活動が各校にて実施される予定

## (2) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動

来月のタウア州教育フォーラム開催に向けて、『タウアフォーラム州執行委員会』会合および『タウア州フォーラム準備視学官会議』を開催した。

今回の協議の焦点は、①前回フォーラム目標である 2015/2016 年度新入生男女比進捗、②次回フォーラム開催費の州負担状況、③第 3 回タウア州教育フォーラム開催計画および開催準備。各議題の討議内容・結果は以下の通り。

### 【2015/2016 年度新入生男女比】(10 月 19 日執行委員会開催時点結果)

- ・ 2015/2016 入学者数：合計 **92,038 名**、男子 **48,838 名**、女子 **43,200 名** (タウア州内 71%の小学校結果)
- ・ 男女比：**0.88** (フォーラム目標値の男女比 0.83 に対し **0.05 増**、2014/2015 年新入学生男女比 0.77 に対し **0.11 増**)
- ・ 44 コミュニオン中 39 コミュニオンにて昨年度新入学生男女比を上回る結果

### 【第 3 回州教育フォーラム開催費負担】

- ・ **44 コミュニオン中 40 コミュニオン**にて、コミュニオン関係者(市長、CGDES 連合代表者 2 名)のフォーラム参加費(交通費・日当)がコミュニオン予算に計上済み
- ・ 上記以外の 4 コミュニオンにおいては、計画状況にかかる情報未回収
- ・ コミュニオン関係者参加費以外のフォーラム開催費用を計上したコミュニオンはなし
- ・ 最終的に、第 3 回州教育フォーラム開催にかかる州・県・コミュニオン側負担は以下の通りとなり、フォーラム開催費用の 4~5 割程度が州・県・コミュニオンにて負担されることが確定した。

	項目	財源
1	CGDES 連合代表参加費	コミュニオン
2	市長参加費	コミュニオン
3	州知事参加費	州
4	県知事参加費	県
5	州教育評議会議長・議員参加費	州教育評議会
6	州保護者会代表参加費	州教育評議会
7	コーヒーブレイク・昼食	州教育評議会
8	大会場	県・コミュニオン

- ・ 上記以外の費用はプロジェクト支援(教育行政関係者・伝統宗主、宗教指導者、教

員組合、中央政府・教育省関係者等の上記以外の参加者費用、会場備品（椅子、マイク等）借用費、広報費等）

### 【第3回州教育フォーラム開催計画】

- ・ テーマ：「質の改善：児童の基礎学力向上」
- ・ 目標達成へむけた主な実施戦略：
  - ① フォーラムテーマにかかる関係者グループによる活動誓約と関係者への報告（連合総会、コミュニケーション評議会等にて）
  - ② CGDES 連合代表への「児童の学力向上につながる COGES 活動計画策定」能力強化研修実施（プロジェクト支援）、および連合総会を通じた州内全 CGDES への同研修実施
  - ③ タウア州内全校・全学年に対する校外学習の計画・実施（学習時間の増加と演習活動）
  - ④ 関係者間活動進捗モニタリングおよび（学力テスト）結果共有（住民集会、連合総会、コミュニケーション連絡協議会、フォーラム州執行委員会にて）
- ・ 評価：各コミュニケーション3校（都市部、郊外、農村部）計132校を対象として算数学力テストを定期実施（ベースライン、ミッドライン、エンドライン）

### (3) 補助金有効活用モデル開発パイロット活動

3年間の当該パイロット活動を経て、プロジェクト開発「補助金有効活用モデル」の効果と有効性がプロジェクト内外にて認知されたことから、今学年度は、プロジェクトとしての直接的な補助金供与の介入は行わず、ニジェール国における当該モデルの拡大普及のための技術支援に取り組んでいく。

これに際し、GPE 資金の「質の教育支援プロジェクト（PAEQ）」学校補助金供与（2015/2016年度1000校対象、その後2018年までに2800校へ拡大）にかかる当該モデル適用が、中央関係者間にてすでに確定していることから、現場での実施へ向けた技術支援に取り組んだ。今月初めには、その実施開始として、教育省 CGDES 調整部主催による「PAEQ 学校補助金マニュアル承認アトリエ」が、プロジェクトによる開催準備・実施の技術支援の下、開催された。当該アトリエにて承認するマニュアルは、①補助金管理マニュアル（プロジェクト開発）、②活動計画策定マニュアル（プロジェクト開発）、③PAEQ 資金運用手続きマニュアル（プロジェクトによる開発技術支援）の三種であり、この内、①と②がプロジェクトパイロット活動にて実証済みのものである。アトリエでは、参加者による微修正（仏語表記等）は入ったものの、基本的には内容の変更はなく、補助金供与にかかる適用モジュールとして承認された。これにより、みんなの学校プロジェクト開発の補助金有効活用モデルのモジュールが正式に PAEQ 対象校の現場にて採用されることが確定した。

来月 11 月上旬開催予定の三種マニュアルにかかる講師研修を経た上で、PAEQ 補助金対象 1000 校に対し、当該モデルの「リソース管理」と「質の改善にかかる計画策定」にかかる研修が実施され、当該モデルが現場 1000 校にて実践されることとなる。プロジェクトにおいては、今後行われる一連の関係者能力強化から補助金供与プロセスにおいても、適宜、その計画・実施・運営にかかる技術支援を行っていく。

#### **(4) 質のミニマムパッケージパイロット活動**

今年度当該パイロット活動においては、まず、昨年度のパイロット対象 39 校による「質のミニマムパッケージ」活動継続（補助金供与は行わず、プロジェクトからの直接ドリル供与）を予定している。そこで新学期開始に合わせて、学力試験・活動計画策定・ドリル配布へと準備を進めていたが、対象となる農村部においては、まだ今月下旬にても児童数が安定しない上に、校長の異動を含めて多くの教員不在校（配属待ち）が存在し、本格的な新学期開始が遅れていることが判明した。そのため、来月中旬から下旬以降へと一連活動開始時期がずれ込むこととなった。

GPE 資金「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」補助金対象校への質のミニマムパッケージ導入（『補助金有効活用－質のミニマムパッケージ結合モデル』試行）においては、最終的に JICA 研究所による「補助金有効活用モデル」介入評価調査の対象校であったティラベリ州サイ県・トロディ県計 180 校にて確定した（詳細下記「教育省・ドナー関係」および別添参照）。それにより、来月以降から 12 月末にかけて「質のミニマムパッケージ」講師研修、「算数ドリルファシリテーター」講師研修、対象校への「質のミニマムパッケージ導入」研修（リソース管理・活動計画策定研修）実施技術支援、ベースライン学力テスト実施、対象校へのプロジェクト開発算数ドリル購買支援、対象校へのファシリテーター研修を実施する予定である。

今回の PAEQ 対象校による購入ドリルの印刷・販売に関しては、教育省の方から国指定の教科書等を手掛ける教育省機関 INDRAP（研究文書・教育指導法国家研究所）での実施を要望されたことから、今回の算数ドリル印刷・販売のみならず、今後の算数ドリル普及へ向けた購買・普及ルート確立も視野に入れた協議を進めていく。

### **4. 教育省・ドナー関係**

#### **(1) GPE 資金「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」**

GPE 資金・世界銀行管理の「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」の補助金コンポーネントに、「補助金有効活用モデルと質のミニマムパッケージの結合モデル」を導入するよう働きかけを行った結果、モデル導入自体は決定したが、対象地域については。教育省とプロジェクトとの議論が継続されてきた。議論は二転三転したが、最終的に対象地域は、プロジェクトがすでに補助金有効利用のパイロット活動を行ってきたティラベリ州に決定した。実施の詳細については、まだ詰める必要があるが、外部資金による本プロジェク

トモデル実証が継続できることと確定したことは、モデルの拡大に向け大きな一歩となった。

さらに、教育・研修セクタープログラム（PSEF）の教育省とパートナーの協議会である教育ローカルパートナー会議に出席し、12月に予定されているPSEF合同レビューにおいて、質のミニマムパッケージの成果について発表したい旨発言した。プロジェクトの要請は、他のドナーの発表希望も受け付けると次官が発言したことにより、実現する可能性が高くなった（別添2参照）。

## 5. プロジェクト運営管理

- (1) 10月の支出は22,791,693Fcfaで、第3四半期の計画額132,619,532Fcfaに対して約17.18%の執行状況であった。
- (2) 第2四半期はニアメ以外に州での研修、およびタウアフォーラム州執行委員会など、地方で支払いを行うケースが何度かあった。支所からの指導のとおり、教育省の現地担当者（主に州のCGDES 監督官）へ当日送金をする方法で支払いを行っているが、これまでのところ、大きな問題はなくスムーズに送金・受け取り・支払の実施ができている。

## 7. 所感

### **成果：機能する新中学校モデルの研修内容の改善**

プロジェクトは新しく改善を加えた「機能する中学校 COGES モデル」の実証を開始している。新中学校モデルの特徴について、先月、この稿にて、「質に焦点を当てたモデル」であると紹介したが、今回は、みんなの学校モデルの成功要素である「関係者間の情報共有による信頼関係の改善」について昨年度モデルからの修正点について述べる。

質の高い“情報共有”機会の増加が、関係者間の信頼感の改善、参加の増加につながることは、ニジェールだけではなく他国のみんなの学校プロジェクトでも確認されている。そして、既存の小学校モデルの場合、この情報共有は、学校（校長、教員）と住民、保護者などすべての関係者が参加する住民総会の中で行うことが想定され、それがほぼ可能であった。そのため、研修の焦点も、住民総会をいかに多くの関係者の参加を得て開催するか、その中でいかに質の高い情報共有を行うかなどに当たっていた。当然、今回の中学校 COGES 実証の中でも、「住民総会における情報共有」という方法に焦点をおいた。しかし、小学校とは違いさまざまな点で不具合が生じた。その不具合は、中学校が小学校に比べ、一般的に規模が大きく、生徒、教員、保護者の人数が多く、関係者をすべて同時に一か所に集めること自体が難しかったこと、校長と教員間、教員と生徒間の情報共有が欠如していたため、住民総会だけを関係者の情報共有の機会と設定することに無理があったことに由来する。

今回の研修では、これらの問題に対する解決策として、住民総会と COGES 事務局会議

の他に、校長・教員間、教員・生徒間などの情報共有の枠組み・機会等を昨年度よりさらに明確にし、実施を強調するかたちとした。特に校長への極度の権力集中による校長の俗人的な要素による影響の排除、さらに中学校生徒の学校運営における重要性、学生ストライキやボイコットの牽引となる学生組合の影響も考慮した情報共有機会の設定を行った。

また研修実施方法としては、実際の研修裨益者までの段階が多くなればなるほど、研修の質が落ちるカスケード型の研修の問題を解決すべく、従来から講師の“質”に研修自体の“質”が比較的影響を受けない『状況・場面のシミュレーション』（状況を設定して、研修参加者がそれぞれの役割を演じることにより、注意力を増し、より深く問題を理解し、応用できる手法）を適用していたが、今回は、ほぼ全面的に研修をシミュレーション中心で実施することとし、前回の研修に比べ、各段に参加者の理解と意欲の改善が確認された。

### **成果／課題：補助金活動開始、補助金有効活動モデル拡大とその問題点**

GPE 資金・世界銀行管理の「質の教育支援プロジェクト（PAEQ）」の補助金コンポーネントが始動し、補助金供与も来月から開始される。その補助金供与を前に、11月2日から、みんなの学校が開発してきた補助金有効活用モデルの講師研修およびCGDES研修が行われることが決定した。これは、外部資金でモデル普及が実現したことを意味し、モデル普及の大きな一歩を踏み出したと評価できる。

その一方、先月から、この補助金導入に係るCGDES調整部への研修実施のための技術支援を行う過程で、世銀とニジェール間の交信の内容に接し、改めて、補助金コンポーネント実施開始へ向けた準備不足が露呈している。これは、ニジェール側が、世銀の資金デイスバースに必要とする条件をクリアーすることで汲々として、実質的な現場での資金受け渡しや研修など、実際の活動準備が大幅に遅れたためである。プロジェクトとしては、活動がスムーズに実施できるように、側面支援を継続する。

### **課題：プロジェクト成果の共有**

プロジェクト終了までわずかとなったが、プロジェクトの開発してきたモデルは、それぞれ大きな成果を挙げている。プロジェクトとしては、これらの成果の共有を、各ドナー等に直接報告し、国内、域内の経験共有セミナーなどで発表しているが、それらの情報共有の効果は限定的である。

エビデンスベースの成果発表となると、研究所と協力して実施した補助金有効利用モデルのインパクト調査結果に限られるが、質のミニマムパッケージについても、学力テストは定期的実施しており、その推移で十分に効果的な報告ができると思われる。今後どのように、国外に対して成果の発信を行っていくかについては、検討すべき課題と思料するが、プロジェクトレベルでは解決策を見いだせない可能性もあり、本部と協議していきたい。

## 8. 11月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
中学校 COGES 設置にかかる情報住民集会・選挙集会開催 (今年度新規対象校)・モニタリング	上旬～中旬
ニアメ州機能する中学校 COGES 計画策定・簡易財務研修 (ニアメ開催)	11～12 日
ドッソ州機能する中学校 COGES 計画策定・簡易財務研修 (ドッソ開催)	16～18 日
今年度新規対象中学校 COGES 学力試験実施	中旬
中学校 COGES 活動計画策定総会開催 (今年度対象校)・モニタリング	中旬～下旬
タウア州学力テスト実施校選定	上旬
タウア州第3回州教育フォーラム (コニ市開催)	18 日
タウア州視学官会議 (フォーラム翌日、コニ開催)	19 日
タウア州 CGDES 連合能力強化研修 (児童の学力改善に有効な活動計画策定研修) (フォーラム翌日、コニ開催)	19 日
タウア州 CGDES 連合フォーラム報告総会開催	下旬
GPE 資金「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」学校補助金活動への質のミニマムパッケージ導入講師研修	25～26 日
GPE 資金「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」学校補助金モジュール能力強化講師研修 (技術支援)	2 日～5 日、10～13 日
プロジェクト終了時評価勉強会 (本部とのテレビ会議)	16 日
プロジェクト終了時評価対処方針会議	26 日
プロジェクト終了時評価 (～12 月 17 日)・評価分析調査団員着	30 日

以上

別添 1 : 会合記録 (初等教育省事務次官 : 2015 年 10 月 30 日)

別添 2 : 会合記録 (GPLE 教育ローカルパートナーグループ会合)



# 「ニジュール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2015 年 11 月

作成日: 2015 年 12 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 日	算数ドリル開発支援・仏語版作成 GPE 資金「質の教育支援プロジェクト(PAEQ)」講師研修支援(13 日まで)	影山 アリ、ヤワレ
2 月	ニジュール支所との週会合	岩田
3 火		
4 水	ドリル印刷にかかる教育省機関 INDRAP(研究文書・教育指導法国家研究所)との会合 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	原、影山、調整部 影山、カマラ
5 木		
6 金		
7 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
8 日	中等 COGES 設立選挙総会モニタリング	影山、ザカリ、中等推進室
9 月	ニジュール支所との週会合 NECS プロジェクトとの会合	岩田 原
10 火	中等 COGES 活動計画策定・簡易財務研修シミュレーション	影山、ザカリ、中等推進室
11 水	中等 COGES 活動計画策定・簡易財務研修(ニアメ) 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、ザカリ、中等推進室 影山、カマラ
12 木	中等 COGES 活動計画策定・簡易財務研修(ニアメ)	影山、ザカリ、中等推進室
13 金		
14 土	タウア州教育フォーラム準備会合	アリ、ヤワレ
15 日	タウア州教育フォーラム開催支援ミッション	アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ、調整部
16 月	ニジュール支所との週会合 中等 COGES 活動計画策定・簡易財務研修(ドツ) プロジェクト終了時評価準備勉強会(本部とのテレビ会議) プロジェクト広報・研修ビデオ制作にかかる会議(本部・業者とのテレビ会議) タウア州教育フォーラム準備会合	岩田 中等推進室 原、岩田、影山、支所(中川) 原、岩田、影山、支所(中川) アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ、調整部
17 火	中等 COGES 活動計画策定・簡易財務研修(ドツ) タウア州教育フォーラム準備シミュレーション	中等推進室 アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ、調整部
18 水	第 3 回タウア州教育フォーラム開催(コニ市) プロジェクト広報・研修ビデオ制作にかかる委託先とのスカイプ会議 算数ドリル試行(プロジェクト事務所) 新規中学校 COGES 学力試験実施	アリ、ハムザ、ヤワレ、ザカリ、調整部 原、影山 影山、カマラ
19 木	タウア州 CGDES 連合能力強化研修 タウア州視学官会議 教育分野 PTF ドナー会合	ハムザ、ヤワレ、調整部 アリ、ザカリ、調整部 原
20 金		
21 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
22 日		
23 月	ニジュール支所との週会合 スタッフミーティング	岩田 全員
24 火	NGO CONCERNE との会合	原
25 水	プロジェクト広報・研修ビデオ制作にかかる委託先とのスカイプ会議 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	原、影山 影山、カマラ
26 木	終了時評価対処方針会議(本部とのテレビ会議)	原、岩田、影山、支所
27 金	CGDES 連合総会モニタリング(ニアメコミュニケーション I)	原、ハムザ、調整部
28 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
29 日		
30 月	ニジュール支所との週会合 コロ県 CGDES 連合交流会合モニタリング 初等教育省事務次官および中等教育省事務次官との面会 終了時評価団(評価コンサルタント・通訳)来二	岩田 ハムザ、調整部 原、アリ

## 2. 今月の総括

「州教育フォーラムモデル」開発パイロット活動では、今月 18 日に“州内児童の基礎的学力向上”をテーマとする『第 3 回タウア州教育フォーラム』を開催し、フォーラム活動結果の共有、および今テーマの討議・決議・誓約策定に取り組んだ。前回のタウア州教育フォーラムの主な決議は、

- ① タウア州内 2015/2016 年度新入生男女比格差改善（2014/2015 年度の男女比 0.77 から 0.83 への上昇）、
- ② 州教育フォーラムの持続的な自主開催を目指した州内アクター（州・県・コミューン）によるフォーラム開催費負担、

以上の 2 点であったが、①に関しては、2015/2016 年度新入生男女比 0.83 という目標値を大幅に上回る男女比 0.91 というタウア州過去最高の結果（女子新入生は 3,407 名の増加）、②に関しては、州・県・コミューンにより開催費 50%負担が実現した（44 コミュニティ中 41 コミュニティにて、コミュニティ関係者の参加費がコミュニティ予算より支出）。

また、今回のフォーラムのテーマである「児童の基礎学力向上」に関して、

- タウア州全校における全学年を対象とした学習支援活動の実施と、年間 200 時間以上の学習時間の増加、および学力テスト結果の 20%上昇

がフォーラム決議として採決された。

フォーラム翌日には、今回のフォーラム決議に基づく目標達成へ向け、CGDES/CGDES 連合の児童学力改善につながる活動計画策定能力強化のための『CGDES 連合研修』、および教育行政による活動誓約を具体化する『県教育事務所長・視学官会議』を実施した。今回の研修内容は、今後、州内全コミュニティにて開催される CGDES 連合総会の機会を用いて、CGDES 連合事務局によりすべての CGDES 代表者に対する研修が実施され、州内全 3000 校への学校活動計画に反映されることとなる。これにより、州内すべての学校における全児童に対する学習支援活動を通じた学習時間の増加と、学力テストの結果向上が期待される。

「機能する中学校 COGES モデル」開発パイロット活動においては、今年度新規対象 42 校中 41 校にて、民主的選挙を通じた「新規 COGES」設置が確認された。その後、対象 42 校 COGES に対し、「活動計画策定研修」・「簡易財務研修」を実施した。各校においては、今月下旬に卒業試験受験生を対象とした統一学力試験が実施され、来月上旬にかけてその共有をもとにした、質の改善・卒業試験合格率向上へ向けた活動計画策定のための住民集会が開催されることとなる。

その他、プロジェクト開発の「補助金有効活用モデル」が導入される、GPE 資金の「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」学校補助金供与の実施へ向けて、先月承認されたプロジェクト開発のモジュールにかかる講師研修が実施され、プロジェクトから適宜技術支援を行った。また、PAEQ プロジェクト補助金対象校への「質のミニマムパッケージ」導入へ向け、JICA 開発の「算数ドリル」印刷・販売にかかる関係機関との協議を行った。

### 3. 今月の主な活動

#### (1) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動

##### 「民主的選挙を通じた COGES 設置／質の改善へ向けた学校活動計画策定研修実施」

先月の開催した今年度新規対象校に対する「COGES 設置研修」後、先月から今月中旬にかけて、各対象校にて情報共有の住民集会および選挙総会が実施され、各地で民主的選挙を通じた新規 COGES が設置された。それを受け、今年度対象中学校 COGES に対する「計画策定・簡易財務研修」を今月中旬に実施した。詳細は以下の通り。

##### **【COGES 設置】**

- ニアメ州対象 6 校中 5 校、ドッソ州対象全 36 校において、**選挙総会を経た「新規 COGES」が設置**
- ニアメ州対象 1 校においては、COGES 設置研修後の設置プロセス中に校長の異動があり、引き継ぎが間に合わず、選挙総会を未実施。新校長、旧保護者会代表とのブリーフィングを経て、計画策定・簡易財務研修実施後に、COGES 設置プロセスの再開を行うことで合意

##### **【計画策定・簡易財務研修】**

- 今年度対象ニアメ州 6 校・ドッソ州 36 校、計 42 校の COGES 代表者（校長、COGES 会長、教員代表）計 126 名に対する「計画策定および簡易財務研修」を各州 2 日間に渡り実施
- 計画策定研修においては、COGES/教員会合および住民集会シミュレーションを通して、卒業試験合格率向上へ向けた学校活動計画手法・プロセスにかかる能力強化を実施。また、学力試験の実施・分析方法、および昨年度対象校の優良事例（前年度 19% 合格率を 81.5% まで上昇させた事例等）等を踏まえた「補習・強化演習」の実施法を共有
- 研修後、各対象校にて卒業試験受験生に対する統一学力試験を実施
- その結果をもとにした「学校活動計画策定ための住民集会」が今月下旬から来月上旬にかけて開催される予定

#### (2) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動

##### 「新入生男女比過去最高 0.91 達成／コミュニケーション・県・州による 5 割の開催費負担」

先月開催されたタウア州フォーラム執行委員会会合での決議を受け、今月 18 日に「州内児童の基礎的学力向上」をテーマとする『第 3 回タウア州教育フォーラム』を開催し、第 2 回州教育フォーラム活動結果の共有、および今テーマの討議・決議・誓約策定に取り組んだ。また、その翌日 19 日に、今回のフォーラム決議に基づく目標達成へ向け、CGDES/CGDES 連合の児童学力改善につながる活動計画策定能力強化のための『CGDES 連合研修』、および教育行政による活動誓約を具体化する『県教育事務所長・視学官会議』を実施した。

今後は、フォーラム参加者による各関係グループへの報告会を経て、児童の基礎学力向上へ向けた取り組みが開始されるとともに、その取り組みを評価するための州内代表校(132校)全児童に対するベースライン学力テストの実施を進めていく。

各活動詳細・結果は以下の通り。

#### (ア) 第3回州教育フォーラム

今回のフォーラムではまず、前回の第2回州教育フォーラム目標として決議した主要な二点、①タウア州内 2015/2016 年度新入生男女比格差改善 (2014/2015 年度の男女比 0.77 から 0.83 への上昇)、②州教育フォーラムの持続的な自主開催を目指した州内アクター (州・県・コミューン) によるフォーラム開催費負担、にかかる結果共有・評価を行った。結果詳細は以下の通り。

##### 【新入生男女比結果】

- 2015/2016 年度新入生数は合計 **98,304 名**。内、男子 **51,585 名**、女子 **46,719 名** (2015 年 11 月 10 日時点、州内全学校中約 75%の結果)
- 昨年度に比べ、**女子 3,407 名の増加**
- 男女比：**0.91 達成 (タウア州過去最高値)**
- **昨年度 (0.77) 比+0.14、対目標値 (0.83) 比+0.08**
- 州内 13 県中 11 県、44 コミューン中 37 コミューンが目標値 (0.83) を上回る結果を達成

##### 【開催費負担】

- 州内全 44 連合代表 (各 2 名)、44 市長 (又は市長代理)、13 県知事、州教育評議会議長および議員 2 名、州知事がプロジェクト以外の資金 (コミューン、州、県、州教育評議会予算等) によりフォーラム参加
- **州内 44 コミューン中 41 コミューン (93.2%) が 2015 年度コミューン予算によりコミューン関係者 (市長、連合代表) の参加費 (交通費・日当) を支出**
- タウア州教育評議会が参加者 334 名のポーズカフェ・昼食代、コニ県・市がフォーラム会場を確保
- **今フォーラム開催費約 50%を州・県・コミューン関係者が負担**
- 上記以外の参加者 (教育行政、伝統的宗主、宗教指導者等) 参加費およびその他費用はプロジェクトが負担

前回のフォーラムにおける目標未達成から、州内関係者一同奮起して得た今回の躍進的な成果は、関係者に州教育フォーラムアプローチおよび関係者連携の枠組みの有効性を再認識させるとともに、各アクターの働きにより目標を実現することが可能になるという自信を与え、次回のフォーラム目標達成へ向けたモチベーションへとつながったと言える。

そして、今回の第3回教育フォーラムテーマである、「質の改善—州内児童の基礎的学力向上」にかかる問題提起、討議、決議採決、各アクターグループによる活動誓約策定に取り組んだ。問題提起においては、州教育事務所長によるプレゼンテーションを通して、タウア州内の学校活動計画による補習授業や夜間学習実施時間数の低下傾向と、その対象が6年生への偏っている現状を指摘するとともに、学力テストの結果共有を通して、ニジェールの全般的な児童の基礎学力の問題を共有、住民の継続的な動員と関係者の期待に反する現状を示した。その上で、この状況を改善するための実行可能な対策にかかる討議を行った。

その結果、今回のフォーラム決議として以下の5点が採決され、関係者の活動誓約が宣言された（別添参照）。特に、タウア州全校における全学年を対象とした学習支援活動の実施と、学習時間の増加・学力テスト結果の向上へけた取り組みが具体的な数値をもって決議された点は非常に画期的である。また、地方行政・州教育評議会代表により、次回の州教育フォーラム開催費用を負担することを州教育評議会に提言した点は、今後の州教育フォーラムの持続的実施へ向けた大きな後押しとなると思われる。

#### 【フォーラム決議】

1. 各関係者グループに対するフォーラムの報告会（会合、総会）を開催する
2. タウア州内全校において、すべての学年の児童の学力向上のための適切な活動を、学校活動計画を通して実施する
3. タウア州全校において、学習支援活動を通し、学習時間を少なくとも200時間増加させる
4. ベースラインテストと中間テスト間で、学力テスト結果を20%向上させる
5. フォーラム参加者による誓約の実施結果を共有するため、次回フォーラムの開催費を負担する

#### （イ）CGDES 連合研修

前日のフォーラムにおける決議と活動誓約を学校現場での活動を通じた具体的な成果へと結びつけるため、「児童の基礎学力向上」につながる活動計画策定・実施のための能力強化研修を実施した。これは、児童の学力状況の現状を図るための学力テストの実施とそのコミュニティへの共有を通して、住民参加をベースとした児童の基礎学力向上に“より適切な活動”、学習支援活動の選択と実施へと導くプロセス・手法である。

今回の研修内容は、今後州内全コミュニティにて開催されるCGDES連合総会の機会を用いて、CGDES連合事務局によりすべてのCGDES代表者に対する研修が実施され、州内全3000校への学校活動計画に反映されることとなる。これにより、州内すべての学校における全児童に対する学習支援活動を通じた学習時間の増加と、学力テスト

の結果向上が期待される。

#### (ウ) 県教育事務所長・視学官会議

前日のフォーラムにて定めた活動誓約の具体化（実施活動、期間、アクター）に取り組むとともに、フォーラム活動の成果を図るための、州内代表 132 校（各コミュニケーション 3 校：都市部、郊外、農村部）に対する学力テスト実施へ向けた協議を行った。今後、ベースラインテストは連合総会実施後の 12 月上旬に実施し、コミュニケーション・県・州にて結果回収・集計が行われる。なお、中間テストは 2 月下旬～3 月上旬、エンドラインは年度末に実施予定。

### (3) 補助金有効活用モデル開発パイロット活動

今年度は、プロジェクトからの直接補助金供与は実施しないものの、プロジェクト開発の「補助金有効活用モデル」採用する、GPE 資金「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」の学校補助金供与実施にかかり、CGDES 調整部への技術支援に取り組んでいる。

そのことから、今月上旬に実施された PAEQ 補助金供与講師研修に際し、プロジェクトコンサルタントが研修講師を務める形での能力強化技術支援が行われた。PAEQ 補助金対象州であるザンデール、アガデス、タウア、デッファ州の州・県 CGDES 監督官、州・県教育事務所長を対象に、先月公式モジュールとして承認された、プロジェクト開発「補助金有効活用モデル」のモジュール「リソース管理」・「活動計画策定」と、「PAEQ 補助金手続きマニュアル」にかかる研修が実施された。今後は、各地域研修担当者（CGDES 監督官）により随時対象 CGDES への研修が行われる（但し、当初予定では 11 月中旬から 12 月中旬までの実施であったが、研修資金が依然として州に配分されていないため、11 月末現在、まだ各州共に CGDES 研修開始には至っていない）。

### (4) 質のミニマムパッケージパイロット活動

GPE 資金 PAEQ プロジェクト補助金対象校中、ティラベリ州 180 校への質のミニマムパッケージ導入（『補助金有効活用－質のミニマムパッケージ結合モデル』試行）が確定したことから、PAEQ 対象校へのドリル普及のための印刷・販売にかかり、教育省の文書作成機関である INDRAP（研究文書・教育指導法国家研究所）所長と協議を行った。印刷および補助金に見合った価格での販売に関しては、大枠では問題ないと言質を得たものの、PAEQ 資金執行手続きの問題により、補助金供与の執行時期が不確定であることから、支払いにかかる確約・保証がない時点では印刷の請負が難しいとの意向も示された。印刷には少なくとも 1 か月程度の時間を要するのに加え、PAEQ 補助金供与の大幅な遅れが予想され、かつその時期に予測が立たない現在、非常に難しい条件であるが、事務次官、CGDES 調整部、PAEQ 調整部等と共に、引き続き協議を継続していく。その他、昨年度「質のミニマムパッケージ」対象校にかかる継続実施へ向けた準備を進め

た。

#### 4. 教育省・ドナー関係

##### (1) GPE 資金「教育の質支援プロジェクト (PAEQ)」

PAEQ での補助金供与が遅れている。遅延している理由は、教育省の州活動資金口座管理要員が、PAEQ を管理している世銀の規定する財務担当要員の条件を満たしていなかったためである。世銀側は口座管理要員の再雇用か、現在雇用している要員の能力強化研修を求めている。世銀との交渉に当たっている CGEDS 調整部長によると、現在、より短時間で手続が終わると想定される要員の能力強化研修実施の方向で、世銀と議論を進めているとのことであった。現在のところ、まだ、いつ補助金が供与されるかの見通しは立っていない。

#### 5. プロジェクト運営管理

- (1) 11月の支出は 33,583,955Fcfa で、10月分支出と合わせると 56,379,218Fcfa となり、第3四半期の計画額 132,619,532Fcfa に対して約 42.51%の執行状況であった。
- (2) 11月は中等のドッソ州での研修、タウア州ユニ県でのフォーラム開催など、地方で支払いを行う活動が続いた。今月は、送金は実施したものの、現地で支払い人数に応じた小額紙幣の数が十分に集まらないといった新たな問題が発覚した。今後は送金先の機関に今までよりも早めに小額紙幣の必要枚数の連絡を入れるなどして状況を見ていくこととする。

#### 6. 所感

##### 教育フォーラムの成果と課題と可能性

第2回から第3回の間に行われた男女格差解消のための活動が実を結び、大きな成果が出た。これらの成果は賞賛されるべき結果であり、あらためて、州教育フォーラムモデルの威力を示した形となった。また、今フォーラム開催費約 50%を州・県・コミュニケーション関係者が負担したことは、今回実証を続けているフォーラムの持続性に光が差し込んだ感がある。これらの肯定的な要素がある一方、プロジェクトでは、なお、モデルとしての今回の州教育フォーラムには改善の余地があると考えている。

改善点としては、まず、この州教育フォーラムの実施主体として設立した「フォーラム州執行委員会」が挙げられる。この組織は、今回の男女格差の解消改善キャンペーンの最終局面では、その権威やネットワークが使われ、威力を発揮したものの、組織自体が州知事を長として関係権威者を網羅した形となっていることから、組織として重く、動きが遅いため、州教育フォーラム開催にかかる執行主体として適切なのか、今後評価していく必要がある。次の点としては、モデルの重要な要素である CGDES 連合とコミュニケーションの恒常的連携枠組である「コミュニケーション連絡協議会」が挙げられる。この枠組みも、連合とコミュニ

ンの連携に関し、多くのグッドプラクティスを生み、両組織の関係性の強化に貢献している一方、その機能度がコミューン長の属人的要素に影響され、選挙ごとにその市長が交代するという不安定要素を抱えている。改善策はいくつか考えられるが、成功するモデルの形成までには長い時間がかかると予想される。

現在の教育フォーラムにはまだ改善の余地があるが、このモデルを一般大衆に対する短期的な啓発キャンペーンの手法と捉えれば、その費用対効果が抜群に高く、さまざまな持続性の要素を考慮する必要はなくなる。就学キャンペーンに関しては、ニジェール（恐らく世界的にみても）においては、もっとも効果的な手法であることは、過去のフォーラムの例を見ても明らかである。未だに男女格差が大きいニジェールの教育状況において、女子の就学向上を統一テーマとして、全国で教育フォーラムを展開すれば、統計上の指標も跳ね上がり、国内外で、大きな注目を集める可能性が高い。

### **連合総会を利用した研修システムの可能性**

フォーラムの翌日に開催された「CGDES 連合の代表者への研修」は、本文でも触れているように、その研修内容が、今後、“州内全コミューンにて開催される CGDES 連合総会の機会を用いて、CGDES 連合事務局によりすべての CGDES 代表者に対する研修が実施され、州内全 3000 校への学校活動計画に反映される”ことを意図して実施されたものである。この研修内容が確実に CGDES レベルで伝わっていけば、実に、州レベルで一回の研修を実施すれば、それが各学校レベルの能力強化までできるという革命的な手法である。

ただし、この研修を成功させるためには、幾つかの条件がある。最初の条件は、CGDES 連合の総会が定期的で開催されており、メンバーの出席率が高いこと、第2に総会に参加した CGDES 代表が、総会の内容を確実に CGDES レベルに伝えることである。つまり、機能する CGDES / CGDES 連合の存在が不可欠となる。

この条件をニジェールはすでに備えており、今回の研修の効果を見極め、今後この研修方法の可能性を探っていくことが重要である。

### **質の教育支援プロジェクト (PAEQ) 補助金供与の遅れ**

世銀管理のプロジェクト活動が遅れる例としては、世銀が課する資金供与や資金解除の条件を、教育省がクリアできないというものが多いが、今回のニジェールにおける PAEQ の補助金においても、この同じパターンが繰り返されている。他ドナーや他資金での協調活動であれば、負わなければならないリスクであり、忍耐強く働きかけを行っていくことが必要である。

## **8. 12月の主な予定**

内 容	日 程 (予定)
-----	----------



プロジェクト終了時評価	11月30日～18日
ミニッツ署名（中等教育省・初等教育省）	14日
質のミニマムパッケージ講師研修（PAEQ対象サイト向け）	15～16日
質のミニマムパッケージ学力テスト実施（ティラベリ州キラタシコ ミューン対象校、ニアメ州対象校）	上～中旬
タウア州教育フォーラム学力テスト実施（タウア州内132校）	中旬
ニアメ州中等 COGES 監督官会議開催	17日
ドッソ州中等 COGES 監督官会議開催（ニアメ開催）	21日
ドッソ州中等 COGES 連合設置講師研修（ニアメ開催）	22日
ドッソ州ボボイ県中等 COGES 連合設置研修（ニアメ開催）	30日
岩田専門家パリ出張（パスポート更新）	1～5日

以上

別添1：第3回タウア州教育フォーラム関係者誓約・提言（2015年11月18日タウア州  
コニシ開催）

別添2：NECSプロジェクトとの会合記録（2015年11月9日）

別添3：NGO CONCERNE との会合記録（2015年11月24日）

別添4：初等教育省事務次官との面会（2015年11月30日）

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2015 年 12 月

作成日: 2016 年 1 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 火	算数ドリル開発支援・仏語版作成 <b>プロジェクト終了時評価(~16日)</b> 終了時評価コンサルタントによるプロジェクトスタッフ・チーフアドバイザーインタビュー	影山 原、アリ
2 水	プロジェクト広報・研修ビデオ制作委託先とのスカイプ会議 USAID 支援 NECS プロジェクトとの会合 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	原、影山 原 影山、カマラ
3 木		
4 金	CGDES 訪問(質のミニマムパッケージ活動にかかる協議)	影山、ヤワレ
5 土	岩田専門家パリ出張戻り 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
6 日		
7 月	ニジェール支所との週会合 世銀との会合	岩田 原
8 火	プロジェクト終了時評価団・ニジェール支所・プロジェクト専門家協議	原、岩田、影山、支所
9 水	プロジェクト広報・研修ビデオ制作委託先とのスカイプ会議 プロジェクト終了時評価団初等教育省(次官)・中等教育省(大臣・次官)表敬 質の教育支援プロジェクト(PAEQ)対象地域質のミニマムパッケージ導入講師研修 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	原、影山 原、アリ 影山、ヤワレ、調整部 影山、カマラ
10 木	質の教育支援プロジェクト(PAEQ)対象地域質のミニマムパッケージ導入講師研修	影山、アリ、ヤワレ
11 金	プロジェクト終了時評価団・初等教育省・中等教育省ミニッツ協議	原、岩田、影山、アリ、ハムザ、ヤワレ
12 土	プロジェクト終了時評価団との協議	原、岩田、影山
13 日	質の教育支援プロジェクト(PAEQ)対象サイ県・トロディ県 CGDES 研修(~17日)	ヤワレ
14 月	プロジェクト終了時調査ミニッツ署名 終了時評価調査団による調査報告 中等 COGES 県連合設置講師研修準備会合	原、岩田、影山、アリ 原 影山、ハムザ、中等推進室
15 火	終了時評価団 CGDES 訪問(ニアメ市内) 終了時評価団女子就学促進局長面会 中等 COGES 県連合設置講師研修準備会合	原 原 影山、ハムザ、中等推進室
16 水	プロジェクト広報・研修ビデオ制作委託先とのスカイプ会議 ニアメ州中等 COGES 監督官会議 ドッソ州中等 COGES 監督官会議(ニアメ開催) ドッソ州中等 COGES 監督官対象中等 COGES 県連合設置講師研修(一日目) 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	原、影山 ザカリ、中等推進室 原、影山、ハムザ、中等推進室 原、影山、ハムザ、ザカリ、中等推進室 影山、カマラ
17 木	ドッソ州中等 COGES 監督官対象中等 COGES 県連合設置講師研修(二日目)	
18 金	祝日(共和国宣言記念日)	
19 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
20 日		
21 月	ニジェール支所との週会合 プロジェクト広報・研修ビデオ撮影	岩田 影山、ヤワレ、ニアメ州監督官
22 火		
23 水	プロジェクト広報・研修ビデオ撮影現場準備 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、ヤワレ、ニアメ州監督官 影山、カマラ
24 木	プロジェクト広報・研修ビデオ制作委託先とのスカイプ会議 祝日(モハメッド生誕祭) プロジェクト終了時評価報告会(テレビ会議:本部) プロジェクト広報・研修ビデオ出演者打ち合わせ	原、影山 原、岩田、影山、ニジェール支所 原
25 金	祝日(クリスマス)	
26 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
27 日		
28 月	ニジェール支所との週会合 プロジェクト広報・研修ビデオ撮影にかかる対象校との打ち合わせ	岩田 影山、アリ、ヤワレ
29 火	質のミニマムパッケージドリル活動ファシリテーター再研修準備会合	影山、アリ、ヤワレ、調整部
30 水	中学校 COGES 県連合設置研修(ニアメ開催) 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	原、影山、ハムザ、ザカリ、中等推進室 カマラ
31 木	プロジェクト広報・研修ビデオ撮影リハーサル	影山、アリ、ヤワレ、原

## 2. 今月の総括

今月は、『プロジェクト終了時評価調査』が実施され、「全体としてプロジェクトの成果目標は高いレベルで達成されている」との評価を得るとともに、プロジェクトの成果を今後活用・普及していくための提言が示された。

『機能する中学校モデル開発パイロット活動』においては、今学年度初めから現在までの活動をモニタリング・評価するため、ドッソ州・ニアメ州「COGES 監督官会議」を開催した。また、中学校 COGES のモニタリング体制構築への第一歩として、ドッソ州内二県を対象とした「COGES 連合パイロット活動」実施へ向けた、講師研修ならびに、対象中学校 COGES 代表者に対する「COGES 連合設置研修」を開催した。中学校 COGES 連合においては、県レベルでの COGES のグループ化を図ることで、域内 COGES のモニタリング・情報共有から、教育行政等関係者間との調整・仲介、県レベルでの地域教育開発への取り組みが期待される。来月中旬には、連合事務局選出の選挙総会が各県にて実施され、中学校 COGES としては全国で初の COGES 連合が設置されることとなる。

『州教育フォーラムモデル開発パイロット活動』においては、先月から今月上旬にかけて、州内 CGDES 連合による報告連合総会が開催され、“児童の学力向上”を目標とする今回のフォーラムにかかる州内 CGDES への情報共有・能力強化が実施された。これを受け、対象 132 校における事前学力テストの実施が行われ、現在コミュン・県・州の各レベルにて結果の取りまとめが行われている。

『補助金有効活用モデル開発パイロット活動』・『質のミニмумパッケージ開発パイロット活動』においては、プロジェクト開発モデルの有効な活用・普及を目指し、GPE 資金の「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」学校補助金活動への支援として、「質のミニмумパッケージ」との結合活動を行うティラベリ州関係者への講師研修、ならびに対象 CGDES 研修実施を支援した。「質のミニмумパッケージ」単独においては、昨年度からの対象校に対する新規ドリル導入のための準備を進めた。

その他、来月来二する「みんなの学校プロジェクト広報・研修視覚教材作成」ビデオ撮影ミッションの受け入れ準備を進めた。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動

昨年度からのパイロット対象校に加え、今年度新規対象校においても、今学期はじめの各種能力強化研修を経て、COGES 設置、学力テストの実施、学校活動計画策定、活動の実施等が進められている。そのような状況下、現在までの活動をモニタリング・評価するため、対象のニアメ州ならびにドッソ州の「COGES 監督官会議」を今月中旬に実施した。ドッソ州においては、州 COGES 監督官の指揮の下、県教育事務所の支援も受け、可能な限りでの現地モニタリングも実施され、民主的選挙による COGES の設置から学校活動計画策定まで、COGES 活動実施へ向けた比較的順調なプロセスが進められていること

がある程度確認された。COGES モニタリングの手段・体制が十分に確立していない中、両州共に COGES 監督官によるモニタリング・情報収集の難しさが見受けられるものの、機能する中学校モデルの確立へ向け、引き続き情報の集約と分析を進めていく。

また、中学校 COGES のモニタリング体制構築への第一歩として、ドッソ州内二県での COGES 連合パイロット活動実施へ向け、ドッソ州 COGES 監督官を対象とした「中学校 COGES 連合設置講師研修」を実施した。中学校 COGES 連合においては、県レベルでの COGES のグループ化を図ることで、域内 COGES のモニタリング・情報共有から、教育行政等関係者間との調整・仲介、県レベルでの地域教育開発への取り組みが期待される。そして、今月末には、二県の対象中学校 COGES 代表者に対する「COGES 連合設置研修」をニアメにて開催した。これにより、各 COGES による住民集会での研修報告と連合への参加意思の表明を経て、来月中旬には、連合事務局選出の選挙総会が実施され、中学校 COGES としては全国で初の COGES 連合が設置されることとなる。

## **(2) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動**

プロジェクトと州・県・コミュニンの費用分担の下で、先月開催した「第3回タウア州教育フォーラム」を受け、先月末から今月上旬にかけて、州内の CGDES 連合総会にてフォーラム報告、ならびに CGDES 研修が実施された。これにより、今回のフォーラムのテーマである「児童の学力向上」へ向けた決議目標・誓約、活動戦略にかかる情報共有が州内の CGDES に対し行われたこととなる。今月中旬には、各地にて対象 132 校での事前学力テストが実施され、コミュニン・県それぞれにて取りまとめられたのち、今月末から来月上旬にかけて州全体の結果総括が行われる予定である。

## **(3) 補助金有効活用モデル開発パイロット活動**

プロジェクト開発の「補助金有効活用モデル」の活用・普及が進められている「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」における学校補助金供与活動に対し、効果的な補助金モデルの適用と「質のミニマムパッケージ」との結合モデルパイロット活動を支援するため、「質のミニマムパッケージ」導入対象ティラベリ州関係者に対する講師研修を実施した。ここでは、通常の「補助金有効活用モデル」モジュールおよび PAEQ の運用プロセスに加え、「質のミニマムパッケージ」導入要素にかかる能力強化を行った。また、CGDES 調整部主導にて実施される PAEQ 資金による COGES への研修を強化するため、講師増員にかかる支援ならびに技術支援を行った。

## **(4) 質のミニマムパッケージパイロット活動**

上記 PAEQ 学校補助金活動への「質のミニマムパッケージ」導入支援に加え、今月は、昨年度質のミニマムパッケージ対象校（ティラベリ州キリタシコミュニン内全校）での継続実施、特に新たに開発されたドリルの導入へ向けた準備を進めた。今月実施した学年度

はじめの事前学力テストに引き続き、来月初めには、対象 CGDES のファリシテーターに対する新規ドリルの再研修を実施する予定である。また、開発が完了した新規ドリル三冊（No3～No5）の印刷過程に遅れが生じているものの、来月中には対象校への配布を実施し、適宜現場での活用が進められることとなる。

なお、ドリル開発においては、引き続き、本邦での作成が進められており、プロジェクト側からのフィードバック・試行、仏語版作成が同時進行で行われている。これにより来月から2月にかけて新たに2～3冊のドリルが作成される見込みである。

#### **4. 教育省・ドナー関係**

##### **(1) GPE 資金「教育の質支援プロジェクト (PAEQ)」**

PAEQ の補助金資金ディスペンズが遅れた件は、先月報告した状態はほぼ同じである。この遅れは、世銀側が、資金送付が行われる教育省の州口座管理者が世銀規定の資格を満たしていないとしているため、教育省は、今後世銀が規定する資格を満たす口座管理者の雇用を行うこととなる。一方、補助金有効活用モデルの研修については、12月末日ですべての終了しており、対象校では、補助金の入金を待っている状態となっている。補助金の遅れは、補助金を使った活動の開始の遅れと、活動期間の短縮を意味し、活動成果が著しく低下する可能性がある。

##### **(2) PTF 会合、その他**

今月の PTF 会合では、主に今月実施予定だった教育・研修セクタープログラム : PSEF 共同レビュー会合の開催について、さまざまな議論が交わされた。開催予定日は、当初の12月7日から、14日、2016年1月上旬へと二転三転した。最終的には1月の後半に実施とされることとなった。また今月予定されていた世界銀行の PAEQ モニタリングミッションも延期された。

#### **5. プロジェクト運営管理**

- (1) 12月の支出は15,437,791 Fcfa で、第3四半期の支出総額は71,813,604 Fcfa となり、計画額132,619,532 Fcfa に対して約54.15%の執行状況であった。
- (2) 質のミニマムパッケージで使用予定の算数ドリルについて、当初、支所による契約時には第3四半期終了までに納品・支払の予定であったが、印刷所の印刷ミスによりドリル3、ドリル4が全冊再印刷となった。現在先方でも資材（紙）の到着を待っており、到着次第作業にかかることになっているが、納品がいつになるか見通しが立っておらず、プロジェクトの活動に影響が出てきている。また、同様に今四半期にて支払いができなかったことから、予算の執行にも影響が出ている。

## 6. プロジェクト訪問・ミッション等受け入れ

### (1) プロジェクト終了時評価評価

今月初めから 16 日まで、プロジェクト終了時評価調査が実施された。初等および中等教育省関係者、CGDES・CGDES 連合をはじめとする現地関係者、ならびにプロジェクト専門家・スタッフとの協議等を経て、現 PDM に基づく活動評価、5 項目評価とともに、両教育省への提言が示され、教育省側の合意の下、14 日に初等教育・識字・国語推進・市民教育省、および中等教育省とミニッツの署名が執り行われた。

なお、調査結果としては、「全体としてプロジェクトの成果目標は高いレベルで達成されている」との評価を得た。評価 5 項目に関しは、『妥当性』は「非常に高い」、『有効性』、『効率性』、『インパクト』については、「高い」と評価された。その一方、『持続性』に関しては、「中程度」とされ、持続性の確保をより確実なものにするためには、モニタリングを継続しつつ、具体的な成果を発信し、CGDES 支持層の拡大と適切な予算措置と執行を確保していく必要がある旨が指摘された。また、調査団による提言においては、初等教育省に対して、「プロジェクト開発の各種教育開発モデルの活用・普及」、および「CGDES 活動のモニタリング予算の実質的負担」が示され、中等教育省に対しては、現在試行中である“機能する中学校モデル”の全国展開を視野に入れた「COGES 中央推進室の業務費予算確保」、「COGES 関連法令整備」、「機能する中学校 COGES モデルの承認」および、全国普及準備としての「中学校 COGES モニタリング体制への展望」へ向けた取り組みの必要性が示された。

### (2) みんなの学校プロジェクト広報・研修視聴覚教材作成ビデオ撮影ミッション受け入れ準備

来月、みんなの学校プロジェクトの広報・研修視聴覚教材作成のためのビデオ撮影ミッションが実施されることから、今月はその受け入れ準備に取り組んだ。これは、「みんなの学校プロジェクト」の果たしてきた役割と成果を、一般向けにアピールできる宣伝媒体を作成するとともに、みんな学校プロジェクト群が作成していきたさまざまな住民参加アプローチを容易に理解できる広報資料および視聴覚教材を作成することを目的としたものである。作成される視聴覚教材は 6 種（一般向け広報 2 種、研修教材 4 種：①学校運営委員会活性化ミニマムパッケージ、②補助金有効活用モデル、③質のミニマムパッケージ、④フォーラムアプローチ）であり、内、一般向けならびに補助金有効活用モデル、質のミニマムパッケージ教材がニジェールにて、フォーラムアプローチ教材がセネガルにて撮影される。これに合わせ、シナリオ作成支援並びに、撮影現場・出演者の調整・準備、撮影ミッション受け入れ準備に取り組んだ。

## 7. 所感

### 『今年みんなの学校モデルに評価と今後』

今月行われた終了時評価調査で、プロジェクトは高い評価を得たが、プロジェクトの

効果発現の第1の要因として同調査協議議事録では地域住民が教育開発へ参加する際に、どんな学校環境でも適用可能で、最小限の投入で最大限の効果をもたらすモデル（ミニмумパッケージ）の開発が上げられた。実際にこのモデルの導入により、パイロット地域で、住民と学校と行政の情報共有が改善され、住民による教育改善活動が盛んになった。しかも、通常、実証モデルが普及されると、期待された効果が出ない場合が多いが、このモデルは、全国普及後もモデルの成果が減じることはなかった。

なぜ、ミニмумパッケージは、普及に耐えるモデルであったのか。それは、このモデルが、全国普及モデルとして開発され、普及に費用と手間と時間がかからず、しかも効果が持続するという特徴を持っていたからである。研修は短期間で一回のみ、研修対象者も限られ、一番持続的に費用のかかるモニタリング／支援においても、学校運営委員会連合によって、行政官のモニタリング負担が軽減されている。成果は、モデル導入から10年も経過するにも関わらず、住民は学校運営に関し高いレベルの参加を続け、活動実施のための住民動員額は、投入額をはるかに超えている。費用対効果と持続可能性についてこのモデルに欠点を見つけるのが難しい。このモデルは全国普及後、就学率の改善に貢献するなど、ニジェールの教育開発に貢献した。

しかし、ニジェールの教育開発の遅れは深刻で、住民の教育開発ニーズは多様であった。プロジェクトは、住民の教育開発ニーズに応えるために、ミニмумパッケージでは対応できなかった課題に対する応用モデルの開発を始めた。それらの課題とは、住民動員のみをリソースとする教育改善活動の限界、限定的な教育の質の改善への効果、学校レベル活動の成果の視覚化の困難さ、地方行政との連携不足、中学校における機能するCOGESの不在などであり、開発されたモデルが、それぞれ補助金有効活用モデル、質のミニмумパッケージ、教育フォーラム、機能する中学校COGESモデルであった。これらのモデルは、すでに終了時評価で評価されているが、基本モデルに比べ、モデルの達成目的がより特定され、評価方法により効果が視覚化され、活動は洗練されると同時に複雑化している。プロジェクト最終年度の年末を迎え、これらのモデルの費用対効果や、持続性の検証を試みる。

### **補助金有効活用モデル**

同モデルは、プロジェクト開始後、2年間にわたって実証活動が実施され、研究所によって実施されたインパクト調査によって、教育の質の改善に対するこのモデルの有効性が証明されている。ニジェールの新しい教育開発計画である「教育・研修セクター計画（PSEF）」の中で実施される教育のためのグローバルパートナーシップ（GPE）資金による世銀管理の「質の教育改善プロジェクト（PAEQ）」の補助金供与に伴う関係者への能力開発モデルと認定され、ニジェールの1000校で能力強化が実施された（ただし補助金自体はまだ供与されていない）。

成果が証明され、普及の目途もたっており、モデルとしての完成度は高いと評価できる。ただし、教育の質の改善の度合いは、ニジェールの現状から見れば十分ではなく、プロジェ

クトですでに実証を始めている質のミニマムパッケージとの統合など、質の改善の面でモデル改善の余地はある。

今回の PAEQ の枠内でのモデル普及の成功は、世界銀行をはじめとしたドナーや教育省に対するプロジェクトの継続的なモデル採用への忍耐強い働きかけや、研究所の小塚推教授が中心になり実施したインパクト評価における成果の科学的な証明などが要因としてあり、“普及しやすいモデルである”と簡単に結論付けることはできないが、教育改善を目的とした補助金は世界的に行われており、他国への普及の可能性はある。

### **質のミニマムパッケージ**

質のミニマムパッケージは、住民参加によって、実際の生徒の学習の質を改善しようとする意欲的で、革新的なモデルであり、これまでプロジェクトの中で実証が繰り返され、いずれも大きな成果を出している。普及に関しては、住民による負担が難しい「算数ドリル」という投入が必要なため、PAEQ 中の補助金コンポーネントで、採用が決まっている補助金有効活動モデルと抱き合わせる形で普及を目指している。しかし、すでに、公的に補助金でドリルを買うという行為が、非常に複雑なプロセスを必要とすることが判明してきており、今後の補助金での質のミニマムパッケージの実施には、議論の余地がある。

財源の安定的供給がないとドリルを買い続けることができなという面で、普及可能性と持続性には問題があるが、住民参加と有効なツールで、基礎教育の実質的な改善という結果を出しており、有効なモデルに資金の投入を模索しているプライベート、あるいは産油国などのファンドで資金獲得の可能性はあり、普及可能性は高いとも判断できる。

### **教育フォーラムモデル**

教育フォーラムモデルは、プロジェクトが第1フェーズに開発し、第2フェーズで数多く実施したフォーラムアプローチの持続性の改善を目指したモデルである。フォーラムアプローチは、ミニマムパッケージが作りだした住民と学校、あるいは行政の情報共有のシステム、ネットワークを応用した、非常に効果的な啓蒙キャンペーン手法であり、タウア、ザンデル州で女子就学改善や、小学校卒業試験合格率改善などに大きな成果を残してきた。このフェーズでは、このフォーラムアプローチの持続発展性を地方行政との関係強化によって改善することを目的として実証を行ってきた。結果として、数多くのグッドプラクティスはあるものの、地方行政からの支援のみで、この活動の持続性を確保するには、さらに長い時間と多くの努力が必要であること確認した。

### **中学校機能する学校運営委員会モデル**

中学校における学校運営委員会モデルの実証は、省庁改編により中学校の担当省が変更になったため一旦中断し、2014年よりあらためて、パイロット活動を開始した。モデルのコンセプト自体は、小学校の学校運営委員会と変わらず、学校に関する関係者間情報共有の徹底や、運営の透明性の改善による学校運営改善であるが、中学校モデルにおける計画策定は、小学校の手法より、より質に焦点を当てられ、卒業試験の合格率向上のために有効な活動を導き出しやすい手法となっている。モデルのコンポーネントとしては、学校運



営委員会の民主的な設立、住民参加による学校活動計画策定・実施、学校運営委員会連合と地方行政官によるモニタリングとはほぼ小学校モデルと同じであるが、各中学校の生徒の学力を知るための学力テストを活動計画策定前に導入していることが特徴である。各コンポーネントでは、連合の実証が始まったばかりなので、普及モデルとするには、モニタリング期間が必要である。

## 8. 1月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
みんなの学校プロジェクト広報・研修視聴覚教材作成ビデオ撮影ミッション	4～11日
質のミニマムパッケージ対象校へのドリル配布（コロ県キリタシコミュン）	上旬
質のミニマムパッケージファシリテーター再研修（コロ県キリタシコミュン）	5日
中学校 COGES 連合事務局選挙総会（ドッソ州ボボイ県）	18日
中学校 COGES 連合意見交換会合：連合活動協議（ドッソ州ボボイ県）	19日
中学校 COGES 連合事務局選挙総会（ドッソ州ファルマイ県）	21日
中学校 COGES 連合意見交換会合：連合活動協議（ドッソ州ファルマイ県）	22日
質の教育支援プロジェクト（PAEQ）対象校質のミニマムパッケージ導入ファシリテーター講師研修	14～15日
原チーフアドバイザー（短期専門家）帰国	16日

以上

別添1：NECS 会合会議メモ（2015年12月2日）

# 「ニジュール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2016 年 1 月

作成日: 2016 年 2 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 金	算数ドリル開発支援・仏語版作成(～末日) 元旦	影山
2 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
3 日		
4 月	ニジュール支所との週会合 みんなの学校群広報・研修ビデオ撮影リハーサル キリタシコミュニケーションファシリテーター再研修モニタリング(～9日) 広報・研修ビデオ撮影ミッション(～11日)	岩田 原、影山 アリ、ヤワレ、調整部
5 火	みんなの学校群広報・研修ビデオ撮影(1日目) キリタシコミュニケーション質のミニマムパッケージドリルファシリテーター再研修会	原、影山 アリ、ヤワレ、調整部
6 水	みんなの学校群広報・研修ビデオ撮影(2日目) 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山 カマラ
7 木	みんなの学校群広報・研修ビデオ撮影(3日目) キリタシ対象校ファシリテーター研修報告会モニタリング	影山 アリ、ヤワレ、調整部
8 金	みんなの学校群広報・研修ビデオ撮影(4日目) キリタシ対象校ファシリテーター研修報告会モニタリング	影山 アリ、ヤワレ、調整部
9 土	みんなの学校群広報・研修ビデオ撮影(5日目)	影山
10 日	みんなの学校群広報・研修ビデオ撮影(6日目)	影山
11 月	ニジュール支所との週会合 みんなの学校群広報・研修ビデオ撮影(7日目) INDRAP との会合	岩田 原、影山 原、アリ
12 火	世銀との会合	原
13 水	原チーフアドバイザー(短期専門家)ニジュール支所への帰国報告会 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	原、岩田、影山、支所 影山、カマラ
14 木	質のミニマムパッケージ算数ドリルファシリテーター講師研修(ティラベリ州 PAEQ 対象校向け)	影山、アリ、ヤワレ、調整部
15 金	質のミニマムパッケージ算数ドリルファシリテーター講師研修(ティラベリ州 PAEQ 対象校向け)	影山、アリ、ヤワレ、調整部
16 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
17 日	中学校 COGES 県連合設置選挙総会モニタリング(～23日)	ハムザ、ザカリ、中等推進室
18 月	ニジュール支所との週会合 ボボイ県中学校 COGES 県連合設置事務局選挙総会 PSEF 合同レビュー 原チーフアドバイザー(短期専門家)離任	岩田 ハムザ、ザカリ、中等推進室 アリ
19 火	キリタシコミュニケーション対象校へのドリル配布(～20日) ボボイ県中学校 COGES 県連合活動協議会合 PSEF 合同レビュー	ハムザ、ザカリ、中等推進室 アリ
20 水	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
21 木	コモンファンド合同ミッション会合(質のコンポーネント活動協議) ファルマイ県中学校 COGES 県連合設置事務局選挙総会	影山、アリ ハムザ、ザカリ、中等推進室
22 金	安全管理協議会(在コートジボワール日本大使館) ファルマイ県中学校 COGES 県連合活動協議会合 2016 年度教育省活動計画策定会合	岩田、影山 ハムザ、ザカリ、中等推進室 アリ
23 土	算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	影山、カマラ
24 日		
25 月	ニジュール支所との週会合 PAEQ 対象地ドリルファシリテーター研修モニタリング(～31日)	岩田 アリ、ヤワレ、調整部
26 火	トロディ県 PAEQ 補助金対象校質のミニマムパッケージドリルファシリテーター研修(1日目)	アリ、ヤワレ、調整部
27 水	トロディ県 PAEQ 補助金対象校質のミニマムパッケージドリルファシリテーター研修(2日目) 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	アリ、ヤワレ、調整部 影山、カマラ
28 木		
29 金	サイ県 PAEQ 補助金対象校質のミニマムパッケージドリルファシリテーター研修(1日目)	アリ、ヤワレ、調整部
30 土	サイ県 PAEQ 補助金対象校質のミニマムパッケージドリルファシリテーター研修(2日目) 算数ドリル試行(プロジェクト事務所)	アリ、ヤワレ、調整部 影山、カマラ
31 日		

## 2. 今月の総括

今月は、先月実施されたプロジェクト終了時評価での調査団提言も踏まえ、みんなの学校プロジェクトが開発した住民参加型の各種教育開発モデルの拡大・普及へ向けた活動に取り組んだ。

今月の第一のトピックは、“ニジェール小学校 1000 校への質のミニмумパッケージ導入”である。これは、2016 年度 GPE（教育のためのグローバルパートナーシップ）資金の「質の教育支援プロジェクト（PAEQ）」補助金対象予定となる 2000 校中、1000 校への「質のミニмумパッケージ」導入を、2016 年度計画に盛り込むことが、教育省・PAEQ 関係者間にて合意されたことにより、実現の運びとなった。この合意により、約 10 万人（1000 校分）ものニジェール児童が、実証対象校において計算学力テストで正答率を 50%改善した「質のミニмумパッケージ」の恩恵を受けることが可能となった。 その他の主な活動は以下の通り。

「機能する中学校 COGES モデル」開発パイロット活動においては、民主的な事務局メンバー選挙を経て、国内初の中学校 COGES 県連合を設置した。これにより、県レベルでの中学校 COGES 活動モニタリングとその活性化の後押し、教育行政・地方行政、その他教育パートナーとの仲介・調整、県内教育開発への牽引役としての役割が期待される。

「州教育フォーラムモデル」開発パイロット活動においては、第 3 回フォーラムにて協議を行った「児童の学力向上」活動促進の一環として、対象 132 校（約 3 万名対象）での学力テスト結果が州にて取りまとめられた。これは、タウア州フォーラム活動の評価ベースラインとなるもので、今後 3 月上旬には中間テストを実施し、フォーラム活動にかかる中間評価を行う予定である。

「質のミニмумパッケージ」開発パイロット活動においては、昨年度からの継続地域に対するファシリテーター再研修を実施し、新たに開発したドリルの実践へ向けた始動した。なお、質のミニмумパッケージ 2 年目となるこの地域では、年度初めの事前学力テストにおいて、昨年度に比べて、児童の基礎学力の底上げが示唆される結果を得た。

また、「補助金有効活用モデル」および「質のミニмумパッケージ」モデル拡大・普及活動として、GPE 資金の PAEQ 学校補助金対象 180 校に対する「質のミニмумパッケージ」モデル導入のため、算数ドリル活動のファシリテーター研修を各種実施した。なお、当該 180 校に関しては、来月中にも補助金供与が実施される見込みである。

その他、みんなの学校プロジェクト群の取り組みにかかる広報・研修視聴覚教材制作のため、撮影チームがニジェール入りし、CGDES メンバー、教員、保護者・住民、教育行政官の協力の下、1 週間に渡り各種撮影を実施した。この視聴覚教材では、最終的に「一般向け広報教材」2 種、および研修教材として「機能する学校運営委員会ミニмумパッケージ」「補助金有効活用モデル」「質のミニмумパッケージ」「フォーラムアプローチ」の 4 種が制作される予定である。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動

中学校 COGES 活動モニタリング体制構築へ向けたパイロット活動の一環として、今月中旬、ニジュール国内初となる「中学校 COGES 県連合」が、ドゥソ州内 2 県にて設置された。なお、学校運営委員会をコミューン（市町村）レベルでグループ化した初等に対し、中学校においては、県レベルの中学校 COGES をグループ化したものとしている。今回の中学校 COGES 県連合設置に際しては、先月末に実施した連合設置研修後、各地住民集会での報告・協議が行われた上で、パイロット地域 2 県の全 24 中学校 COGES がこの連合への参加を表明した。それを受け、地方教育行政官、県知事、COGES 中央推進室、プロジェクト支援の下、メンバー COGES 代表者による事務局メンバー選出の民主選挙を県ごとに開催した。選挙総会では、メンバー COGES の非常に真剣な参加により、厳密な進行のもと各事務局メンバー選出の秘密投票が行われ、連合に対する COGES の期待が同われるものであった。また、教育行政のみならず、県庁から県知事代理（教育担当）による積極的な参加を得た連合もあり、今後の連合活動にかかる支援および地方行政との連携にかかる第一歩となった。

さらに、この連合設置を受け、選出された COGES 県連合事務局メンバーおよびメンバー COGES との活動戦略にかかる検討会合を開催した。具体的には、連合の機能化と役割の遂行にかかる戦略、連合活動計画案の策定、ならびに生徒の学力改善・卒業試験合格率改善へ向けた中学校 COGES の補習活動促進とそのモニタリング強化へ向けた連合活動にかかる協議を行った。その結果、初等に比べ、管轄域が広範囲となる中等連合においては、県内を地区ごとに分割、事務局メンバーが各地区モニタリング担当者として定期的な情報収集、並びにモニタリングを行うこととなった。また、総会・事務局会合といった基本活動に加え、統一模擬試験等を含む地域教育開発活動が今年度の COGES 県連合活動として、各連合参加 COGES により承認された。

これら連合設置および連合活動の実施を通して、中学校 COGES の活動モニタリングとその活性化の後押し、教育行政・地方行政、その他教育パートナーとの仲介・調整、県内教育開発への牽引役としての役割が期待される。特に、プロジェクトとしては、中学校 COGES モニタリング体制構築へ向けた第一歩として、連合ならびに県内 COGES の活性状況に注視していく。

## **(2) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動**

昨年度 11 月開催の第 3 回フォーラムにて協議を行った「児童の学力向上」活動促進の一環として、12 月上旬実施の対象 132 校（約 3 万名対象）での四則計算学力テストの結果が州にて取りまとめられた。これは、タウア州内全 CGDES によるフォーラム目標達成へ向けた活動の評価ベースラインとなるもので、今後、3 月上旬に中間テスト、5 月にエンドラインを実施した上で、それぞれ中間、エンドラインの評価を行う予定である。

ベースラインのテスト結果としては、予想に反し、他のパイロット活動の学力テストと比較しても、年度初めとしては比較的高い点数を示していた（表 1 の通り）。これは、タウア州内 44 コミューンから、それぞれ都市部、郊外部、農村部の 3 校を選出する形としたものの、実際には、全体的に比較的環境の良好な大型校が選定されたことも、一つの要

因として考えられる。今後、中間テストの実施結果を待ち、フォーラムでの決議および各アクターの誓約、フォーラム後に実施した「学力向上に焦点を当てた」活動計画策定研修がどのような成果を生むか、「教育フォーラムモデル」の質への貢献にかかる結果を検証していく。

表1：タウア州テスト対象校（132校）ベースライン学力テスト結果

	1年 (12点満点)	2年 (24点満点)	3年 (44点満点)	4年 (56点満点)	5年 (61点満点)	6年 (61点満点)	全学年 平均
対象 児童数	5109名	5846名	5431名	4782名	4418名	5472名	31058名
平均点	4	9.4	18.95	22.74	29.59	34.44	—
正答率	33.3%	39.2%	43.1%	40.6%	48.5%	56.5%	43.5%

### (3) 質のミニマムパッケージ開発パイロット活動

今月初め、昨年度からの対象校であるティラベリ州キリタシコミュン全校に対して（今年度は補助金の供与なし）、新たに開発したドリル（No3～No5）の現場での実践へ向け、ファシリテーター再研修を実施した。これにより、昨年度からのプレ算数、ドリル No.1～No.2 に加え、No.3～No.5 の合計 6 冊が、対象 41 校にてコミュニティ支援の校外学習時間に活用されることとなる。

なお、キリタシコミュン 41 対象校の今年度活動計画状況としては、合計 154 名（教員 113 名、コミュニティボランティア 41 名）、一校あたり 4.2 名の算数ドリルファシリテーターが参加し、週平均 7.7 時間のドリル活動が実施される予定である。さらに、一校当たり 1.4 名のコミュニティメンバーが児童の活動出欠モニタリング担当として任命されている。

また、当該活動二年目開始に先立って実施した今年度事前学力テストにおいては、同時期に実施した初年度（2014/2015 年度）の事前テスト結果と比較して、全学年高得点を示すものとなった。この結果は年度の中間テスト結果とほぼ同レベルであり、昨年度の活動結果として、児童の基礎学力の底上げに繋がった可能性を示唆するものである。

表2：質のミニマムパッケージ対象校（キリタシコミュン）事前テスト結果

		1年 (12点満点)	2年 (24点満点)	3年 (44点満点)	4年 (56点満点)	5年 (61点満点)	6年 (61点満点)	全学年 平均
	<b>今年度(2015/2016年度)</b>							
事前	平均点	2.75	11.3	25	30.15	39.71	41.72	—
	正答率	23%	47.2%	56.8%	53.8%	65.1%	68.4%	52.4%
	昨年度比 (正答率)	+15.8	+20.2	+26.8	+13	+28.1	+12.4	+19.4

		昨年度(2014/2015年度)						
事前	平均点	0.86	6.49	13.19	22.84	22.57	34.15	—
	正答率	7.2%	27%	30%	40.8%	37%	56%	33%
中間	平均点	4.47	13.68	22.17	35.3	37.08	43.96	—
	正答率	7.2%	57%	50.4%	63%	60.8%	72.1%	56.8%
事後	平均点	7.52	18.67	29.97	40.88	44.6	48.71	—
	正答率	62.7%	77.8%	68.1%	73.0%	73.1%	79.8%	72.4%

#### (4) 補助金有効活用モデル・質のミニмумパッケージ結合モデル活動 (PAEQ サイト)

先月に引き続き、両モデル拡大・普及へ向けた教育省支援、ならびに関係者能力強化支援に取り組んだ。特に今月は、既にプロジェクト開発の「補助金有効活用モデル」をベースにした研修が行われたことから、GPE 資金の PAEQ 学校補助金対象 180 校に対する「質のミニмумパッケージ」モデル導入を目指した、算数ドリル活動実施にかかる能力強化に取り組んだ。

まず、今月中旬に、対象地域を管轄する視学官、指導主事、CGDES 監督官に対し、算数ドリル活動のファシリテーター講師研修を行い、今月下旬には、各対象 CGDES のファシリテーター研修（各校 2 名参加）を実施した。なお、この研修はカスケード方式によることから、来月には、当該ファシリテーター研修を受講した参加者が、他のファシリテーターに内容の報告・研修を行う研修会合が各対象校にて実施される予定である。

なお、PAEQ 補助金供与活動に関しては、資金管理の問題により未だ補助金供与の目途が立っていないものの、当該 180 校に対しては、迅速な質のミニмумパッケージ活動開始のために、特例で現金による支給とすることが、GPE 資金管理者である世銀と合意された。これにより、正式承認が下り次第、来月中にはドリルの印刷が開始され、対象 CGDES への補助金供与が実施される見込みである（詳細、下記「4. 教育省・ドナー関係 (1) GPE 資金「PAEQ」参照」）。

#### 4. 教育省・ドナー関係

##### (1) GPE 資金「教育の質支援プロジェクト (PAEQ)」

GPE 資金管理を担う世銀の本部担当者を含む、コモンファンド合同ミッション（世銀、GPE、フランス協力庁、スイス協力庁）が今月来二し、PAEQ プロジェクト進捗にかかる各種協議が教育省並びにドナー関係者と行われた。その中で、世銀（本部およびニジェール事務所担当者）の働きかけにより、「教育の質」分野の関係者会合が開催され、世銀の依頼により、プロジェクトの「質のミニмумパッケージ」活動の発表を実施した（詳細、別添参照）。この会合には、教育省関係局参加の下、コミュニティ支援の校外学習にて算数ドリルを使った学力向上支援活動を行っている EPT の他、現地語導入による言語（読み書き）促進の分野にてパイロット活動を行っている 2 団体（NECS/USAID、ELAN）がその活動にかかる発表を行った。

議長である世銀ニジュールから示された会合目的は、児童の学力向上へ向けた短期的な対策として、2016 年度活動計画に盛り込める具体的活動を検討することであった。具体的な世銀側の意図としては、EPT の質のミニマムパッケージを、CGDES・コミュニティの支援による校外学習を使って、算数分野で児童の基礎学力向上へと結びつけた成功例として提示し、算数に加えて、言語（読み書き）分野においても、現在まで実施されている二つのパイロット活動（ELAN、NECS）をベースに、EPT と同様の形（コミュニティ支援による校外学習）の活動を実施することを教育省側に提起、2016 年度活動として具体化への道筋を作ろうというものであった。

この世銀側の意向に対して、討議の結果、概ね関係者内で言語においても短期的な対策に取り組む必要性の点では合意を得たことから、授業での実施が前提である ELAN、NECS の両モデルをベースとしつつも、EPT モデルのような住民参加の校外学習活動とするには、コミュニティ参加型へ改訂する必要があるとして、2016 年活動として、まずその改訂作業にかかる委員会を立ち上げる方向が協議された。

上記会合の後、別途開催された 2016 年の活動計画策定協議においては、上記会合での協議並びに、事前の世銀等への情報共有・働きかけが実り、質のミニマムパッケージにおける算数ドリル活動の成果が認められ、2016 年度 GPE 資金の補助金対象予定である 2000 校中、1000 校への質のミニマムパッケージ導入を 2016 年度計画に盛り込むことが、教育省・PAEQ 関係者間で合意された。さらに、2015 年の PAEQ 対象校 180 校への質のミニマムパッケージ導入に際しては、各 CGDES が JICA 開発の算数ドリルを PAEQ の補助金にて購入することとなっているが、質のミニマムパッケージ・算数ドリル導入の有効性と共に、補助金の目的と効果の最大化に鑑み、2016 年度以降の「質のミニマムパッケージ」導入に関しては、算数ドリルを学校補助金とは別枠の PAEQ 資金により購入、補助金供与とは別に対象校へ配布する形式が検討されることとなった。

なお、2015 年度の PAEQ 学校補助金に関しては、州における GPE 資金管理の問題から、補助金供与が大幅に遅れているものの、質のミニマムパッケージを導入するティラベリ州 180 校においては、世銀側が一刻も早い執行を目指していることから、特例的に他州に先んじて、現金での直接供与とすることで世銀ミッションからの承認が得られた。今後は、世銀側の正式承認を得たのち、PAEQ 活動として補助金供与アトリエを開催し、ドリル購入資金となる補助金供与が 180 校に対し実施される予定である。

## (2) PSEF レビュー会合

今月 18、19 日の二日間（実質的には一日半）、2015 年度ニジュール国教育・研修セクタープログラム（PSEF）の教育関係省・ドナー合同レビュー会合が開催された。なお、今会議には、当セクタープログラム支援の GPE 資金管理世銀本部担当者を含む、コモンファンド合同ミッションも参加した。会合内容として予定されていた事項は、関係省による 2015 年度の活動実施総括および 2016 年度計画案発表に加え、地方分権化、PSEF 改訂、

コモンファンド拡大にかかる発表と討議（全体討議およびグループ討議）であった。しかしながら、発表された教育省側のデータに齟齬が散見されたのみならず、教育セクター5省の足並みも揃わず、討議の時間は議事進行の関係で大幅に削除されるなど、準備不足・調整不足が明白な会合であった。2015年活動評価や2016年活動計画への展望などの具体的な討議・検討はない一方、コモンファンドの拡大など即時的な調整が難しい事項の討議に時間が割かれ、十分な討議の無いままレビュー提言が会合終了前に発表されるなど、本レビュー会合の開催意義自体が疑問視されるものであった。

## 5. プロジェクト運営管理

- (1) 1月の支出は23,877,509 Fcfaで、第4四半期の計画額92,403,270 Fcfaに対して約25.84%の執行状況であった。
- (2) 質のミニマムパッケージで再印刷となったドリルは現在制作作業中で2月初旬には納品予定である。一方、後編のシリーズについては、日本での作業が予定より遅れていることから、当初計画ではそろそろ印刷にかかるべきところ、ページ数の確定を待っている状況で、調達作業自体まだ開始できていない。年度末までに今年度内ドリル作成用の予算執行を確実に実施していく必要がある。
- (3) プロジェクト終了が視野に入ってきたこともあり、プロジェクト事務所の閉鎖作業についてニジェル支所と検討した結果、3月末までに退去（ニジェル支所へ移動）、4月に原状回復作業を行うことになった。2月からは退去およびプロジェクト終了に向けての準備や作業をすすめていく。

## 6. プロジェクト訪問・ミッション等受け入れ

### (1) みんなの学校プロジェクト広報・研修視聴覚教材作成ビデオ撮影ミッション受け入れ

今月4日～11日まで、みんなの学校プロジェクト群の取り組みにかかる広報・研修視聴覚教材制作のため、撮影チームがニジェル入りし、CGDESメンバー、教員、保護者・住民、教育行政官の協力の下、ニアメ街中、学校・村落にて、1週間に渡り各種撮影を実施した。この視聴覚教材では、最終的に「一般向け広報教材」2種、および研修教材として「機能する学校運営委員会ミニマムパッケージ」「補助金有効活用モデル」「質のミニマムパッケージ」「フォーラムアプローチ」の4種が制作される予定である。

ニジェルにおいては、「一般向け広報教材」および、「補助金有効活用モデル」と「質のミニマムパッケージ」研修教材用の撮影が執り行われた。撮影量に対する日数の短さが懸念されたものの、撮影チームとプロジェクトとの事前の綿密な打合せや、撮影現場の事前準備、そして現場での柔軟な対応により、予定通りの撮影が無事行われた。なお、ニジェルでの撮影後、「フォーラムアプローチ」教材に関してはセネガルにて撮影が実施された。

今回撮影した素材ならびに、過去のみんなの学校関連素材を活用し、合計6種の視聴覚教材が日本語・英語・仏語にて制作され、今年度6月の完成が見込まれる。これら教材は、広報用・



研修用と大きく二種からなり、みんなの学校プロジェクト群をはじめとする学校運営委員会に関連するプロジェクト等において利用されるのみならず、JICA・関連プロジェクト広報として、国際会議、他ドナーへのアピール等、多様な活用が期待される。

## 7. 所感

### (1) 成果：みんなの学校開発「住民参加型教育開発モデル」の拡大・普及への進展

本文、会議議事録でも詳しく述べられているように、「質のミニмумパッケージ」が、来年 2016 年度他ドナー資金（GPE・コモンファンド）により 1000 校にまで拡大されることで合意された。通常このような合意は、何回かの会合を経てなされるものであるが、今回は、一度の会議にて、参加したドナー・教育省関係者の反対もなく、見方によっては、ニジェール世銀の教育担当者の強引ともいえる議事進行で合意への道筋が固められた。この異例というべき短時間で合意は、プロジェクトが普段から実施していた質のミニмумパッケージの結果に関する関係者への情報共有活動と、当初より質のミニмумパッケージおよび算数ドリルの有効性を高く評価していたものの、その導入には慎重であった世銀担当者への説得が功を奏したものである。

世銀の担当者は、質のミニмумパッケージの GPE 資金での拡大について、当初は 1 月開催のニジェール教育・研修セクタープログラムのレビューにおいて、ドナー、教育省関係者との情報共有から始めるべきであるという意見であったが、プロジェクトとの複数回の議論を通して、即時積極推進派へと変わった。

議論における世銀担当者とプロジェクトの共通認識は、2014 年に実施された仏語圏アフリカを対象とした共通学力テスト（PASEC: Programme d'analyse des systèmes éducatifs de la confemen）の結果で、9 割以上の小学校 6 年生が言語・算数の両方において十分なレベルになく、対象 11 か国中最下位となっていることに象徴される深刻な教育の質の問題であった。しかし、その解決策に関しては、当担当者とはプロジェクトでは、意見は異なっていた。当担当者は、質の改善には、長期的、本質的、抜本的な改善を目指し、現在ニジェールが推進している教育・研修セクタープログラムにおけるカリキュラム、教科書、教員養成面での構造的改革が不可欠であるという立場であった。しかし、「その改革には時間がかかり、改革の効果を得るまでに落ちこぼれていく児童たちへの対策が必要である」というプロジェクトの論点に対する回答はなかった。当初議論は平行線であったが、最終的には、抜本的な改革は必要なものの、それと同時にみんなの学校が推進する「質のミニмумパッケージ」のように、ニジェールの現況でも、学べない児童たちのために、短期間で学力をつける結果を出せる投入が必要だという結論になった。ニジェールをはじめとした、西アフリカの算数・語学の水準は、通常レベルの低さではなく、緊急レベルであり、この援助は緊急援助として考えるべきだと、当担当者は、即時推進派に立場を変えた。今後、補助金のみではなく、別の枠での「質のミニмумパッケージ」実施にかかる投入も検討していく。

## 中学校 COGES 活性化への前進

ニジェール国内初となる中学校 COGES 連合が立ち上がり、機能する中学校 COGES モデルの全国普及とその後の中学校 COGES 支援体制確立へ向け、大きな前進となった。連合の設立に関しては、数が多くグループ化が容易な小学校に対し、物理的な距離がある中学校を県レベルでグループ化することへの懸念があったものの、選挙総会では、現場 COGES から非常に好意的かつ積極的な反応が得られ、連合設置により個々の COGES 活動活性化へと繋がる可能性が感じられるものとなった。今後、物理的な距離がある中で、連合の存在意義をどのように示していくかは一つの課題であることは否めず、かつプロジェクト終了までのパイロット期間が非常に短いという問題はあるものの、機能する中学校 COGES 全国普及後の展開を見据える上で、重要な前進となったと思われる。

### (2) 課題：モデルの普及可能性への検討

上記成果の通り、プロジェクト最終段階を迎える現在、モデル拡大・普及へ向けた動きが加速してきた。その一方、特に「質のミニマムパッケージ」においては、モデル要素の複雑さから、その拡大・普及に際して、現実的な実施オペレーションの課題が依然として残っている。学力テストの実施・評価、ファシリテーターの質と維持、ドリル導入（調達から配布まで）等、プロジェクトがパイロット活動において管理してきた事項を、拡大地域において成果を残したままどのように対応するか、早急な検討が必要である。

また、「機能する中学校 COGES モデル」に関しても、プロジェクト終了時には、パイロット活動において有効な「モデル」ではなく、全国展開に耐え、全国展開後の全国的な成果発現に資する「普及モデル」としての提示が求められる。中学校 COGES においては、生徒の学力向上・卒業試験合格率向上という関係者ニーズに応えることが求められているが、全国展開のための普及モデルとして、その面にどう応えていき、成果をだせるか、検討の余地がある。

## 8. 2月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
ティラベリ州 PAEQ 補助金供与対象校 (サイ県・トロディ県) ファシリテーター研修報告会モニタリング	2～3日 (トロディ県) 8～9日 (サイ県)
ティラベリ州 PAEQ 補助金供与対象校・算数ドリル購入アトリエ (サイ県、トロディ県開催)	中旬 (予定)
質のミニマムパッケージ算数ドリル No.6～7 (問題集・解答集) 発注	中旬～下旬
中学校 COGES パイロット校対象中間学力試験配布	中旬～下旬
タウア州教育フォーラム中間学力テスト配布 (タウア州内 132 校)	中旬～下旬
影山専門家日本一時帰国休暇	17～3月10日

# 「ニジュール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2016 年 2 月

作成日：2016 年 3 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 月	ニジュール支所との週会合 スタッフミーティング(電話会議) <span style="color: blue;">算数ドリル開発支援・仏語版作成(～末日)</span>	岩田 原(本部)、影山、アリ 影山
2 火	PAEQ 対象校質のミニマムパッケージファシリテーター報告会モニタリング(トロディ県)	アリ、ヤワレ
3 水	PAEQ 対象校質のミニマムパッケージファシリテーター報告会モニタリング(トロディ県) <span style="color: blue;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	アリ、ヤワレ 影山、カマラ
4 木	中等 COGES 中央推進室との活動計画協議 PTF 会合	影山、ハムザ 影山
5 金	スタッフミーティング(電話会議)	原(本部)、影山、アリ
6 土	<span style="color: blue;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	影山、カマラ
7 日		
8 月	ニジュール支所との週会合 PAEQ 対象校質のミニマムパッケージファシリテーター報告会モニタリング(サイ県)	岩田 アリ、ヤワレ
9 火	PAEQ 対象校質のミニマムパッケージファシリテーター報告会モニタリング(サイ県) 中学校 COGES パイロット校対象中間学カテスト問題作成(2日間)	アリ、ヤワレ
10 水	<span style="color: blue;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	影山、カマラ
11 木	スタッフミーティング	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ
12 金	タウア州教育フォーラムにかかる対象校中間学カテスト配布	
13 土	<span style="color: blue;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	影山、カマラ
14 日		
15 月	ニジュール支所との週会合	岩田
16 火	<span style="color: blue;">影山専門家一時帰国休暇(～3月10日)</span>	
17 水	中学校 COGES パイロット校対象中間学カテスト配布・実施 <span style="color: blue;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	カマラ
18 木		
19 金	みんなの学校プロジェクト広報・研修教材ビデオ仮編集試写	原、影山
20 土		
21 日	<span style="color: green;">大統領選投票(第1回)</span> <span style="color: green;">JICA 関係者自宅待機</span>	
22 月		
23 火	みんなの学校プロジェクト広報・研修教材ビデオ仮編集試写会	(本部)原、影山
24 水	<span style="color: blue;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	カマラ
25 木	ニジュール支所との週会合	岩田
26 金	スタッフミーティング(電話会議) 詳細計画策定調査事前勉強会(本部とのテレビ会議)	アリ、(本部)原、影山 岩田、支所、(本部)原、影山
27 土	<span style="color: blue;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	カマラ
28 日		
29 月	世銀ニジュール教育担当者との協議	アリ

## 2. 今月の総括

今月は、先月に引き続き、プロジェクト開発の住民参加型教育開発モデルの拡大・普及がさらに前進する月となった。

先月時点で、**教育のためのグローバルパートナーシップ (GPE) 資金の「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」**において、2016 年度 1000 校への拡大導入方向で協議が進められていたプロジェクト開発「**質のミニマムパッケージ**」であるが、**最終的に、補助金供与有無に関係なく、ティラベリ州全小学校 (約 32000 校、裨益児童数約 40 万) へ導入されることが決定され、2016 年度活動計画に盛り込まれた。**これにより約 **3 億円に上る外部資金がプロジェクト開発モデルの拡大に投入されることとなる。**

**機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動**においては、中等 COGES 連合が順当な立ち上がりを見せ、今後の展開を期待させる報告を得た。

**州教育フォーラムモデル開発パイロット活動**においては、来月開催の州フォーラム執行委員会開催へ向けた中間学力テストの実施準備を進めた。

**質のミニマムパッケージ開発パイロット活動**では、現在、昨年度より段階が上がったドリル (No3~No5) の実践が行われている。その実践効果を測るため来月には中間テストを実施する予定である。また、本部支援の算数ドリル開発が最終段階に差し掛かっていることから、今学年度中の導入を目指し、仏語版の作成に取り組んだ。

上述の **PAEQ サイトにおける補助金有効活用・質のミニマムパッケージ結合モデル導入**においては、先月開催した対象 180 校のファシリテーター研修を受け、各校にて研修参加者による現場ファシリテーターへの報告会 (研修) が実施された。モニタリングを通して、カスケード式研修でのファシリテーター能力強化が、多くの学校で順調に実施されていることが確認された。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動

今月は、今学年度中間期を迎えることから、パイロット対象校共通の中間学力テスト実施へ向けた準備を進め、テスト問題の作成および対象地区への配布を行った。これにより、今月末から来月上旬にかけて、州ごとにテストが実施されることとなる。来月中旬には、テスト結果の集計が挙がってくることから、中学校 COGES の活動がどのように生徒の学力向上に効果を上げているか、各 COGES の活動状況と共に今後の中学校 COGES モデルの確定へ向けて分析を進めていく。

また、先月ニジェール国内初の中等 COGES 連合が選挙総会を経て 2 県にて設置されたが、今月は早速、各県ともに連合事務局会合が実施され、1 県においては、自主開催としては第一回となる中等 COGES 連合総会が開催された。各連合ともに、事務局メンバー、参加 COGES の意気は高く、総会での協議を通して決定された加入費・拠出金の回収率もほぼ 100%近い状況との報告が挙がっている。プロジェクト終了までに残された試行期間が短いため、中等

COGES 連合に対する十分な能力強化支援やその機能化モデルとしての確立・安定化まで検証を進めるは難しいものの、中等 COGES 連合がどのように COGES レベルの活性化へと貢献し得るか可能性の見極め、機能化への要素の抽出など、今後の中等 COGES モニタリング体制構築へ向けた示唆を得る材料としていく。

## (2) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動

今月は、来月に開催予定のタウア州フォーラム執行委員会に先立ち、第3回タウア州教育フォーラム後の各アクターの活動進捗にかかる情報を収集するとともに、当フォーラムのテーマ「児童の基礎学力向上」にかかる評価を行うため、評価対象132校の児童に対する中間学力テストの実施準備を進めた。なお、第3回タウアフォーラムにて決議した目標は、『タウア州全校における全学年を対象とした学習支援活動の実施』と、『年間200時間以上の学習時間の増加』、および『学力テスト結果の20%上昇』である。来月には、これら達成状況を確認し、その後開催予定のタウア州 CGDES 監督官会議、州教育フォーラム執行委員会および視学官会議での協議へと繋げていく。

また、プロジェクト終了へ向けて、タウア州にて取り組んだ「州教育フォーラムモデル」自体の有効性・持続発展性を再検証するとともに、女子就学促進において、タウア州過去最高の『男女比0.91』という大きな成果を達成した「州教育フォーラム」が、児童の学力向上に際しても成果を生み出すことが可能か、州教育フォーラムモデルの可能性と課題、そして展望を見極めていく。

## (3) 質のミニマムパッケージ開発パイロット活動

JICA 本部支援の「算数ドリル」（日本語版）開発の進捗に合わせ、ドリル冊子仏語版の作成を進めた。これにより、新たなドリル No.6（掛け算・割り算）が完成し、それに続く No.7（1万からの数、掛け算筆算）、No.8（割り算ひっ算、四則計算のきまり）に関しても、来月中の完成を目指し、作業を進めた。

なお、2015/2016年度対象校（キラタシコミュン内41校）に対しては、先月上旬に実施したファシリテーター研修後、昨年度より段階が上のドリル（ドリル No.3～5）を用いた活動が開始したことから、来月中旬～下旬にかけて中間テストを実施し、活動の進捗と成果を見ていく。

## (4) 補助金有効活用モデル・質のミニマムパッケージ結合モデル活動（PAEQ サイト）

先月末に実施した対象180校への質のミニマムパッケージ・算数ドリルファシリテーター研修を受け、研修参加ファシリテーターによる報告会が各学校において実施された。この報告会は、研修参加者から現場のファシリテーター（教員・コミュニティボランティア）へ研修内容を伝達するカスケード式研修の意をもち、円滑で効果的な現場活動実施に取り、必要不可欠なプロセスである。その重要性に鑑み、管轄区の視学官・指導主事・CGDES 監督官と共に、報

告会の実施状況・内容を見分するためのモニタリングを実施した。ほとんどの学校においては、全ファシリテーター参加の下、研修内容を反映した報告会（研修）が実施されていることが確認された。

なお、関係機関の協議を経て、今月中旬、PAEQ 補助金供与対象 180 校によるドリル購入のためのドリル印刷が、INDRAP（教育省の文書作成・印刷を担う機関）により開始された。今回 CGDES により購入されるドリル総数約 45000 冊（対象児童 22,481×年間 2 冊）となるため、印刷完了は来月上旬～中旬の予定である。そのドリル印刷完了をもって、対象 180 校（対象児童）への補助金供与およびドリル購入・配布が実施されることとなる。

#### 4. 教育省・ドナー関係

##### (1) GPE 資金「教育の質支援プロジェクト（PAEQ）」

先月実施された PAEQ 支援の世銀（GPE）と AFD（コモンファンド）による共同ミッションを経て、2016 年度 GPE 資金の補助金対象予定である 2000 校中 1000 校に対し、質のミニマムパッケージを導入することが教育省を含む関係者間にて合意されたが、その後、世銀側の強い意向を受け、PAEQ 補助金対象校以外も含めた、ティラベリ州全校（約 3200 校、裨益児童約 40 万名）への拡大へと変更され、2016 年度活動計画へと盛り込まれた。またその際には、全校・全対象児童に必要なドリル印刷費は PAEQ 予算で賄われることとなり、PAEQ 補助金対象校においても、補助金供与とは別途ドリル支給が行われることが決定された。予算に関してはまだ確定とは言えないものの、質のミニマムパッケージ活動拡大にかかり、およそ 3 億円に上る外部資金がつくこととなる。

#### 5. プロジェクト運営管理

- (1) 2 月の支出は 17,473,186 Fcfa で、1 月の支出と合わせると 41,458,865 Fcfa となり、第 4 四半期の計画額 92,403,270 Fcfa に対して約 44.87%の執行状況であった。
- (2) 質のミニマムパッケージの後編シリーズのドリルについて、印刷を依頼した。3 月中旬から下旬にかけて納品される。
- (3) 4 月に現在のプロジェクト事務所の原状回復作業を行うことになっているため、3 月末までに退去（JICA ニジェール支所へ移動）する予定で、現在、事務所維持にかかる契約解約や移動にかかる準備作業をすすめている。一方で、4 月中に確実に作業を終わらせるために、3 月中から 2 階部分、ガレージ等の修繕作業を開始し、4 月の作業量を減らすことになった。

#### 6. 所感

##### 成果:プロジェクト開発「質のミニマムパッケージ」のティラベリ州全校への拡大

上述の通り、プロジェクト開発の「質のミニマムパッケージ」の有効性が評価され、PAEQ 資金により 2016 年度にティラベリ州全小学校約 32000 校への導入されることとなった。

これは、同資金により 2800 校へのプロジェクト開発「補助金有効活用モデル」が導入されることに続く、非常に大きな成果と言える。この背景には、プロジェクト開発モデルの成果が教育省にて評価されたのみならず、PAEQ 資金管理主体の世銀側の意向が強く働いたことによる。これは“短期間に見える結果を出す”と共に“普及拡大を目指して発信する”プロジェクトのアプローチが功を奏したものである。このような大幅拡大は、教育省、CGDES 調整部の現在のキャパシティに顧みるとかなり難しいことが予想されるが、この機会はさらなるモデルの拡大・普及とニジュール教育開発への大きな貢献に繋がるものであり、この機会を最大限有効に生かせるような支援を検討する必要がある。

### 課題：外部資金投入と大幅拡大の中でのモデル成果の発現

今年度 2016 年度中に 3200 校へのモデル拡大と大きな成果を得た一方、実施面ではモデルの成果発現にとり、状況はそれ程容易ではないことが予想される。PAEQ 補助金初年度であるが故にさらに手続きが遅れた面はあるが、既に学年度半ば過ぎを迎える現在、2015 年度からの繰り越しである CGDES への補助金供与が未だ実施されていない状態である。今回の PAEQ 活動では、プロジェクトのパイロット活動とは異なり、資金執行が世銀等の管理プロセスや執行主体の教育省のキャパシティに大きく左右されるため、活動の組み立てが非常に困難である。また、今回教育省側の意向により 180 校分のドリル印刷を国の関連機関に発注することとなったが、関係者間合意と手続きに時間がかかった上、印刷作業の遅れがその他の活動の実施に影響を及ぼすこととなっている。なお、ティラベリ州全校対象となった際には、ドリル印刷は競争入札となることが予定されているが、教育省の入札プロセスは通常非常に時間がかかることが予想され、これはまた執行の遅れに拍車をかける原因となり得る。今回の 180 校への質のミニマムパッケージ導入においても、上記のような様々な要因により、現場における実質的な今年度活動は 2 ヶ月程度に過ぎないことが予想される。

こういった条件の中で、如何に成果の発現を保ち、次に繋げるかは非常時大きな課題と言える。ティラベリ州全校への拡大に際し、CGDES 調整部のキャパシティの現状がまだ追いついていないことは明らかであることから、プロジェクト終了に向けて、CGDES 調整部と共に、次のティラベリ州全校拡大を視野に入れた 180 校への導入実践と教訓の抽出、対応策の検討を進めていく。

### 7. 3月の主な予定

内 容	日 程 (予定)
中等 COGES パイロット対象校中間学力テスト実施・結果回収	上旬
ニアメ州中等 COGES 監督官会議	23 日
ドッソ州中等 COGES 監督官会議 (ドッチ市開催)	25 日
ファルマイ県中等 COGES 連合総会 (中間総括) モニタリング	29 日
タウア州フォーラム対象校中間学力テスト実施	3 日

タウア州フォーラム対象校中間学力テスト結果回収	初旬～中旬
タウア州 CGDES 監督官会議（州フォーラムモデル総括討議含む）	25 日
タウア州教育フォーラム執行委員会会合	26 日
タウア州視学官会議開催	27 日
質のミニマムパッケージ対象キリタシコミュニケーション中間学力テスト実施	下旬
サイ県 PAEQ 補助金供与・ドリル購入／配布アトリエ開催	30 日
トロディ県 PAEQ 補助金供与・ドリル購入／配布アトリエ開催	31 日
詳細策定計画調査第 2 回勉強会	25 日

以上

別添 1：スタッフ会議記録（2016 年 2 月 5 日）

別添 2：世銀（GPE）—AFD 共同ミッション覚書（一部抜粋）

別添 3：【参考】日本政府支援 UNESCO ジェンダープロジェクトにかかる聞き取り結果



# 「ニジュール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」 プロジェクト活動月報 2016 年 3 月

作成日: 2016 年 4 月 1 日

## 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 火	質のミニマムパッケージ対象校ドリル配布(ティラベリ州キリタシコミュニティ) 中学校 COGES パイロット対象校中間学カテテスト実施 <span style="float: right;">算数ドリル仏語版作成</span>	影山
2 水	タウア州教育フォーラムにかかる対象校中間学カテテスト実施 <span style="float: right;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	カマラ
3 木		
4 金		
5 土	<span style="float: right;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	カマラ
6 日		
7 月	ニジュール支所との週会合 スタッフミーティング(電話会議)	岩田 全員、(本部)原、影山
8 火	みんなの学校広報・研修教材仮編集試写	影山
9 水	<span style="float: right;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	カマラ
10 木	プロジェクト研究「初等算数副教材(算数ドリル)の開発と効果検証」成果品報告会(本部) 影山専門家一時帰国 休暇戻り	原
11 金	スタッフ会議	影山、アリ、ハムザ、ヤワレ
12 土	<span style="float: right;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	影山、カマラ
13 日		
14 月	ニジュール支所との週会合 世銀 BBL (JICA 研究所ニジュール補助金介入インパクト評価調査結果発表)	岩田 影山、岩田、アリ、ヤワレ
15 火	タウア州学カテテスト結果回収	
16 水	<span style="float: right;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	影山、カマラ
17 木	中等 COGES 中央推進室との活動協議 タウア州フォーラム関連会議準備会議 CGDES 調整部との協議(フォーラム関連会議準備)	影山、ザカリ 影山、アリ、ヤワレ アリ、ヤワレ
18 金	質のミニマムパッケージ対象校(キリタシコミュニティ)中間テスト配布	
19 土	<span style="float: right;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	影山、カマラ
20 日	大統領選投票(第2回決選投票)	
21 月	JICA 関係者 自宅待機	
22 火	ニジュール支所との週会合 タウア州フォーラム関連会議準備会議 中等 COGES 推進室との活動協議(監督官会議準備)	岩田 影山、アリ、ハムザ、ヤワレ ハムザ
23 水	ニアメ州中等 COGES 監督官会議 <span style="float: right;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	影山、ハムザ、ザカリ、中等推進室 カマラ
24 木		
25 金	ドツソ州中等 COGES 監督官会議(ドッチ市開催) タウア州 CGDES 監督官会議(フォーラム総括会合)(コニ市開催) 計画詳細策定調査第2回勉強会(本部とのテレビ会議)	ハムザ、ザカリ、中等推進室 アリ、ヤワレ、調整部 影山、岩田、支所
26 土	タウア州フォーラム執行委員会会合(コニ市開催) <span style="float: right;">算数ドリル試行(プロジェクト事務所)</span>	アリ、ヤワレ、調整部 影山、カマラ
27 日	タウア州視学官会議(コニ市開催)	アリ、ヤワレ、調整部
28 月	イースターマンデー	
29 火	ニジュール支所との週会合 ドツソ州ファルマイ県中等 COGES 連合総会モニタリング <span style="float: right;">プロジェクト事務所閉鎖・引越し</span>	岩田 ハムザ、中等推進室
30 水	ティラベリ州サイ県 PAEQ 補助金対象校補助金供与・ドリル購入会	アリ、ヤワレ
31 木	ティラベリ州トロディ県 PAEQ 補助金対象校補助金供与・ドリル購入会	アリ、ヤワレ

## 2. 今月の総括

今月は、約半年の遅れが見られた **GPE 支援の「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」**におけるティラベリ州対象 180 校への補助金供与、ならびにドリルの購入・配布アトリエが開催された。これにより、GPE 資金による「補助金・質のミニマムパッケージ結合モデル」適用・拡大となる活動が、現場にて開始されることとなる。

「**機能する中学校 COGES モデル**」開発パイロット活動においては、現在の進捗確認および、来月のモデル承認アトリエへ向けた活動総括のための中等 COGES 監督官会議を行った。中等 COGES においては、COGES 監督官による活動モニタリング・情報収集の問題が浮き彫りとなった一方、中等 COGES 連合の活動を通して、COGES モニタリング・情報収集、および関係者調整主体としての連合の可能性と今後のモデル構築へ向けた検討事項への示唆を得ることとなった。

「**州教育フォーラムモデル**」開発パイロット活動では、児童の基礎学力向上をテーマとした第 3 回タウア州教育フォーラム活動の一環として、中間学力テストを実施するとともに、活動進捗評価の為の「州フォーラム執行委員会」、「視学官会議」および「CGDES 監督官会議」を開催した。中間学力テストの結果では、フォーラム目標の「テスト結果 20%向上」には至らなかったものの、全学年でのテスト結果改善と共に、平均 11.3%の正答率上昇が確認された。なお、来月 4 月には、州内関係者による完全自主開催の「第 4 回タウア州教育フォーラム」を開催することが、州フォーラム執行委員会にて決議された。

「**質のミニマムパッケージ**」開発パイロット活動においては、新たな段階の仏語版算数ドリルが完成した。これにより、質のミニマムパッケージのツールである算数ドリルは、プレ算数（運筆）～No.8 までの 9 冊の演習冊子、および No.3～No.8 までの 6 冊の解答集が揃うこととなった。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動

#### (ア) 中等 COGES 監督官会議

今月は今年度のパイロット活動の中間期を迎えるとともに、翌月 4 月には「機能する中学校 COGES モデル」の承認アトリエを控えていることから、COGES の活動状況モニタリングおよびパイロット活動総括の討議を中心に、ニアメ州とドッソ州それぞれにて COGES 監督官会議を開催した。また、COGES 支援による補習活動の結果として、今月初めに各校にて実施された中間テスト結果の評価も併せて行った。主な議題としては、①新規パイロット校における COGES 立ち上げ・活動計画策定状況、②COGES・連合活動実施状況、③中間テスト結果共有・分析、④中学校 COGES モデル機能化の主要要素にかかる意見交換。

中等 COGES 監督官会議の全体的な課題として、COGES モニタリング情報共有および課題解決の場としての目的意識と準備、議事進行、情報収集・共有の仕方、各情報の意味

の理解とそれに基づく分析等、州・県監督官ともにまだ不十分である状況が見受けられた。特に、基礎情報でさえも十分に集約できていない状況が既にあり、当会議を COGES モニタリング体制の一環として機能させるには、継続的な能力強化とともに、最低限の情報収集・共有・分析が可能となる枠組みとしてのツールの整備・見直しが必要である。

また、パイロットの現時点ですでに COGES 監督官によるモニタリングが十分回らない状況からも、中等 COGES 連合設置を含むモニタリング体制の整備が急務と言える。初等では長期間をかけてモニタリング体制を構築してきたが、中等は既にある知見を活用し、COGES 連合の早期設置を行うことが望ましい。中等における現在の体制では、中央も地方も十分な COGES モニタリング・支援に取り組むことは難しく、コミュニティから物理的な距離のある中等 COGES では、その発展・活性化に結び付きにくいことが危惧される。COGES 中央推進室においては、今後、州および県の COGES 監督官が適切かつ時期を得た情報を集約できるよう、体系的な情報収集の仕組みづくりを進める必要がある。

また、今回の両州 COGES 監督官会議を通して明らかになったのは、州 COGES 監督官による県 COGES 監督官への指導・監督の適切さ次第により、その結果に大きな差が出るという点である。州 COGES 監督官の任命への介入や個人の資質に基づく力量の底上げは容易ではないことから、今後の全国展開に際して、各種研修やモニタリング・情報収集の最低限の質を保つため、中等 COGES 中央推進室としてどのようにフォローしていくかの検討を進める必要がある。

#### (イ) 中等 COGES 連合パイロット活動

現在ドッソ州の 2 県において実施している連合パイロット活動においては、中学校 COGES モニタリング・支援体制としての中等 COGES 連合の有効性・可能性が示されると共に、今後の中等 COGES 連合モデル確立に向けた課題と示唆が確認された。まず、順調な活動が見受けられた連合では、COGES モニタリング・情報収集、問題抽出、解決のための関係者（主に教育行政）への情報伝達と課題に対する対応要請、それによる教育行政による対処というサイクルが既に出来上がっていることが見受けられた。この連合では、区域分け（ゾーン化）と区域責任者設置が有効に働くことにより、COGES 関連活動のみならず、教育行政において把握されていない学校の詳細な状況までもが集約され、問題解決へ向けたアクションへと結びつく「情報循環」が機能する可能性が示唆された。一方、参加 COGES 数が少ない規模の小さい連合は、連合としての機能化が難しいことが浮き彫りになった。事務局メンバーによる連合の理解が不十分という一般的な課題はあるものの、機能化を妨げる要因として、連合の規模が小さすぎる場合、連合事務局と COGES メンバーとの識別意識が生まれにくく、その結果、事務局メンバーにとっては COGES を取りまとめる領域内の代表として意識が低く、COGES 側としては事務局メンバーからの支援が、COGES 外部者からのものだという意識が持ちにくい。また、規模が小さい故に区域分けも成立していない。

今回の連合パイロット活動においては、行政区である県を集合レベルとしたが、県によっては参加 COGES が非常に少ないものになる可能性があり、そのために上記と同様の問題が予測されることから、今後の中等 COGES モニタリング体制確立にかかる COGES 連合モデルに関しては、連合メンバーの数がある程度確保できる教育行政の区切り（県教育事務所）におけるグループ化の可能性も検討していく。

## (2) 州教育フォーラムモデル開発パイロット活動

### (ア) タウア州教育フォーラム中間学力テスト（州内 132 校対象）

今月上旬、タウア州フォーラム活動の一環として、学力テスト対象 132 校にて中間テストが実施された。その結果、全学年共に点数の上昇がみられ、正答率の伸び（ベースライン・中間テスト間の正答率の差異）は全学年平均 11.3%であった。しかしながら、第 3 回タウア州教育フォーラムの目標として掲げた「20%正答率上昇」には達しなかった。

表 1：タウア州テスト対象校（132 校）中間学力テスト結果

	1 年 (12 点満点)	2 年 (24 点満点)	3 年 (44 点満点)	4 年 (56 点満点)	5 年 (61 点満点)	6 年 (61 点満点)	全学年 平均
対象 児童数	6330 名	5007 名	5612 名	4870 名	4714 名	5565 名	33098 名
平均点	5.65	12.78	21.39	27.63	34.09	41.73	—
正答率	47.1%	53.3%	48.6%	49.3%	55.9%	68.4%	53.77%

表 2：ベースラインテスト・中間テスト間正答率比較

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	全学年平 均
ベースライン	26.8%	39.2%	43.1%	40.6%	48.5%	56.5%	42.43%
中間	47.1%	53.3%	48.6%	49.3%	55.9%	68.4%	53.77%
正答率差異	+20.3	+14.1	+5.5	+4.89	+7.4	+12.0	+11.3

正答率の上昇が予想よりも低かった原因としては、質のミニマムパッケージの場合のように短期間に結果が出るツールの導入が伴わないことから、州フォーラム後の活動として CGDES による補習等が行われ、学習時間が増加したとしても、（質のミニマムパッケージ対象校ほどには）その時間を効果的・効率的に活用し得なかったことが予想される。またさらに顕著であったのが、ベースライン学力テスト結果が、質のミニマムパッケージ対象校の結果と比べて予想以上に高かった点であり、学力テストの実施状況自体が、本来の児童学力を測る上で十分に適切なものでなかった可能性がある。

### (イ) タウア州 CGDES 監督官会議・フォーラム執行委員会・視学官会議

今月下旬に、第3回タウア州教育フォーラム後の活動状況、ならびに目標にかかる活動結果を評価するため、「タウア州教育フォーラム執行委員会」ならびに「視学官会議」を実施した。また、それに加えて、今回は「州教育フォーラムモデル」開発パイロット活動の総括として、現場に近いCGDES監督官との協議のための「タウア州CGDES監督官会議」を実施した。今回の一連の会議における主な議題は、①フォーラム誓約にかかる活動状況モニタリング・評価、②中間学力テスト試験結果共有、③モデルのカギとなる要素の抽出、④次回フォーラム開催にかかる協議。

なお、第3回フォーラム決議・目標値、および各項目進捗状況は以下の通り。

#### 【決議1：各関係者グループに対するフォーラムの報告会（会合、総会）を開催】

- 州内全連合がフォーラム報告の連合総会を実施。その他のアクターグループ（市長、教育行政）においても、関係者報告は実施済。
- 連合総会後の各CGDESレベルにおけるフォーラム報告の住民集会開催状況に関しては、一部連合によりモニタリングが実施。但し、全CGDESからの住民集会議事録回収等の手立てを事前に打たなかったため、全CGDESでの開催情報確認はできず。

#### 【決議2：タウア州内全校にて、全学年児童の学力向上のための適切な活動を、学校活動計画を通して実施】

- 州内71.9%のCGDESが補習を計画、65.9%のCGDESが夜間学習等を計画。但し、第3回フォーラム開催以前に活動計画策定済みCGDESもあるため、年間総括にて確認要。

#### 【決議3：タウア州全校にて、学習支援活動を通し、学習時間を少なくとも200時間増加】

- CGDESあたり平均補習90時間、夜間学習・チューター指導86時間を計画。但し、第3回フォーラム開催以前に活動計画策定済みCGDESもあるため、年間総括にて確認要。

#### 【決議4：ベースラインテストと中間テスト間で、学力テスト結果を20%向上】

- 全学年にてテスト結果上昇
- 上昇率平均11.3%（対目標値-8.7）

#### 【決議5：フォーラム参加者による誓約の実施結果を共有するため、次回フォーラムの開催費を負担】

- 州教育評議会にて予算化し、100%タウア州内関係者による資金確保にて開催（4月16日開催予定）

その他、フォーラムモデルの協議にかかり、州フォーラム執行委員会会合において

は、州執行委員会の機能化の問題を討議した結果、多忙な州知事を中心に据えた執行委員会機能化の難しさ、および地方分権化への動きを踏まえ、州教育評議会議長を中心（議長）にした委員会へと改編することとなった。

また、次回フォーラム開催に関しては、州知事ならびに州教育評議会議長の強い意向を受け、今回の中間結果を共有し、学年度末へ向けた各アクターの活動改善へと結びつけるため、翌月 4 月 16 日に第 4 回タウア州教育フォーラムを開催することが決議された。なお、この次回フォーラム開催はその資金・運営を含めて、州による完全自主開催となる。州の自主開催となる次回フォーラムにおいては、開催地が州都タウア市となるため、JICA 安全管理規定により、開催当日のプロジェクトからの直接支援は実施できないが、準備等における技術的な側面支援を行っていく。

### **(3) 質のミニマムパッケージ開発パイロット活動**

先月の本部プロジェクト研究による算数ドリル（日本語版）最終ステップまでの完成に引き続き、ドリル仏語版も No.7（1 万からの数、掛け算筆算）、No.8（割り算筆算、四則計算のきまり）およびそれら解答集が完成した。これにより、質のミニマムパッケージのツールである算数ドリルは、プレ算数（運筆）～No.8 までの 9 冊の演習冊子、および No.3～No.8 までの 6 冊の解答集が揃うこととなった。

今年度対象校のティラベリ州キリタシコミュニオンにおいては、今月末～来月上旬の実施へ向けた中間テスト配布をおこなった。来月のみんなの学校プロジェクト開発モデル経験共有セミナーに合わせ、結果の回収・取りまとめを進めていく。

### **(4) 補助金有効活用モデル・質のミニマムパッケージ結合モデル活動（PAEQ サイト）**

補助金支給手続き、ドリル印刷手続きとその実施等の問題により、大幅に開始が遅れていた GPE 資金の「質の教育支援プロジェクト（PAEQ）」学校補助金活動と質のミニマムパッケージ結合活動であったが、今月末となる 30、31 日にティラベリ州 180 校に対する「補助金供与・ドリル購入会」が CGDES 調整部により開催された。今回の開催に際しては、補助金は PAEQ 調整部会計係による各校直接支給（学校活動計画表の提出、州教育事務所との契約書署名を伴う）、ドリル印刷を担った INDRAP による会場（県都）までのドリル運搬が行われ、プロジェクトからは、会合実施にあたる CGDES 調整部への技術支援と共に、各校へのドリル運搬費支援を行った。

なお、当初予定では、CGDES への補助金は管理手続きの面から、年間 2 回（7 割と 3 割）に分けて支給とされていたが、PAEQ 全体の執行状況の悪さ、既に年度末にずれ込んだ当活動の大幅な遅れを背景に、今年度に関しては最終的に全額一括支給へと急遽変更された。

今回の「補助金配布・ドリル購入会」開催に関しては、片道 200 キロを超える CGDES が参加する中、一校当たり平均 250 冊に上る分量のドリル運搬を各 CGDES 負担で行わな

ければならず、その実施可能性や反発等も懸念されたが、CGDES 調整部からの要請により、プロジェクトからドリル運搬費支援として一定額を各校へ支給した結果、問題なくCGDES によるドリル運搬が行われた。

今回は CGDES 口座への直接送金が予定されており、今回とは補助金供与プロセスが異なるものの、今回の一連のプロセスを通して、補助金供与への手続きのみならず、ドリル調達・運搬など、多くの示唆・教訓を得る機会となった。今後の質のミニмумパッケージのティラベリ州全校導入に対して、CGDES 調整部がそれら教訓を生かすことが望まれる。

#### 4. 教育省・ドナー関係

##### (1) GPE 資金「教育の質支援プロジェクト (PAEQ)」

上記の通り、2015 年度に執行予定であったティラベリ州 180 校への補助金供与が今月末に執行された。同補助金対象の他州を含め、補助金投入にかかる関係者能力強化研修を実施してから、4~5 カ月の遅れとなった。もともとの遅れの原因は、資金フローにかかる準備 (PAEQ 州口座開設、資金管理者リクルート・配備) が整っていなかったことによるが (現在でもまだ州資金管理者のリクルートは完了していない)、それに加え、補助金の直接支給という例外的措置の承認が出たのちも、質のミニмумパッケージ導入にかかるドリル印刷へ向けた手続き、および印刷自体の遅れが影響している。

一方、州レベルにおいて世銀クライテリアに即した資金管理者を採用する必要性から、依然として執行されていない他 4 州の補助金供与に関しては、資金管理者リクルートのプロセスが遅々として進まず、執行の目途が立たないことから、ティラベリ州と同様、直接支給とする方向で、CGDES 調整部・PAEQ 調整部間にて協議が進んでいる。この手続き変更にかかる合意・承認が得られれば、残り 4 州に関しても 4 月下旬から 5 月上旬にかけて対象 CGDES への補助金供与が行われる予定である。

補助金供与活動の初年度となった今回は、全般的に、実施主体である CGDES 調整部による執行・出金プロセスの理解不足、他の活動も抱える CGDES 調整部 (および PAEQ 調整部を含む教育省全体) のキャパシティの問題、CGDES 調整部と PAEQ 調整部とのコミュニケーション不足、PAEQ 調整部側の現場への不理解、活動実施・運営にかかる計画の甘さ等もあり、執行までの予測が立ちにくい中での実施となった。今後 2016 年度以降、PAEQ 活動においては、補助金対象校のさらなる拡大 (2016 年度 1000 校追加、最終的には合計 2800 校) に加え、質のミニмумパッケージのティラベリ州全校への拡大におけるドリル購入が当該活動枠にて実施されることから、今年度の施行状況を踏まえ、今年度以上の CGDES 調整部による入念な準備・計画が求められる。

#### 5. プロジェクト運営管理

(1) 3 月の支出は 32,262,962 Fcfa で、第 4 四半期の合計額は 73,721,827 Fcfa となり、第 4 四半期の計画額 92,403,270 Fcfa に対して約 79.78%の執行状況であったが、これ

は質のミニマムパッケージの算数ドリルの最終原稿が遅れたために、ドリル 2 冊分と解答集の今年度中の印刷ができなかったことが影響している。

- (2) 2015 年度の総執行額は 231,765,216 Fcfa で、年間資金受入額 250,767,398 Fcfa に対して 92.42%の執行であった。
- (3) 3 月末に無事にプロジェクト事務所から JICA ニジェール支所への移動を終えた。4 月 4 日より正式に支所での勤務となるにあたり、日本人専門家間で支所での事務所使用にかかる規定を検討した。今後スタッフ全員に周知し、実施していく。

## 6. 所感

### 成果：州教育フォーラム完全自主開催への決議

地域教育開発のための自立的・持続的な住民参加型モデルとして、開発を進めていた「州教育フォーラムモデル」であるが、タウア州への各種能力強化、体制構築支援、会合支援、および 3 回のフォーラム実施支援を通して、最終的に州による完全自主開催が決議され、来月に開催されこととなった。生み出す結果に鑑みるとその費用対効果は高いものの、一回の投入が大きいことから、外部支援なしには開催が難しいと思われていた中、州教育評議会の関与を含め、州による自主開催にまで至った点の一つの大きな成果と言える。その一方、今回のフォーラム自主開催へと至った背景には、タウア州知事および州教育評議会議長の強い関心と関与があったためであり、その点で他州への汎用性、適用可能性には依然として弱い面があることは否めない。その意味で、今後の当モデルの拡大に関しては、方向性が定まっていないが、タウアでの経験を全国の地方行政・教育行政が一同に会する国家教育評議会にて発表するなど、他州に発信する戦略を CGDES 調整部と協議していくこととする。

### 課題：中等 COGES モニタリングにかかる実現可能な体制構築への検討

中学校 COGES においては、既にモニタリング・情報収集にかかる課題が浮き彫りとなっている。現在、パイロット校としては昨年度と合わせて 83 校のみであり（県 COGES 監督官あたり平均 7~8 校）、移動手段の支援はないものの、プロジェクトから適宜モニタリング費としての燃料費支援等は実施している。それにもかかわらず、適切な時期に情報が十分に集まらないという状況に直面している。その理由としては、(1) 数は少なくとも物理的な距離が離れており、COGES 監督官による移動が困難、(2) バイク等移動手段がない、(3) モニタリングにかかる費用が不十分、(4) COGES 監督官自身の理解・能力・やる気の問題、(3) 必要情報にかかるツールの整備、周知が不十分、(5) COGES 中央推進室による情報収集にかかる統括が後手に回っている、(6) COGES 監督官の学校関係者（特に校長）への影響力が弱い、(7) 中央の COGES 推進室、州 COGES 監督官および県 COGES 監督官間のコミュニケーション体制が十分に確立されていない、(8) 教育行政による当該活動のサポートが不十分、(9) COGES 側に（COGES 監督官・教育行政側への）定期的



な連絡・情報共有（提出）の意識が定着していない等、が考えられる。

今後 COGES モデルの全国展開に向けて、国による移動手段やモニタリング費用にかかる予算確保が一朝一夕に実現される可能性は低く、また個人のやる気など属人的な要素にかかる急激な改善は容易には望めない。その点から、中等 COGES の機能化・安定化のためには、COGES 連合の活用を含めた、より現実的で実現可能性の高いモニタリング体制・情報網の構築を検討することが必要不可欠である。

## 7. 4月の主な予定

内 容	日 程（予定）
機能する中学校 COGES モデル承認アトリエ	15 日
CGDES/CGDES 連合活動モニタリング・支援中央セミナー	18 日
プロジェクト開発モデル経験共有セミナー	19 日
プロジェクト合同調整委員会	20 日
質のミニマムパッケージ対象ティラベリ州キリタシコミュン中間テスト 回収・分析	上旬
質のミニマムパッケージ対象ティラベリ州キリタシコミュンファシリ テーター再研修準備会合	25 日
質のミニマムパッケージ対象ティラベリ州キリタシコミュンファシリ テーター再研修会	29 日
機能する中学校 COGES モデル対象校統一模擬試験実施	下旬～翌月上旬
タウア州第 4 回教育フォーラム開催（州による完全自主開催）	16 日
計画詳細策定調査対処方針会議（本部とのテレビ会議）	8 日
ジェンダー分析調査会議（本部とのテレビ会議）	8 日
原短期専門家（チーフアドバイザー）着任	11 日～20 日
ジェンダー分析調査コンサルタント来訪・ニジュール現地調査実施	25 日～5 月 5 日
計画詳細策定調査：調査コンサルタント来訪	25 日～5 月 12 日

以上

# 「ニジェール国みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト」

## プロジェクト活動月報 2016年5月

作成日: 2016年5月20日

### 1. 今月の活動、人の動き、イベント

日付	活動	担当、出張者
1 日	JICA 計画詳細策定調査(～12日)	
2 月	JICA 支所との週会合 プロジェクト供与機材準備 JICA ジェンダー分析調査:ナショナルコンサルタント聞き取り調査(～6日) 機能する中学校 COGES パイロット対象校統一模擬試験実施(～4日)	岩田 岩田
3 火	JICA 計画詳細策定調査 NECS との会合	調査団、影山、アリ
4 水	プロジェクト機材供与式 JICA 計画策定調査団団長・団員来二	全員
5 木	JICA 計画詳細策定調査団初等・中等大臣面会 JICA 計画詳細策定調査中等 COGES 中央推進室との協議	調査団、支所、影山、アリ 調査団、影山
6 金	JICA 計画詳細策定調査 CGDES 調整部との協議 JICA 計画詳細策定調査世銀との会合	調査団、影山、アリ 調査団、支所、影山、アリ
7 土		
8 日		
9 月	JICA 計画詳細策定調査ミニッツ協議	調査団、支所、影山、アリ、ハムザ
10 火	JICA 支所との週会合 JICA 計画詳細策定調査ミニッツ協議	岩田 調査団、支所、影山、アリ、ハムザ
11 水	JICA 計画詳細策定調査ミニッツ協議 ティラベリ州キリタシ質のミニマムパッケージ対象校エンドライン学カテスト結果回収・分析	調査団、支所、アリ、ハムザ 影山
12 木	JICA 計画詳細策定調査ミニッツ署名	調査団、支所
13 金	プロジェクトスタッフ業務終了 プロジェクト口座閉鎖	岩田
14 土		
15 日		
16 月	JICA 支所との週会合 プロジェクト閉鎖作業・備品供与等	岩田
17 火		
18 水		
19 木		
20 金	プロジェクト終了 岩田専門家・影山専門家離任	
21 土		
22 日		
23 月		
24 火		
25 水		
26 木		
27 金		
28 土		
29 日		
30 月		
31 火		

## 2. 今月の総括

2012年5月に開始した、4年間にわたる「みんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト」が終了を迎えることとなる。当プロジェクトにおいては、**CGDESの学校運営の役割と能力強化を行いつつ、教育開発（教育のアクセスおよび質）に貢献すること**を目指した取り組みを行ってきた。その結果、プロジェクト目標ならびに成果達成をもって、教育開発に貢献する全国CGDES活動の持続発展性確保のための体制・制度強化、および教育の質・アクセスに貢献する住民参加による教育開発活動モデルの開発、その拡大・普及への道筋をつけるに至った。

プロジェクト最後の月となる今月は、「**機能する中学校 COGES モデル**」開発パイロット活動において、パイロット対象 COGES の年度末活動の一環として、卒業試験受験生に対する統一模擬試験実施支援を行った。今後、中等教育省 COGES 中央推進室により、パイロット対象 COGES の活動総括とともにその成果の取りまとめが行われる。

また、「**質のミニマムパッケージ**」開発パイロット活動においては、プロジェクト終了に合わせ、事後学力テストを実施した。その結果、全学年共に平均正答率が 7～8 割にまで達したことが確認された（全学年平均 76.4%）。ベースラインの事前学力テスト（1月初め実施）との比較においては、全学年ともに結果向上が見受けられ、全学年平均正答率 24.0%の上昇となった。特に 1年生においては、この4カ月という短期間で、正答率において 50%の上昇がみられた。

なお、プロジェクト終了となることから、住民参加型教育開発モデル（機能する中学校 COGES モデル、質のミニマムパッケージ、補助金有効活用モデル、州教育フォーラムモデル）の開発にかかるパイロット活動経験蓄積文書の作成に取り組んだ。

その他、JICA 本部より次期協力案件をニジェール国側と協議するための計画詳細策定調査が実施され、アポイント取りなどの一部ロジ支援をプロジェクトからおこなった。また、女子就学促進に結果を示したプロジェクト開発「州教育フォーラムモデル」での女子就学促進活動に焦点を当てた、ジェンダー分析調査の現場聞き取りが実施された。

## 3. 今月の主な活動

### (1) 機能する中学校 COGES モデル開発パイロット活動

今月初め、パイロット活動対象 83 校にて、プロジェクト支援による統一模擬試験が実施された。今回はプロジェクトとしての直接的な回収・分析支援は行わないものの、今後各県教育事務所・州教育事務所にて取りまとめられた後、中等教育省 COGES 中央推進室にて 83 校全体での総括を行うこととなる。

なお、先月の機能する中学校 COGES モデル承認アトリエを経て、モデルに準じる省令の発出、ならびにモデル全国展開へと進めていくことになるが、全国展開へ資するため、経験蓄積文書の作成に取り組んだ。

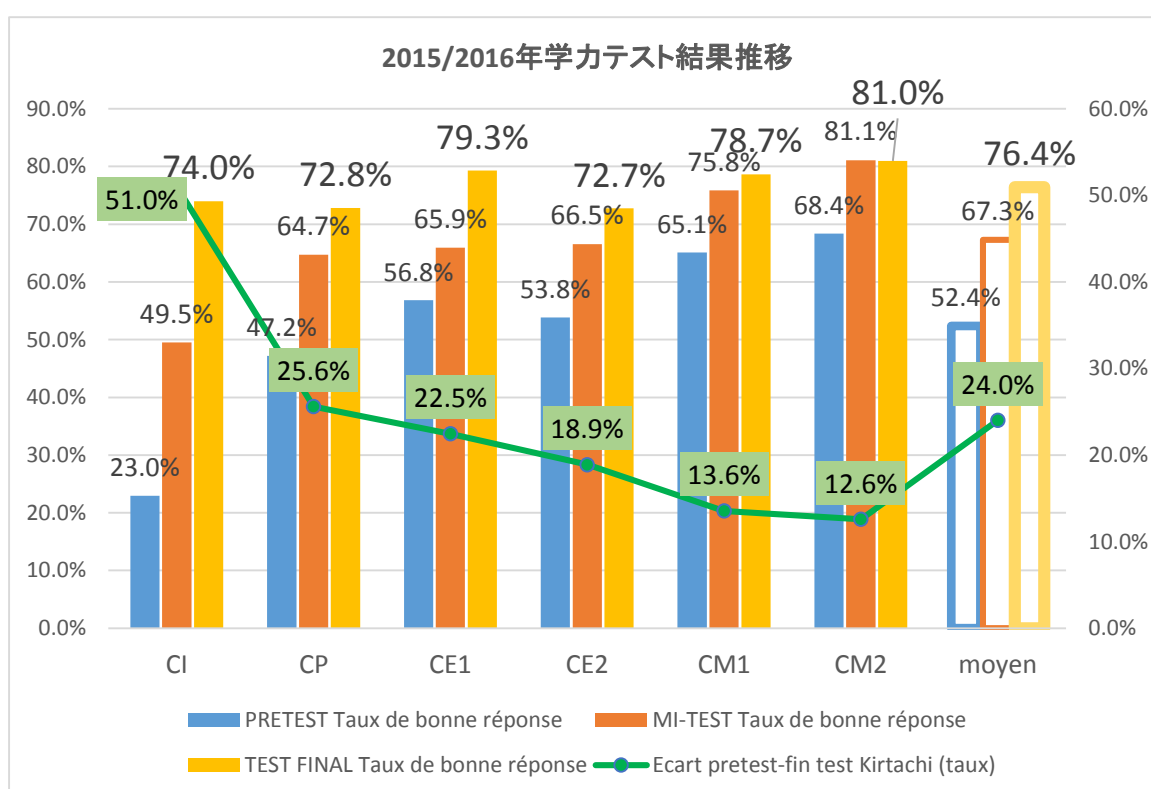
## (2) 質のミニマムパッケージ開発パイロット活動

プロジェクト終了ならびに年度末が近づいてきたことから、今月初め、ティラベリ州キリタシコミューンの当該パイロット対象 41 校にて事後学力テストを実施し、その回収・分析を行った。その結果、全学年共に平均正答率が 7～8 割にまで達した確認された（全学年平均 76.4%）。ベースラインの事前学力テスト（1 月初め実施）との比較においては、全学年ともに結果向上が見受けられ、全学年平均正答率 24.0%の上昇となった。現在現場にて使用されているドリルの範囲の影響もあり、1～4 年生の状況改善が顕著であり、特に 1 年生においては、この 4 カ月という短期間で、正答率において 50%の上昇がみられた。なお、全般的に昨年度の結果に比べ、全体的な平均点・正答率が上がっており（ベースライン正答率比+19.4%、中間正答率比+10.5%、事後正答率比+4%）、継続的な活動実施による全体的な学力の底上げが伺われる結果となった。

表 2：質のミニマムパッケージ対象校（キリタシコミューン）事後テスト結果

		1 年 (12 点満点)	2 年 (24 点満点)	3 年 (44 点満点)	4 年 (56 点満点)	5 年 (61 点満点)	6 年 (61 点満点)	全学年 平均
<b>今年度(2015/2016 年度) 事前－中間－事後比較</b>								
事前 (1 月)	平均点	2.75	11.3	25	30.15	39.71	41.72	—
	正答率	23%	47.2%	56.8%	53.8%	65.1%	68.4%	52.4%
中間 (4 月)	平均点	5.94	15.54	29.01	37.26	46.27	49.46	—
	正答率	49.5%	64.7%	65.9%	66.5%	75.8%	81.1%	67.3%
事後 (5 月)	平均点	8.88	17.47	34.89	40.73	47.98	49.4	
	正答率	74.0%	72.8%	79.3%	72.7%	78.9%	81.0%	76.4%
正答率比 (事前－事後間)		+51.0%	+25.6%	+22.5%	+18.9%	+13.6%	+12.6%	+24.0%
<b>昨年度(2014/2015 年度) -今年度(2015/2016 年度) 結果比較</b>								
<b>事前テスト</b>								
2014/15 事前	平均点	0.86	6.49	13.19	22.84	22.57	34.15	—
	正答率	7.2%	27%	30%	40.8%	37%	56%	33%
2015/16 事前	平均点	2.75	11.3	25	30.15	39.71	41.72	—
	正答率	23%	47.2%	56.8%	53.8%	65.1%	68.4%	52.4%
正答率比		+15.8	+20.2	+26.8	+13	+28.1	+12.4	+19.4
<b>中間テスト</b>								
2014/15 中間	平均点	4.47	13.68	22.17	35.3	37.08	43.96	—
	正答率	7.2%	57%	50.4%	63%	60.8%	72.1%	56.8%
2015/16	平均点	5.94	15.54	29.01	37.26	46.27	49.46	

中間	正答率	49.5%	64.7%	65.9%	66.5%	75.8%	81.1%	67.3%
正答率比		+12.3	+7.	+15.5	+3.5	+15.1	+9.0	+10.5
事後テスト								
2014/15	平均点	7.52	18.67	29.97	40.88	44.6	48.71	—
事後	正答率	62.7%	77.8%	68.1%	73.0%	73.1%	79.8%	72.4%
2015/16	平均点	8.88	17.47	34.89	40.73	47.98	49.4	
事後	正答率	74.0%	72.8%	79.3%	72.7%	78.9%	81.0%	76.4%
正答率比		+11.3	-5.0	+11.2	-0.3	+5.5	+1.1	+4.0



## 5. プロジェクト運営管理

- (1) 5月の支出は6,942,480 Fcfaで、4月の支出額と合わせて27,680,055 Fcfaとなり、プロジェクト最終四半期は計画額30,267,500 Fcfaに対して91.45%の執行となった。なお、プロジェクト口座は5月13日をもって閉鎖した。
- (2) 5月4日に機材供与セレモニーを実施した。当日は初等教育省の資機材を管理する部局でセレモニーを行ったが、初等教育省事務次官補、中等教育省事務次官をはじめ、プロジェクト関係者および関係部局の部長数名の参加もあった。また、このセレモニーは国営テレビ局、国営新聞を通して報道された。
- (3) コンサルタントとの契約が5月15日に終了した。最終的な機材供与を16～17日に

行い、プロジェクト次フェーズで使用予定の事務所備品などはリストと共に JICA ニジェール支所にて保管を依頼した。

## 6. 計画詳細調査ミッション

先月 25 日より今月 12 日まで、JICA 本部により計画詳細策定調査が実施された。先月の評価調査コンサルタントによる調査開始後、4 日に団長ならびに協力企画団員が来二し、次期協力案件にかかり調査団と初等教育・識字・国語推進・市民教育省ならびに中等教育省関係者との間にて協議が進められ、12 日に両省との次期案件内容にかかるミニッツ署名が執り行われた。

なお、プロジェクトは支所と共に、JICA 調査団からの指示に従い、関係者とのアポイント取り・関係者への連絡・時間調整など、調査団の協議のためのロジスティクス面での補佐支援を行った。

## 7. ジェンダー分析調査

当初前月 25 日より実施される予定であった JICA 本部によるジェンダー分析調査であるが、本邦コンサルタントの渡航が困難となったことから、ニジェール国内ナショナルコンサルタント（調査アシスタント）による関係者聞き取り調査を 2～6 日の 5 日間に渡り、実施された。

今回の調査は、現行プロジェクト「みんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト」を事例とし、女子児童の就学促進に効果があったと捉えられている『フォーラム・アプローチ』による女子就学キャンペーンに焦点をあて、そのプロセス、各関係者（中央、州、学校運営委員会関係者等）の役割および認識、効果、課題等を検証し、今後の事業拡大および類似案件（学校運営案件群等）へのフィードバックを得ることを主な目的としたものである。

この目的に従い、「州教育フォーラムモデル」パイロット対象地域であり、男女格差改善に係る州教育フォーラムにより大きな成果を得た、タウア州関係者一州教育事務所長、州 CGDES 監督官、視学官・県教育事務所長、県 CGDES 監督官、市長、CGDES 連合、CGDES、地域住民に対して聞き取りがなされた。その他、教育省中央担当局として CGDES 調整部、女子就学促進局、ならびに国としてのジェンダー政策やその現状を知るために、女性推進・児童保護省、およびジェンダー・女子就学分野に介入するドナー（UNICEF、UNESCO）に対する聞き取りが行われた。

この後は聞き取り結果をもとにした分析が本邦コンサルタントによって実施される予定である。

## 8. 所感

4 年間にわたる「みんなの学校プロジェクト」が終了を迎えることとなった。現在の

ニジェールは、全国 18000 を超える機能する学校運営委員会と全国 266 コミューンに設置された機能する学校運営委員会連合が全土を網羅しており、全国規模での継続的な成果を出し続けているのみならず、この 4 年間を通して、住民参加による教育開発のさらなる可能性を示した。

みんなの学校プロジェクトは、柔軟かつ成果志向型の取り組みにより、様々な挑戦とその結果としての成果を常に生み出してきた。特にこの 4 年間においては、地域教育開発の持続的な連携と取り組みを促進する「州教育フォーラムモデル」、住民監査（コミュニティオーデット）の導入により有効なリソース管理と運用を目指した「補助金有効活用モデル」、住民参加による児童の基礎的学力向上を目指した「質のミニマムパッケージ」、住民参加による学校運営の裨益拡大のための「機能する中学校 COGES モデル」といった斬新な取り組みを行い、確実な成果を得た。これらの成果は教育省、現場関係者の未知の試みに対する非常に前向きで積極的な関与に支えられており、これは、長年にわたり、プロジェクトが確実かつ具体的な成果を出し続けてきたことに対する信頼の賜物であった。

プロジェクトが現在まで様々な斬新な取り組みを実行することが可能となったのも、ニジェール側関係者の理解と献身的な働きと共に、ニジェール支所・本部のプロジェクト活動にかかる理解と支援が得られたこそである。今後も、教育開発への住民参加および CGDES の貢献や可能性を探ることが、ニジェールのみならず、他国の教育開発の可能性を広げることに繋がることから、ニジェールの特質・土壌を十二分に活用した上で、有効で柔軟な協力が実施されることが願われる。

以上